

Vocollectハードウェアリファレンス

2015年 7月

ETP.HR.5007B.2015.07

特記事項

Vocollectのマニュアルについて

© 1987-2015 Honeywell International Inc. All rights reserved.

商標

Vocollectの製品名、会社名、Vocollect Voice、VoiceCatalyst、VoiceClient、VoiceConsole、Talkman、TouchConnect、SoundSense、Vocollect Adaptive Speech Recognition、およびそれらのロゴはVocollectの商標または登録商標です。

本書に含まれるその他のすべての製品名は、各所有者の商標または登録商標です。所有者は、Honeywellと系列関係、協力関係、または後援関係にあることも、ないこともあります。商号、商標、メーカー、その他によるサードパーティの製品、プロセス、刊行物、サービス、および提供物への言及は、必ずしもHoneywellによるそれらの支持または推奨を構成または示唆するものではありません。

出版者

Honeywell Scanning & Mobility
Vocollect Solutions
703 Rodi Road
Pittsburgh, PA 15235-4558
電話：412-829-8145
ファックス：412-829-0972
<http://www.vocollectvoice.com>

機密保持

本書は、Honeywellのハードウェアを使用するHoneywellのお客様に情報を提供するものです。

このドキュメントに含まれる機器のデザインと技術情報はHoneywellの機密事項です。Honeywellの書面による許可なく、利用または開示することはできません。

警告および免責

Honeywell International Inc. (以下“HII”といいます)

は本書に含まれる仕様およびその他の情報を予告なく変更する権利を留保し、読者はそのような変更が行われたかどうかを判断するにはいかなるケースにおいてもHIIを確認する必要があります。

本書に含まれる情報はHIIの約束を表したものではありません。HIIは本書に含まれる技術的あるいは編集上の不備または記載漏れ、および本書の提供、出来栄え、使用の結果生じた偶発的あるいは結果的損害についても責任を負いません。

本書には著作権で保護された専有情報が含まれています。All rights are reserved.

本書のいかなる部分も、HIIの事前の書面による同意なく複写、複製あるいは他の言語に翻訳することはできません。

目次

第 1 章 : はじめに.....	13
一般安全ガイドライン.....	13
Honeywell電池の安全性.....	14
Vocollect機器のクリーニング手順.....	15
プラスチックのクリーニング.....	15
端子のクリーニング.....	16
お問い合わせ.....	16
特許と知的財産.....	18
第 2 章 : Talkman 端末およびヘッドセット.....	19
Talkmanウェアラブル コンピュータをオンにする.....	20
Talkman端末の電源オフ.....	20
端末に対する作業員テンプレートの読み込み.....	21
音声の調整.....	22
音声のピッチ調整.....	23
音声を用いた音声の音量調整.....	23
端末のボタンを用いた音声の音量調整.....	23
音声の速度調整.....	24
音声の性別変更.....	24
Talkmanコマンドについて.....	25
聴覚に障害のあるユーザー向けオプション.....	25
部品番号インデックス: Vocollectウェアラブル コンピュータ.....	26
部品番号インデックス: Talkmanアクセサリ.....	26
適切なヘッドセットの選択.....	27
部品番号インデックス: 有線ヘッドセット.....	28
部品番号インデックス: 有線ヘッドセットのアクセサリ.....	29
部品番号: ワイヤレス ヘッドセット.....	31
部品番号: ワイヤレス ヘッドセットのアクセサリ.....	31
部品番号インデックス: 充電器.....	33
第 3 章 : Talkman A700 端末.....	35
A710仕様.....	36
A720仕様.....	36
A730仕様.....	37

Talkman A730 シンボロジー.....	38
Talkman A700 端末を使ったスキャン.....	58
A700 端末電池の充電.....	59
A700 製品電池仕様.....	59
端末内のA700電池の充電.....	60
A700 端末電池の充電.....	60
Talkman A700 端末への電池挿入.....	61
Talkman A700 端末からの電池の取り外し.....	61
A700端末のLEDインジケータ.....	61
TouchConfig:A700 端末をオンラインに追加.....	64
USBドライバのWindows XPへのインストール.....	65
USBドライバのWindows 7またはVistaへのインストール.....	66
アクセサリ.....	66
Pidion BM-170 ディスプレイ.....	66
ベルト.....	68
第 4 章 : Talkman A500.....	71
A500 仕様 : Talkman A500.....	71
A500/T5端末の充電.....	72
A500/T5高性能電池仕様.....	72
端末内のA500またはT5電池の充電.....	73
A500またはT5シリーズ電池の充電.....	73
充電器からのA500、T2シリーズ、T5シリーズ端末の取り外し.....	74
Talkman A500、T5またはT2シリーズ端末への電池挿入.....	74
Talkman A500、T5またはT2シリーズ端末からの電池の取り外し.....	75
電池のウォームアップ時間.....	76
LEDインジケータについて.....	76
A500端末のLEDインジケータ.....	76
A500端末の車両への搭載.....	77
Talkman A500/T5 VMTのマウント.....	77
Talkman A500/T5 VMT アクセサリ.....	78
Talkman A500/T5 VMTの配置.....	79
Talkman A500/T5 VMT用取り付けブラケットのインストール.....	79
電源へのケーブルの接続と車両への電源の取り付け.....	80
Talkman A500/T5 VMTモバイル コンピュータと車載電源の接続.....	83
車両からのA500/T5 VMT端末の取り外し.....	84
VMT取り付けのベストプラクティス.....	85
アクセサリ.....	87
Pidion BM-170 ディスプレイ.....	88
T5/A500アジャスタブル ショルダー ハーネス.....	90

ベルトとベルトクリップ.....	91
端末カバー.....	92
第 5 章 : Talkman T5 シリーズ.....	95
T5 シリーズ仕様 : Talkman T5、Talkman T5m.....	96
A500/T5 端末の充電.....	97
A500/T5 高性能電池仕様.....	97
端末内の A500 または T5 電池の充電.....	98
A500 または T5 シリーズ電池の充電.....	98
充電器からの A500、T2 シリーズ、T5 シリーズ 端末の取り外し.....	99
Talkman A500、T5 または T2 シリーズ 端末への電池挿入.....	99
Talkman A500、T5 または T2 シリーズ 端末からの電池の取り外し.....	100
電池のウォームアップ時間.....	100
LED インジケータについて.....	100
T5 シリーズ 端末の LED インジケータ.....	101
T5 端末の車両への搭載.....	102
Talkman A500/T5 VMT アクセサリ.....	102
Talkman A500/T5 VMT のマウント.....	103
Talkman A500/T5 VMT の配置.....	104
Talkman A500/T5 VMT 用取り付けブラケットのインストール.....	104
電源へのケーブルの接続と車両への電源の取り付け.....	105
Talkman A500/T5 VMT モバイル コンピュータと車載電源の接続.....	107
車両からの A500/T5 VMT 端末の取り外し.....	109
VMT 取り付けのベストプラクティス.....	109
アクセサリ.....	112
T5/A500 アジャスタブル ショルダー ハーネス.....	112
ベルトとベルトクリップ.....	113
端末カバー.....	114
第 6 章 : Talkman T2 シリーズ.....	117
T2 シリーズ仕様 : Talkman T2x および Talkman T2.....	117
T2 シリーズ 端末の充電.....	118
T2 シリーズ 大容量電池仕様.....	118
T2 シリーズ 端末の充電.....	119
充電器からの A500、T2 シリーズ、T5 シリーズ 端末の取り外し.....	120
Talkman A500、T5 または T2 シリーズ 端末への電池挿入.....	121
Talkman A500、T5 または T2 シリーズ 端末からの電池の取り外し.....	121
電池のウォームアップ時間.....	122
LED インジケータについて.....	122

T2シリーズ端末のLEDインジケータ.....	123
T2シリーズとHoneywell MS9535の接続.....	124
アクセサリ.....	124
ベルトとベルトクリップ.....	124
端末カバー.....	125
Vocollect T2シリーズBluetoothアダプタ仕様.....	127
第 7 章 : Talkman T1.....	129
T1仕様 : Talkman T1.....	129
T1の充電.....	130
T1電池仕様.....	130
端末内のT1電池の充電.....	130
T1 10-ベイ統合充電器によるT1電池の充電.....	131
T1単一充電器ケーブルによるT1電池の充電.....	131
T1 10-ベイ統合充電器からのT1端末の取り外し.....	131
T1単一充電器ケーブルからのT1端末の取り外し.....	131
Talkman T1端末への電池挿入.....	132
Talkman T1端末からの電池の取り外し.....	132
電池のウォームアップ時間.....	132
LEDインジケータについて.....	132
T1端末のLEDインジケータ.....	133
アクセサリ.....	133
T1ホルスタ.....	134
第 8 章 : Vocollect有線ヘッドセット.....	137
SL-4、SL-14 Vocollect Light Industrial Behind-the-Head Headset.....	137
SL-14 Vocollect® Light-Industrial, Behind-the-Head Headset 仕様.....	138
SL-4 Vocollect® Light-Industrial, Behind-the-Head Headset 仕様.....	139
SL-14/SL-4 Behind-the-Head Headsetの装着.....	139
Talkman T1 端末および SL-4 / SL-14 Vocollect® Light-Industrial Behind-the-Head Headsetの適切な使用および取り扱い.....	139
SR-10 and SR-15 Vocollect Behind-the-Head Headset.....	141
SR-15 Vocollect® Behind-the-Head Headset 仕様.....	141
SR-15 Behind-the-Head Headset の装着.....	142
SR-15 Behind-the-Head Headset の調整ストラップの取り外し.....	142
SR-15 Behind-the-Head Headset に対する調整ストラップの取り付け.....	143
SR-15ヘッドセットのヘッドバンドコードクリップの交換.....	143
SR-15 ヘッドセットのイヤー パッド交換.....	144
SR-20シリーズ Vocollect 軽量ヘッドセット.....	145

SR-20 Vocollect® 軽量ヘッドセット仕様.....	145
SR-21ユニバーサル ヘッドセット仕様.....	145
SR-20シリーズ ヘッドセットのイヤー パッド交換	146
SR-30 Vocollect ハイノイズ ヘッドセット.....	146
SR-30 Vocollect® ハイノイズ ヘッドセット仕様.....	147
SR-31ユニバーサル ヘッドセット仕様.....	147
SR-35 Vocollect ヘルメット形ヘッドセット.....	148
SR-35 Vocollect® ヘルメット形ヘッドセット仕様.....	148
SR-40 Vocollect デュアルカップ型ヘッドセット.....	149
SR-40 Vocollect® デュアルカップ型ヘッドセット仕様.....	149
ヘッドセットとマイクロフォンの手入れ.....	150
ヘッドセットの装着：一般的な手順.....	150
快適にヘッドセットを使用するための調整.....	150
ヘッドセットの取り外し.....	151
冷凍環境でのヘッドセットの使用.....	151
ウィンドスクリーンの掃除.....	152
ヘッドセットの掃除.....	152

第 9 章 : Vocollectワイヤレス ヘッドセット.....155

Bluetooth ワイヤレス テクノロジーを用いたVocollect SRXワイヤレス ヘッドセット.....	156
SRXワイヤレス ヘッドセット仕様.....	156
SRXヘッドセットの充電.....	157
SRXワイヤレス ヘッドセットに対するVelcro®モビリティ ストラップのインストール.....	159
SRXワイヤレス ヘッドセットの装着.....	160
SRXのヘッドセットの機能とLEDパターン.....	161
Vocollect SRX2 Wireless Headset.....	164
SRX2ワイヤレス ヘッドセット仕様.....	165
SRX2モジュール設計.....	165
ヘッドバンドへのSRX2電子モジュールの取り付け.....	167
ヘッドバンドからのSRX2電子モジュールの取り外し.....	167
SRX2の互換性.....	167
SRX2ヘッドセットの充電.....	168
SRXワイヤレス ヘッドセットの装着.....	171
SRX2のヘッドセットの機能とLEDパターン.....	174
Vocollect SRX2 ヘルメット ヘッドセット.....	176
SRX2 ヘルメット ヘッドセット仕様.....	176
SRX2 ヘルメット クリップの取り付け.....	177
SRX2をヘルメットに取り付ける.....	178
SRX2 ヘルメット ヘッドセットの装着.....	178
SRX2 ヘルメット ヘッドセットの保管.....	179

SRX2ヘルメットまたはハイノイズ ヘッドセットのイヤークッションを交換する.....	180
Vocollect SRX2 ハイノイズ ヘッドセット.....	181
SRX2 ハイノイズ ヘッドセット仕様.....	182
SRX2ヘルメットまたはハイノイズ ヘッドセットのイヤークッションを交換する.....	182
ワイヤレス ヘッドセットの組み合わせについて.....	183
SRXヘッドセットの組み合わせ.....	186
SRX2ヘッドセットの組み合わせ.....	188
VoiceConsoleの組み合わせによるヘッドセットの組み合わせ.....	192
SRX/SRX2組み合わせモードについての補足.....	193
組み合わせの解除.....	194
ヘッドセットの組み合わせに関するFAQ.....	194
SRX/SRX2ヘッドセットのSupervisor Audio機能.....	195
SRX/SRX2ヘッドセットの構成パラメータ.....	196
ヘッドセットとマイクロフォンの手入れ.....	199
ヘッドセットの装着：一般的な手順.....	199
快適にヘッドセットを使用するための調整.....	199
ヘッドセットの取り外し.....	200
冷凍環境でのヘッドセットの使用.....	200
ウィンドスクリーンの掃除.....	201
ヘッドセットの掃除.....	201

第 10 章：充電器.....203

A700 6-ベイ電池充電器.....	203
A700 6-ベイ端末充電器仕様.....	204
A700 端末充電器および電池充電器壁面マウント.....	204
A700 端末または電池充電器の取り付け.....	205
A700 電池充電器.....	206
A700 12-ベイ電池充電器仕様.....	206
SRX2充電器のLEDインジケータ.....	207
T5/A500 統合充電器.....	208
T5/A500 10-ベイ統合充電器仕様.....	208
簡単設定.....	209
T5/A500統合充電器電源仕様.....	210
T5/A500統合充電器用壁面マウント.....	211
LEDインジケータについて.....	213
T2シリーズ電池充電器.....	213
T2シリーズ電池充電器仕様.....	214
T2の充電器用スタンドの組み立て.....	214
充電器の壁面マウント、複数充電器：T2シリーズ.....	215
LEDインジケータについて.....	220

T1 10-ベイ統合充電器.....	222
T1 10-ベイ統合充電器仕様.....	222
T1 10-ベイ統合充電器電源仕様.....	222
T1 10-ベイ統合充電器用壁面マウント.....	223
T1単一充電器ケーブル.....	225
T1単一充電器ケーブル仕様.....	225
T1単一充電器ケーブル電源仕様.....	226
SRXヘッドセット電池充電器.....	226
SRXヘッドセット電池充電器仕様.....	226
SRX電池充電器用壁面マウント.....	228
LEDインジケータについて.....	229
SRX2ヘッドセット電池充電器.....	230
SRX2ヘッドセット電池充電器仕様.....	230
SRX2 電池充電器用壁面マウント.....	231
LEDインジケータについて.....	233
第 11 章 : アダプタ ケーブルとリスニング キット.....	235
有線リスニング キット.....	235
Talkman 端末での音声確認.....	236
ハンドヘルド端末での音声確認.....	236
Samsonワイヤレス リスニング システム (TR-605-x)	237
Samsonワイヤレス リスニング システムの使用.....	237
Sonyワイヤレス リスニング システム(UTX-B2/URX-P2).....	240
受信無線機の設定.....	240
送信無線機の設定.....	241
Sonyワイヤレス リスニング キットのTalkman端末への接続.....	241
インライン アダプタ ケーブル : Talkman端末およびHandheld端末.....	241
インライン アダプタ ケーブルとハンドヘルド端末の接続.....	242
インライン アダプタ トレーニング ケーブルの接続.....	243
部品番号 : リスニング キット.....	243
第 12 章 : 機器における各種問題のトラブルシューティング.....	245
ヘッドセットから何も聞こえません.....	245
バーコード リーダーがスキャンを行いません.....	245
ヘッドセットが外れてしまいます.....	245
端末から数秒毎にビーブ音が発生します.....	246
端末が音声アプリケーションを読み込みません.....	246
端末が作業員テンプレートを読み込まない.....	246
端末がボタン操作に反応しません.....	246

端末がオンになりません.....	246
端末がオフになったままです.....	247
Talkman A500/T5電池充電器 - トラブルシューティング ガイド.....	247
修理のための機器返却について.....	250
Vocollectに返却する部品の梱包.....	250
修理のための機器返却：RMA（Return Material Authorization）手順.....	251
VMT構成のトラブルシューティング.....	251
LEDで示される問題のトラブルシューティング.....	253
エラーメッセージについて.....	253
番号付きエラー メッセージ.....	254
音声エラー メッセージ.....	262
第 13 章：テクニカル サポートへのコンタクト.....	267
ほとんどのサポートリクエストで必要となる一般的情報.....	267
サポートに問い合わせを行う際に答えを用意しておくべき項目.....	267
VoiceConsoleにおける端末ログの有効化.....	268
付録 A：テンプレートのトレーニング オプション.....	269
Talkman端末のみによるトレーニング.....	269
QTERMビジュアルトレーニング端末、ケーブル付き.....	270
QTERMビジュアルトレーニング端末を設定します.....	270
QTERMビジュアルトレーニング端末構成します.....	270
ビジュアル トレーニング端末を用いたトレーニング.....	271
VoiceConsole画面を介したトレーニング.....	272
単語の一覧を用いたトレーニング.....	272
ハンドヘルド端末画面を用いたトレーニング.....	273
付録 B：準拠.....	275

第1章

はじめに

Vocollectハードウェアマニュアルおよび製品ガイドには、ハードウェア製品および周辺機器に関する幅広い情報が記載されています。

このマニュアルには、次の情報が含まれています。

- 安全に関する情報
- ハードウェア仕様
- VocollectハードウェアやVocollectソフトウェアと互換性のあるサードパーティ端末のインストール手順および基本的な操作方法
- 部品番号
- 規制および準拠宣言
- トラブルシューティングの手順

対象読者

本書は、ハードウェアの認定再販業者、営業担当者、お客様、およびユーザを対象としています。

一般安全ガイドライン

Vocollectの電子機器を取り扱う際は、次の様なガイドラインに従ってください：

- 接地が必要な機器は、コンセントへの接続と適切な設置を行い、すべての規制に従って接地を行ってください。
- 接地プラグを取り外したり、プラグを改造してはいけません。
- プラグアダプタは使用しないでください。
- コンセントが適切に接地されていないと思われる場合には、テスタによるチェックや、電気工事士等への確認を行ってください。
- 電気的な接続は乾燥した状態を保ち、グラウンドからは絶縁してください。
- 電子機器を雨や濡れた場所で使用してはいけません。
- プラグやツールに濡れた手で触れてはいけません。
- コードを乱暴に扱わないでください。コードを持って機器を持ち上げたり、コンセントからプラグを抜く際にコードを引っ張ったりしてはいけません。コードは熱、油、鋭いエッジ、可動部品等から遠ざけてください。痛んだコードは直ちに交換してください。
- 延長コードは承認済みのもののみを使用してください。

スキャナあるいはイメージャを使用する際には、光を直接見ないでください。

機関準拠宣言

Vocollectの端末やワイヤレスヘッドセットは、販売地域の規則および法律に準拠するように設計されており、必要に応じてラベルが貼られています。Vocollectの端末はタイプが承認されているので、使用前にラ

イセンスまたは認証を受ける必要はありません。Honeywellによって明示的に承認されない変更または修正を行うと、装置を操作する権利が無効になる可能性があります。

Honeywell電池の安全性

電池の取り扱い方を間違えると、高温、発火、爆発、または損傷の危険性があるだけでなく、充電容量の低下の原因となることがあります。電池の使用前および使用中にこの取扱説明書をお読みいただき、正しく安全にご使用ください。

以下の内容は、一般的な注意事項とガイドラインで、あらゆる使用方法のシナリオを想定したものではありません。製造業者は、以下に記載されていない使用方法による行為または事故について、一切責任を負いません。

警告:

- 電池を分解したり、パッケージを開いたり、落したり(乱暴に扱ったり)、破壊したり、曲げたり、変形したり、穴を開けたり、粉碎したりしないでください。
- 電池を改造したり、再生したり、異物を挿入しないでください。水やその他の液体で濡らさないでください。火や高熱(はんだごてなど)に近づけないでください。また、電子レンジに入れないでください。
- 電池は、指定された端末でのみご使用ください。
- 電池の液漏れを見つけたときは、皮膚や目に付着しないように注意してください。皮膚や目に付着したときは、多量の水で洗浄し、医師に相談してください。
- 電池をショートさせたり、金属や導体を両方の電池端子に同時に接触させないでください。
- 電池を交換する際は、ご使用の製品に指定されている電池のみを使用してください。指定されていない電池を使用すると、火災、爆発、液漏れなどが生じる可能性があります。
- 電池を飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談してください。
- 電池の充電中に膨張、変形、発煙、発熱の兆候が見られた場合は、ただちに充電を中止し、電池を取り外してください。できるだけ建物や車内から離れ、安全な場所から約 15 分間、状況を監視してください。
- 使用済み電池を廃棄する場合は、お住まいの地域の規則に従ってください。電池の廃棄方法の指示や規則は、国によって、また米国内であっても地域によって異なります。多くの場合、施設または企業で使用済み電池を回収しています。
- 電池の不適切な取り扱いは、火災、爆発などの原因となります。
- Honeywell電池は、幼児の手の届かないところに保管してください。
- Honeywellは、Honeywell電池以外の電池を使用した場合の装置の不具合によるいかなる損傷についても責任を負いません。
- Honeywellは、Honeywell充電器以外の充電器を使用した場合の装置の不具合によるいかなる損傷についても責任を負いません。

注意:

- 装置または端末を長期間使用しない場合は、電池を取り外して常温および適切な湿度で保管してください。
- 電池を充電器に装着したまま、長期間放置しないでください。電池の寿命が短くなるなど、不具合が生じる場合があります。充電器から取り外し、上記の指示に従い保管してください。
- 装置を使用しない場合、電源を切ってください。

使用済み電池の処理

- 電池を発送する際は、輸送中の事故防止のため、電池の端子部分にテープなどで絶縁処理を施してください。Honeywellの電池は、49 CFR 172.102の特別規定188またはIATA例外規定A45に基づいて発送可能です。
- 電池は、雨や水に濡れないようにしてください。
- 電池を分解しないでください。
- 電池は、直射日光の当たる場所に放置しないでください。
- 電池は、丈夫なふた付きの容器に保管してください。

Vocollect機器のクリーニング手順

Vocollect製品は、適切に手入れをすれば長期間サービスを利用することができます。以下の推奨される手順に従ってクリーニングを行ってください。

Vocollect機器は、作業環境に通常存在する汚れや付着物に耐えるように製造され、テストされていますが、取りきれなかった汚れや付着物が長期にわたって堆積すると、機器が損傷し、パフォーマンスが低下することがあります。

- 汚れや腐食により、端末を充電器に適切にセットできなくなったり、充電が断続的になったりする可能性があります。
- Talkman[®] Connector (TCO) の端子に、汚れや化学物質が堆積し、腐食が進むと、接触不良、静電気、および認識上の問題が発生する可能性があります。
- キーパッドのメンブレンに汚れがたまると、メンブレンが劣化し、破れることがあります。

 **注意:** 機器のクリーニングには、70%イソプロピルアルコール溶液のみを使用してください。他の製品はテストされていないため、機器を害する可能性があります。

プラスチックのクリーニング

硬質プラスチックのクリーニング

ヘッドセット、端末、充電器、電池の硬質プラスチックは、イソプロピルアルコール70%と水30%の溶液を含ませた柔らかい布で清掃してください。

また柔らかいブラシを使用して、充電器のポケット部分のほこりや破片を除去し、機器のセットや電気接触の阻害要因を取り除きます。

フォームおよびし柔質プラスチック

ヘッドセットのフォーム部分（イヤーパード、ヘッドバンドパッド）およびフレキシブルバンドとフォーム材質でないパッドは、刺激の少ない石鹸と水で清掃してください。パッドが破れたり外れたりしないように注意して洗浄します。

部品は空気乾燥します。ヘアドライヤーや衣服乾燥機などの集中熱源は使用しないでください。

ヘッドセット ウィンドスクリーンなどのパッドが非常に汚れた場合は、交換してください。

端子のクリーニング

Talkman Connector (TCO) などの端末のフラット端子、または電池や充電器のフラット端子は、70%イソプロピルアルコール溶液で清掃してください。

柔らかく糸くずの出ない布またはアルコールで湿らせたウェットワイプを使用します。繊維が長いまたは太い布は避けてください。繊維がコネクタに付着して接触不良の原因となることがあります。

腐食した部分は、柔らかい消しゴム（鉛筆用の消しゴムなど）で除去してください。消しゴムは、柔らかくしなやかで、根元まで磨り減っていない良好な状態のものを使用してください。自分の肌で試すと、状態がよくわかります。ざらざらするものは、接点の表面を傷付けるので使用しないでください。

また、豚毛を用いた3列クリーニングブラシを用いて、端子上の汚れを丁寧に除去する方法もあります。ブラシで汚れを落とした後にアルコールで拭くと、接点が完全にきれいになります。

電池の端子は、曲げたり手で動かしたりしないでください。

端子が極度に腐食したり、曲がったりした場合、または紛失した場合は、認定Vocollectサービスセンターに連絡して端子の修理または交換を依頼してください。

お問い合わせ

マニュアルに対するご意見

Vocollectのマニュアル作成において、お客様のご意見は非常に重要です。このマニュアルで説明されている手順でわからない事がありましたら、Vocollect 技術サポートにお問い合わせください。

Vocollect のほとんどの技術的情報は VoiceWorld、<https://www.voiceworld.com> から入手できます。

Honeywell Scanning & Mobility - Vocollectの再販業者によるサービス

再販業者から Honeywell Scanning & Mobility - Vocollect 製装置やサービスをお買い上げになった場合、サポートや購入に関する質問はまずその再販業者にお問い合わせください。

Honeywell Scanning & Mobility - Vocollectテクニカル サポート

ご質問はテクニカルサポートにご相談ください：

米国電話：866-862-7877
vocollectsupport@honeywell.com

欧州、中東、アフリカ電話：+44 (0) 1628 55 2902
vocollectEMEA@honeywell.com

北米（米国を除く）、中南米、オーストラリア、ニュージーランド電話：412-829-8145、
オプション3、オプション1
vocollectsupport@honeywell.com

日本、韓国電話：+813 6730 7234
vocollectJapan@honeywell.com

Honeywell Scanning & Mobility - Vocollect カスタマ サービス

製品のご注文、注文の処理状況、返送、RMA（Return Material Authorization）の処理状況、またはその他のカスタマ サービスについては、Honeywell Scanning & Mobility - Vocollect カスタマ サービスにお問い合わせください。

米国電話：866-862-6553、オプション3、オプション2
 VocollectRequests@honeywell.com

欧州、中東、アフリカ電話：+44 (0) 1628 55 2903
 VocollectCSEMEA@honeywell.com

北米（米国を除く）、中南米、オーストラリア、ニュージーランド
 オプション3、オプション2
 VocollectRequests@honeywell.com

日本、韓国電話：+813 6730 7234
 vocollectJapan@honeywell.com

Honeywell Scanning & Mobility - Vocollect RMA

修理のために機器を返送するには、ヴォコレクトジャパンRMAに連絡してください。
 電子メール：VocollectJapanSupport@honeywell.com

販売および一般的な事項に関するお問い合わせ

**Honeywell Scanning & Mobility
 Vocollect Solutions**
 703 Rodi Road
 Pittsburgh, PA 15235-4558
 電話：412-829-8145
 ファックス：412-829-0972
 VocollectInfo@honeywell.com
<http://www.vocollectvoice.com>

**Honeywell Scanning & Mobility
 Vocollect Solutions Europe** Honeywell House
 Skimped Hill Lane Bracknell, Berkshire RG12 1EB
 United Kingdom 電話：+44 (0) 1628.55.2900
 vocollectEMEA@honeywell.com

**Honeywell Scanning & Mobility
 Vocollect Solutions Latin America**
 電話(北)：+52 55 5241 4800 内線 4915
 電話(南)：+1 412 349 2477
 vocollectLatin_America@honeywell.com

**Honeywell Scanning & Mobility
 Vocollect Solutions** ジャパン
 〒105-0022 東京都港区海岸
 1-16-1 ニューピア竹芝サウスタワー20F
 ：+813 6730 7234
 vocollectJapan@honeywell.com

**Honeywell Scanning & Mobility
 Vocollect Solutions Asia-Pacific**
 21/F Honeywell Tower, Olympia Plaza
 255 King's Road, North Point, Hong Kong
 電話（香港）：+ 852 2331 9133
 電話（中国）：+ 86 186 1698 7028
 電話（オーストラリア）：+ 61 409 527 201
 vocollectAsiaPacific@honeywell.com

**Honeywell Scanning & Mobility
 Vocollect Solutions Singapore**
 151 Lorong Chuan
 #05-02A/03 New Tech Park, Lobby C
 Singapore 556741
 電話：+65 6305 2369
 vocollectSingapore@honeywell.com

特許と知的財産

参照してください <http://www.hsmpats.com>。

第2章

Talkman端末およびヘッドセット

Vocollect Talkman™端末は、Vocollectヘッドセットとともに使用して、音声指令型の作業を行うためのウェアラブル端末です。作業員はTalkman端末を使用して、倉庫におけるオーダーピッキングや工場における出荷検査等の作業の実施命令を聞き、簡単なフレーズを用いた音声によるデータ入力を行います。

すべてのTalkman端末では作業員の両手が自由になり、端末が検査、ピッキング、修理等の作業の妨げになることはありません。

Talkman A700 製品ファミリー、T5シリーズ、およびT2シリーズ端末

これらの端末モデルは、工業用に設計された堅牢な端末です。カスタマイズされたベルトやショルダーハーネスに専用のクリップを用いて装着します。

Talkman A500 VMT (Vehicle Mounted Talkman: 車載型Talkman) およびT5 VMTは、電池アダプタをフォークリフトなどの倉庫用車両に搭載したA500端末およびT5端末です。端末を取り付けた後、電池アダプタをT5端末の電池領域に装着し、それを車両電源に接続します。

Talkman T1

Talkman T1は軽作業環境向けに特化して設計されました。Talkman T1端末は、T2シリーズ、T5シリーズ、A500、およびA700シリーズの端末と比べ、軽量かつ安価です。端末に対して極端な堅牢性が要求されない作業領域での使用に適しています。Talkman T1端末は、ベルトクリップの付いた専用のホルスタに収容します。

音声認識ヘッドセット

端末からの指示や問い合わせは、マイク付きのVocollect音声認識ヘッドセットにより聞き取ります。端末に対する情報のリクエストや端末からの要求に基づいたデータの入力には、音声入力を使用します。

このヘッドセットでは、Vocollect Adaptive Speech Recognition™を使用して、時間の経過や環境の違いに伴う発話パターンの変化を捕捉することで音声認識およびシステムパフォーマンスを向上させます。

製品の使用および取り扱い

- Talkman端末はVocollectの製造ガイドラインを厳守して組み立てられています。端末を改ざんすると操作上の仕様が無効になるだけでなく、製品の保証も無効になる可能性があります。
- 使用していない時は、Talkmanを充電器へ適切にセットしておいてください。
- Talkmanからの電池の取り外しは、その電源を適切にオフにした後に行わなくてはなりません。
- VocollectはTalkmanを、体の右側に装着した状態で、端末のボタンが上部（T5シリーズ、T2シリーズ、A500、A-700シリーズ）または正面（T1）を向き、コネクタが作業員の背中（A500、T5シリーズ、T2シリーズ、A-700シリーズ）または上方（T1）に向かうように設計しました。
- Talkman T1は、ホルスタの開口部を上に向けた状態で収納してください。開口部を下向きや横向きにした状態で収納していると、ユニットが落下する危険があります。
- 機器を保護し、最適な音声認識のパフォーマンスを確保するため、Vocollectヘッドセットには常にパッドとウィンドスクリーンを取り付けて使用してください。

- 最良のパフォーマンスを確保するため、90日ごとにウィンドスクリーンを交換することをお勧めします。
- 注意:** 機器の硬質プラスチック部分のクリーニングには、イソプロピルアルコール70%と水30%の溶液のみを使用してください。他の製品はテストされていないため、機器を害する可能性があります。



Talkmanウェアラブルコンピュータをオンにする

ウェアラブルコンピュータをオンにする際は、ヘッドセットや充電済み電池が正しく接続されていることを確認してください。

1. ウェアラブルコンピュータの[再生/一時停止]ボタンを押します。
LEDインジケータは使用する端末によって異なります。

端末タイプ	インジケータ
Talkman A700 端末	リングは黄色で回転しています。その後小さいセグメントが緑色に点灯します。
A500、T5シリーズ、およびT2シリーズ端末	最初にプロセッサが起動する間、赤く点灯します。その後赤と緑に点滅し、赤の点灯になり、赤の点滅になった後、緑の点灯になります。
T1	緑に点灯します。

2. 端末が次のようなメッセージを發します：「現在の作業員は、作業員名。数秒間声を出さずに静かにして下さい。」これより、端末は雑音のサンプリングを開始します。
3. 間をおいて、端末が「お待ち下さい。」というメッセージを發します。再度間をおいた後、端末は質問または指示の提供を開始します。

Talkman端末の電源オフ

Talkman端末の電源を適切にオフにするには、ボタンコントロールを使用します。端末の電源は自動的にオフになる場合もあります。まれに強制リセットが必要になることもあります。端末は、電源を完全にオフにした後、再起動することができます。

- 再生/一時停止ボタンによる電源オフ

[再生/一時停止]ボタンをLEDインジケータが赤に変わるまで押し続けます。未送信のデータは、すべて端末に保存されます。数秒経つと、端末が「電源を切ります。」というメッセージを發します。端末はオフになり、LEDインジケータの光も消えます。

注意:

- LEDインジケータがオフになるまで、電池を外してはいけません。端末がオンあるいは休止状態にある場合での電池の取り外しは、収集データの破壊につながる可能性があります。

- LEDインジケータが赤で点滅している（A500、T5シリーズ、T2シリーズ）場合には、数分間にわたり点滅し続けているような場合を除き、端末をオフにはいけません。LEDインジケータが赤で点滅している時に端末をオフにすると、再度オンにした際に使用する準備が整っていない可能性があります。
- LEDインジケータが赤で点滅している（A500、T5シリーズ、T2シリーズ）、または赤いリングが回転している（A700）場合には、数分間にわたり点滅またはリングが回転し続けているような場合を除き、端末をオフにはいけません。この状態で端末をオフにすると、再度オンにした場合にすぐに使用できない場合があります。

- 未使用時の電源オフ

端末のソフトウェアは、端末が指定時間動いていないことを検出すると、自動で電源をオフにします。

- 電池残量による電源オフ

端末のソフトウェアは、現在の電池残量が非常に低いことを検出すると、自動で電源をオフにします。

- 電源オフの後の端末の再起動

電源オフが適切に行われた端末であれば、電池を交換し、再生/一時停止ボタンを押すと、次の処理が実行されます。

- 背景雑音のサンプリング
- 電源をオフにした時点の処理を継続
- 電源オフの前にホストに送信できなかったテンプレートを送信
- 電源オフの前にホストに送信できなかった出力データ レコードを送信
- 電源オフの前に受信できなかったルックアップ テーブルをホストから転送

- 強制リセット

この種類のリセットは、適切な電源オフ操作を行わずに、端末から電池を取り外した際に発生します。

 **注意:** 強制リセットは最後の手段としてのみ実施してください。このリセットから端末を再起動すると:

- 収集済みのデータを含むメモリ内容が失われます。
- 端末の作業は最初からやり直しとなります。
- 単語情報の再トレーニング中だった場合は、端末がオン状態に戻ると、すべての単語情報テンプレートをホスト コンピュータに送信します。ホストへのテンプレート送信が完了するまで、何も行わないでください。

電池を交換し、端末を再度オンにすると、起動後に現在の作業と作業員の読み込みを試みます。作業と作業員の読み込みに成功すると、端末は新しい作業や作業員が読み込まれた場合と同じように動作します。

端末に対する作業員テンプレートの読み込み

充電済み電池の取り付けられた端末、ヘッドセット、および使用するその他の機器（ベルト、バーコードリーダー等）が必要です。ラジオレンジ圏内にいる必要があります。端末がオンまたは休止中であることを確認します。LEDインジケータが緑色に点灯または点滅（A500、T5シリーズ、T2シリーズ）、緑色に点灯（T1）、または緑色に点灯したセグメントがあるまたは緑色のリングが回転（A700シリーズ）していません。

1. [作業員]ボタンを押します。
端末が「現在の作業員は、作業員名。メニュー項目を選択してください。」というメッセージを發します。
2. 端末から「作業員の変更」というメッセージが聞こえるまで + または - ボタンを押してください。
3. [作業員]ボタンを押します。
4. 端末は「お待ち下さい。」というメッセージを發した後、作業員とチームの一覧を取得します。端末から「チームを選択してください。」というメッセージが聞こえるまで待ちます。
 - 端末が「現在の作業員は、（作業員名）。作業員の変更」というメッセージを發した場合は、ステップ8までスキップしてください。
5. + または - ボタンを押すことにより、所属するチームの名前が聞こえるまで、作業員チームの一覧内をスクロールします。
6. [作業員]ボタンを押します。
端末は「お待ち下さい。」というメッセージを發した後、選択したチームに所属する全作業員の一覧を取得します。端末が「現在の作業員は、（作業員名）。新しい作業員を選択してください。」というメッセージを發します。
7. + または - ボタンを押すことにより、自分の名前が聞こえるまで、利用可能な作業員名の一覧内をスクロールします。
 - 自分の名前が確認できなかった場合には、黄色の[再生/一時停止]ボタンを押すことによりこの操作をキャンセルし、ステップ2からやり直します。
 - ステップ5でチームを選択する際、"All Operators" チームを選択してください。
 - "All Operators" チームでも自分の名前が見つからない場合には、管理者に問い合わせてください。
8. [作業員]ボタンを押します。
端末は「作業員を読み込んでいます。」というメッセージを發した後、ユーザーのテンプレートを読み込みます。端末は、テンプレートの読み込みを完了すると、「現在の作業員は、（作業員名）。スリープモードに入ります。」というメッセージを發します。これにより端末は休止モードに移行します。次に端末をオンにした際には、使用準備が完了しています。

音声の調整

Vocollect Talkman端末は、Vocollect Voiceソフトウェアを使用して作業員に指示を与え、作業員からの応答を求めます。

作業員が情報を明確に聞き取り、理解できるように、作業員に対する実際の音声は、次のような複数の方法で調整できます。

- 音声のピッチの高低を調整
- 音声の音量の大小を調整
- 音声の速度の大小を調整
- 音声の性別を男性または女性に変更

音声を変更する前に： 端末がオンまたは休止中であることを確認します。LEDインジケータが緑色に点灯または点滅（A500、T5シリーズ、T2シリーズ）、緑色に点灯（T1）、または緑色に点灯したセグメントがあるまたは緑色のリングが回転（A700シリーズ）していなくてはなりません。

音声のピッチ調整

端末がオンまたは休止中であることを確認します。LEDインジケータが緑色に点灯または点滅（A500、T5シリーズ、T2シリーズ）、緑色に点灯（T1）、または緑色に点灯したセグメントがあるまたは緑色のリングが回転（A700シリーズ）していません。

 注: ピッチの調整は特定の言語および特定の音声に対して行うことが可能です。

1. [作業員]ボタンを押します。
端末が「現在の作業員は、作業員名。メニュー項目を選択してください。」というメッセージを發します。
2. 端末から「ピッチの変更」というメッセージが聞こえるまで + または - ボタンを押してください。
3. [作業員]ボタンを押します。
+ ボタンを用いてオプション内をスクロールした場合、[ピッチの変更]はリスト内の5つ目のメニューアイテムとして表示されます。
4. 音声を高くするには + ボタン、低くするには - ボタンを押します。
端末は、+ ボタンを押す度に「もっと高く」というメッセージを發し、- ボタンを押す度に「もっと低く」というメッセージを發します。音声のピッチが最高設定に達すると、端末は「これ以上高くすることはできません」というメッセージを發します。音声のピッチが最低設定に達すると、端末は「これ以上低くすることはできません」というメッセージを發します。
 注: [作業員]ボタンを押す前に[再生/一時停止]ボタンを押すと、設定内容を変更することなく、このメニューを終了することが可能です。
5. ピッチが希望のレベルに達したら、[作業員]ボタンを押すことにより、新しいピッチ設定を保存します。

音声を用いた音声の音量調整

端末がオンまたは休止中であることを確認します。LEDインジケータが緑色に点灯または点滅（A500、T5シリーズ、T2シリーズ）、緑色に点灯（T1）、または緑色に点灯したセグメントがあるまたは緑色のリングが回転（A700シリーズ）していません。

1. 「Talkman音量」と話します。
2. 音量を上げるには「音量アップ」、下げるには「音量ダウン」と話します。
デバイスより「これ以上音量を上げることはできません。」というメッセージが發せられた場合には、それ以上音量を上げることはできません。「これ以上音量を下げることはできません。」というメッセージが發せられた場合には、それ以上音量を下げることはできません。
3. 希望の音量が設定できたら、「Talkman続行」と話すことにより、設定作業を終了します。

端末のボタンを用いた音声の音量調整

端末がオンまたは休止中であることを確認します。LEDインジケータが緑色に点灯または点滅（A500、T5シリーズ、T2シリーズ）、緑色に点灯（T1）、または緑色に点灯したセグメントがあるまたは緑色のリングが回転（A700シリーズ）していません。

音声を大きくするには + ボタン、小さくするには - ボタンを押します。

端末は、+ ボタンを押すと「音量アップ」というメッセージを發し、- ボタンを押すと「音量ダウン」というメッセージを發します。音声の音量が最大設定に達すると、端末は「これ以上音量を上げるこ

はできません。」というメッセージを發します。音声の音量が最小設定に達すると、端末は「これ以上音量を下げることはできません。」というメッセージを發します。

音声の速度調整

端末がオンまたは休止中であることを確認します。LEDインジケータが緑色に点灯または点滅（A500、T5シリーズ、T2シリーズ）、緑色に点灯（T1）、または緑色に点灯したセグメントがあるまたは緑色のリングが回転（A700シリーズ）していません。

1. [作業員]ボタンを押します。
端末が「現在の作業員は、作業員名。メニュー項目を選択してください。」というメッセージを發します。
2. 端末から「話す速さの変更」というメッセージが聞こえるまで + または - ボタンを押してください。
3. [作業員]ボタンを押します。
+ ボタンを用いてオプション内をスクロールした場合、[話す速さの変更]はリスト内の4つ目のメニューアイテムとして表示されます。
4. 音声を早くするには + ボタン、遅くするには - ボタンを押します。
端末は、+ ボタンを押す度に「もっと早く」というメッセージを發し、- ボタンを押す度に「もっと遅く」というメッセージを發します。音声の速度が最高設定に達すると、端末は「これ以上早くすることはできません」というメッセージを發します。音声の速度が最低設定に達すると、端末は「これ以上遅くすることはできません」というメッセージを發します。

 注: [作業員]ボタンを押す前に[再生/一時停止]ボタンを押すと、設定内容を変更することなく、このメニューを終了することが可能です。

5. 音声希望の速度になったら、[作業員]ボタンを押すことにより、新しい速度設定内容を保存します。

音声の性別変更

端末がオンまたは休止中であることを確認します。LEDインジケータが緑色に点灯または点滅（A500、T5シリーズ、T2シリーズ）、緑色に点灯（T1）、または緑色に点灯したセグメントがあるまたは緑色のリングが回転（A700シリーズ）していません。

1. [作業員]ボタンを押します。
端末が「現在の作業員は、作業員名。メニュー項目を選択してください。」というメッセージを發します。
2. 「音声種類の変更」というメッセージが聞こえるまで + または - ボタンを押してください。
3. [作業員]ボタンを押します。
+ ボタンを用いてオプション内をスクロールした場合、[音声種類の変更]はリスト内の6つ目のメニューアイテムとして表示されます。
4. + または - ボタンをクリックし、次の音声を聞いてください。
女性の声に切り替わると「女性の声です。」、男性の声に切り替わると「男性の声です。」というメッセージを端末が發します。

 注: [作業員]ボタンを押す前に[再生/一時停止]ボタンを押すと、設定内容を変更することなく、このメニューを終了することが可能です。

5. 希望の音声を聞いたところで、[作業員]ボタンを押すことにより、その性別を選択します。

Talkmanコマンドについて

Talkman端末は、現在行っている音声指示による作業に応じて従業員に応答を求めます。しかしこれとは別に、端末を使用する間、作業員がほとんどいつでも発話できる基本的なTalkmanコマンドが用意されています。

操作	発話するコマンド
現在のプロンプトを繰り返し聞く	「もう一度」
端末を休止モードにする	「Talkman休止」
端末を起動する	「Talkman起動」
前の応答を消去し、同じプロンプトに再度応答する（VoiceClientのみ）	「Talkman 戻る」
Talkman A700 電池の残量をチェックする（VoiceCatalyst 2.0以降のみ）	「Talkman電池状態」
現在のプロンプトに対する応答方法についての説明を聞く	「Talkmanヘルプ」
現在のプロンプトに対して発話できるボキャブラリーワードをすべて聞く	「Talkmanヘルプ」
問題を特定しログファイルのスナップショットをVoiceConsoleに送る（VoiceCatalyst 1.2以降のみ）	「Talkman問題を報告」

聴覚に障害のあるユーザー向けオプション

Vocollect製品は平均レベルの聴覚を持った人向けに設計されています。補聴器等を使用している作業員は、Vocollectヘッドセットを実際の倉庫環境で使用する際に若干の調整を検討する必要があります。

Vocollectは、Talkman端末設定にに対するいくつかの基本的な変更を組み合わせることで、聴き取り能力の改善を図ることを推奨します。

- VoiceConsoleを使って言語音声を変更する（VoiceConsoleオンライン ヘルプ参照）
- 音声のピッチの高低を調整
- 音声の音量の大小を調整
- 音声の速度の大小を調整
- 音声の性別を男性または女性に変更

補聴器が背景雑音を拾ってしまい、Talkman端末プロンプトを聴きづらくしていることに気が付くかもしれません。この場合、Vocollectはカップ型ヘッドセットを用いて補聴器からの雑音を減らすことを推奨します。

これらのオプションを試してもなおTalkman端末が聞き取りづらい場合には、Vocollectは医療機関に相談されることを強く推奨します。聴覚障害は資格のある聴覚訓練士の対応を必要とする健康状態です。副作用なくユーザーに役立つ適切なアドバイスができるよう、聴覚訓練士にはVocollect製品で対応可能なピッチ、音量、側音についてのオプションについて知らせておく必要があります。Vocollectテクニカル サポー

トはユーザーの聴覚訓練士にこれらのオプションを説明し、聴覚訓練士からのアドバイスに基づいてTalkman端末の構成を変更することができます。

注意: Talkman端末の出力レベルをさらに高めるパラメータは様々なものがあります。Vocollectは資格のある聴覚訓練士に相談することなく音声出力レベルを上げるような設定変更を推奨しません。正しい医学的アドバイスに基づくことなくこれらの設定を変更すると聴覚にさらなる損傷が及ぶ可能性があります。

Vocollect製品およびその規定オプションは、通常のワークフローおよび一般的な人に対する音の安全性を確保するよう測定、検証されています。既定の音声パラメータは、資格のある聴覚専門家による明示的な指示なく変更すべきではありません。

Vocollectパブリケーション、Evaluating Audio Safety in Your Distribution Centerは作業環境において音の安全性を維持することの重要性を説明しています。このパブリケーションはVocollectパートナー向けに<https://www.voiceworld.com> で提供されています。

部品番号インデックス：Vocollectウェアラブル コンピュータ

ウェアラブル コンピュータ	Vocollect部品番号
Talkman A700 ベース ユニット	TT-900
Talkman A710 (Bluetoothヘッドセットおよび周辺機器用)	TT-910
Talkman A720 (Talkmanコネクタ2個付属)	TT-920
Talkman A730 (統合されたスキャナ付属)	TT-930
Talkman A500 (A/B/G)	TT-800
Talkman A500 (B/G)	TT-801
Talkman T5m	TT-700-100-M
Talkman T5	TT-700
Talkman T2x	TT-601
Talkman T1	TT-100

部品番号インデックス：Talkmanアクセサリ

アクセサリ	Vocollect部品番号
A700端末ベルト	BL-801-X
A700 端末標準ホルスタ (A710およびA720用)	BL-901
A700 端末スキャナーホルスタ (A730用)	BL-902
T5/A500カバー	EO-700-1
T2シリーズ端末カバー	TC-601-1

アクセサリ	Vocollect部品番号
T5/A500ショルダーハーネス	HI-700-1
T5/A500クリップ付きベルト	BL-700-1 - BL-700-7
T5/A500クリップ	BL-700-101B (BL-700-1~BL-700-7、およびHL-700-1と共に使用)
T2クリップ付きベルト	ベルト：BL-601-101-7
T2クリップ	BL-602-101
T1ホルスタ	BL-100-101
A700大容量電池	BT-902
A700大容量電池、1箱24個入り	BT-902-100B
A700標準電池	BT-901
A700標準電池、1箱24個入り	BT-901-100B
A700 メンテナンス ケーブル、USB micro-B → Type A	RS-900-1
A500/T5高性能電池	BT-700-2
A500/T5高性能電池 (50個入り箱)	BT-700-2-101B
T2シリーズ標準電池	BT-601
T2シリーズ大容量電池	BT-602
T2シリーズ大容量電池 (25個入り箱)	BT-602-101B
T1標準電池	BT-101
Vehicle Mount、ホルダー、Talkman A500/T5シリーズ	BL-710-1
Vehicle Mount、ホルダー/ベース ネジ止めアタッチメント、Talkman A500/T5シリーズ	BL-710-101
Vehicle Mount、アーム、Talkman A500/T5シリーズ	BL-710-102
Vehicle Mount、クランプ、Talkman A500/T5シリーズ	BL-710-103
電池アダプタ、DC-DC、Talkman A500/T5シリーズ	BT-710
ケーブル、電池アダプタ、Talkman A500/T5シリーズ	CM-710-102
電源、9-36 VDC入力	CM-710-110
電源、18-60 VDC入力	CM-710-111

適切なヘッドセットの選択

購入するヘッドセットを選択する場合、作業員が複数の異なるモデルを装着してみて、実際の作業や環境に最も適したヘッドセットを選択することをお勧めします。

顧客向け	SL-4/ SL-14	SR-15	SR-20	SR-30	SR-35	SR-40	SRX	SRX2
汎用ヘッドセット		X	X				X	X
軽作業/顧客対応環境	X							
冷凍環境		X	X	X	X	X		X
ビハインドヘッド型	X	X						
大量雑音環境				X	X	X		
ヘルメット併用	X	X			X			
ワイヤレス							X	X
標準外の頭サイズ (特大/特小)	X	X						X
標準外の耳サイズ (特大/特小)			X	X	X	X	X	X

部品番号インデックス: 有線ヘッドセット

すべての有線ヘッドセットには、特に断りのない限りストレートコードが付いています。

部品	の部品番号
SL-4 Vocollect Light Industrial Behind-the Head Headset, ストレートコード、Talkman T1用	HS-708-4-R (右耳) HS-708-4-L (左耳)
SL-4 Vocollect Light Industrial Behind-the-Head Headset With Training Cable, ストレートコード、Talkman T1用	HS-708-100-R (右耳)
SL-14 Vocollect Light Industrial Behind-the-Head Headset, ストレートコード、	HS-708-14-R (右耳) HS-708-14-L (左耳)
SR-15 Behind-the Head Headset, ストレートコード、	HD-708-1
SR-20 Vocollect Lightweight Headset	HD-700-1 HD-700-2 (コイルドコード)
SR-21 Vocollect Universal Headset	HD-701-1(直角コネクタ)
SR-30 Vocollect High-Noise Headset	HD-702-1
SR-31 Vocollect Universal High-Noise Headset	HD-703-1
SR-35 Vocollect Hard-Hat Headset	HD-704-1
 注: SR-35ヘッドセットはPeltorクリップに対応したスロットが側面にあるヘルメットとのみ使用できます。このクリップはVocollectが別途販売しており(部品番号HD-704-101)、各SR-35ヘッドセットに必要です。	HD-704-2 (コイルドコード)

部品	の部品番号
SR-40 Vocollect Dual-Cup Headset	HD-705-1

部品番号インデックス: 有線ヘッドセットのアクセサリ

Part (SL-4/SL-14 Wired Headset)	の部品番号
SLシリーズウィンドスクリーン (50個入り袋)	HS-708-102b
SRシリーズヘッドセットコードクリップ (20個入り袋)	HS-708-103b

Part (SR-15 Wired Headset)	の部品番号
SRシリーズウィンドスクリーン (25個入り袋)	HD-700-102b
SRシリーズヘッドセットコードクリップ (10個束)	HD-700-103b
フォームイヤーパード、SR-15 Vocollect® Behind-The-Head Headset用 (25個入り袋)	HD-708-107b
調整ストラップ、SR-15 Vocollect® Behind-The-Head Headset用 (10個入り袋)	HD-708-110b
ヘッドバンドコードクリップ、SR-15 Vocollect® Behind-The-Head Headset用 (10個入り袋)	HD-708-111b

Part (SR-20/21 Wired Headset)	の部品番号
SR-20 メンテナンスキット。内容：フォームイヤーパード (25 個)、ヘッドバンドパッド (30個)、イヤーパード取り付けプレート (10個)	HD-700-101
SRシリーズウィンドスクリーン (25個入り袋)	HD-700-102b
SRシリーズヘッドセットコードクリップ (10個束)	HD-700-103b
ドレザーイヤーパード (25個入り袋)	HD-700-104b
イヤーパード、フォーム製、取り付けディスク付き、SR-20/21 (イヤーパード50個、取り付けディスク25個)	HD-700-105b
バーパッド、SRシリーズヘッドセット (25個入り袋)	HD-700-106b
SR-20 フォームイヤーパード (25個入り袋)	HD-700-107b
SR-20 イヤーパード取り付けプレート (10個入り袋)	HD-700-108b
ヘッドバンドパッド、SR-20 (30個入り袋)	HD-700-109b
イヤーパード、#2、フォーム製、取り付けディスク付き、SR-20/21 (50個のディスク取り付け済みイヤーパード)	HD-700-125b
イヤーパード、#3、フォーム製、取り付けディスク付き、SR-20/21 (50個のディスク取り付け済みイヤーパード)	HD-700-126b
Tバーパッド、#2、SRシリーズヘッドセット (25個入り袋)	HD-700-140b

Part (SR-20/21 Wired Headset)	の部品番号
イヤーパード、レザー、取り付けディスク付き、SR-20/21 (50個のレザー イヤーパード、5個の取り付けディスク)	HD-701-105b

Part (SR-30/31 Wired Headset)	の部品番号
SRシリーズウィンドスクリーン (25個入り袋)	HD-700-102b
SRシリーズヘッドセットコードクリップ (10個束)	HD-700-103b
Tバーパッド、SRシリーズヘッドセット (25個入り袋)	HD-700-106b
ヘッドバンドパッド、SR-20 (30個入り袋)	HD-700-109b
SRシリーズメンテナンスキット。内容：スムーズイヤーパード (15個)、ヘッドバンドパッド (30個)、イヤーパード取り付けプレート (5個)	HD-702-101
SR-3xスムーズレザーイヤーパード (10個入り袋)	HD-702-102b
SR-3xテキスチャードレザーイヤーパード (10個入り袋)	HD-702-103b
SR-30取り付けディスク (5個入り袋)	HD-702-108b

Part (SR-35 Wired Headset)	の部品番号
SRシリーズウィンドスクリーン (25個入り袋)	HD-700-102b
SRシリーズヘッドセットコードクリップ (10個束)	HD-700-103b
ヘッドバンドパッド、SR-20 (30個入り袋)	HD-700-109b
SRシリーズメンテナンスキット。内容：スムーズイヤーパード (15個)、ヘッドバンドパッド (30個)、イヤーパード取り付けプレート (5個)  注: SR-35ヘッドセットではヘッドバンドパッドは使用されません。	HD-702-101
SR-3xスムーズレザーイヤーパード (10個入り袋)	HD-702-102b
SR-3xテキスチャードレザーイヤーパード (10個入り袋)	HD-702-103b
SR-30取り付けディスク (5個入り袋)	HD-702-108b
Clip, SR-35 Vocollect® Hard Hat Headset クリップ (ヘッドセットをヘルメットに取り付ける際に必要)	HD-704-101

Part (SR-40 Wired Headset)	の部品番号
SRシリーズウィンドスクリーン (25個入り袋)	HD-700-102b
SRシリーズヘッドセットコードクリップ (10個束)	HD-700-103b
ヘッドバンドパッド、SR-20 (30個入り袋)	HD-700-109b
SRシリーズメンテナンスキット。内容：スムーズイヤーパード (15個)、ヘッドバンドパッド (30個)、イヤーパード取り付けプレート (5個)	HD-702-101
SR-3xスムーズレザーイヤーパード (10個入り袋)	HD-702-102b
SR-3xテキスチャードレザーイヤーパード (10個入り袋)	HD-702-103b

Part (SR-40 Wired Headset)	の部品番号
SR-30取り付けディスク (5個入り袋)	HD-702-108b
Part (Various Wired Headsets)	の部品番号
Motorola® MC9090-S - Vocollectブレイクアウェイコネクタ接続用Vocollectヘッドセットアダプタ	AD-100-2
Motorola® MC9060-S - Vocollectブレイクアウェイコネクタ接続用Vocollectヘッドセットアダプタ	AD-100-3
Motorola® MC9060-S - Vocollectブレイクアウェイコネクタ接続用Vocollectヘッドセットアダプタ- 交換用取り付けプレートアセンブリ	AD-100-101

部品番号：ワイヤレス ヘッドセット

部品	部品番号
SRX Speech Recognition Headset (一式)	HD-800-1
SRX2ヘッドセット一式×1、電池×1 (ヘッドバンド×1、全パッドおよびストラップ、電子モジュール×1、電池×1、マイク キャップ×1)	HD-1000-1
SRX2ヘッドセットバンドル、SRX2ヘッドセット一式、電池×20、20ベイ充電器×1 (ヘッドバンド×20、電子モジュール×20、電池×20、マイク キャップ×20、組み立て済みイヤールパッド×20、充電器×1)	HD-1000-20
SRX2 ヘルメット ヘッドセット	を参照してください 部品番号インデックス: 有線ヘッドセットのアクセサリ
SRX2 ハイノイズ ヘッドセット	を参照してください 部品番号インデックス: 有線ヘッドセットのアクセサリ

部品番号：ワイヤレス ヘッドセットのアクセサリ

部品 (SRXワイヤレス ヘッドセット)	部品番号
SRシリーズ ウィンドスクリーン (25個入り袋)	HD-700-102b
SRXフォーム イヤールパッド (25個入り袋)、SR-20にも対応	HD-700-107b
SRXヘッドバンド パッド (30個入り袋)、SR-20、SR-30、SR35、SR-40	HD-700-109b

部品 (SRXワイヤレス ヘッドセット)	部品番号
SRXメンテナンス キット (フォーム イヤー パッド×50、イヤー パッド取り付けディスク×25)	HD-800-105b
交換用SRX Tバー パッド (25個入り袋)	HD-800-106b
SRX取り付けディスク (10個入り袋)	HD-800-108b
SRXスタビライザ ストラップ	HD-800-110
SRXスタビライザ ストラップ (10個入り袋)	HD-800-110b
SRXメンテナンス キット (フォーム イヤー パッド×15、イヤー パッド取り付けディスク×5、ヘッドバンドパッド×30)	HD-801-101
SRX電池、高性能	BT-800-1
SRX充電器、単一ベイ (電源付き)	CM-800-1
SRX充電器、5ベイ (電源付き)	CM-801-1
SRX充電器電源、単一ベイ	CM-800-101
SRX充電器電源、5ベイ	CM-801-101

部品 (SRX2 Wireless Headset)	部品番号
SRX2電子モジュール	HD-1000-101
SRX2ヘッドバンド & スタビリティ ストラップ (未組み立て)	HD-1000-102
SRX2マイク キャップ (20個入り袋)	HD-1000-104B
SRX2イヤー パッド (20個入り袋)	HD-1000-105B
SRX2コンフォート パッド (20個入り袋)	HD-1000-106B
SRX2 Tバー パッド (20個入り袋)	HD-1000-107B
SRX2 Tバー パッド #2 (20個入り袋)	HD-1000-140B
SRX2コンフォート パッド (20個入り袋)	HD-1000-108B
SRX2 ヘルメット ヘッドセット クリップ、スロット取り付け型	HD-1000-110
SRX2 ヘルメット ヘッドセット クリップ、非スロット/ツバ取り付け型	HD-1000-111
SRX2 ヘルメット ヘッドセット ハイノイズ イヤーカップ (取り付け用ヘルメットクリップ、電子モジュール、電池が必要)	HD-1000-112
SRX2 ハイノイズ ヘッドセット イヤーカップ付ハイノイズ ヘッドバンド (電子モジュールと電池が必要)	HD-1000-113
SRX2 ハイノイズ/ヘルメット ヘッドセット取り付けディスク (10個入り)	HD-1000-114B
SRX2 ヘルメット ヘッドセット クリップ、カップヘフオークアタッチメント	HD-1000-115
SRX2 イヤーパッド、#2、フォーム製、取り付けディスク付き (20個のディスク取り付け済みイヤーパッド)	HD-1000-125B
SRX2 イヤーパッド、#3、フォーム製、取り付けディスク付き (20個のディスク取り付け済みイヤーパッド)	HD-1000-126B

部品 (SRX2 Wireless Headset)	部品番号
SRX2電池	BT-1000
SRX2電池 (20個入り箱)	BT-1000-101B
SRX2 20ベイ充電器	CM-1000-20
SRX2 マイクロUSBケーブル	CM-1000-101

部品番号インデックス：充電器

充電器 - 端末	Vocollect部品番号
A700 6 ベイ端末充電器および電源	CM-901
A700 12 ベイ電池充電器および電源	CM-902
A700 充電器電源	CM-901-101
A700 充電器マウンティング レール	CM-1000-20-101
T5/A500 10-ベイ統合充電器	CM-700-1
T5/A500単一ベイ統合充電器	CM-700-2
T2シリーズ充電器	CM-601-1
T2シリーズ電池充電器	CM-602-1
T5充電器、電源	(CM-700-1用)
T2シリーズ充電器、電源	PS-601-1 (CM-601-1、CM-602-1用)
T5 10-ベイ統合充電器取り付けブラケット	CM-701-1 (CM-700-1用)
T2シリーズ充電器スタンド	(CM-601-1用)
T2シリーズ壁面マウント キット、複数充電器	CM-604-1 (CM-601-1用)
T1 10-ベイ統合充電器	CM-100
T1単一充電ケーブルおよび電源アダプタ	CM-103

充電器 - ヘッドセット	Vocollect部品番号
SRX 5ベイ電池充電器	CM-801-1
SRX単一ベイ電池充電器	CM-800-1
SRX2 20ベイ電池充電器	CM-1000-20
SRX2充電器DINレール、長さ550 mm	CM-1000-20-1

第3章

Talkman A700 端末



図 1 : Talkman™ A700 端末

Talkman™ A700ソリューションは音声を中心としたアプライアンスのセットであり、それぞれが物流センターの特定のワークフロー向けに設計されたユニークなツールとなっているため、顧客はそれぞれのニーズに最適なツールを選択することができます。A700ソリューションの各製品はメンテナンス、ソフトウェアの読み込み、Supervisor Audioの接続等に使用されるUSBポートを備えています。各アプライアンスが同じ標準プラットフォームを共有しています。A700端末は様々なIT環境に統合可能なほか、高度な電池管理ソリューションも有しており、端末の管理を改善することが可能です。

A710 はBluetoothワイヤレスヘッドセットおよび周辺機器とともに使用するように設計されています。

A720 には有線ヘッドセット用（黄色のポート）と有線周辺機器用（赤/青色のポート）の2つのTalkmanコネクタを備えています。

A730 には光走査用のイメージャが含まれています（10～15スキャン/時間）。この設計は、トートのインダクションや特定の製品の重量をキャプチャするなどのよくある使い方をサポートしています。

3つの端末はすべてメンテナンスポートを持ち、標準のUSBケーブルを使ってコンピュータと接続することができます。

これらの端末については、次の各セクションを参照してください。

A710仕様

重量	5.6オンス (158.76g) 標準電池を含む：8.4オンス (238.14g) 大容量電池を含む：10.2オンス (289.17g)
長さ	5.4" (13.7 cm)
幅	2.5" (6.35 cm) 大容量電池を含む：3.046" (7.74 cm)
奥行き	1.7" (4.32 cm)
I/Oポート	音声出力および仮想シリアル対応のUSBメンテナンス ポート
動作温度	-22°~122° F (-30°~ 50° C)
保管温度	-40°~158° F (-40°~ 70° C)
落下テスト済み	MIL-STD-810F method 514.6に対応 さらに端末では、次の仕様に基づいて試験が実施されました： <ul style="list-style-type: none"> 5フィート (1.5m) の高さからスチール上に24回落下 6フィート (1.8m) の高さからスチール上に12回落下
湿度	100%結露
保護等級	IP67

 注: パッケージは製品の出荷条件により異なります。一般に、梱包材料は総出荷重量の約15%です。

A720仕様

重量	5.8オンス (166.81g) 標準電池を含む：8.7オンス (247.09g) 大容量電池を含む：10.5オンス (298.61g)
長さ	5.9" (14.99 cm)
幅	2.5" (6.35 cm) 大容量電池を含む：3.046" (7.74 cm)
奥行き	1.7" (4.32 cm)
I/Oポート	<ul style="list-style-type: none"> 音声出力および仮想シリアル対応のUSBメンテナンス ポート ヘッドセット ポート(黄色)

	<ul style="list-style-type: none"> RS232シリアルTCOコネクタ (赤/青)
動作温度	-22°~122° F (-30°~ 50° C)
保管温度	-40°~158° F (-40°~ 70° C)
落下テスト済み	<p>MIL-STD-810F method 514.6に対応</p> <p>さらに端末では、次の仕様に基づいて試験が実施されました：</p> <ul style="list-style-type: none"> 5フィート (1.5m) の高さからスチール上に24回落下 6フィート (1.8m) の高さからスチール上に12回落下
湿度	100%結露
保護等級	IP67

 注: パッケージは製品の出荷条件により異なります。一般に、梱包材料は総出荷重量の約15%です。

A730仕様

重量	<p>6.65オンス (188.39g)</p> <p>標準電池を含む：9.5オンス (268.67g)</p> <p>大容量電池を含む：11.3オンス (320.2g)</p>
長さ	5.9" (14.99 cm)
幅	<p>2.5" (6.35 cm)</p> <p>大容量電池を含む：3.046" (7.74 cm)</p>
奥行き	1.7" (4.32 cm)
I/Oポート	音声出力対応のメンテナンス ポート
動作温度	-8°~122° F (-20°~ 50° C)
保管温度	-40°~158° F (-40°~ 70° C)
落下テスト済み	<p>MIL-STD-810F method 514.6に対応</p> <p>さらに端末では、次の仕様に基づいて試験が実施されました：</p> <ul style="list-style-type: none"> 5フィート (1.5m) の高さからスチール上に24回落下 6フィート (1.8m) の高さからスチール上に12回落下
湿度	100%結露
保護等級	IP67

 注: パッケージは製品の出荷条件により異なります。一般に、梱包材料は総出荷重量の約15%です。

Talkman A730 シンボロジー

レジストリ キー	規定値	説明
[HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Vocollect\Imager\Postnet] - Postnet Symbology Configuration		
PostnetActivation	0x0	Postnetシンボロジーを有効にします。
PostnetCodeMark	0x2a	シンボロジーを示す単一の文字でバーコードデータの前に挿入されます。
PostnetCheckDigitTransmission	0x1	確認数字の送信を有効にします。
PostnetUDSI	"P0"	ユーザー定義のシンボロジー識別子です。範囲は0-4文字です。
[HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Vocollect\Imager\Planet] - Planet Symbology Configuration		
PlanetActivation	0x0	Planet シンボロジーを有効にします。
PlanetCodeMark	0x2a	シンボロジーを示す単一の文字でバーコードデータの前に挿入されます。
PlanetCheckDigitTransmission	0x1	確認数字の送信を有効にします。
PlanetUDSI	"P1"	ユーザー定義のシンボロジー識別子です。範囲は0-4文字です。
[HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Vocollect\Imager\BPO] - BPO Symbology Configuration		
BPOActivation	0x0	British Post Office シンボロジーを有効にします。
BPOCodeMark	0x2a	シンボロジーを示す単一の文字でバーコードデータの前に挿入されます。
BPOCheckDigitTransmission	0x1	確認数字の送信を有効にします。
BPOUDSI	"P2"	ユーザー定義のシンボロジー識別子です。範囲は0-4文字です。
[HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Vocollect\Imager\Canada Post] - Canada Post Symbology Configuration		
CanadaPostActivation	0x0	Canada Postシンボロジーを有効にします。
CanadaPostCodeMark	0x2a	シンボロジーを示す単一の文字でバーコードデータの前に挿入されます。
CanadaPostUDSI	"P6"	ユーザー定義のシンボロジー識別子です。範囲は0-4文字です。
[HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Vocollect\Imager\Australian Post] - Australian Post Symbology Configuration		
AustralianPostActivation	0x0	Australian Postシンボロジーを有効にします。
AustralianPostCodeMark	0x2a	シンボロジーを示す単一の文字でバーコードデータの前に挿入されます。

レジストリ キー	規定値	説明
AustralianPostUDSI	"P3"	ユーザー定義のシンボロジー識別子です。範囲は0-4文字です。
[HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Vocollect\Imager\Japan Post] - Japan Post Symbology Configuration		
JapanPostActivation	0x0	日本郵便シンボロジーを有効にします。
JapanPostCodeMark	0x2a	シンボロジーを示す単一の文字でバーコードデータの前に挿入されます。
JapanPostCheckDigitTransmission	0x1	確認数字の送信を有効にします。
JapanPostUDSI	"P5"	ユーザー定義のシンボロジー識別子です。範囲は0-4文字です。
[HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Vocollect\Imager\Dutch Post] - Dutch Post Symbology Configuration		
DutchPostActivation	0x0	Dutch Postシンボロジーを有効にします。
DutchPostCodeMark	0x2a	シンボロジーを示す単一の文字でバーコードデータの前に挿入されます。
DutchPostUDSI	"P4"	ユーザー定義のシンボロジー識別子です。範囲は0-4文字です。
[HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Vocollect\Imager\Sweden Post] - Sweden Post Symbology Configuration		
SwedenPostActivation	0x0	Sweden Post シンボロジーを有効にします。
SwedenPostCodeMark	0x2a	シンボロジーを示す単一の文字でバーコードデータの前に挿入されます。
SwedenPostUDSI	"P7"	ユーザー定義のシンボロジー識別子です。範囲は0-4文字です。
[HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Vocollect\Imager\Infomail] - Infomail Symbology Configuration		
InfomailActivation	0x0	Infomail シンボロジーを有効にします。
InfomailCodeMark	0x2a	シンボロジーを示す単一の文字でバーコードデータの前に挿入されます。
InfomailUDSI	"P8"	ユーザー定義のシンボロジー識別子です。範囲は0-4文字です。
[HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Vocollect\Imager\Intelligent Mail] - Intelligent Mail Symbology Configuration		
IntelligentMailActivation	0x0	Intelligent Mailシンボロジーを有効にします。
IntelligentMailCodeMark	0x2a	シンボロジーを示す単一の文字でバーコードデータの前に挿入されます。
IntelligentMailUDSI	"PA"	ユーザー定義のシンボロジー識別子です。範囲は0-4文字です。

レジストリ キー	規定値	説明
[HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Vocollect\Imager\Codabar] - Codabar Symbology Configuration		
CodabarActivation	0x0	Codabar シンボロジーを有効にします。
CodabarCodeMark	0x44	シンボロジーを示す単一の文字でバーコードデータの前に挿入されます。
CodabarCheckDigitVerification	0x0	確認数字の計算を有効にします。
CodabarBarCodeLengthL1	0x6	長さ値L1。範囲は0x0~0xFF (0~255) です。
CodabarBarCodeLengthL2	0x0	長さ値L2。範囲は0x0~0xFF (0~255) です。
CodabarBarCodeLengthL3	0x0	長さ値L3。範囲は0x0~0xFF (0~255) です。
CodabarBarCodeLengthMode	0x0	長さ検証モード、ここで 0 = "L1 は最少長さ"、1 = "L1, L2, L3 は固定長"、2 = "L1 は最少長さ、L2 は最大長さ" です。
CodabarCheckDigitTransmission	0x0	確認数字の送信を有効にします。
CodabarStartStopTransmission	0x0	送信するスタート/ストップ文字フォーマットを選択します、ここで 0 = 送信しない、1 = "a, b, c, d"、2 = "A, B, C, D"、3 = "a, b, c, d / t, n, *, e"、4 = "DC1, DC2, DC3, DC4" です。
CodabarCLSI LibrarySystem	0x0	Codebarの CLSI (Computer Library Services, Inc) ライブラリ規格を有効にします。14文字、スタート/ストップなし、2, 7, 13 の位置に空白。
CodabarConcatenation	0x0	複数レベルの連結、ここで 0 = 無効、1 = 連結のみ、2 = 可能なら連結 です。
CodabarConcatenationMode	0x0	連結の要件を設定します、ここで 0 = 要件なし、1 = 2番目のコードスタート = 最初のコードストップ、2 = American Blood Commission (2番目のコードスタート = 最初のコードストップ = 'd') です。
CodabarUDSI	"B7"	ユーザー定義のシンボロジー識別子です。範囲は0-4文字です。
[HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Vocollect\Imager\Code 93] - Code 93 Symbology Configuration		
Code93Activation	0x0	Code 93 シンボロジーを有効にします。
Code93CodeMark	0x44	シンボロジーを示す単一の文字でバーコードデータの前に挿入されます。
Code93BarCodeLengthL1	0x1	長さ値L1。範囲は0x0~0xFF (0~255) です。
Code93BarCodeLengthL2	0x0	長さ値L2。範囲は0x0~0xFF (0~255) です。
Code93BarCodeLengthL3	0x0	長さ値L3。範囲は0x0~0xFF (0~255) です。

レジストリ キー	規定値	説明
Code93BarCodeLengthMode	0x0	長さ検証モード、ここで 0 = "L1 は最少長さ"、1 = "L1, L2, L3 は固定長"、2 = "L1 は最少長さ、L2 は最大長さ" です。
Code93UDSI	"B6"	ユーザー定義のシンボロジー識別子です。範囲は0-4文字です。
[HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Vocollect\Imager\Code 39] - Code 39 Symbology Configuration		
Code39Activation	0x1	Code 39 シンボロジーを有効にします。
Code39Unconventional	0x0	Unconventional Code 39 (文字間の間隔が大きいまたは幅の小さい要素と大きい要素の間の比が大きい) のデコードを可能にします。
Code39ReadingRange	0x1	読み取り範囲を改善するためVestaアルゴリズム デコーディングを有効にします。
Code39CodeMark	0x2a	シンボロジーを示す単一の文字でバーコードデータの前に挿入されます。
Code39CheckDigitVerification	0x0	様々な確認数字の計算を可能にします、ここで 0 = 無効、1 = modulo 43、2 = French CIP、3 = Italian CPI、4 = HIBC、5 = AIAG です。
Code39ReadingTolerance	0x0	「読みにくい」バーコードを読み取るための許容誤差です、ここで 0 = 高、1 = 中、2 = 低 です。
Code39BarCodeLengthL1	0x0	長さ値L1。範囲は0x0~0xFF (0~255) です。
Code39BarCodeLengthL2	0x0	長さ値L1。範囲は0x0~0xFF (0~255) です。
Code39BarCodeLengthL3	0x0	長さ値L1。範囲は0x0~0xFF (0~255) です。
Code39BarCodeLengthMode	0x0	長さ検証モード、ここで 0 = "L1 は最少長さ"、1 = "L1, L2, L3 は固定長"、2 = "L1 は最少長さ、L2 は最大長さ" です。
Code39CheckDigitTransmission	0x0	確認数字の送信を有効にします。
Code39StartStopTransmission	0x0	スタート/ストップ文字の送信を有効にします。
Code39AcceptedStartCharacter	0x2	スタート文字を選択します、ここで 1 = '\$'、2 = '*'、3 = '\$' および '*' です。
Code39FullASCIIConversion	0x0	制御文字の使用により拡張文字セットを有効にします、ここで 0 = 無効、1 = 有効 (拡張仕様) です。
Code39UDSI	"B1"	ユーザー定義のシンボロジー識別子です。範囲は0-4文字です。
[HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Vocollect\Imager\Code 128] - Code 128 Symbology Configuration		

レジストリ キー	規定値	説明
Code128Activation	0x1	標準Code 128 シンボロジーを有効にします。
ISBT128Activation	0x0	Code 128のInternational Society of Blood Transfusionバリエーションを有効にします。
GS1-128Activation	0x1	Code 128のGS1 (旧EAN) バリエーションを有効にします。
UnconventionalGS1-128	0x1	非在来型デコーディングモード ビットフィールド、ここで bit 0 = ダブルFNC1のデコードを許可、bit 1 = FNC2アペンド無効、bit 2 = FNC4 ASCII 拡張無効、です。
Code128ReadingRange	0x1	読み取り範囲を改善するためVestaアルゴリズム デコーディングを有効にします。
Code128CodeMark	0x44	シンボロジーを示す単一の文字でバーコードデータの前に挿入されます。
GS1-128CodeMark	0x44	シンボロジーを示す単一の文字でバーコードデータの前に挿入されます。
Code128CheckDigitVerification	0x0	French CIP確認数字の検証を有効にします。
Code128ReadingTolerance	0x0	セグメント幅の検証を有効にします、ここで 0 = 無効、1 = 中許容誤差、2 = 低許容誤差 です。
Code128BarCodeLengthL1	0x0	長さ値L1。範囲は0x0~0xFF (0~255) です。
Code128BarCodeLengthL2	0x0	長さ値L2。範囲は0x0~0xFF (0~255) です。
Code128BarCodeLengthL3	0x0	長さ値L3。範囲は0x0~0xFF (0~255) です。
Code128BarCodeLengthMode	0x0	長さ検証モード、ここで 0 = "L1は最少長さ"、1 = "L1, L2, L3は固定長"、2 = "L1は最少長さ、L2は最大長さ" です。
GS1-128Identifier	0x1	バーコードデータの前にAIM識別子の送信を可能にします。これはGTINがアクティブな場合無視されます。
Code128SeparatorCharacter	0x1d	複数の連結されたバーコード間の区切り文字です。
Code128ConcatenationTransmission	0x0	複数レベルの連結、ここで 0 = 無効、1 = 連結のみ、2 = 可能なら連結 です。
Code128Concatenation	0x0	非ISBT準拠バーコードの連結を有効にします。
GTINProcessingforGS1-128	0x0	有効なGS1-128 バーコードを GTIN (Global Trade Item Number) 準拠フォーマットに制限します。
Code128UDSI	"B3"	ユーザー定義のシンボロジー識別子です。範囲は0-4文字です。

レジストリ キー	規定値	説明
GS1-128UDSI	"C9"	ユーザー定義のシンボロジー識別子です。範囲は0-4文字です。
[HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Vocollect\Imager\Interleaved 2 of 5] - Interleaved 2 of 5 Symbology Configuration		
Interleaved2of5Activation	0x0	Interleaved 2 of 5シンボロジーを有効にします。
Interleaved2of5ReadingRange	0x1	読み取り範囲を改善するためVestaアルゴリズム デコーディングを有効にします。
Interleaved2of5CodeMark	0x49	シンボロジーを示す単一の文字でバーコードデータの前に挿入されます。
Interleaved2of5CheckDigitVerification	0x0	様々な確認数字の計算を可能にします、ここで0=無効、1 = modulo 10、 2 = French CIP HR です。
Interleaved2of5ReadingTolerance	0x0	「読みにくい」バーコードを読み取るための許容誤差です、ここで 0 = 高、 1 = 中、 2 = 低 です。
Interleaved2of5BarCodeLengthL1	0x6	長さ値L1。範囲は0x0~0xFF (0~255) です。
Interleaved2of5BarCodeLengthL2	0x0	長さ値L2。範囲は0x0~0xFF (0~255) です。
Interleaved2of5BarCodeLengthL3	0x0	長さ値L3。範囲は0x0~0xFF (0~255) です。
Interleaved2of5BarCodeLengthMode	0x0	長さ検証モード、ここで 0 = "L1は最少長さ"、1 = "L1, L2, L3は固定長"、2 = "L1は最少長さ、L2は最大長さ" です。
Interleaved2of5CheckDigitTransmission	0x0	確認数字の送信を有効にします。
Interleaved2of5UDSI	"B2"	ユーザー定義のシンボロジー識別子です。範囲は0-4文字です。
[HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Vocollect\Imager\Matrix 2 of 5] - Matrix 2 of 5 Symbology Configuration		
Matrix2of5Activation	0x0	MSI Code シンボロジーを有効にします。
Matrix2of5StartStop	0x0	特殊なChinaPostモードを有効にします。ここでは特定のスタート/ストップが必要とされチェックサムが送信されます。
Matrix2of5CodeMark	0x44	シンボロジーを示す単一の文字でバーコードデータの前に挿入されます。
Matrix2of5BarCodeLengthL1	0x6	長さ値L1。範囲は0x0~0xFF (0~255) です。
Matrix2of5BarCodeLengthL2	0x0	長さ値L2。範囲は0x0~0xFF (0~255) です。
Matrix2of5BarCodeLengthL3	0x0	長さ値L3。範囲は0x0~0xFF (0~255) です。

レジストリ キー	規定値	説明
Matrix2of5BarcodeLengthMode	0x0	長さ検証モード、ここで 0 = "L1 は最少長さ"、1 = "L1, L2, L3 は固定長"、2 = "L1 は最少長さ、L2 は最大長さ" です。
Matrix2of5UDSI	"B4"	ユーザー定義のシンボロジー識別子です。範囲は0-4文字です。
[HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Vocollect\ImagerMSI Code] - MSI Code Symbology Configuration		
MSIActivation	0x0	MSI Code (Modified Plessey) シンボロジーを有効にします。
MSIcodeMark	0x44	シンボロジーを示す単一の文字でバーコードデータの前に挿入されます。
MSIcheckDigitVerification	0x1	様々な確認数字の計算を可能にします、ここで 1 = modulo 10、2 = double modulo 10 です。
MSIbarcodeLengthL1	0x6	長さ値L1。範囲は0x0~0xFF (0~255) です。
MSIbarcodeLengthL2	0x0	長さ値L2。範囲は0x0~0xFF (0~255) です。
MSIbarcodeLengthL3	0x0	長さ値L3。範囲は0x0~0xFF (0~255) です。
MSIbarcodeLengthMode	0x0	長さ検証モード、ここで 0 = "L1 は最少長さ"、1 = "L1, L2, L3 は固定長"、2 = "L1 は最少長さ、L2 は最大長さ" です。
MSIcheckDigitTransmission	0x1	確認数字の送信を有効にします。
MSIUDSI	"B8"	ユーザー定義のシンボロジー識別子です。範囲は0-4文字です。
[HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Vocollect\ImagerPlessey Code] - Plessey Code Symbology Configuration		
PlesseyActivation	0x0	Plessey シンボロジーを有効にします。
PlesseyUnconventionalStop	0x0	情報がありません。
PlesseycodeMark	0x44	シンボロジーを示す単一の文字でバーコードデータの前に挿入されます。
PlesseybarcodeLengthL1	0x0	長さ値L1。範囲は0x0~0xFF (0~255) です。
PlesseybarcodeLengthL2	0x0	長さ値L2。範囲は0x0~0xFF (0~255) です。
PlesseybarcodeLengthL3	0x0	長さ値L3。範囲は0x0~0xFF (0~255) です。
PlesseybarcodeLengthMode	0x0	長さ検証モード、ここで 0 = "L1 は最少長さ"、1 = "L1, L2, L3 は固定長"、2 = "L1 は最少長さ、L2 は最大長さ" です。
PlesseycheckDigitTransmission	0x0	確認数字の送信を有効にします。

レジストリ キー	規定値	説明
PlesseyUDSI	"C2"	ユーザー定義のシンボロジー識別子です。範囲は0-4文字です。
[HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Vocollect\Imager\Standard 2 of 5] - Standard 2 of 5 Symbology Configuration		
Standard2of5Activation	0x0	Standard 2 of 5シンボロジーを有効にします。
Standard2of5CodeMark	0x44	シンボロジーを示す単一の文字でバーコードデータの前に挿入されます。
Standard2of5CheckDigitVerification	0x0	確認数字のmodulo 10計算を有効にします。
Standard2of5BarCodeLengthL1	0x6	長さ値L1。範囲は0x0~0xFF (0~255) です。
Standard2of5BarCodeLengthL2	0x0	長さ値L2。範囲は0x0~0xFF (0~255) です。
Standard2of5BarCodeLengthL3	0x0	長さ値L3。範囲は0x0~0xFF (0~255) です。
Standard2of5BarCodeLengthMode	0x0	長さ検証モード、ここで0="L1は最少長さ"、1="L1, L2, L3は固定長"、2="L1は最少長さ、L2は最大長さ"です。
Standard2of5CheckDigitTransmission	0x0	確認数字の送信を有効にします。
Standard2of5Format	0x0	読み取りモードを指定します、ここで0=Identicon (6スタート/ストップバー)、1=Computer Identics (4スタート/ストップバー)です。
Standard2of5UDSI	"B5"	ユーザー定義のシンボロジー識別子です。範囲は0-4文字です。
[HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Vocollect\Imager\Telepen] - Telepen Symbology Configuration		
TelepenActivation	0x0	Telepen シンボロジーを有効にします。
TelepenCodeMark	0x2a	シンボロジーを示す単一の文字でバーコードデータの前に挿入されます。
TelepenBarCodeLengthL1	0x0	長さ値L1。範囲は0x0~0xFF (0~255) です。
TelepenBarCodeLengthL2	0x0	長さ値L2。範囲は0x0~0xFF (0~255) です。
TelepenBarCodeLengthL3	0x0	長さ値L3。範囲は0x0~0xFF (0~255) です。
TelepenBarCodeLengthMode	0x0	長さ検証モード、ここで0="L1は最少長さ"、1="L1, L2, L3は固定長"、2="L1は最少長さ、L2は最大長さ"です。
TelepenFormat	0x0	出力フォーマットを設定します、ここで0=ASCII、1=数値です。
TelepenUDSI	"C6"	ユーザー定義のシンボロジー識別子です。範囲は0-4文字です。

レジストリ キー	規定値	説明
[HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Vocollect\Imager\Code 11] - Code 11 Symbology Configuration		
Code11Activation	0x0	Code 11 シンボロジーを有効にします。
Code11CodeMark	0x2a	シンボロジーを示す単一の文字でバーコードデータの前に挿入されます。
Code11CheckDigitVerification	0x1	検証する確認数字の数です。範囲は1~12です。
Code11BarCodeLengthL1	0x4	長さ値L1。範囲は0x0~0xFF (0~255) です。
Code11BarCodeLengthL2	0x0	長さ値L2。範囲は0x0~0xFF (0~255) です。
Code11BarCodeLengthL3	0x0	長さ値L3。範囲は0x0~0xFF (0~255) です。
Code11BarCodeLengthMode	0x0	長さ検証モード、ここで 0 = "L1は最少長さ"、1 = "L1, L2, L3は固定長"、2 = "L1は最少長さ、L2は最大長さ" です。
Code11CheckDigitTransmission	0x1	確認数字の送信を有効にします。
Code11UDSI	"C1"	ユーザー定義のシンボロジー識別子です。範囲は0-4文字です。
[HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Vocollect\Imager\EAN / UPC] - EAN/UPC Symbology Configuration		
UPC-AAActivation	0x1	UPC-A シンボロジーを有効にします。
UPC-EActivation	0x1	UPC-E シンボロジーを有効にします。
EAN-8Activation	0x1	EAN-8 シンボロジーを有効にします。
EAN-13Activation	0x1	EAN-13 シンボロジーを有効にします。
ISBNConversionforEAN-13	0x0	"978"または"979"("9790"以外)で始まるEAN-13バーコードをISBN (International Standard Book Number) フォーマットに変換します。
EANUPCAdd-On2	0x0	2桁のEAN/UPC補助コードのデコードを有効にします。
EANUPCAdd-On5	0x0	5桁のEAN/UPC補助コードのデコードを有効にします。
EANUPCAdd-OnDigitSecurity	0xa	アドオン数字が有効にされているが必須でない場合アドオン数字をどのくらいの時間探すかを選択します。範囲は0x0~0x64 (0~100) です。0x0が最短です。
UPC-ACodeMark	0x41	シンボロジーを示す単一の文字でバーコードデータの前に挿入されます。
UPC-ECodeMark	0x45	シンボロジーを示す単一の文字でバーコードデータの前に挿入されます。

レジストリ キー	規定値	説明
EAN-8CodeMark	0x4e	シンボロジーを示す単一の文字でバーコードデータの前に挿入されます。
EAN-13CodeMark	0x46	シンボロジーを示す単一の文字でバーコードデータの前に挿入されます。
UPC-E1Activation	0x0	UPC-E のUPC-E1バリエントを有効にします。
EANUPCReadingRange	0x1	読み取り範囲を改善するためVestaアルゴリズム デコーディングを有効にします。
UPC-ACheckDigitTransmission	0x1	確認数字の送信を有効にします。
UPC-ECheckDigitTransmission	0x1	確認数字の送信を有効にします。
EAN-8CheckDigitTransmission	0x1	確認数字の送信を有効にします。
EAN-13CheckDigitTransmission	0x1	確認数字の送信を有効にします。
UPC-ANumberSystemTransmission	0x1	UPC-A 番号システムの送信を有効にします。
UPC-ENumberSystemTransmission	0x1	UPC-E 番号システムの送信を有効にします。
UPC-ATransmittedasEAN-13	0x1	UPC-A から EAN-13 への変換を有効にします。
UPC-ETransmittedasUPC-A	0x0	UPC-E から UPC-A への変換を有効にします。
EAN-8TransmittedasEAN-13	0x0	EAN-8 から EAN-13 への変換を有効にします。
EANUPCAdd-OnDigits	0x0	アドオン数字の必要性、ここで 0 = オプション、1 = 必要です。
EANUPCGTINProcessing	0x0	有効なEAN-13 バーコードを GTIN (Global Trade Item Number) 準拠フォーマットに変換します。
ISMNConversionforEAN-13	0x0	"9790"で始まるEAN-13 バーコードを ISBN (International Standard Book Number) フォーマットに変換します。
ISSNConversionforEAN-13	0x0	"977"で始まるEAN-13 バーコードをISSN (International Standard Serial Number) フォーマットに変換します。
UPC-AUDSI	"A0"	ユーザー定義のシンボロジー識別子です。範囲は0-4文字です。
UPC-EUDSI	"E0"	ユーザー定義のシンボロジー識別子です。範囲は0-4文字です。
EAN-8UDSI	"FF"	ユーザー定義のシンボロジー識別子です。範囲は0-4文字です。

レジストリ キー	規定値	説明
EAN-13UDSI	"F"	ユーザー定義のシンボロジー識別子です。範囲は0-4文字です。
[HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Vocollect\Imager\PDF417] - PDF417 Symbology Configuration		
PDF417Activation	0x1	PDF417 シンボロジーを有効にします。
MicroPDF417Activation	0x0	PDF417 の "micro" バリエントを有効にします。
PDF417IrregularPDF	0x0	シンボル長記述子0のラベル読み取りを有効にします。
PDF417Code128Emulation	0x0	特定のMicro PDF417コードをCode 128として読み取ります。
PDF417CodeMark	0x2a	シンボロジーを示す単一の文字でバーコードデータの前に挿入されます。
MicroPDF417CodeMark	0x2a	シンボロジーを示す単一の文字でバーコードデータの前に挿入されます。
PDF417OptionalFieldsFileNameTransmission	0x0	PDF417のファイル名送信を有効にします。
PDF417SegmentCountTransmitted	0x0	PDF417のセグメント数送信を有効にします。
PDF417TimeStampTransmitted	0x0	PDF417のタイムスタンプ送信を有効にします。
PDF417SenderTransmitted	0x0	PDF417の送信者送信を有効にします。
PDF417AddresseeTransmitted	0x0	PDF417の受信者送信を有効にします。
PDF417FileSizeTransmitted	0x0	PDF417のファイルサイズ送信を有効にします。
PDF417ChecksumTransmitted	0x0	PDF417のチェックサム送信を有効にします。
PDF417UDSI	"C7"	ユーザー定義のシンボロジー識別子です。範囲は0-4文字です。
MicroPDF417UDSI	TODO	ユーザー定義のシンボロジー識別子です。範囲は0-4文字です。
[HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Vocollect\Imager\Codablock] - Codablock Symbology Configuration		
CodablockAActivation	0x0	Codablock A (Code 39ベース) シンボロジーを有効にします (このシンボロジーを有効にする場合、競合を避けるために Code 39 を無効にすることが推奨されます)。
CodablockFActivation	0x0	Codablock F (Code 128ベース) シンボロジーを有効にします (このシンボロジーを有効にする場合、競合を避けるために Code 128 を無効にすることが推奨されます)。
CodablockACodeMark	0x2a	シンボロジーを示す単一の文字でバーコードデータの前に挿入されます。

レジストリ キー	規定値	説明
CodablockFCodeMark	0x2a	シンボロジーを示す単一の文字でバーコードデータの前に挿入されます。
CodablockAUDSI	"K0"	ユーザー定義のシンボロジー識別子です。範囲は0-4文字です。
CodablockFUDSI	"K1"	ユーザー定義のシンボロジー識別子です。範囲は0-4文字です。
[HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Vocollect\Imager\TLC 39] - TLC 39 Symbology Configuration		
TLC39Activation	0x0	TLC 39シンボロジーを有効にします (Micro PDF417およびCode 39も有効にしておく必要があります)。
TLC39LinearOnlyTransmissionMode	0x0	Micro PDF417データを無視し、Code 39の部分だけを送信します。
TLC39ECISecurity	0xa	ラベルのCode 39の部分が6桁の場合ECI番号をどれくらいの時間探すかを選択します。範囲は0x0~0x64 (0~100)です。0x0 が最短です。
TLC39CodeMark	0x2a	シンボロジーを示す単一の文字でバーコードデータの前に挿入されます。
TLC39UDSI	"H0"	ユーザー定義のシンボロジー識別子です。範囲は0-4文字です。
[HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Vocollect\Imager\GS1 DataBar] - GS1 DataBar Symbology Configuration		
DatabarOmniDirectionalActivation	0x0	DataBar Omnidirectional/RSS 14 シンボロジーを有効にします。
DatabarLimitedActivation	0x0	DataBar Limited/RSS Limited シンボロジーを有効にします。
DatabarExpandedActivation	0x0	DataBar Expanded/RSS Expanded シンボロジーを有効にします。
DatabarOmniDirectionalCodeMark	0x2a	シンボロジーを示す単一の文字でバーコードデータの前に挿入されます。
DatabarLimitedCodeMark	0x2a	シンボロジーを示す単一の文字でバーコードデータの前に挿入されます。
DatabarExpandedCodeMark	0x2a	シンボロジーを示す単一の文字でバーコードデータの前に挿入されます。
DatabarOmniDirectionalUDSI	"C3"	ユーザー定義のシンボロジー識別子です。範囲は0-4文字です。
DatabarLimitedUDSI	"C4"	ユーザー定義のシンボロジー識別子です。範囲は0-4文字です。

レジストリ キー	規定値	説明
DatabarExpandedUDSI	"C5"	ユーザー定義のシンボロジー識別子です。範囲は0-4文字です。
[HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Vocollect\Imager\Maxicode] - Maxicode Symbology Configuration		
MaxicodeActivation	0x0	Maxicode シンボロジーを有効にします。
Mode0	0x0	Maxicodeの古いMode 0バリエーションを有効にします。
MaxicodeMode0Header	0x0	Mode 0ラベルのヘッダ、ここで0 = 標準 (AIM)、1 = 拡張 (モード 2/3 と同様) です。
MaxicodeCodeMark	0x2a	シンボロジーを示す単一の文字でバーコードデータの前に挿入されます。
MaxicodeUDSI	"D2"	ユーザー定義のシンボロジー識別子です。範囲は0-4文字です。
[HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Vocollect\Imager\Aztec] - Aztec Symbology Configuration		
AztecActivation	0x0	Aztec シンボロジーを有効にします。
AztecStructuredAppend	0x0	Aztec 構造化アペンド ヘッダを有効にします。
AztecRunes	0x0	AztecのAztec Runes バリエーションを有効にします。
AztecEAN128Emulation	0x0	データの前にEAN 128シンボロジー識別子を送信します。
AztecCodeMark	0x2a	シンボロジーを示す単一の文字でバーコードデータの前に挿入されます。
AztecUDSI	"D3"	ユーザー定義のシンボロジー識別子です。範囲は0-4文字です。
[HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Vocollect\Imager\Datamatrix] - Datamatrix Symbology Configuration		
DatamatrixActivation	0x1	Datamatrix シンボロジーを有効にします。
DatamatrixMirroredLabelsActivation	0x0	ミラーされたラベルのデコードを有効にします。
DatamatrixCodeMark	0x2a	シンボロジーを示す単一の文字でバーコードデータの前に挿入されます。
DatamatrixUDSI	"D0"	ユーザー定義のシンボロジー識別子です。範囲は0-4文字です。
[HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Vocollect\Imager\QR Code] - QR Code Symbology Configuration		
QRCodeActivation	0x0	QR (Quick Response) Code シンボロジーを有効にします。
QRCodeInverseVideo	0x0	黒/白反転ラベルのデコード モードです、ここで0 = 普通 (白地に黒)、1 = 反転 (黒地に白)、2 = 自動です。

レジストリ キー	規定値	説明
QRCodeUnconventionalStructuredAppend	0x0	すべてのシンボルに対してラベルヘッダの送信を有効にします。
MicroQRActivation	0x0	QR の "micro" バリエントを有効にします。
QRCodeCodeMark	0x2a	シンボロジーを示す単一の文字でバーコードデータの前に挿入されます。
QRCodeUDSI	"D1"	ユーザー定義のシンボロジー識別子です。範囲は0-4文字です。
[HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Vocollect\Imager\GS1 Composite] - GS1 Composite Symbology Configuration		
CompositeABActivation	0x0	CC-A または CC-B (Micro PDF417) 2D コンポーネントを持つ GS1 Composite を有効にします。
CompositeCAActivation	0x0	CC-C (PDF417) 2D コンポーネントを持つ GS1 Composite を有効にします。
CompositeGS1-128Emulation	0x0	GS1-128 シンボロジーのエミュレーションを有効にします。
CompositeLinearOnlyTransmissionMode	0x0	2D 部分を見捨て、1Dバーコードだけを送信します。
CompositeUnconventional	0x0	AIM 識別子の送信を無効にします。
CompositeCodeMarkCC-AB	0x2a	シンボロジーを示す単一の文字でバーコードデータの前に挿入されます。
CompositeCodeMarkCC-C	0x2a	シンボロジーを示す単一の文字でバーコードデータの前に挿入されます。
UPCAndEANCompositeMessageDecoding	0x2	EAN/UPC コンポジットのデコードモードです、ここで 0 = リンクなし (EAN/UPCのみ送信)、1 = 常にリンク (2D コンポーネントが必要)、2 = 自動識別 です。
CompositeABUDSI	"G0"	ユーザー定義のシンボロジー識別子です。範囲は0-4文字です。
CompositeCUDSI	TODO	ユーザー定義のシンボロジー識別子です。範囲は0-4文字です。
[HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Vocollect\Imager\Multicode] - Multiple Symbology Concatenation Support		
MulticodeActivation	0x0	1回のトリガ押しにより複数のバーコードを読み取る機能をアクティブ化します。この値を 1 (有効) に設定した場合、マスキング条件に一致しないバーコードは他のバーコードから独立して戻すことができます (通常の動作)。この値を 2 (排他的) に設定した場合、マスキング条件に一致しないバーコードは破棄されます。
MulticodeNumberOfBarcodes	0x2	マルチコード内のバーコードの数です。範囲は2-8です。

レジストリ キー	規定値	説明
MulticodeIncompleteTransmission	0x0	タイムアウト到達後不完全なマルチコードの送信を有効にします。
MulticodeCodeMark	0x2a	シンボロジーを示す単一の文字でバーコードデータの前に挿入されます。
MulticodeCodeMarkOfIncomplete	0x2a	シンボロジーを示す単一の文字でバーコードデータの前に挿入されます。不完全な送信が有効にされており、タイムアウトに到達した場合に使用されます。
MulticodeIDForBarcode1	0x0	Intermec特有のシンボロジー識別子（0x0は無効）。詳細についてはメーカーのWebサイトを参照してください。
MulticodeIDForBarcode2	0x0	Intermec特有のシンボロジー識別子（0x0は無効）。詳細についてはメーカーのWebサイトを参照してください。
MulticodeIDForBarcode3	0x0	Intermec特有のシンボロジー識別子（0x0は無効）。詳細についてはメーカーのWebサイトを参照してください。
MulticodeIDForBarcode4	0x0	Intermec特有のシンボロジー識別子（0x0は無効）。詳細についてはメーカーのWebサイトを参照してください。
MulticodeIDForBarcode5	0x0	Intermec特有のシンボロジー識別子（0x0は無効）。詳細についてはメーカーのWebサイトを参照してください。
MulticodeIDForBarcode6	0x0	Intermec特有のシンボロジー識別子（0x0は無効）。詳細についてはメーカーのWebサイトを参照してください。
MulticodeIDForBarcode7	0x0	Intermec特有のシンボロジー識別子（0x0は無効）。詳細についてはメーカーのWebサイトを参照してください。
MulticodeIDForBarcode8	0x0	Intermec特有のシンボロジー識別子（0x0は無効）。詳細についてはメーカーのWebサイトを参照してください。
MulticodeLengthForBarcode1	0x0	このシンボロジーに対する決められた文字数を指定します。範囲は0x0~0xFFFF (0~32767) です。0x0 は任意の長さです。
MulticodeLengthForBarcode2	0x0	このシンボロジーに対する決められた文字数を指定します。範囲は0x0~0xFFFF (0~32767) です。0x0 は任意の長さです。

レジストリ キー	規定値	説明
MulticodeLengthForBarcode3	0x0	このシンボロジーに対する決められた文字数を指定します。範囲は0x0~0xFFFF (0~32767) です。0x0 は任意の長さです。
MulticodeLengthForBarcode4	0x0	このシンボロジーに対する決められた文字数を指定します。範囲は0x0~0xFFFF (0~32767) です。0x0 は任意の長さです。
MulticodeLengthForBarcode5	0x0	このシンボロジーに対する決められた文字数を指定します。範囲は0x0~0xFFFF (0~32767) です。0x0 は任意の長さです。
MulticodeLengthForBarcode6	0x0	このシンボロジーに対する決められた文字数を指定します。範囲は0x0~0xFFFF (0~32767) です。0x0 は任意の長さです。
MulticodeLengthForBarcode7	0x0	このシンボロジーに対する決められた文字数を指定します。範囲は0x0~0xFFFF (0~32767) です。0x0 は任意の長さです。
MulticodeLengthForBarcode8	0x0	このシンボロジーに対する決められた文字数を指定します。範囲は0x0~0xFFFF (0~32767) です。0x0 は任意の長さです。
MulticodeIncompleteTransmissionTimeout	0x0	不完全なマルチコードが送信されるまでのタイムアウトの長さです (単位ms)。
MulticodeMaskForBarcode1	"*"	26文字までの正規表現でマルチコードにどのようなバーコードを含めるかのフィルタリングをします。 詳細についてはメーカーのWebサイトを参照してください。
MulticodeMaskForBarcode2	"*"	26文字までの正規表現でマルチコードにどのようなバーコードを含めるかのフィルタリングをします。 詳細についてはメーカーのWebサイトを参照してください。
MulticodeMaskForBarcode3	"*"	26文字までの正規表現でマルチコードにどのようなバーコードを含めるかのフィルタリングをします。 詳細についてはメーカーのWebサイトを参照してください。
MulticodeMaskForBarcode4	"*"	26文字までの正規表現でマルチコードにどのようなバーコードを含めるかのフィルタリングをします。 詳細についてはメーカーのWebサイトを参照してください。
MulticodeMaskForBarcode5	"*"	26文字までの正規表現でマルチコードにどのようなバーコードを含めるかのフィルタリングをします。 詳細についてはメーカーのWebサイトを参照してください。

レジストリ キー	規定値	説明
MulticodeMaskForBarcode6	"*"	26文字までの正規表現でマルチコードにどのようなバーコードを含めるかのフィルタリングをします。 詳細についてはメーカーのWebサイトを参照してください。
MulticodeMaskForBarcode7	"*"	26文字までの正規表現でマルチコードにどのようなバーコードを含めるかのフィルタリングをします。 詳細についてはメーカーのWebサイトを参照してください。
MulticodeMaskForBarcode8	"*"	26文字までの正規表現でマルチコードにどのようなバーコードを含めるかのフィルタリングをします。 詳細についてはメーカーのWebサイトを参照してください。
MulticodeUDSI	"UDM0"	ユーザー定義のシンボロジー識別子です。範囲は0-4文字です。
MulticodeUDSIOfIncomplete	"UDM1"	ユーザー定義のシンボロジー識別子です。範囲は0-4文字です。不完全な送信が有効にされており、タイムアウトに到達した場合に使用されます。
MulticodeBarcodeSeparator	"<>"	バーコード間の区切り文字列です。範囲は0-4文字です。
[HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Vocollect\Imager\Data Editing] - Barcode Data Editing		
ActivationForScenario1	0x0	バーコード編集シナリオを有効にします。
ActivationForScenario2	0x0	バーコード編集シナリオを有効にします。
ActivationForScenario3	0x0	バーコード編集シナリオを有効にします。
ActivationForScenario4	0x0	バーコード編集シナリオを有効にします。
ActivationForScenario5	0x0	バーコード編集シナリオを有効にします。
ActivationForScenario6	0x0	バーコード編集シナリオを有効にします。
ActivationForScenario7	0x0	バーコード編集シナリオを有効にします。
BarcodeIdentifierForScenario1	0x0	Intermec特有のシンボロジー識別子（0x0はすべてのシンボロジー）。 詳細についてはメーカーのWebサイトを参照してください。
BarcodeIdentifierForScenario2	0x0	Intermec特有のシンボロジー識別子（0x0はすべてのシンボロジー）。 詳細についてはメーカーのWebサイトを参照してください。

レジストリ キー	規定値	説明
BarcodeIdentifierForScenario3	0x0	Intermec特有のシンボロジー識別子（0x0はすべてのシンボロジー）。 詳細についてはメーカーのWebサイトを参照してください。
BarcodeIdentifierForScenario4	0x0	Intermec特有のシンボロジー識別子（0x0はすべてのシンボロジー）。 詳細についてはメーカーのWebサイトを参照してください。
BarcodeIdentifierForScenario5	0x0	Intermec特有のシンボロジー識別子（0x0はすべてのシンボロジー）。 詳細についてはメーカーのWebサイトを参照してください。
BarcodeIdentifierForScenario6	0x0	Intermec特有のシンボロジー識別子（0x0はすべてのシンボロジー）。 詳細についてはメーカーのWebサイトを参照してください。
BarcodeIdentifierForScenario7	0x0	Intermec特有のシンボロジー識別子（0x0はすべてのシンボロジー）。 詳細についてはメーカーのWebサイトを参照してください。
BarcodeLengthForScenario1	0x0	このシンボロジーに対する決められた文字数を指定します。範囲は0x0~0xFFFF (0~32767) です。0x0 は任意の長さです。
BarcodeLengthForScenario2	0x0	このシンボロジーに対する決められた文字数を指定します。範囲は0x0~0xFFFF (0~32767) です。0x0 は任意の長さです。
BarcodeLengthForScenario3	0x0	このシンボロジーに対する決められた文字数を指定します。範囲は0x0~0xFFFF (0~32767) です。0x0 は任意の長さです。
BarcodeLengthForScenario4	0x0	このシンボロジーに対する決められた文字数を指定します。範囲は0x0~0xFFFF (0~32767) です。0x0 は任意の長さです。
BarcodeLengthForScenario5	0x0	このシンボロジーに対する決められた文字数を指定します。範囲は0x0~0xFFFF (0~32767) です。0x0 は任意の長さです。
BarcodeLengthForScenario6	0x0	このシンボロジーに対する決められた文字数を指定します。範囲は0x0~0xFFFF (0~32767) です。0x0 は任意の長さです。
BarcodeLengthForScenario7	0x0	このシンボロジーに対する決められた文字数を指定します。範囲は0x0~0xFFFF (0~32767) です。0x0 は任意の長さです。

レジストリ キー	規定値	説明
MaskForScenario1	""	26文字までの正規表現でどのようなバーコードを編集するかのフィルタリングをします。 詳細についてはメーカーのWebサイトを参照してください。
MaskForScenario2	""	26文字までの正規表現でどのようなバーコードを編集するかのフィルタリングをします。 詳細についてはメーカーのWebサイトを参照してください。
MaskForScenario3	""	26文字までの正規表現でどのようなバーコードを編集するかのフィルタリングをします。 詳細についてはメーカーのWebサイトを参照してください。
MaskForScenario4	""	26文字までの正規表現でどのようなバーコードを編集するかのフィルタリングをします。 詳細についてはメーカーのWebサイトを参照してください。
MaskForScenario5	""	26文字までの正規表現でどのようなバーコードを編集するかのフィルタリングをします。 詳細についてはメーカーのWebサイトを参照してください。
MaskForScenario6	""	26文字までの正規表現でどのようなバーコードを編集するかのフィルタリングをします。 詳細についてはメーカーのWebサイトを参照してください。
MaskForScenario7	""	26文字までの正規表現でどのようなバーコードを編集するかのフィルタリングをします。 詳細についてはメーカーのWebサイトを参照してください。
ActionListForScenario1		このシナリオに対して実行される、100文字までの命令のセットです。 詳細についてはメーカーのWebサイトを参照してください。
ActionListForScenario2		このシナリオに対して実行される、100文字までの命令のセットです。 詳細についてはメーカーのWebサイトを参照してください。
ActionListForScenario3		このシナリオに対して実行される、100文字までの命令のセットです。 詳細についてはメーカーのWebサイトを参照してください。

レジストリ キー	規定値	説明
ActionListForScenario4		このシナリオに対して実行される、100文字までの命令のセットです。 詳細についてはメーカーのWebサイトを参照してください。
ActionListForScenario5		このシナリオに対して実行される、100文字までの命令のセットです。 詳細についてはメーカーのWebサイトを参照してください。
ActionListForScenario6		このシナリオに対して実行される、100文字までの命令のセットです。 詳細についてはメーカーのWebサイトを参照してください。
ActionListForScenario7		このシナリオに対して実行される、100文字までの命令のセットです。 詳細についてはメーカーのWebサイトを参照してください。
[HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Vocollect\Imager\Message format] - Additional information added to barcode data		
MessageFormatSymbologyIdentifier	0x0	バーコードデータの前にどのシンボロジー識別子を挿入するかを選択します。0=無効、1=コードマーク、2=AIMフォーマット、3=ユーザー定義です。
[HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Vocollect\Imager\Decoding Security] - Decoding Verification		
CenterDecoding	0x0	バーコードがフレームの中央にある場合にのみデコードします。
CenterDecodingTolerance	0x0	「中央」とみなすための許容誤差を指定します。範囲は0x0~0x64 (0~100) です。0x0 が最も許容誤差が小さい場合（正確にセットする必要性）です。
[HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Vocollect\Imager\Imager] - Imager Configuration		
DecodeMode	0x1	デコードモードです、ここで0=リニアイメージエミュレーション、1=2D イメージです。
AimerFlashing	0x1	エイマーモードです、ここで0=オン、1=デコード最適化（フレームレートでフラッシュ）、2=オフです。
Initial1DSearchArea	0x0	1D バーコードに対し、初期検索エリアを設定します。0 = 中央、1 = 上半分、2 = 下半分、3 = 全体、4 = "スマートトラスター"（非水平向き）
DPMMode	0x0	バーコードが製品に直接マークされているDPM (Direct Product Marking)の読み取り能力を向上します。
Damaged1DCodes	0x0	損傷した、あるいは印刷の良くない1Dバーコードの読み取り能力を向上します。

レジストリ キー	規定値	説明
ExtensiveBarcodeSearch	0x0	デコード アルゴリズムがバーコードを探す時間を長くします。

Talkman A700 端末を使ったスキャン



レーザーおよびイメージャの規格準拠および事前警告情報については、本書の規格準拠に関するセクションを参照してください。

スキャナは確認数字または製品検証プロンプト等、タスクの中で許可されたポイントでのみ使用することができます。

1. Talkman A730を、スキャナを向こう側に向けて「握手」をするように握ります。
2. 端末の位置は、読み取りたいバーコードからスキャナが4~36インチ（10~90センチ）離れるようにします。距離が遠くなるとスキャンの精度が下がる可能性に注意してください。
3. 丸い黒のボタンを押したままにし、スキャナをアクティブ化します。
4. 点灯した照準フレームを、バーコード全体が含まれるような向きに合わせます。
5. スキャンが成功すると、照準フレームがオフになりヘッドセットからビーブ音が聞こえます。

 注: スキャンを知らせるビーブ音は規定で有効になっていますが、**EnableBeepOnBarcodeScan** を 0 に設定することで無効にすることができます。ビーブ音量は端末音量により制御されており、端末のプラス (+) およびマイナス (-) ボタンで調整できます。

A700 端末電池の充電



図 2 : Talkman A700 標準および大容量電池

- !** 注意: A700 端末の電池と他のVocollect電池は相互利用できません。端末に誤った電池をセットしようとすると、端末や電池に損傷を与える可能性があります。

A700 端末では、高性能電池を端末にセットしたままで充電できるVocollect充電器と、端末から外した電池を充電するための充電器を使用します。

A700 製品電池仕様

A700 シリーズは標準または大容量電池を使用できます。

標準電池重量	2.8オンス (79.38g)
大容量電池重量	4.6オンス (130.41g)

電氣的仕様

- セル：この大容量電池パックでは、2つのリチウム イオン セルを使用しています。
 - 公称電圧 = 3.7V
 - 容量 = 4400mAh以上
- 保護回路特性：この電池パックには、セルにおける低電圧状態と過電圧状態を回避し、プラス端子とマイナス端子の短絡により生じる損傷から電池パックを守るための、保護回路は備わっています。
- 本電池パックには性能、温度、およびパック識別情報を端末に提供するための専用の電子回路が含まれています。これらの情報は、音声管理ソフトウェアにより利用できます。
- 電池の充電：本電池パックの充電はVocollect製の充電器でのみ行う必要があります。

機械的仕様と環境仕様

- 落下テスト仕様
 - この大容量電池は、MIL STD 810Fの衝撃およびトランジット落下基準に適合しています。
- 環境仕様：本電池パックは、水やホコリから内部を守るために、超音波溶接により結合されています。この電池は次の条件下で適切に動作します：

動作温度：-30°C～50°C (-30.00°C～122°F) 保管温度:-30°C～60°C (-22°F to 140°F) 湿度：95% 結露 雨/ホコリ：IP67

電池に関する通知

Talkman電池に対する通知は次のレベルで発生します：

- 最初の警告 = 空になるまで残り30分
- クリティカル警告 = 空になるまで残り0分



端末内のA700電池の充電

1. 端末をベルト クリップから外します。
2. すべての有線周辺機器を取り外します。
3. 端末を充電器の空きスロットに挿入し、端末の電池接点側とスロットの電池接点側が合っていることを確認します。
4. 端末を充電器にセットしたら、端末の端末状態インジケータ黄色に点灯することを確認します。
 - a) 30秒経ってもインジケータが点灯しない場合は、充電スロットから端末を取り外し、セットしなおしてください。
 - b) それでもインジケータが点灯しない場合には、別の充電スロットを試してください。

注意: ヘッドセットやその他の周辺機器を外す前に、充電器へのセットを試みてはいけません。充電器に端末がセットされている間に、端末から電池を外してはいけません。

A700 端末電池の充電

注:

- 電池に対する充電が完了すると、充電器上の対応するポートにおいて、リングLEDインジケータ ライトが緑色に点灯します。これにより電池の取り外しが可能です。
 - 完全に充電された電池を充電器にセットした場合、充電器は電池の状態を解析した後、即座に充電状態を表示します。
1. 電池充電器の通電を確認してください。充電器をオンにするには、充電器に接続した電源をコンセントに差し込みます。充電器のフェイス パネルの右下にあるLEDインジケータ ライトが緑に点灯していることを確認してください。
 2. 端末の電源をオフにします。
 3. 端末から電池を取り外します。

4. ピンが下側向こう向きになるように持ち、充電器の空のポートに完全に固定されるまで、電池を押し込みます。
5. リングLEDインジケータが緑に点灯すれば、電池は完全に充電されています。充電器のポートから電池を引っ張って取り出し、A700 端末に挿入します。

Talkman A700 端末への電池挿入

挿入する電池が完全に充電されていることを確認してください。

1. 電池の挿入区画が上を向くようTalkmanを持ちます。
2. 電池の丸い側が上を向くように持ちます。
3. 電池のピン側を適切な角度で差し込みます。
4. 電池の後ろ側を押すことで、適切な位置に納めます。
電池が適切な位置に納まると「カチッ」という音が聞こえます。

⚠ 注意: 電池を無理やりに押し込んではいけません。電池や端末に損傷を与える可能性があります。適切な位置への電池の固定が容易に行えない場合には、電池を配置しなおしたうえで、再度お試しください。

電池が完全にセットされ、取り外しボタンを押さない限り外れない状態にあることを確認してください。

Talkman A700 端末からの電池の取り外し

Talkman端末がオフであることを確認します。

⚠ 注意: LEDインジケータがオフになるまで、電池を外してはいけません。端末がオンあるいは休止状態にある場合での電池の取り外しは、収集データの破壊につながる可能性があります。

1. 端末を片手で持ちます。
2. 電池挿入区画から電池上部が持ちあがるまで、電池の取り外しボタンを完全に押し込みます。



図 3: 端末からの電池の取り外し

3. 挿入区画から電池を持ちあげ、取り外します。

A700端末のLEDインジケータ

Talkman A700製品には、各種状態を知らせるいくつかのLEDインジケータがあります。インジケータと点滅パターンを次のセクションで説明します：

○ 端末状態インジケータ

端末状態インジケータは、大きいセグメントと小さいセグメントに分かれたリングです。



図 4： 端末状態インジケータのリング セグメント

色	点滅パターン	端末状態
オフ	オフ	オフ
緑	小さいセグメントのパルス	休止
緑	小さいセグメントの点灯	オン
緑	リングの点灯	充電完了
緑	速い点滅	Touch Config または TouchConnect 成功
黄	リングの回転	作業員の読み込みまたは変更中
黄	リングの回転	作業の読み込みまたは変更中
黄	リングの回転	音声の読み込みまたは変更中
黄	リングの回転	起動中
黄	リングの点灯	充電中
黄	小さいセグメントのパルス	プラットフォーム読み込み完了、作業は何も読み込まれていない
黄	小さいセグメントの点灯	TouchConfig 送信者モードに入った
黄	大きいセグメントの点灯	TouchConfig 受信者モードに入った
赤	リングの回転	ファームウェア読み込み
赤	リング点灯	早期ブート
赤	リングの回転	シャットダウン中
赤	速い点滅	充電失敗または電池なしで充電器にセットまたは電源に接続 TouchConfig または TouchConnect 失敗

 電池充電インジケータ

色	点滅パターン	電池状態
オフ	オフ	充電器にセットされていないまたは充電器がオフ
黄	オン	充電中
緑	オン	充電完了
赤	速い点滅	充電失敗

 電池状態インジケータ

インジケータ点滅パターン	インジケータの色	電池の充電状態	注記
オフ	オフ	端末内の電池には問題はありません。言い換えると、電池は健康な状態です。	
オン	赤	端末内の電池の状態には問題があります。	電池に問題があっても完全に充電した電池を使用することが可能です。ただし、管理者はVoiceConsoleを参照し電池の状態の問題について詳しい情報を確認してください。場合によっては電池の交換が必要かもしれません。電池の状態に関する情報については、詳しくはVoiceConsoleオンラインヘルプを参照してください。

 Near Field Communication (NFC) インジケータ

点滅パターン	NFC状態
オフ	NFC無線が無効
速い点滅	端末がタグを検索中
点滅	TouchConfig 送信者または受信者モードに入った
オン (1秒間、そしてオフ)	端末がタグを正しく読み取った
遅い点滅	読み取り可能 - タグとして動作

Bluetoothインジケータ

点滅パターン	Bluetoothの状態
オフ	Bluetooth無線が無効
オン	端末が他のBluetooth端末を検索中
速い点滅	端末が他のBluetooth端末への接続を試行中
パルス	Bluetoothが周辺機器に接続された
発見可能点滅パターン	Bluetooth端末が他の端末から発見可能
遅いパルス	Bluetoothがオンであり有効になっているが接続されておらず、発見またはページングモードになく、発見不可能である

ネットワーク インジケータ

ネットワーク インジケータ	ネットワーク状態	起こっていること	次に起こること
オン	無線は有効、しかし設定されていない	無線の電源はオンになったが端末がネットワークに接続しようとしていない。	端末に対してネットワークが定義されていない。
速い点滅	無線が有効であり、ネットワークに接続中	無線の電源がオンになっており、スキャン、関連付け、認証を行っている。	最初の接続時、再開連付け時、およびネットワーク外ローミング後。
パルス	ネットワークに接続	完全なネットワーク接続状態	端末はIPアドレスの要求と受信を行っている可能性。

TouchConfig:A700 端末をオンラインに追加

前提条件：端末が1台設定済みであること。以下は、追加の端末の設定に関する説明です。

 **注:** TouchConfig はNear Field Communication (NFC) を使用します。NFCを通じて送信されるデータは暗号化されておらず、特定のセキュア プロトコルにも従っていません。これは、転送が非常に短い距離で行われるため、データを傍受することはほとんど不可能だからです。

- すべての端末がオフであることを確認します。
- 設定済み端末で、プラス (+) ボタンを押さえたまま、再生/一時停止 ボタンを押すと端末が送信者モードに入ります。
リングの小さいセグメントが黄色に点灯し、NFCインジケータが黄色に点滅します。
- 未設定の端末で、マイナス (-) ボタンを押さえたまま、再生/一時停止 ボタンを押すと端末が受信者モードに入ります。
リングの大きいセグメントが黄色に点灯し、NFCインジケータが黄色に点滅します。

4. 未設定の端末のそれぞれを  シンボルが上を向くように置きます。
5. 設定済みの端末を、 シンボルのある側が下を向くように持ちます。端末の盛り上がった楕円の部分を、未設定の端末の楕円部分と合わせます。楕円部分が完全に揃うようにし、2つの端末をしっかりと重ねます。



図 5 : TouchConfigを使った設定の転送

6. 受信側の端末の端末状態LEDインジケータリングを見て設定が成功したか失敗したかを確認します。
設定の転送が成功した場合:受信側端末のLEDインジケータリングが約2秒緑に点滅し、その後インジケータが端末の再起動プロセスを表示します（短時間赤で点滅、黄色でリングが回転、そして赤色での回転となります）。
設定の転送が失敗した場合:LEDインジケータリングが約2秒間赤で点滅し、その後受信モードに戻ります。
7. 残りの未設定端末に対してステップ5と6を繰り返します。

USBドライバのWindows XPへのインストール

A700端末をWindows PCに接続すると、PCはインストールするUSBドライバを検索します。PCがドライバをオンラインで検索するよう設定されており接続が成功すると、ドライバは自動的にインストールされ、A700端末は使用できるようになります。自動インストールが失敗した場合、次のステップに従ってください。

1. VoiceConsole ソフトウェア DVD の USB Driver フォルダにある .inf および .cat ファイルをお使いのコンピュータに保存します。
2. デバイスマネージャを開き、Talkman USB Serial を探します。
3. 右クリックしてドライバの更新を選択します。
4. ソフトウェア検索のため、**Windows Update** に接続しますか? というプロンプトが表示されたら、いいえ、今回は接続しません。を選択します。
5. 一覧または特定の場所からインストールする (詳細)を選択します。
6. ディスク使用をクリックします。 .inf および .cat ファイルを保存した場所を参照します。
7. TalkmanUsbSerial.infファイルを選択します。警告が表示された場合には、続行をクリックします。

USBドライバのWindows 7またはVistaへのインストール

A700端末をWindows PCに接続すると、PCはインストールするUSBドライバを検索します。PCがドライバをオンラインで検索するよう設定されており接続が成功すると、ドライバは自動的にインストールされ、A700端末は使用できるようになります。自動インストールが失敗した場合、次のステップに従ってください。

1. VoiceConsole ソフトウェア DVD の USB Driver フォルダにある .inf および .cat ファイルをお使いのコンピュータに保存します。
2. デバイス マネージャを開き、Talkman USB Serial を探します。
3. 右クリックしてドライバの更新を選択します。
4. コンピュータを参照してドライバソフトウェアを検索しますを選択します。
5. コンピュータ上のデバイス ドライバの一覧から選択しますを選択します。
6. ディスク使用をクリックします。 .inf および .cat ファイルを保存した場所を参照します。
7. TalkmanUsbSerial.infファイルを選択します。ドライバの警告、または続行を確認するプロンプトが表示された場合、続行を選択してください。

アクセサリ

Vocollectでは、Talkman端末やその他のハンドヘルド端末の装着、保護、および操作の支援を目的とした様々なアクセサリを提供しています。

Pidion BM-170 ディスプレイ

Pidion BM-170は音声にディスプレイを加えた方が適切なケースにおいて、Talkman A500と合わせて使うことのできるディスプレイ端末です。タッチスクリーンと各種ボタンおよびスイッチを備えています：

コントロール	位置	アクション
ロッカースイッチ	左側	音量の調整
大きいボタン	右側	電源オン/オフ
小さいボタン	右側	戻る
オプションメニュー	正面左上	オプションの表示
ジョイパッド	正面中央	画面のナビゲートと項目の選択



図 6 : Pidion BM-170

Pideon BM-170ディスプレイとTalkman A500の組み合わせ

1. Talkman A500をオンにします。
2. ディスプレイをオンにします。
ディスプレイが初期化します。



図 7 : 初期画面

3. **Search for Voice Devices** ボタンを押して、Talkmanとディスプレイの接続処理を開始します。
接続を受け入れ可能な、近くにある端末のシリアル番号とBluetoothのMACアドレスが一覧表示されます。

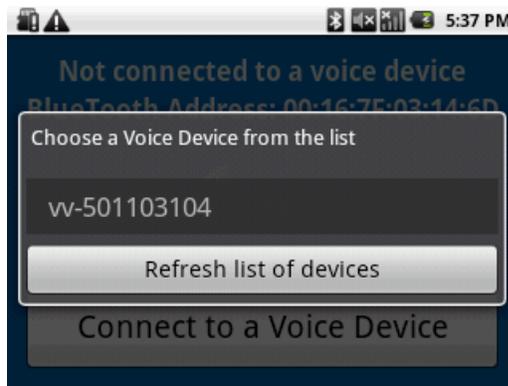


図 8 : 端末リスト

4. 接続したいTalkmanのシリアル番号を選択し、選択内容を了承します。

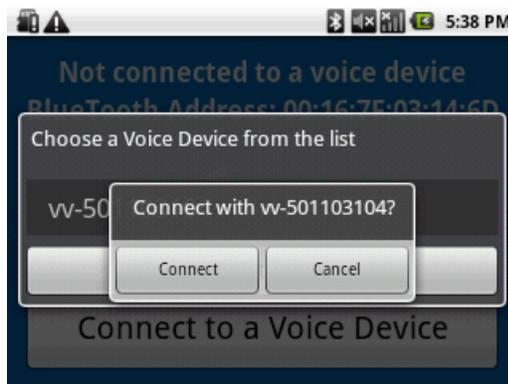


図 9 : 接続を確認

表示がメイン画面に戻り、ディスプレイがTalkmanに接続されます。

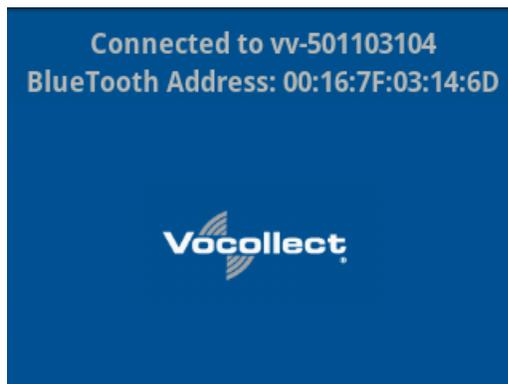


図 10 : 音声端末に接続

端末に読み込まれた音声アプリケーションが自動的に始まります。

ベルト

米政府の安全基準を遵守するには、端末はVocollectのベルトと、標準またはスキャナ用ホルスタと共に使用しなくてはなりません。

A730 スキャナ用ホルスタ

A700 端末にはボディに沿って2つのスロットがあります。これらは端末をベルトに装着するのに使用できます。

1. クリップが体の右側あるいは左側になるようにベルトを着用します。
2. 上下のスロットがクリップのランナーと合うように端末を持ちます。
3. 端末をクリップにスライドさせて差し込み、クリック音を確認します。

端末をクリップから外す際には、体から離す方向に少し力を入れてクリップから引き抜く必要があります。



図 11 : A730 スキャナ用ホルスタ

端末ホルスタの使用

ホルスタは、シフト中頻繁に手で扱われることのない、A710およびA720端末のために設計されたものです。

 注: Vocollectは端末にVocollectホルスタを使用することを強く推奨します。端末をポケットその他の閉じたスペースにしまうとWiFiの性能に問題が発生する場合があります。

1. ホルスタをベルトに取り付けます。
2. Velcroをはがします。
3. 端末を、ボタンを上に向けてをホルスタに差し込みます。
4. Velcroを閉じます。



図 12 : A700 端末ホルスタ

A700ベルト仕様

ベルトサイズ	寸法
XS	18" - 26" (46cm-66cm)
S	24" - 32" (61cm-81cm)
M	28" - 36" (71cm-91cm)
L	34" - 42" (61cm-107cm)
XL	40" - 48" (102cm-122cm)
XXL	46" - 54" (117cm-137cm)
XXXL	52" - 60" (132cm-152cm)

ベルト部品	仕様
ベルト材料	ナイロン
Velcro®	YKK製面ファスナー
ベルト ファスナー	ITW Nexus 127-3200

A700ホルスタ仕様

ベルト材料	ナイロン
ベルト ファスナー	交換不可

第 4 章

Talkman A500



図 13 : Talkman™ A500

Talkman™ A500は、過酷な倉庫環境で機能する堅牢な設計とワイヤレス機能をあわせ持つ製品です。ディスプレイ、その他の周辺機器、ヘッドセットは、Bluetoothテクノロジーによって接続されます。Talkman A500は、Vocollect Talkmanの製品ラインの中で、より強力なプロセッサ、大容量メモリ、堅牢な無線機能を搭載した、幅広い環境に対応する製品です。

A500では、T5シリーズ端末と同じ電池、充電器、およびヘッドセットを使用します。どちらのモデルもVocollect VoiceClient™音声ソフトウェアを使用しますが、A500はVocollect VoiceCatalyst™機能を活用して最良のパフォーマンスと高度な機能を提供するように設計されています。

A500 仕様：Talkman A500

重量	6.31 オンス (178.89 g) 標準電池を含む: 11.01 オンス (312.13 g)
長さ	5.5" (13.97 cm)
幅	2.63" (6.68 cm)
奥行き	1.7" (4.3 cm)
I/Oポート	<ul style="list-style-type: none">ヘッドセット ポート(黄色)音声出力およびRS-232シリアル対応のメンテナンス ポート
動作温度	-22°~122° F (-30°~ 50° C)
保管温度	-30°~140° F (-34°~ 60° C)
落下テスト済み	MIL STD -810Fの衝撃および振動仕様に適合。

	さらに端末では、次の仕様に基づいて試験が実施されました： <ul style="list-style-type: none"> • 磨かれたコンクリート上に5フィートの高さから25回落下後、さらに6フィートの高さから10回落下 • 磨かれたコンクリート上に-20° F (-29° C) で5フィートの高さから角度を変えて10回落下
湿度	100%結露
保護等級	IP67

📄 注: パッケージは製品の出荷条件により異なります。一般に、梱包材料は総出荷重量の約15%です。

A500/T5端末の充電



図 14 : Talkman A500/T5高性能電池

A500/T5電池は高性能モデルです。接点がケース平面上にあるT2シリーズの電池とは異なり、A500/T5電池の形状ではピンの部分が外側に突き出しています。

⚠️ 注意: A500/T5シリーズの電池と他のVocollect電池は相互利用できません。端末に誤った電池をセットしようとすると、端末や電池に損傷を与える可能性があります。

A500/T5端末では、高性能電池を端末にセットしたままでも、端末から取り外しても充電できるVocollect統合充電器を使用します。

A500/T5高性能電池仕様

A500およびT5-シリーズ端末は標準電池を使用します。

標準電池重量	4.7 オンス (133.24 g)
--------	--------------------

電氣的仕様

- セル: この大容量電池パックでは、2つのリチウム イオン セルを使用しています。

- 公称電圧 = 3.7V
- ワット時 = 19Whr
- 保護回路特性：この電池パックには、セルにおける低電圧状態と過電圧状態を回避し、プラス端子とマイナス端子の短絡により生じる損傷から電池パックを守るための、保護回路は備わっています。
- 本電池パックには性能、温度、およびパック識別情報を端末に提供するための専用の電子回路が含まれています。これらの情報は、音声管理ソフトウェアにより利用できます。
- 電池の充電：本電池パックの充電はVocollect製の充電器でのみ行う必要があります。

機械的仕様と環境仕様

- 落下テスト仕様: この大容量電池は、MIL STD 810Fの衝撃およびトランジェント落下基準に適合しています。
- 環境仕様：本電池パックは、水やホコリから内部を守るために、超音波溶接により結合されています。この電池は次の条件下で適切に動作します：

温度：-40°C～55°C (-40°F～131°F) 湿度：95% 非結露 雨/ホコリ：IP67

電池に関する通知

Talkman電池に対する通知は次のレベルで発生します：

- 最初の警告 = 3,550 mV
- 重要警告 = 3,350 mV

端末内のA500またはT5電池の充電

1. ウェアラブル コンピュータをベルト クリップから外します。
2. 他の周辺機器を取り外します。
3. 充電器の空きスロットにウェアラブルコンピュータを挿入し、下方に押し込んだ後、「カチッ」という音が聞こえ適切な個所に納まるまで後方に押し込みます。
4. ウェアラブル コンピュータを充電器にセットしたら、ウェアラブル コンピュータのLEDインジケータが点灯し、緑色の点滅を開始することを確認します。
 - a) 30秒経ってもLEDが点灯しない場合は、充電スロットからウェアラブル コンピュータを取り外し、セットしなおしてください。
 - b) それでもLEDインジケータが点灯しない場合には、別の充電スロットを試してください。

 **注意:** ヘッドセットやその他の周辺機器を外す前に、充電器へのセットを試みてはいけません。充電器に端末がセットされている間に、端末から電池を外してはいけません。

A500またはT5シリーズ電池の充電

1. Talkmanウェアラブル コンピュータから電池を取り外します。
2. 端子を下向きにし、Vocollectのラベルと向きあうように電池を持ちます。



図 15: 充電器への電池の差し込み

3. 電池を充電器上部の空き電池スロットにセットします。
充電器に電池が適切にセットされると、該当するスロットに対する左側のLEDが赤く点灯します。

 注: LEDインジケータは、上側が充電器の電池スロットに対応し、下側がウェアラブルコンピュータスロットに対応しています。

充電器からのA500、T2シリーズ、T5シリーズ端末の取り外し

端末は、LEDインジケータが緑色で点滅すれば、いつでも利用可能です。LEDが赤く点滅している場合は、利用準備が整っていません。

 **重要:** 端末で赤い点灯が継続して確認される場合には、システム管理者に問い合わせてください。

1. 端末の利用準備が整っていることを確認します。
2. 端末を引き上げ、端末充電器から取り外します。



図 16: 充電器からの端末の取り外し

Talkman A500、T5またはT2シリーズ端末への電池挿入

挿入する電池が完全に充電されていることを確認してください。

1. 黄色と赤色のポートが視線に対して向こう側になるようにTalkmanを持ちます。
2. ピンが視線に対して向こう側になり、Vocollectのロゴが見える向きで電池を持ちます。
3. 電池のピン側を適切な角度で差し込みます。



図 17 : 電池の適切な挿入

4. 電池の後ろ側を押すことで、適切な位置に納めます。
電池が適切な位置に納まると「カチッ」という音が聞こえます。

⚠ 注意: 電池を無理やりに押し込んではいけません。電池や端末に損傷を与える可能性があります。適切な位置への電池の固定が容易に行えない場合には、電池を配置しなおしたうえで、再度お試しください。

電池が完全にセットされ、取り外しボタンを押さない限り外れない状態にあることを確認してください。

Talkman A500、T5またはT2シリーズ端末からの電池の取り外し

Talkmanウェアラブル コンピュータがオフであることを確認します。

⚠ 注意: LEDインジケータがオフになるまで、電池を外してはいけません。端末がオンあるいは休止状態にある場合での電池の取り外しは、収集データの破壊につながる可能性があります。

1. 電池挿入区画と向きあうように、片手にウェアラブル コンピュータを持ちます。
2. 電池挿入区画から電池上部が持ちあがるまで、電池の取り外しボタンを完全に押し込みます。



図 18 : 端末からの電池の取り外し

3. 挿入区画から電池を持ちあげ、取り外します。

電池のウォームアップ時間

寒冷環境で利用した電池の充電は、十分なウォームアップ時間を経るまで始まりません。

電池の使用環境	ウォームアップに必要なおよその時間
-4°C (24.8°F)	6分
-10°C (14.0°F)	10分
-20°C (-4°F)	22分
-30°C (-22°F)	30分

LEDインジケータについて

Vocollect Talkman端末とSRX/SRX2ヘッドセットおよびその充電器には、装置の状態を示すLEDがあります。これらのLEDはオン、オフまたは点滅します。一部のケースではLEDは2つの色を交互に点滅する場合もあります。

問題があることをLEDが示した場合、トラブルシューティングの手順を参照して問題を解決してください。「LEDで示される問題のトラブルシューティング」も参照してください。

A500端末のLEDインジケータ

LED	状態	Dispositivo A500
緑	点灯	端末がオン
	速い点滅	端末が充電器内にある
	遅い点滅	次のいずれかです。 <ul style="list-style-type: none"> • 端末が充電器外で休止モードにある • 音声アプリケーションの選択メニューを使用中 • ソフトウェアの特定部分を読み込み中
赤	短く点灯	端末が起動中 端末が終了中
	継続して点灯	エラー。システム管理者に問い合わせてください
	点滅	次のいずれかです。 <ul style="list-style-type: none"> • VoiceConsoleから作業員を取得、読み込み中

LED	状態	Dispositivo A500
		<ul style="list-style-type: none"> • VoiceConsoleから音声アプリケーションを取得、読み取り、読み込み中 • ソフトウェアの特定部分を読み込み中
琥珀/黄色	オフ	Wi-Fiがオフ
	速い点滅	Wi-Fiはオンだが未接続
	遅い点滅	Wi-Fiはオンで、ワイヤレスネットワークに接続中
青 (Bluetoothのインジケータ)	オフ	Bluetoothがオフ
	点灯	ディスカバリ
	速い点滅	ングルページング中
	遅い点滅	接続済み
	連続して点灯	端末がディスカバリ可能

A500端末の車両への搭載

Talkman A500 VMT モバイル コンピュータは、フォークリフトや動力付きパレットジャック等の車両に取り付け可能な電池アース端末です。端末を取り付けた後、電池アダプタをA500端末の電池領域に装着し、それを車両電源に接続します。

この構成のTalkman端末は有線またはワイヤレスの装置（ヘッドセット、スキャナー等）とあわせて使用場合があります。VocollectはTalkman A500端末を VMT構成で使用可能にする取り付けキットや電源システムを含めたセットを販売しています。

! 注意: 機械や車両の操作中に端末/ユニットを見ないでください。注意が散漫になり、事故や作業員または第三者の重大な怪我を招く恐れがあります。

端末を正しくフォークリフトに取り付ける方法については以下の手順に従ってください。

- 運転者の視野を考慮し、端末を取り付けるのに最適な位置を決めます。
- 適切な設置用部品を取り付けます。
- 端末を車両の配線システムに接続します。

Talkman A500/T5 VMTのマウント

Screw On Mountは、車両の静止面にネジ留めを行うためのオプションです。

Clamp Mountは、車両の静止面にクランプするためのオプションです。必要であればネジ留めを行うことも可能です。



図 19 : Screw On Mount



図 20 : Clamp Mount

Talkman A500/T5 VMT アクセサリ

Talkman A500/T5 VMT は、RAM Mounting Systemsのハードウェアを用いて設置できるように設計されています。Vocollectでは、A500/T5用の取り付けブラケットとRAM Mounting Systemsの取り付けハードウェアを提供しています。設置のカスタマイズ等を目的とした各種ハードウェア取り付けブラケット オプションの追加購入は、RAM Mounting Systems (www.ram-mount.com) から直接行うことが可能です。

A500/T5 VMTは安定した面に取り付けてください。



図 21 : ネジ留め用取り付け部品



図 22 : ネジ留めによる取り付け



図 23 : クランプ留め取り付け部品



図 24 : クランプによる取り付け



図 25 : 電池アダプタ



図 26 : 電源

- 注: 注意: 独自の電源を用意することも可能ですが、1アンペアで12-15Vを供給するものである必要があり、かつ 250VA (ワット) 未満に制限されています。電源を独自に用意する場合でも、最終的にT5シリーズに接続するには、電池アダプタ ケーブルと電池アダプタを購入する必要があり、かつ 250VA (ワット) 未満に制限されています。
- 注: 注意: T5シリーズの車載構成において車両電源を使用することは必須ではありません。運用上の理由から、必要であれば、Vocollect電池を用いたVMT構成を採用することも可能です。この構成ではT5シリーズ端末を車両電源につなげる必要がありません。

Talkman A500/T5 VMT アクセサリ仕様

動作温度	-30°~50° C (-22°~122° F)
保管温度	-40°~70° C (-40°~158° F)

Talkman A500/T5 VMTの配置

- 端末やあらゆる関連機器に対しては、最良の場所を決定してください。以前に同様の端末をインストールしていた場合には、それらが使用していた場所が端末に適しているかを確認します。
- 他の車両にインストールする前に、最低30分はそのインストールのテストを行ってください：すべての詳細を記録します：
 - その端末の場所で車両制御の妨げにならないかを確認します。
 - 端末がドライバの視線の邪魔にならないかを確認します。
 - ユーザーが長時間にわたり快適な作業をするために、その端末の場所が適しているかを確認します。

Talkman A500/T5 VMT用取り付けブラケットのインストール

Vocollectでは、Screw On Mountの取り付け用として次の部品を提供しています：

部品 #	個数	説明
1	2	Vehicle Mount、ホルダーベース ネジ留めアタッチメント
2	1	Vehicle Mount、アーム

部品 #	個数	説明
3	1	Vehicle Mount、ホルダー

Vocollectでは、Clamp On Mountの取り付け用として次の部品を提供しています：

部品 #	個数	説明
1	1	Vehicle Mount、クランプ
2	1	Vehicle Mount、アーム
3	1	Vehicle Mount、ホルダー
4	1	Vehicle Mount、ホルダー/ベース ネジ留めアタッチメント

1. 車両へのベース固定に必要なネジ穴を開けます。クランプマウントを用いる場合は、このステップをスキップ可能です。
2. ベースをクランプまたはネジ留めにより固定します。
 - 📌 注：クランプ取り付けネジのネジ山に潤滑剤（たとえば軽油または焼け付き防止剤など）を塗布します。
3. もう一方のベースをアームの反対側に取り付けた後、ロックレバーを時計回りに回すことで、目的の場所に固定します。
4. 端末ホルダーをベースにネジ留めします。
5. ホルダーに端末を挿入します。
6. 端末に電池アダプタを挿入します。
7. 電源からのケーブルを電池アダプタに取り付けます。

振動を防止するため、取り付けブラケットはベース部のボールの柄に触れないようにします。つまり、アームはこれらの部品が接触するほど傾けてはなりません。



電源へのケーブルの接続と車両への電源の取り付け

Vocollectでは、12ボルトまたは24ボルトの車両電源を端末に取り付けるために、次の部品を提供しています：

部品 #	個数	説明
1	1	電源、9-36 VDC入力
2	1	電源から電池アダプタへのケーブル

Vocollectでは、36ボルトまたは48ボルトの車両電源を端末に取り付けるために、次の部品を提供しています：

部品 #	個数	説明
1	1	電源、18-60 VDC入力
2	1	電源から電池アダプタへのケーブル

次の機器が必要です：

- 電源から車両電源までのケーブル x 1。Vocollectでは導線数 = 3、ケーブル ゲージ = 16、温度 = -40C ~ 90Cの仕様を持つ工業規格ケーブルを推奨しています。
- 結束バンド

 **注意:** 電気ケーブル配線の一般的ガイドライン

- 車両は完全にオフにし、車載バッテリーの接続は外しておきます。
- ケーブルは熱くなる可能性があるため、その表面をきれいな状態にしてください。
- 動く部品の影響を受ける場所にケーブルを這わせてはいけません。
- 車両の外側にケーブルを這わせてはいけません。
- ケーブルを90°以上曲げてはいけません。最小曲げ半径は1インチを下回ってはいけません。
- ケーブルの弛みを取り除くために、余分なケーブルは巻き取って車両内に納めてください。
- 安全性を最大限に保つため、ヒューズは可能な限り電源の近くに配置してください。
- T5 VMTを電力サージから守ると共に変圧を行うために、T5 VMTとフォークリフトの電池間には変換モジュールを納めます。

1. 車載バッテリーの接続を外します。
2. 電源最上部の4つのネジを取り外し、ネジ端子を露出させます。
3. 電源から車両電源への接続に使用するケーブルにおいて、3本のケーブルの銅線を5mmほど露出させます。電源から車両電源への接続には十分な長さのケーブルを確保してください。
4. 電池アダプタから電源への接続に使用する黄色のケーブルにおいて、黒と茶のケーブルの銅線を5mmほど露出させます。青いケーブルは必要ありません。黄色のケーブルから出たところで切断してもかまいません。電源から車両電源への接続には十分な長さのケーブルを確保してください。
5. 次の手順を用いて、電池アダプタから電源へのケーブル接続を行います。

- 電源上の接続先となる端子のネジを弛めます。
- 下記のチャートで示されるとおり、ケーブルを適切な個所に対応させます：

ケーブル	出力端子
茶 - 車両プラス	+
黒 - 車両マイナス	-
接続不要	GND
青 (短縮)	使用不可

- ネジを締めます。
- ケーブルの固定を確認します。

6. 次の手順を用いて、車両電源から電源へのケーブル接続を行います。

- 電源上の接続先となる端子のネジを弛めます。
- 下記のチャートで示されるとおり、ケーブルを適切な個所に対応させます：

ケーブル	入力端子
白（ケーブルにより異なる可能性があります） - 車両プラス	+
黒（ケーブルにより異なる可能性があります） - 車両マイナス	-
緑 - 車両のグラウンド： 電源装置のケースのグラウンド端子を接続するための機器の製造元の推奨事項に従ってください。	GND

- ネジを締めます。
- ケーブルの固定を確認します。

7. すべてのケーブルの実装に成功したら、結束バンドによりケーブルを固定します。



図 27 : 電源に接続されたケーブル

8. フォークリフトのダッシュボード下等、邪魔にならない安全な場所に電源を配置し、結束バンドで固定します。あるいは、取り付けスロットを用いて電源をボルト固定することも可能です。

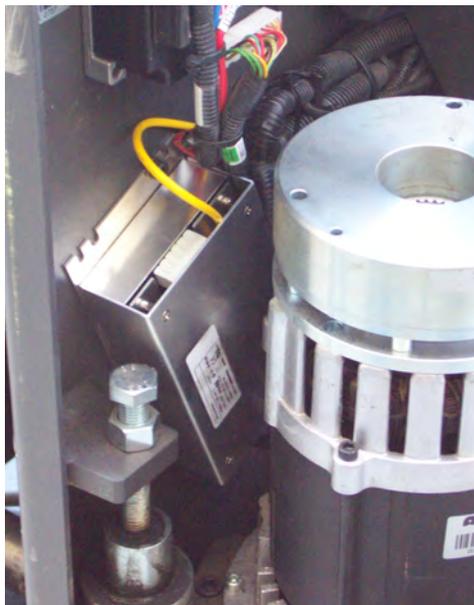


図 28 : ダッシュボードの下にある安全な場所に取り付けられた電源

9. 電池アダプタと電源を接続するケーブルを、電源からT5 VMTを取り付ける場所まで這わせます。

10. コネクタのナットをしっかりと締めてコネクタのナットをしっかりと締めて黄色の配線を電池アダプタに接続します。

Talkman A500/T5 VMTモバイル コンピュータと車載電源の接続

次の機器が必要です：

- Cooper Bussman社製ヒューズホルダ x 2個。Vocollectでは、Cooper Bussmann HFAシリーズのインライン防水型ヒューズの使用を推奨しています。
- ヒューズ x 2個。Vocollectでは、2A 250V SLO BLOヒューズを推奨しています。
- スパードコネクタ x 3個。
- 小さい結束バンド x 4個。
- 固定具

Vocollectでは、電源ソースに非連動型電源の選択を推奨しています。これにより、車両において意図しない電源のオフ状態が発生しても、Talkmanの連動した電源オフを回避できるだけでなく、ソフトウェア更新のためにTalkmanの電源を入れることが可能となります。

1. 車両からすべての電源を取り外します。
2. 電源の入力ケーブルより、余分な長さを除去します。
3. ケーブルの電源側にヒューズを接続します。そのケーブルから外側の絶縁表皮を4インチほど剥きます。
4. プラスおよびマイナスの配線から銅線を10mmほど露出させます
5. 露出した銅線をヒューズホルダに差し込み、所定のツールを用いて圧着します。
6. 緑色の配線を車両のグラウンドに接続します。
7. ヒューズの付いた白いケーブルを車両電源のプラス側に適切なコネクタを用いて接続します。このコネクタはケーブルへの圧着が必要となるかもしれません。
8. ヒューズの付いた黒いケーブルを車両電源のマイナス側に適切なコネクタを用いて接続します。このコネクタはケーブルへの圧着が必要となるかもしれません。
9. 下図のように電源を接続します。

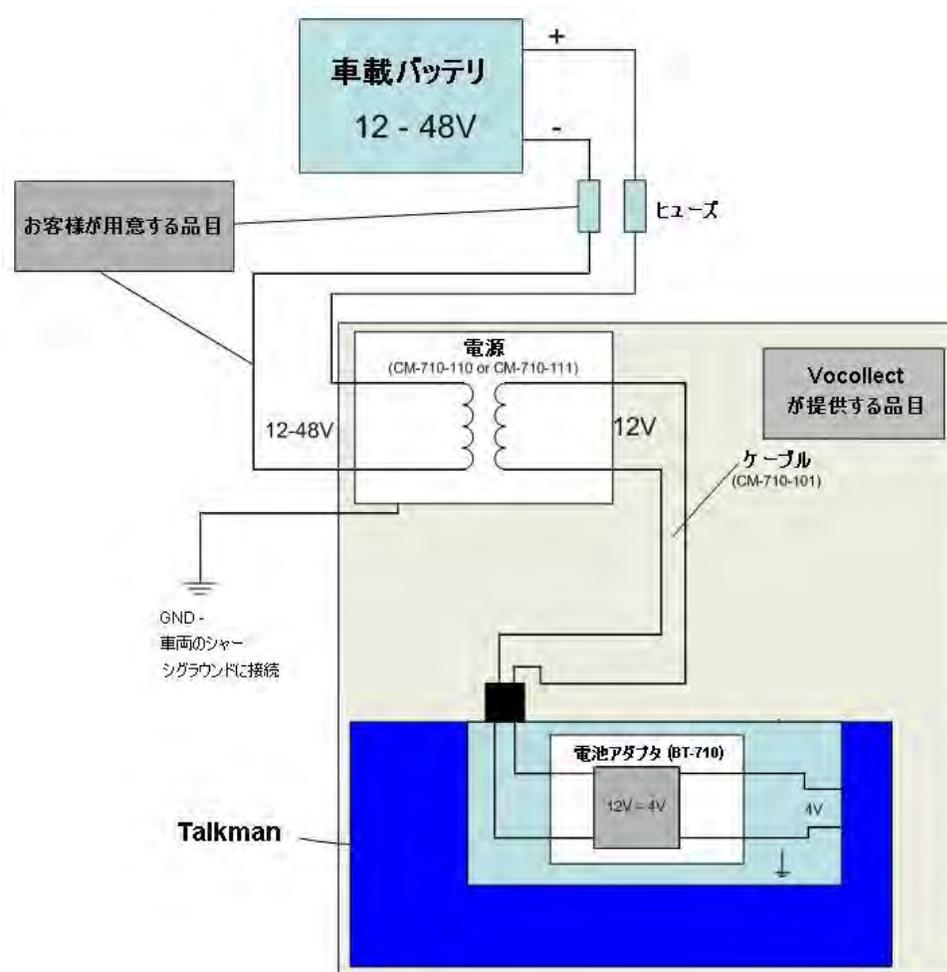


図 29 : 電源の接続

10. 結束バンドによりケーブルを固定します。

車両からのA500/T5 VMT端末の取り外し

Talkman A500/T5 VMTコンポーネントは、車両修理や保守、柔軟な運用のニーズに対応して、容易に取り外せるようになっています。

⚠ **注意:** 時折、修理のために必要な場合を除き、電池アダプタからケーブル (CM-710-101、CM-710-102) を取り外すことはお勧めできません。頻繁にケーブルを取り外すと、アダプタとケーブルが損傷する可能性があります。この種の使用は、推奨できないことが明確な、意図していない方法による製品使用なので、保証によってもサービスプランによってもカバーされません。

1. 端末から電池アダプタを取り外します。
2. VMTホルダーの横に電池アダプタをドッキングします。

これにより、端末を取り外し、電池アダプタとケーブルをドッキングして保護できるようになります。

⚠ **注意:** 電池アダプタは、ケーブルの損傷を防止し、アダプタの端子が誤って金属表面に接触するのを防ぐため、使用しないときもケーブルを接続し、ドッキングしておく必要があります。

VMT取り付けのベストプラクティス

Talkman端末およびアクセサリは *推奨通り使用された場合に* 信頼のおけるサービスを提供するよう設計されています。世界中の何千ものTalkman VMTユーザーがここで紹介するベストプラクティスに従い、車両に統合されたTalkman端末の生産性を向上しています。

- **Talkman**端末をVMT構成から外さない

Talkman VMT端末は簡単に取り付けられるよう設計されています。しかし頻繁に取り外すよう設計されていません。

Vocollectでは、Talkman端末、ケーブル、VMT電池アダプタは車両に取り付け後、そのままにしておくことを推奨します。

Talkman端末を外さなければならない場合、電池アダプタは電池アダプタ ドックに残してください。



図 30 : VMT構成に取り付けられた電池アダプタ

! 注意: Talkman、電池アダプタ、およびケーブルの頻繁な取り外しは、ケーブルまたは電池アダプタが早期に機械的故障を起こす原因となる恐れがあります。この損傷は通常の製品保証でカバーされません。

- **Talkman**端末を損傷から保護する

Talkman 端末は、作業員が簡単にTalkmanのコントロール機能にアクセスでき、車両使用中の衝突や損傷から十分に保護された位置に取り付ける必要があります。くぼみへの取り付けは保護の点からは優れていますが、この取り付け方によってTalkman端末の Wi-Fi または Bluetooth™接続が損なわれないよう注意してください。

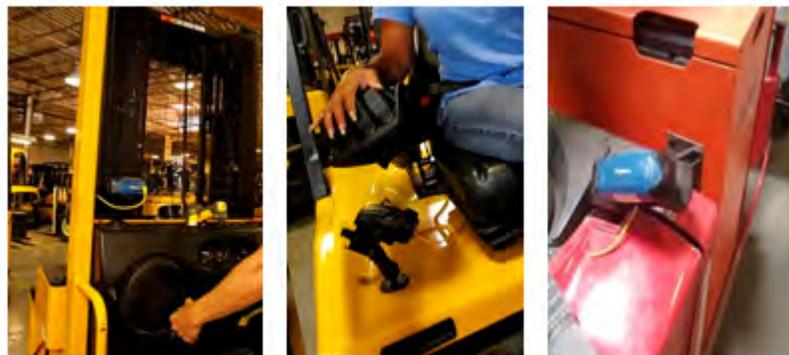


図 31 : 車両により保護され無線受信に支障のない取り付け位置

- **RAM® Mounts**のオプションを考慮する

Talkman端末を取り付けるために用意されているVocollect部品は、RAM Mounts (www.rammount.com) が提供する取り付けオプションのほんの一部です。Vocollectが必要とする条件は、Talkman用車載ホルダー、BL-710-1を購入されることのみです。ベースにネジ止めするアタッチメント (BL-710-102) またはその他の1" ボールマウントを使用する部品を使用する場合、VMTの最適な取り付けを行うためにはRAM Mountsから購入可能な追加の部品が必要となる場合があります。



図 32 : BL-710-1車載ホルダーを使用したネジ止めによる取り付け

特に、以下の標準RAM Mounts部品によりさらなる取り付けの柔軟性が実現できます。

部品の説明	部品番号	用途	画像
ダブル1"ボールアダプタ	RAM-B-230U	このアダプタにより、車両上の保護された位置により正確にTalkman端末を設置し、操作することができます。	
ダブルソケットアーム BボールAレンジス	RAM-B-201U-A	このアームおよび他の長さのアームにより車両への最適なフィットを実現できます。	

- 通常の操作でずれが予想される場合には部品を固定する

Talkmanの取り付けに使用される部品は、固定位置に取り付け、簡単に調整できるように設計されています。稀に、日々の使用中に予期せぬ衝撃が加わることでこれらの部品が次第にゆるむことがあります。特に取り付け部品の締めが甘かったり、作業員が手で位置を調整しようとした場合にこのようなケースが見られます。

この問題を防止するには、アームのユーザー調整可能なハンドルを取り外し、Vocollect VMTキット付属の1/4" #20ナイロン ロックナットを取り付けてください。このロックナットは手で緩めることはできず、ほとんどの振動に耐えます。

- 確実なVMTの配線

Talkman VMTを接続するケーブルおよびワイヤは何かにつかかたりすることがないように車両にしっかりと取り付けする必要があります。ケーブルの絡まりは事故やVMTまたは車両への損傷につながる場合があります。

図に示すケーブルは、車両が動いている場合にもこの位置からずれて何かと絡まったりしません。ケーブルには十分なゆりみがあり、電池アダプタをTalkman端末に取り外したり取り付けたりできる点にも注意してください。



図 33 : ケーブルをしっかりと車両に接続

電池アダプタに接続する側のケーブルは、電池アダプタの取り外しや取り付けが簡単に行える十分な長さを確保しつつ、長すぎて絡まったりしないようにします。

ケーブルはアダプタの底部にある2つの穴を使って接続することができます。このようにケーブルを接続した後、VMT Talkmanアダプタ付属のスパイラルケーブルラップを使ってさらに保護します。



図 34 : ケーブルをしっかりと車両に接続

この取り付けを行うには：

- 約2.5インチのスパイラルラップ（外側直径0.25インチ）を黄色のケーブルに、その中点がケーブルエンドコネクタから9～10インチ離れた位置になるよう取り付けます。
- ケーブルタイ（最大幅0.1インチ）を使って、ケーブルの巻いてあるセクションを図のようにアダプタのドッキングエリアの底部の穴を使ってRAMクレードルに取り付けます。

車両内部から電池アダプタへのケーブルも、ケーブルのずれや予期せぬ損傷、ショートなどが起こらないよう安全に、整然と管理します。ケーブルは可動部品から離しておく必要があります。可動範囲が完全に保たれ、いかなる車両の操作もケーブルに物理的損傷をもたらさないようにします。

アクセサリ

Vocollectでは、Talkman端末やその他のハンドヘルド端末の装着、保護、および操作の支援を目的とした様々なアクセサリを提供しています。

Pidion BM-170 ディスプレイ

Pidion BM-170は音声にディスプレイを加えた方が適切なケースにおいて、Talkman A500と合わせて使うことのできるディスプレイ端末です。タッチスクリーンと各種ボタンおよびスイッチを備えています：

コントロール	位置	アクション
ロッカースイッチ	左側	音量の調整
大きいボタン	右側	電源オン/オフ
小さいボタン	右側	戻る
オプションメニュー	正面左上	オプションの表示
ジョイパッド	正面中央	画面のナビゲートと項目の選択



図 35 : Pidion BM-170

Pideon BM-170ディスプレイとTalkman A500の組み合わせ

1. Talkman A500をオンにします。
2. ディスプレイをオンにします。
ディスプレイが初期化します。

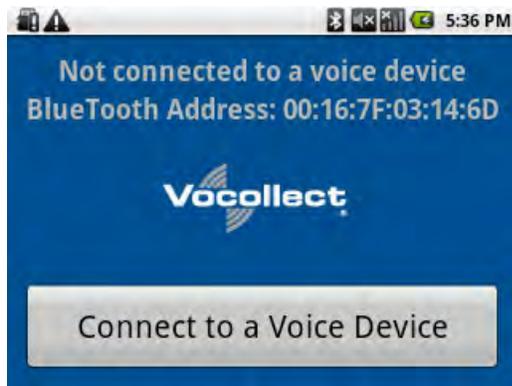


図 36 : 初期画面

3. **Search for Voice Devices** ボタンを押して、Talkmanとディスプレイの接続処理を開始します。接続を受け入れ可能な、近くにある端末のシリアル番号とBluetoothのMACアドレスが一覧表示されます。

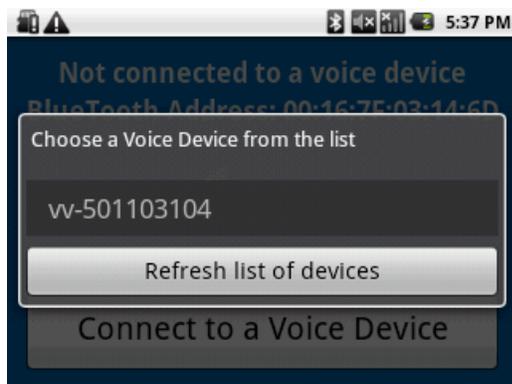


図 37 : 端末リスト

4. 接続したいTalkmanのシリアル番号を選択し、選択内容を了承します。

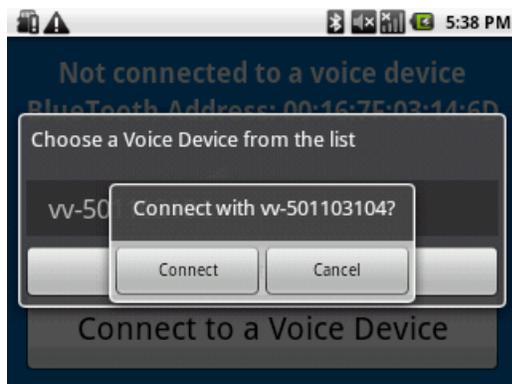


図 38 : 接続を確認

表示がメイン画面に戻り、ディスプレイがTalkmanに接続されます。

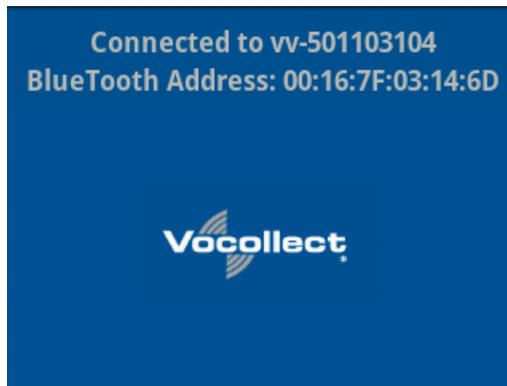


図 39 : 音声端末に接続

端末に読み込まれた音声アプリケーションが自動的に始まります。

T5/A500アジャスタブル ショルダー ハーネス

米政府の安全基準を遵守するには、端末を使用する際、Vocollectのベルトおよびクリップ、Vocollectのカスタマイズされたベルトやショルダー ハーネスを共に使用する必要があります。

T5/A500アジャスタブル ショルダー ハーネス仕様

ショルダー ストラップ	2" (5 cm) 幅の調整可能ナイロン
チェスト ストラップ (レギュラー)	2つの調整可能弾性ナイロン (32"~48" (81 cm~122 cm))
チェスト ストラップ (ラージ)	2つの調整可能弾性ナイロン (41"~66" (104 cm~167 cm))

T5/A500ショルダー ハーネスへの端末装着

専用のベルトやショルダー ハーネスに端末を取り付けるには、ベルトやハーネスと共に提供されるスリムベルト クリップが必要です。

このクリップは、シフトの最初からベルトに取り付けておく必要があります。これにより、作業員はクリップに対する端末の脱着を必要に応じて行うことが可能になります。



図 40 : T5/A500ショルダー ハーネスの適切な装着 - 正面から見たところ, 後ろから見たところ

1. ショルダー ハーネス正面にあるフラップを2つのボタンのスナップを解除することにより開きます。
2. ベルトクリップのスロットにフラップを通します。クリップにフラップを完全に通し、ボタンをスナップします。

3. 大きい輪のバックルを解除します。
4. 左手を小さい輪に通し、ハーネスを左肩の上までスライドさせます。
5. 大きい輪のバックルを旨の前で留めます。
6. ストラップを調整します。
7. 端末をハーネスのクリップ上に適切な位置でスナップされるまでスライドすることにより、固定します。適切な位置にクリップ留めされた端末は、クリップ取り外しボタンを押さない限り、取り外すことはできません。

ベルトとベルトクリップ

作業員はVocollectで販売する専用ベルトに端末を装着します。ベルトへの端末取り付けは、専用のクリップを用いて行います。米政府の安全基準を遵守するには、端末はVocollectのベルトおよびクリップと共に使用しなくてはなりません。



図 41 : クリップ付きベルト

ベルトおよびクリップの使用

専用のベルトやショルダーハーネスに端末を取り付けるには、ベルトやハーネスと共に提供されるスリムベルトクリップが必要です。

- T2シリーズスリムブルーベルトクリップ：端末を専用のベルトに装着します。
- T5/A500ブラックベルトクリップ：T5またはA500端末をベルトに装着します。
- このクリップは、シフトの最初からベルトに取り付けておく必要があります。これにより、作業員はクリップに対する端末の脱着を必要に応じて行うことが可能になります。

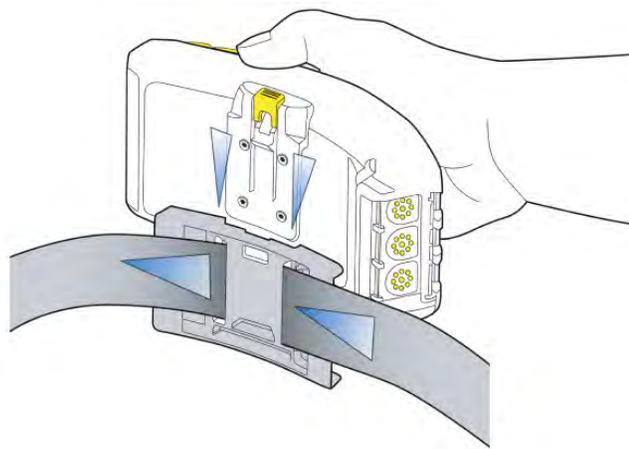


図 42 : ベルト クリップへの端末取り付け

- Vocollectでは、端末を体の右側に装着し、そのボタンを上に向けた状態で、コネクタを背中に向けて這わすことを強く推奨しています。
- ベルトやショルダーハーネスには、A500やT5シリーズの端末が装着できます。

Tシリーズのベルト仕様

Tシリーズのベルト サイズ

サイズ	寸法
XS	18" - 26" (46cm-66cm)
S	24" - 32" (61cm-81cm)
M	28" - 36" (71cm-91cm)
L	34" - 42" (61cm-107cm)
XL	40" - 48" (102cm-122cm)
XXL	46" - 54" (117cm-137cm)
XXXL	52" - 60" (132cm-152cm)

ベルト仕様

ベルト材料	ナイロン
Velcro®	YKK製面ファスナー
ベルト ファスナー	ITW Nexus 127-3200

端末カバー

Vocollectでは、オプションで端末用の保護カバーを提供しています。

- 端末カバーの使用は必須ではありませんが、Vocollectでは外観の維持と製品寿命を延ばすのに役立つカバーの使用を強く推奨しています。
- 冷凍環境では、保護カバーを使用することにより電池寿命を延ばすことが可能です。



図 43 : T5エラストマー スキン カバー

- 本端末カバーは、端末を充電器にセットする際も取り外す必要がありません。
- EXOスケルトンカバーではさらに端末の落下保護性能が提供され、取り外しが容易で、すべての端末機能に対する完全なアクセスが可能となります。



図 44 : T2シリーズ端末カバー

- 本端末カバーは、端末を充電器にセットする際に取り外す必要があります。これを行わないと、端末と充電器の両方に損傷を与えるかもしれません、

T5/A500 エラストマー スキン カバー仕様

生地	熱可塑性エラストマー (Dynaflex G2755)
----	-----------------------------

A500、T5シリーズ端末に対するカバーの取り付け

1. 端末がオフになっていない場合は、LEDインジケータが赤に変わり、オフになるまで、黄色の[再生/一時停止]ボタンを押したままにします。
2. すべての周辺機器を取り外します。
3. 電池の挿入区画が上を向き、端末ボタンが手前にくるように端末を持ちます。
4. 端末の接続ポート側にカバーの開口部をスライドします。端末の下部に位置する、カバーを適切に固定するためのタブの後ろをスライドするように、カバーを丁寧に引っ張ります。



図 45 : T5シリーズ端末に対するカバー取り付け

5. 端末の丸くなった側にカバーの丸まった側を伸ばしします。
6. 使用する周辺機器を取り付けます。

第5章

Talkman T5シリーズ



図 46 : Talkman T5

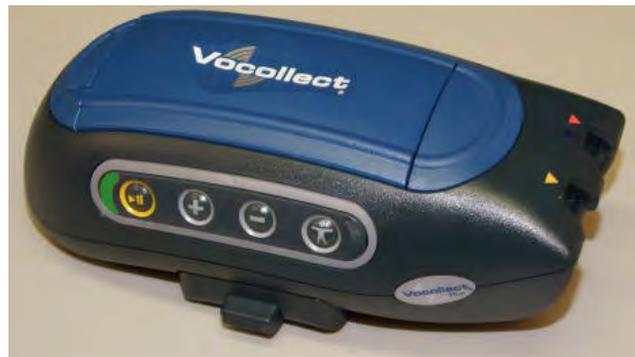


図 47 : Talkman T5m

Talkman™ T5は、小型軽量で無線機能を備えた音声対応の端末です。工業環境の厳しい状況で動作するように設計されています。Talkman T5mは、メモリとデータストレージ容量を増強した拡張メモリバージョンです。

Talkman T5シリーズの機能

- Bluetooth®互換の無線機能により、ヘッドセット、バーコードリーダー、プリンタ、およびその他の周辺機器をワイヤレスで接続
- 高性能電池が、凍結の起こる条件でも継続的に電源を供給
- 人間工学に基づいた設計により、ユーザは、ベルトやショルダーハーネスを違和感なく装着可能
- エラストマー端末カバーが端末を保護
- 4ボタンインターフェースで操作が簡単

T5シリーズ仕様：Talkman T5、Talkman T5m

重量	6.50 オンス (184.27 g) 標準電池を含む: 11.20 オンス (317.51 g)
長さ	5.5" (13.97 cm)
幅	2.63" (6.68 cm)
奥行き	1.7" (4.3 cm)
I/Oポート	<ul style="list-style-type: none"> • ヘッドセット ポート(黄色) • 音声出力およびRS-232シリアル対応のメンテナンス ポート
動作温度	-22°~122° F (-30°~ 50° C)
保管温度	-30°~140° F (-34°~ 60° C)
落下テスト済み	<p>MIL STD -810Fの衝撃および振動仕様に適合。</p> <p>さらに端末では、次の仕様に基づいて試験が実施されました：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 磨かれたコンクリート上に5フィートの高さから25回落下後、さらに6フィートの高さから10回落下 • 磨かれたコンクリート上に-20° F (-29° C) で5フィートの高さから角度を変えて10回落下
湿度	100%結露
保護等級	IP67

 注: パッケージは製品の出荷条件により異なります。一般に、梱包材料は総出荷重量の約15%です。

A500/T5端末の充電



図 48 : Talkman A500/T5高性能電池

A500/T5電池は高性能モデルです。接点がケース平面上にあるT2シリーズの電池とは異なり、A500/T5電池の形状ではピンの部分が外側に突き出しています。

⚠ 注意: A500/T5シリーズの電池と他のVocollect電池は相互利用できません。端末に誤った電池をセットしようとすると、端末や電池に損傷を与える可能性があります。

A500/T5端末では、高性能電池を端末にセットしたままでも、端末から取り外しても充電できるVocollect統合充電器を使用します。

A500/T5高性能電池仕様

A500およびT5-シリーズ端末は標準電池を使用します。

標準電池重量	4.7 オンス (133.24 g)
--------	--------------------

電氣的仕様

- セル：この大容量電池パックでは、2つのリチウム イオン セルを使用しています。
 - 公称電圧 = 3.7V
 - ワット時 = 19Whr
- 保護回路特性：この電池パックには、セルにおける低電圧状態と過電圧状態を回避し、プラス端子とマイナス端子の短絡により生じる損傷から電池パックを守るための、保護回路は備わっています。
- 本電池パックには性能、温度、およびパック識別情報を端末に提供するための専用の電子回路が含まれています。これらの情報は、音声管理ソフトウェアにより利用できます。
- 電池の充電：本電池パックの充電はVocollect製の充電器でのみ行う必要があります。

機械的仕様と環境仕様

- 落下テスト仕様: この大容量電池は、MIL STD 810Fの衝撃およびトランジェント落下基準に適合しています。

- 環境仕様：本電池パックは、水やホコリから内部を守るために、超音波溶接により結合されています。この電池は次の条件下で適切に動作します：

温度：-40°C～55°C (-40°F～131°F) 湿度：95% 非結露 雨/ホコリ：IP67

電池に関する通知

Talkman電池に対する通知は次のレベルで発生します：

- 最初の警告 = 3,550 mV
- 重要警告 = 3,350 mV

端末内のA500またはT5電池の充電

1. ウェアラブル コンピュータをベルト クリップから外します。
2. 他の周辺機器を取り外します。
3. 充電器の空きスロットにウェアラブルコンピュータを挿入し、下方に押し込んだ後、「カチッ」という音が聞こえ適切な個所に納まるまで後方に押し込みます。
4. ウェアラブル コンピュータを充電器にセットしたら、ウェアラブル コンピュータのLEDインジケータが点灯し、緑色の点滅を開始することを確認します。
 - a) 30秒経ってもLEDが点灯しない場合は、充電スロットからウェアラブル コンピュータを取り外し、セットしなおしてください。
 - b) それでもLEDインジケータが点灯しない場合には、別の充電スロットを試してください。

! 注意: ヘッドセットやその他の周辺機器を外す前に、充電器へのセットを試みてはいけません。充電器に端末がセットされている間に、端末から電池を外してはいけません。

A500またはT5シリーズ電池の充電

1. Talkmanウェアラブル コンピュータから電池を取り外します。
2. 端子を下向きにし、Vocollectのラベルと向きあうように電池を持ちます。



図 49 : 充電器への電池の差し込み

3. 電池を充電器上部の空き電池スロットにセットします。
充電器に電池が適切にセットされると、該当するスロットに対する左側のLEDが赤く点灯します。

! 注: LEDインジケータは、上側が充電器の電池スロットに対応し、下側がウェアラブル コンピュータ スロットに対応しています。

充電器からのA500、T2シリーズ、T5シリーズ端末の取り外し

端末は、LEDインジケータが緑色で点滅すれば、いつでも利用可能です。LEDが赤く点滅している場合は、利用準備が整っていません。

! 重要: 端末で赤い点灯が継続して確認される場合には、システム管理者に問い合わせてください。

1. 端末の利用準備が整っていることを確認します。
2. 端末を引き上げ、端末充電器から取り外します。



図 50 : 充電器からの端末の取り外し

Talkman A500、T5またはT2シリーズ端末への電池挿入

挿入する電池が完全に充電されていることを確認してください。

1. 黄色と赤色のポートが視線に対して向こう側になるようにTalkmanを持ちます。
2. ピンが視線に対して向こう側になり、Vocollectのロゴが見える向きで電池を持ちます。
3. 電池のピン側を適切な角度で差し込みます。

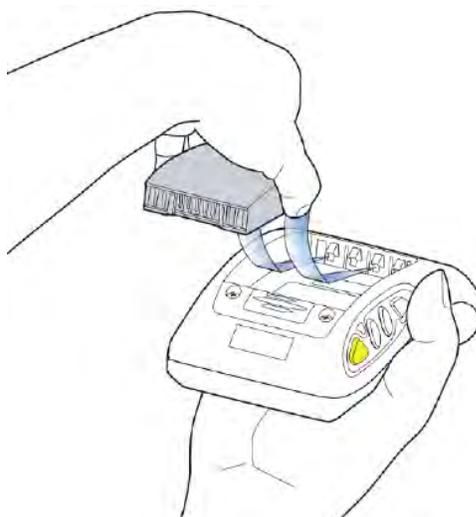


図 51 : 電池の適切な挿入

4. 電池の後ろ側を押すことで、適切な位置に納めます。
電池が適切な位置に納まると「カチッ」という音が聞こえます。

- ⚠ **注意:** 電池を無理やりに押し込んではいけません。電池や端末に損傷を与える可能性があります。適切な位置への電池の固定が容易に行えない場合には、電池を配置しなおしたうえで、再度お試しください。

電池が完全にセットされ、取り外しボタンを押さない限り外れない状態にあることを確認してください。

Talkman A500、T5またはT2シリーズ端末からの電池の取り外し

Talkmanウェアラブル コンピュータがオフであることを確認します。

- ⚠ **注意:** LEDインジケータがオフになるまで、電池を外してはいけません。端末がオンあるいは休止状態にある場合での電池の取り外しは、収集データの破壊につながる可能性があります。

1. 電池挿入区画と向きあうように、片手にウェアラブル コンピュータを持ちます。
2. 電池挿入区画から電池上部が持ちあがるまで、電池の取り外しボタンを完全に押し込みます。



図 52 : 端末からの電池の取り外し

3. 挿入区画から電池を持ちあげ、取り外します。

電池のウォームアップ時間

寒冷環境で利用した電池の充電は、十分なウォームアップ時間を経るまで始まりません。

電池の使用環境	ウォームアップに必要なおおよその時間
-4°C (24.8°F)	6分
-10°C (14.0°F)	10分
-20°C (-4°F)	22分
-30°C (-22°F)	30分

LEDインジケータについて

Vocollect Talkman端末とSRX/SRX2ヘッドセットおよびその充電器には、装置の状態を示すLEDがあります。これらのLEDはオン、オフまたは点滅します。一部のケースではLEDは2つの色を交互に点滅する場合もあります。

問題があることをLEDが示した場合、トラブルシューティングの手順を参照して問題を解決してください。
「LEDで示される問題のトラブルシューティング」も参照してください。

T5シリーズ端末のLEDインジケータ

LED	状態	T5シリーズ端末
緑	点灯	端末がオン さらに、次のいずれかです。 <ul style="list-style-type: none"> 音量調整 雑音のサンプリング 単語の再トレーニング アクティブな作業員の変更 次の音声入力の後： <ul style="list-style-type: none"> 「Talkmanヘルプ」 「Talkman繰り返し」 「Talkman続行」 「Talkman戻る」
	速い点滅	端末が充電器内にある
	遅い点滅	次のいずれかです。 <ul style="list-style-type: none"> 端末が充電器外で休止モードにある 音声アプリケーションの選択メニューを使用中 ソフトウェアの特定部分を読み込み中
赤	短く点灯	端末が起動中 端末が終了中
	継続して点灯	エラー。システム管理者に問い合わせてください
	点滅	次のいずれかです。 <ul style="list-style-type: none"> VoiceConsoleから作業員を取得、読み込み中 VoiceConsoleから音声アプリケーションを取得、読み取り、読み込み中 ソフトウェアの特定部分を読み込み中
琥珀/黄色	オフ	Wi-Fiがオフ
	遅い点滅	なし

LED	状態	T5シリーズ端末
	ランダムな点滅パターン	端末のWi-Fi接続がアクティブ
青 (Bluetoothのインジケータ)	オフ	Bluetoothがオフ
	ランダムな点滅パターン	端末のBluetooth接続がアクティブ

T5端末の車両への搭載

Talkman T5 VMT モバイル コンピュータは、フォークリフトや動力付きパレットジャック等の車両に取り付け可能な電池アース端末です。端末を取り付けた後、電池アダプタをT5シリーズ端末の電池領域に装着し、それを車両電源に接続します。

この構成のTalkman端末は有線またはワイヤレスの装置（ヘッドセット、スキャナー等）とあわせて使用する場合があります。VocollectはTalkman T5シリーズ端末を VMT構成で使用可能にする取り付けキットや電源システムを含めたセットを販売しています。

⚠ 注意: 機械や車両の操作中に端末/ユニットを見ないでください。注意が散漫になり、事故や作業員または第三者の重大な怪我を招く恐れがあります。

端末を正しくフォークリフトに取り付ける方法については以下の手順に従ってください。

- 運転者の視野を考慮し、端末を取り付けるのに最適な位置を決めます。
- 適切な設置用部品を取り付けます。
- 端末を車両の配線システムに接続します。

Talkman A500/T5 VMT アクセサリ

Talkman A500/T5 VMT は、RAM Mounting Systemsのハードウェアを用いて設置できるように設計されています。Vocollectでは、A500/T5用の取り付けブラケットとRAM Mounting Systemsの取り付けハードウェアを提供しています。設置のカスタマイズ等を目的とした各種ハードウェア取り付けブラケット オプションの追加購入は、RAM Mounting Systems (www.ram-mount.com) から直接行うことが可能です。

A500/T5 VMTは安定した面に取り付けてください。



図 53 : ネジ留め用取り付け部品



図 54 : ネジ留めによる取り付け



図 55 : クランプ留め取り付け部品



図 56 : クランプによる取り付け



図 57 : 電池アダプタ



図 58 : 電源

- 注: 注意: 独自の電源を用意することも可能ですが、1アンペアで12-15Vを供給するものである必要があり、かつ 250VA (ワット) 未満に制限されています。電源を独自に用意する場合でも、最終的にT5シリーズに接続するには、電池アダプタ ケーブルと電池アダプタを購入する必要があり、かつ 250VA (ワット) 未満に制限されています。
- 注: 注意: T5シリーズの車載構成において車両電源を使用することは必須ではありません。運用上の理由から、必要であれば、Vocollect電池を用いたVMT構成を採用することも可能です。この構成ではT5シリーズ端末を車両電源につなげる必要がありません。

Talkman A500/T5 VMT アクセサリ仕様

動作温度	-30°~50° C (-22°~122° F)
保管温度	-40°~70° C (-40°~158° F)

Talkman A500/T5 VMTのマウント

Screw On Mountは、車両の静止面にネジ留めを行うためのオプションです。

Clamp Mountは、車両の静止面にクランプするためのオプションです。必要であればネジ留めを行うことも可能です。



図 59 : Screw On Mount



図 60 : Clamp Mount

Talkman A500/T5 VMTの配置

- 端末やあらゆる関連機器に対しては、最良の場所を決定してください。以前に同様の端末をインストールしていた場合には、それらが使用していた場所が端末に適しているかを確認します。
- 他の車両にインストールする前に、最低30分はそのインストールのテストを行ってください：すべての詳細を記録します：
 - その端末の場所で車両制御の妨げにならないかを確認します。
 - 端末がドライバの視線の邪魔にならないかを確認します。
 - ユーザーが長時間にわたり快適な作業をするために、その端末の場所が適しているかを確認します。

Talkman A500/T5 VMT用取り付けブラケットのインストール

Vocollectでは、Screw On Mountの取り付け用として次の部品を提供しています：

部品 #	個数	説明
1	2	Vehicle Mount、ホルダー/ベース ネジ留めアタッチメント
2	1	Vehicle Mount、アーム
3	1	Vehicle Mount、ホルダー

Vocollectでは、Clamp On Mountの取り付け用として次の部品を提供しています：

部品 #	個数	説明
1	1	Vehicle Mount、クランプ
2	1	Vehicle Mount、アーム
3	1	Vehicle Mount、ホルダー
4	1	Vehicle Mount、ホルダー/ベース ネジ留めアタッチメント

1. 車両へのベース固定に必要なネジ穴を開けます。クランプマウントを用いる場合は、このステップをスキップ可能です。
2. ベースをクランプまたはネジ留めにより固定します。

📌 注: クランプ取り付けネジのネジ山に潤滑剤（たとえば軽油または焼け付き防止剤など）を塗布します。

3. もう一方のベースをアームの反対側に取り付けた後、ロックレバーを時計回りに回すことで、目的の場所に固定します。
4. 端末ホルダーをベースにネジ留めします。
5. ホルダーに端末を挿入します。
6. 端末に電池アダプタを挿入します。
7. 電源からのケーブルを電池アダプタに取り付けます。

振動を防止するため、取り付けブラケットはベース部のボールの柄に触れないようにします。つまり、アームはこれらの部品が接触するほど傾けてはなりません。



電源へのケーブルの接続と車両への電源の取り付け

Vocollectでは、12ボルトまたは24ボルトの車両電源を端末に取り付けるために、次の部品を提供しています：

部品 #	個数	説明
1	1	電源、9-36 VDC入力
2	1	電源から電池アダプタへのケーブル

Vocollectでは、36ボルトまたは48ボルトの車両電源を端末に取り付けるために、次の部品を提供しています：

部品 #	個数	説明
1	1	電源、18-60 VDC入力
2	1	電源から電池アダプタへのケーブル

次の機器が必要です：

- 電源から車両電源までのケーブル x 1。Vocollectでは導線数 = 3、ケーブル ゲージ = 16、温度 = -40C ~ 90Cの仕様を持つ工業規格ケーブルを推奨しています。
- 結束バンド

⚠ 注意: 電気ケーブル配線の一般的なガイドライン

- 車両は完全にオフにし、車載バッテリーの接続は外しておきます。
- ケーブルは熱くなる可能性があるため、その表面をきれいな状態にしてください。
- 動く部品の影響を受ける場所にケーブルを這わせてはいけません。

- 車両の外側にケーブルを這わせてはいけません。
- ケーブルを90°以上曲げてはいけません。最小曲げ半径は1インチを下回ってはいけません。
- ケーブルの弛みを取り除くために、余分なケーブルは巻き取って車両内に納めてください。
- 安全性を最大限に保つため、ヒューズは可能な限り電源の近くに配置してください。
- T5 VMTを電力サージから守ると共に変圧を行うために、T5 VMTとフォークリフトの電池間には変換モジュールを納めます。

1. 車載バッテリーの接続を外します。
2. 電源最上部の4つのネジを取り外し、ネジ端子を露出させます。
3. 電源から車両電源への接続に使用するケーブルにおいて、3本のケーブルの銅線を5mmほど露出させます。電源から車両電源への接続には十分な長さのケーブルを確保してください。
4. 電池アダプタから電源への接続に使用する黄色のケーブルにおいて、黒と茶のケーブルの銅線を5mmほど露出させます。青いケーブルは必要ありません。黄色のケーブルから出たところで切断してもかまいません。電源から車両電源への接続には十分な長さのケーブルを確保してください。
5. 次の手順を用いて、電池アダプタから電源へのケーブル接続を行います。

- 電源上の接続先となる端子のネジを弛めます。
- 下記のチャートで示されるとおり、ケーブルを適切な個所に対応させます：

ケーブル	出力端子
茶 - 車両プラス	+
黒 - 車両マイナス	-
接続不要	GND
青 (短縮)	使用不可

- ネジを締めます。
- ケーブルの固定を確認します。

6. 次の手順を用いて、車両電源から電源へのケーブル接続を行います。

- 電源上の接続先となる端子のネジを弛めます。
- 下記のチャートで示されるとおり、ケーブルを適切な個所に対応させます：

ケーブル	入力端子
白 (ケーブルにより異なる可能性があります) - 車両プラス	+
黒 (ケーブルにより異なる可能性があります) - 車両マイナス	-
緑 - 車両のグラウンド: 電源装置のケースのグラウンド端子を接続するための機器の製造元の推奨事項に従ってください。	GND

- ネジを締めます。
- ケーブルの固定を確認します。

7. すべてのケーブルの実装に成功したら、結束バンドによりケーブルを固定します。



図 61 : 電源に接続されたケーブル

8. フォークリフトのダッシュボード下等、邪魔にならない安全な場所に電源を配置し、結束バンドで固定します。あるいは、取り付けスロットを用いて電源をボルト固定することも可能です。



図 62 : ダッシュボードの下にある安全な場所に取り付けられた電源

9. 電池アダプタと電源を接続するケーブルを、電源からT5 VMTを取り付ける場所まで這わせます。
10. コネクタのナットをしっかり締めてコネクタのナットをしっかり締めて黄色の配線を電池アダプタに接続します。

Talkman A500/T5 VMTモバイル コンピュータと車載電源の接続

次の機器が必要です：

- Cooper Bussman社製ヒューズホルダ x 2個。Vocollectでは、Cooper Bussmann HFAシリーズのインライン防水型ヒューズの使用を推奨しています。
- ヒューズ x 2個。Vocollectでは、2A 250V SLO BLOヒューズを推奨しています。
- スパードコネクタ x 3個。
- 小さい結束バンド x 4個。
- 固定具

Vocollectでは、電源ソースに非連動型電源の選択を推奨しています。これにより、車両において意図しない電源のオフ状態が発生しても、Talkmanの連動した電源オフを回避できるだけでなく、ソフトウェア更新のためにTalkmanの電源を入れることが可能となります。

1. 車両からすべての電源を取り外します。
2. 電源の入力ケーブルより、余分な長さを除去します。
3. ケーブルの電源側にヒューズを接続します。そのケーブルから外側の絶縁表皮を4インチほど剥きます。
4. プラスおよびマイナスの配線から銅線を10mmほど露出させます
5. 露出した銅線をヒューズホルダに差し込み、所定のツールを用いて圧着します。
6. 緑色の配線を車両のグラウンドに接続します。
7. ヒューズの付いた白いケーブルを車両電源のプラス側に適切なコネクタを用いて接続します。このコネクタはケーブルへの圧着が必要となるかもしれません。
8. ヒューズの付いた黒いケーブルを車両電源のマイナス側に適切なコネクタを用いて接続します。このコネクタはケーブルへの圧着が必要となるかもしれません。
9. 下図のように電源を接続します。

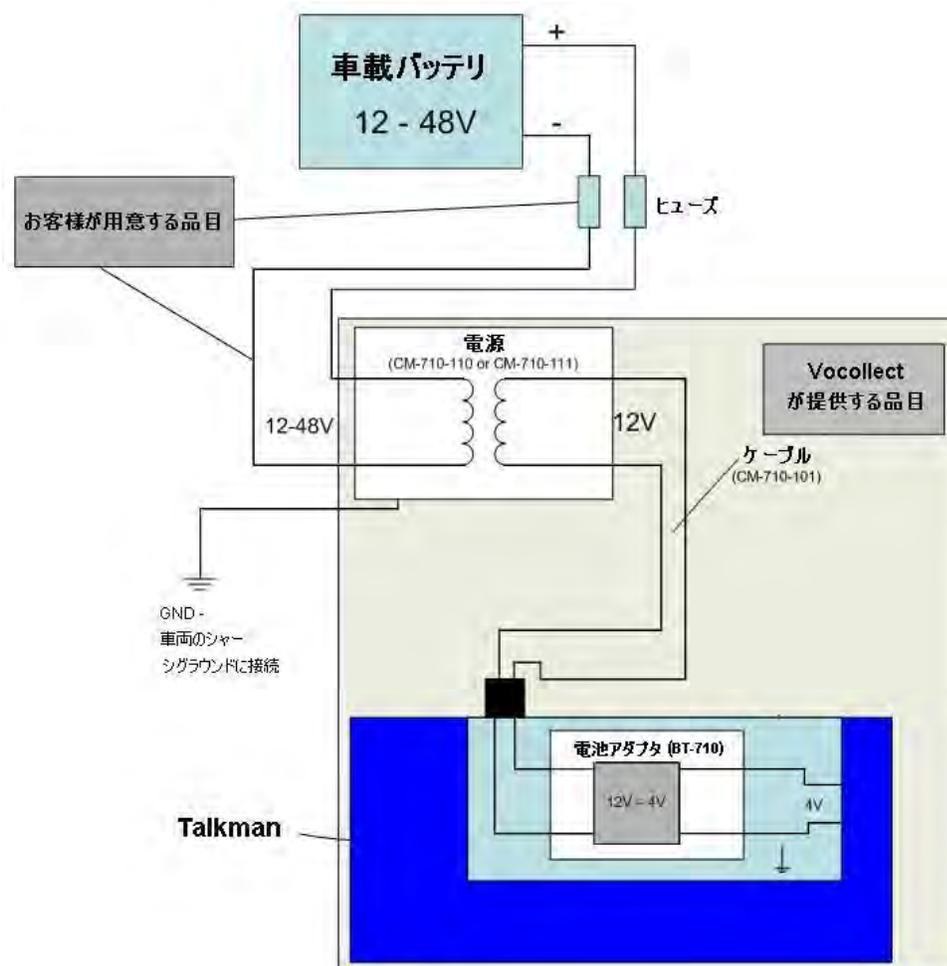


図 63 : 電源の接続

10. 結束バンドによりケーブルを固定します。

車両からのA500/T5 VMT端末の取り外し

Talkman A500/T5 VMTコンポーネントは、車両修理や保守、柔軟な運用のニーズに対応して、容易に取り外せるようになっています。

⚠ **注意:** 時折、修理のために必要な場合を除き、電池アダプタからケーブル（CM-710-101、CM-710-102）を取り外すことはお勧めできません。頻繁にケーブルを取り外すと、アダプタとケーブルが損傷する可能性があります。この種の使用は、推奨できないことが明確な、意図していない方法による製品使用なので、保証によってもサービスプランによってもカバーされません。

1. 端末から電池アダプタを取り外します。
2. VMTホルダーの横に電池アダプタをドッキングします。

これにより、端末を取り外し、電池アダプタとケーブルをドッキングして保護できるようになります。

⚠ **注意:** 電池アダプタは、ケーブルの損傷を防止し、アダプタの端子が誤って金属表面に接触するのを防ぐため、使用しないときもケーブルを接続し、ドッキングしておく必要があります。

VMT取り付けのベストプラクティス

Talkman端末およびアクセサリは *推奨通り使用された場合に信頼のおけるサービスを提供するよう設計*されています。世界中の何千ものTalkman VMTユーザーがここで紹介するベストプラクティスに従い、車両に統合されたTalkman端末の生産性を向上しています。

- **Talkman**端末をVMT構成から外さない

Talkman VMT端末は簡単に取り付けられるよう設計されています。しかし頻繁に取り外すよう設計されていません。

Vocollectでは、Talkman端末、ケーブル、VMT電池アダプタは車両に取り付け後、そのままにしておくことを推奨します。

Talkman端末を外さなければならない場合、電池アダプタは電池アダプタ ドックに残してください。



図 64 : VMT構成に取り付けられた電池アダプタ

⚠ **注意:** Talkman、電池アダプタ、およびケーブルの頻繁な取り外しは、ケーブルまたは電池アダプタが早期に機械的故障を起こす原因となる恐れがあります。この損傷は通常の製品保証でカバーされません。

- **Talkman**端末を損傷から保護する

Talkman 端末は、作業員が簡単にTalkmanのコントロール機能にアクセスでき、車両使用中の衝突や損傷から十分に保護された位置に取り付ける必要があります。くぼみへの取り付けは保護の点からは優れていますが、この取り付け方によってTalkman端末の Wi-Fi または Bluetooth™接続が損なわれないよう注意してください。



図 65 : 車両により保護され無線受信に支障のない取り付け位置

- **RAM® Mounts**のオプションを考慮する

Talkman端末を取り付けるために用意されているVocollect部品は、RAM Mounts (www.rammount.com) が提供する取り付けオプションのほんの一部です。Vocollectが必要とする条件は、Talkman用車載ホルダー、BL-710-1を購入されることのみです。ベースにネジ止めするアタッチメント (BL-710-102) またはその他の1" ボールマウントを使用する部品を使用する場合、VMTの最適な取り付けを行うためには RAM Mountsから購入可能な追加の部品が必要となる場合があります。



図 66 : BL-710-1車載ホルダーを使用したネジ止めによる取り付け

特に、以下の標準RAM Mounts部品によりさらなる取り付けの柔軟性が実現できます。

部品の説明	部品番号	用途	画像
ダブル1"ボールアダプタ	RAM-B-230U	このアダプタにより、車両上の保護された位置により正確にTalkman端末を設置し、操作することができます。	
ダブルソケットアーム BボールAレンジス	RAM-B-201U-A	このアームおよび他の長さのアームにより車両への最適なフィットを実現できます。	

- 通常の操作でずれが予想される場合には部品を固定する

Talkmanの取り付けに使用される部品は、固定位置に取り付け、簡単に調整できるように設計されています。稀に、日々の使用中に予期せぬ衝撃が加わることでこれらの部品が次第にゆるむことがあります。特に取り付け部品の締めが甘かったり、作業員が手で位置を調整しようとした場合にこのようなケースが見られます。

この問題を防止するには、アームのユーザー調整可能なハンドルを取り外し、Vocollect VMTキット付属の1/4" #20ナイロンロックナットを取り付けてください。このロックナットは手で緩めることはできず、ほとんどの振動に耐えます。

- 確実なVMTの配線

Talkman VMTを接続するケーブルおよびワイヤは何かにつかかたりすることがないように車両にしっかりと取り付ける必要があります。ケーブルの絡まりは事故やVMTまたは車両への損傷につながる場合があります。

図に示すケーブルは、車両が動いている場合にもこの位置からずれて何かと絡まったりしません。ケーブルには十分なゆりみがあり、電池アダプタをTalkman端末に取り外したり取り付けたりできる点にも注意してください。



図 67 : ケーブルをしっかりと車両に接続

電池アダプタに接続する側のケーブルは、電池アダプタの取り外しや取り付けが簡単に行える十分な長さ確保しつつ、長すぎて絡まったりしないようにします。

ケーブルはアダプタの底部にある2つの穴を使って接続することができます。このようにケーブルを接続した後、VMT Talkmanアダプタ付属のスパイラルケーブルラップを使ってさらに保護します。



図 68 : ケーブルをしっかりと車両に接続

この取り付けを行うには：

- 約2.5インチのスパイラルラップ（外側直径0.25インチ）を黄色のケーブルに、その中点がケーブルエンドコネクタから9～10インチ離れた位置になるよう取り付けます。
- ケーブルタイ（最大幅0.1インチ）を使って、ケーブルの巻いてあるセクションを図のようにアダプタのドッキングエリアの底部の穴を使ってRAMクレードルに取り付けます。

車両内部から電池アダプタへのケーブルも、ケーブルのずれや予期せぬ損傷、ショートなどが起こらないよう安全に、整然と管理します。ケーブルは可動部品から離しておく必要があります。可動範囲が完全に保たれ、いかなる車両の操作もケーブルに物理的損傷をもたらさないようにします。

アクセサリ

Vocollectでは、Talkman端末やその他のハンドヘルド端末の装着、保護、および操作の支援を目的とした様々なアクセサリを提供しています。

T5/A500アジャスタブル ショルダー ハーネス

米政府の安全基準を遵守するには、端末を使用する際、Vocollectのベルトおよびクリップ、Vocollectのカスタマイズされたベルトやショルダーハーネスを共に使用する必要があります。

T5/A500アジャスタブル ショルダー ハーネス仕様

ショルダー ストラップ	2" (5 cm) 幅の調整可能ナイロン
チェスト ストラップ (レギュラー)	2つの調整可能弾性ナイロン (32"~48" (81 cm~122 cm))
チェスト ストラップ (ラージ)	2つの調整可能弾性ナイロン (41"~66" (104 cm~167 cm))

T5/A500ショルダーハーネスへの端末装着

専用のベルトやショルダーハーネスに端末を取り付けるには、ベルトやハーネスと共に提供されるスリムベルトクリップが必要です。

このクリップは、シフトの最初からベルトに取り付けておく必要があります。これにより、作業員はクリップに対する端末の脱着を必要に応じて行うことが可能になります。



図 69 : T5/A500ショルダーハーネスの適切な装着 - 正面から見たところ, 後ろから見たところ

1. ショルダーハーネス正面にあるフラップを2つのボタンのスナップを解除することにより開きます。

2. ベルトクリップのスロットにフラップを通します。クリップにフラップを完全に通し、ボタンをスナップします。
3. 大きい輪のバックルを解除します。
4. 左手を小さい輪に通し、ハーネスを左肩の上までスライドさせます。
5. 大きい輪のバックルを旨の前で留めます。
6. ストラップを調整します。
7. 端末をハーネスのクリップ上に適切な位置でスナップされるまでスライドすることにより、固定します。適切な位置にクリップ留めされた端末は、クリップ取り外しボタンを押さない限り、取り外すことはできません。

ベルトとベルトクリップ

作業員はVocollectで販売する専用ベルトに端末を装着します。ベルトへの端末取り付けは、専用のクリップを用いて行います。米政府の安全基準を遵守するには、端末はVocollectのベルトおよびクリップと共に使用しなくてはなりません。



図 70 : クリップ付きベルト

ベルトおよびクリップの使用

専用のベルトやショルダーハーネスに端末を取り付けるには、ベルトやハーネスと共に提供されるスリムベルトクリップが必要です。

- T2シリーズ スリム ブルー ベルト クリップ：端末を専用のベルトに装着します。
- T5/A500ブラック ベルト クリップ：T5またはA500端末をベルトに装着します。
- このクリップは、シフトの最初からベルトに取り付けておく必要があります。これにより、作業員はクリップに対する端末の脱着を必要に応じて行うことが可能になります。

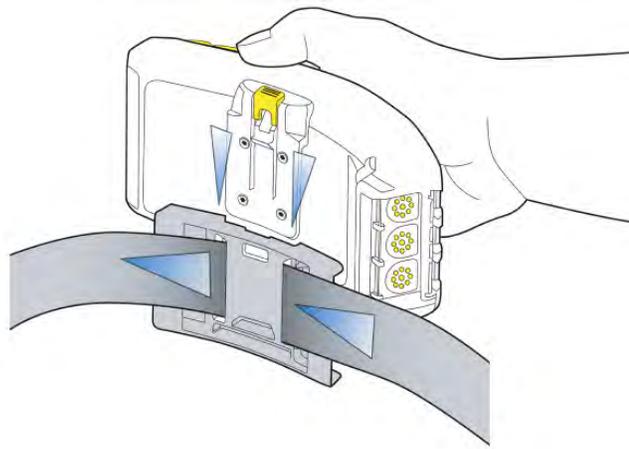


図 71 : ベルト クリップへの端末取り付け

- Vocollectでは、端末を体の右側に装着し、そのボタンを上に向けた状態で、コネクタを背中に向けて這わすことを強く推奨しています。
- ベルトやショルダーハーネスには、A500やT5シリーズの端末が装着できます。

Tシリーズのベルト仕様

Tシリーズのベルト サイズ

サイズ	寸法
XS	18" - 26" (46cm-66cm)
S	24" - 32" (61cm-81cm)
M	28" - 36" (71cm-91cm)
L	34" - 42" (61cm-107cm)
XL	40" - 48" (102cm-122cm)
XXL	46" - 54" (117cm-137cm)
XXXL	52" - 60" (132cm-152cm)

ベルト仕様

ベルト材料	ナイロン
Velcro®	YKK製面ファスナー
ベルト ファスナー	ITW Nexus 127-3200

端末カバー

Vocollectでは、オプションで端末用の保護カバーを提供しています。

- 端末カバーの使用は必須ではありませんが、Vocollectでは外観の維持と製品寿命を延ばすのに役立つカバーの使用を強く推奨しています。
- 冷凍環境では、保護カバーを使用することにより電池寿命を延ばすことが可能です。



図 72 : T5エラストマー スキン カバー

- 本端末カバーは、端末を充電器にセットする際も取り外す必要がありません。
- EXOスケルトンカバーではさらに端末の落下保護性能が提供され、取り外しが容易で、すべての端末機能に対する完全なアクセスが可能となります。



図 73 : T2シリーズ端末カバー

- 本端末カバーは、端末を充電器にセットする際に取り外す必要があります。これを行わないと、端末と充電器の両方に損傷を与えるかもしれません、

T5/A500 エラストマー スキン カバー仕様

生地	熱可塑性エラストマー (Dynaflex G2755)
----	-----------------------------

A500、T5シリーズ端末に対するカバーの取り付け

1. 端末がオフになっていない場合は、LEDインジケータが赤に変わり、オフになるまで、黄色の[再生/一時停止]ボタンを押したままにします。
2. すべての周辺機器を取り外します。
3. 電池の挿入区画が上を向き、端末ボタンが手前にくるように端末を持ちます。
4. 端末の接続ポート側にカバーの開口部をスライドします。端末の下部に位置する、カバーを適切に固定するためのタブの後ろをスライドするように、カバーを丁寧に引っ張ります。



図 74 : T5シリーズ端末に対するカバー取り付け

5. 端末の丸くなった側にカバーの丸まった側を伸ばしします。
6. 使用する周辺機器を取り付けます。

第 6 章

Talkman T2シリーズ



図 75 : Talkman T2x

Talkman™ T2xは、軍規格および国際規格に適合した堅牢な音声認識端末です。工業環境で想定されるさまざまな衝撃、粗雑な取り扱い、水濡れ、腐食しやすい条件に対する耐性を備えています。

Talkman T2シリーズの機能

- Wi-Fiネットワークのサポートと豊富なメモリ容量により、RF通信の中断時にも動作を継続
- 標準と大容量の2つの電池オプションにより、多様な倉庫のニーズに対応
- 高性能電池が、凍結の起こる条件でも継続的に電源を供給
- 人間工学に基づいた設計と堅牢なベルト クリップにより、快適かつ簡単なアクセスが可能
- 4ボタン インターフェイスで操作が簡単
- 2つの接続ポイントが、スキャナやプリンタなどの周辺機器に対応

T2シリーズ仕様：Talkman T2xおよびTalkman T2

重量	10.80 オンス 標準電池を含む: 15.50 オンス (439.42 g) 大容量電池を含む: 18.40 オンス (521.63 g)
長さ	6.5" (16.5 cm)
幅	3.38" (8.59 cm)
奥行き	1.5" (3.81 cm)
I/Oポート	<ul style="list-style-type: none">• ヘッドセット ポート(黄色)• 音声出力およびRS-232シリアル対応のメンテナンス ポート (赤)• RS-232のデコード済みバーコード対応のバーコード ポート (青)
動作温度	-22°~122° F (-30°~ 50° C)

保管温度	-30°~140° F (-34°~ 60° C)
落下テスト済み	MIL STD -810Fの衝撃および振動仕様に適合。 さらに端末では、次の仕様に基づいて試験が実施されました： <ul style="list-style-type: none"> 磨かれたコンクリート上に5フィートの高さから25回落下後、さらに6フィートの高さから10回落下 磨かれたコンクリート上に-20° F (-29° C) で5フィートの高さから角度を変えて10回落下
湿度	100%結露
保護等級	IP67

注: パッケージは製品の出荷条件により異なります。一般に、梱包材料は総出荷重量の約15%です。

T2シリーズ端末の充電



図 76 : Talkman T2シリーズ電池

T2シリーズの電池には、標準モデルと大容量モデルがあります。標準電池は端末にセットしても、電池部分が端末からはみ出すことはありません。大容量電池は標準電池よりも長い時間使用できます。

注意: T2シリーズとA500/T5シリーズの電池は、相互利用できません。端末に誤った電池をセットしようとすると、端末や電池に損傷を与える可能性があります。

T2シリーズの電池は、端末にセットしたまま充電できるように設計されています。

T2シリーズ大容量電池仕様

T2x 端末は標準または大容量電池を使用できます。

標準電池重量	4.7 オンス (133.24 g)
大容量電池重量	7.6 オンス (215.46 g)

電氣的仕様

- セル：この大容量電池パックでは、4つのリチウム イオン セルを使用しています。
 - 公称電圧 = 7.2V
 - ワット時 = 27WHr (標準のT2x電池は14WHr)
- 保護回路特性：この電池パックには、セルにおける低電圧状態と過電圧状態を回避し、プラス端子とマイナス端子の短絡により生じる損傷から電池パックを守るための、保護回路は備わっています。
- サーミスタ：この電池パックにはNTC (Negative Temperature Coefficient) サーミスタが含まれています。本充電器ではこのサーミスタを挟んだ電圧降下を用いて、充電中の電池パックが適切な温度内にあることを確認しています。
- 電池ID：この電池パックには、Dallas SemiconductorのDS2401シリアルIDチップが含まれています。将来的には、このチップを用いて電池寿命、容量監視、資産管理等の機能に関するデータを提供するように、端末および端末ソフトウェアの機能が強化される予定です。
- 電池の充電：本電池パックの充電はVocollect製の充電器でのみ行う必要があります。

機械的仕様と環境仕様

- 落下テスト仕様：この大容量電池は、MIL STD 810Fの衝撃およびトランジェント落下基準に適合しています。
- 環境仕様：本電池パックは、水やホコリから内部を守るために、超音波溶接により結合されています。
- この電池は次の条件下で適切に動作します：

温度：-20°C～50°C (-4°F～122°F) 湿度：95% 非結露 雨/ホコリ：IP67

電池に関する通知

Talkman電池に対する通知は次のレベルで発生します：

- 最初の警告 = 3,550 mV
- 重要警告 = 3,350 mV

T2シリーズ端末の充電

- 充電器の電源がオンになっていることを確認します。充電器がオンになっている場合には、そのオレンジのLEDインジケータが点灯します。
- 必要であれば端末をサインオフします。
- LEDインジケータが赤に変わり、オフになるまで、黄色の[再生/一時停止]ボタンを押したままにします。

 注：端末は、充電器に入れる前に必ずしも電源をオフにする必要はありません。
- 端末をベルト クリップから外します。
- 他の周辺機器を取り外します。端末にカバーが付いている場合には、それも取り外してください。
- 端末をボタンコントロールが正面から見て左側になるように、端末充電スロットの1つにセットします。



図 77 : T2シリーズ端末の充電器への挿入

⚠ **注意:** 端末は、必ずヘッドセットや他の周辺機器を外してから、端末充電器にセットしてください。端末を充電器に置くときは、端末から電池を取り外さないでください。

7. ウェアラブル コンピュータを充電器にセットしたら、ウェアラブル コンピュータのLEDインジケータが点灯し、緑色の点滅を開始することを確認します。
 - a) 30秒経ってもLEDが点灯しない場合は、充電スロットからウェアラブル コンピュータを取り外し、セットしなおしてください。
 - b) それでもLEDインジケータが点灯しない場合には、別の充電スロットを試してください。

⚠ **注意:** 端末のLEDインジケータが赤色で点滅している場合は、端末を端末充電器から取り出さないでください。

充電器からのA500、T2シリーズ、T5シリーズ端末の取り外し

端末は、LEDインジケータが緑色で点滅すれば、いつでも利用可能です。LEDが赤く点滅している場合は、利用準備が整っていません。

⚠ **重要:** 端末で赤い点灯が継続して確認される場合には、システム管理者に問い合わせてください。

1. 端末の利用準備が整っていることを確認します。
2. 端末を引き上げ、端末充電器から取り外します。



図 78 : 充電器からの端末の取り外し

Talkman A500、T5またはT2シリーズ端末への電池挿入

挿入する電池が完全に充電されていることを確認してください。

1. 黄色と赤色のポートが視線に対して向こう側になるようにTalkmanを持ちます。
2. ピンが視線に対して向こう側になり、Vocollectのロゴが見える向きで電池を持ちます。
3. 電池のピン側を適切な角度で差し込みます。

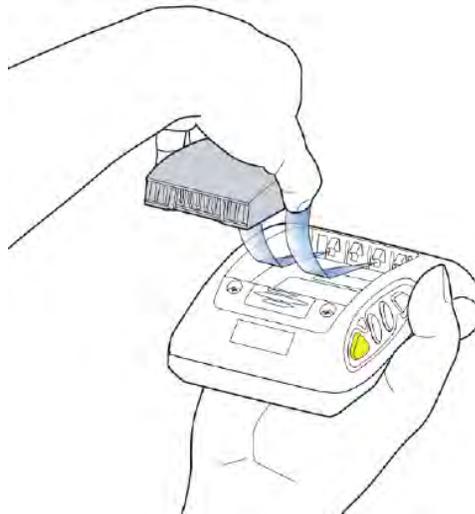


図 79 : 電池の適切な挿入

4. 電池の後ろ側を押すことで、適切な位置に納めます。
電池が適切な位置に納まると「カチッ」という音が聞こえます。
- ⚠ 注意: 電池を無理やりに押し込んではいけません。電池や端末に損傷を与える可能性があります。適切な位置への電池の固定が容易に行えない場合には、電池を配置しなおしたうえで、再度お試しください。

電池が完全にセットされ、取り外しボタンを押さない限り外れない状態にあることを確認してください。

Talkman A500、T5またはT2シリーズ端末からの電池の取り外し

Talkmanウェアラブル コンピュータがオフであることを確認します。

注意: LEDインジケータがオフになるまで、電池を外してはいけません。端末がオンあるいは休止状態にある場合での電池の取り外しは、収集データの破壊につながる可能性があります。

1. 電池挿入区画と向きあうように、片手にウェアラブル コンピュータを持ちます。
2. 電池挿入区画から電池上部が持ちあがるまで、電池の取り外しボタンを完全に押し込みます。



図 80 : 端末からの電池の取り外し

3. 挿入区画から電池を持ちあげ、取り外します。

電池のウォームアップ時間

寒冷環境で利用した電池の充電は、十分なウォームアップ時間を経るまで始まりません。

電池の使用環境	ウォームアップに必要なおよその時間
-4°C (24.8°F)	6分
-10°C (14.0°F)	10分
-20°C (-4°F)	22分
-30°C (-22°F)	30分

LEDインジケータについて

Vocollect Talkman端末とSRX/SRX2ヘッドセットおよびその充電器には、装置の状態を示すLEDがあります。これらのLEDはオン、オフまたは点滅します。一部のケースではLEDは2つの色を交互に点滅する場合があります。

問題があることをLEDが示した場合、トラブルシューティングの手順を参照して問題を解決してください。「LEDで示される問題のトラブルシューティング」も参照してください。

T2シリーズ端末のLEDインジケータ

LED	状態	T2シリーズ
緑	点灯	<p>端末がオン</p> <p>さらに、次のいずれかです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 音量調整 雑音のサンプリング 単語の再トレーニング アクティブな作業員の変更 次の音声入力の後： <ul style="list-style-type: none"> 「Talkmanヘルプ」 「Talkman繰り返し」 「Talkman続行」 「Talkman戻る」
	速い点滅	端末が充電器内にある
	遅い点滅	<p>次のいずれかです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 端末が充電器外で休止モードにある 音声アプリケーションの選択メニューを使用中 ソフトウェアの特定部分を読み込み中
赤	短く点灯	<p>端末が起動中</p> <p>端末が終了中</p>
	継続して点灯	エラー。システム管理者に問い合わせてください
	点滅	<p>次のいずれかです。</p> <ul style="list-style-type: none"> VoiceConsoleから作業員を取得、読み込み中 VoiceConsoleから音声アプリケーションを取得、読み取り、読み込み中 ソフトウェアの特定部分を読み込み中
赤/緑	交互点滅	<p>端末がサーバからIPアドレスを取得中。IPが取得できない場合、端末はオフになる。</p> <p>T2シリーズのみ</p>
琥珀/黄色	遅い点滅	<p>T2の場合のみ、つぎのいずれかです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 端末が充電器にセットされておりVoiceConsoleが接続できない。 充電器の簡単設定が不正である。

T2シリーズとHoneywell MS9535の接続

1. Honeywell MS9535 VoyagerBTレーザーバーコードスキャナに電源ケーブルを差し込み、コンセントにつなぎます。
2. 初めて使用する場合は、使用する前にスキャナを数時間充電してください。
3. Vocollect作業のオプションをパリティなし、9600ボー、1ストップビット、CR/LF終端、ワード長8、電源常時オンに設定します。
4. バーコードソフトウェアを使用して、Vocollect T2x Bluetooth Serial AdapterとHoneywellリーダーを動的に組み合わせるバーコードを生成します。このバーコードをスキャンすると、スキャナがこの特定のシリアルアダプタに関連付けられるようにプログラムされます。

 注: バーコードリーダーがTalkman端末との通信範囲外にある場合は、Talkman端末との組み合わせが解除される可能性があります。この場合は高音/低音のピープ音が聞こえます。バーコードリーダーをTalkman端末にさらに近づけて、それらを再度関連付けてください。組み合わせが完了すると低音/高音のピープ音が聞こえます。

アクセサリ

Vocollectでは、Talkman端末やその他のハンドヘルド端末の装着、保護、および操作の支援を目的とした様々なアクセサリを提供しています。

ベルトとベルトクリップ

作業員はVocollectで販売する専用ベルトに端末を装着します。ベルトへの端末取り付けは、専用のクリップを用いて行います。米政府の安全基準を遵守するには、端末はVocollectのベルトおよびクリップと共に使用しなくてははいけません。



図 81 : クリップ付きベルト

ベルトおよびクリップの使用

専用のベルトやショルダーハーネスに端末を取り付けるには、ベルトやハーネスと共に提供されるスリムベルトクリップが必要です。

- T2シリーズスリムブルーベルトクリップ：端末を専用のベルトに装着します。

- T5/A500ブラック ベルト クリップ：T5またはA500端末をベルトに装着します。
- このクリップは、シフトの最初からベルトに取り付けておく必要があります。これにより、作業員はクリップに対する端末の脱着を必要に応じて行うことが可能になります。

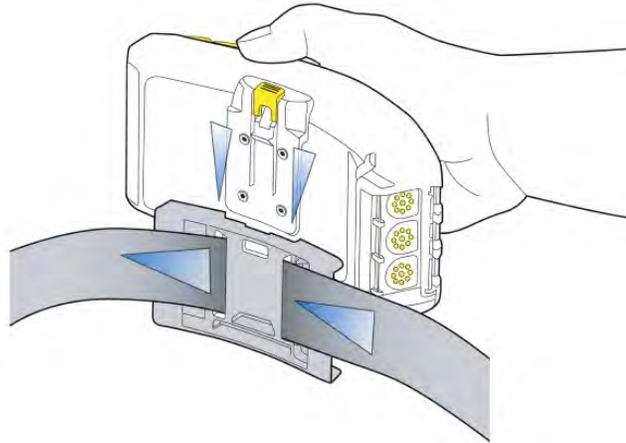


図 82：ベルト クリップへの端末取り付け

- Vocollectでは、端末を体の右側に装着し、そのボタンを上に向けた状態で、コネクタを背中に向けて這わすことを強く推奨しています。
- ベルトやショルダーハーネスには、A500やT5シリーズの端末が装着できます。

Tシリーズのベルト仕様

Tシリーズのベルト サイズ

サイズ	寸法
XS	18" - 26" (46cm-66cm)
S	24" - 32" (61cm-81cm)
M	28" - 36" (71cm-91cm)
L	34" - 42" (61cm-107cm)
XL	40" - 48" (102cm-122cm)
XXL	46" - 54" (117cm-137cm)
XXXL	52" - 60" (132cm-152cm)

ベルト仕様

ベルト材料	ナイロン
Velcro®	YKK製面ファスナー
ベルト ファスナー	ITW Nexus 127-3200

端末カバー

Vocollectでは、オプションで端末用の保護カバーを提供しています。

- 端末カバーの使用は必須ではありませんが、Vocollectでは外観の維持と製品寿命を延ばすのに役立つカバーの使用を強く推奨しています。
- 冷凍環境では、保護カバーを使用することにより電池寿命を延ばすことが可能です。



図 83 : T5エラストマー スキン カバー

- 本端末カバーは、端末を充電器にセットする際も取り外す必要がありません。
- EXOスケルトンカバーではさらに端末の落下保護性能が提供され、取り外しが容易で、すべての端末機能に対する完全なアクセスが可能となります。



図 84 : T2シリーズ端末カバー

- 本端末カバーは、端末を充電器にセットする際に取り外す必要があります。これを行わないと、端末と充電器の両方に損傷を与えるかもしれません、

T2シリーズ端末カバー仕様

生地	バリスティック ナイロン、1050デニール黒 ナイロン タフタ、80デニール黒
フォーム	独立気泡フォーム（厚み：1/8"）
透明ビニル スリーブ	ダブル ポリッシュ 0.06
糸剤	T-70ナイロン、サイズ69
Cordura 1000	エッジ バインディング用バイアス テープに使用
Velcro®	カバー フラップを下げたままにするために使用

T2シリーズ端末に対するカバー取り付け

1. 端末がオフになっていない場合は、LEDインジケータが赤に変わり、オフになるまで、黄色の[再生/一時停止]ボタンを押したままにします。
2. すべての周辺機器を取り外します。

Vocollect T2シリーズBluetoothアダプタ仕様

T2x Bluetoothシリアルアダプタ（部品番号：BC-611-105）は、T2シリーズBluetoothアダプタ（部品番号：BC-611-104）の後継機種です。T2シリーズは廃止となりました。



図 85 : T2x Bluetoothシリアル アダプタ

T2x Bluetoothシリアル アダプタ	
アンテナ	統合
ボーレート	921,600 KB/s
動作温度	0°~70° C (32°~158° F)
動作湿度	20%~75% 非結露
保管温度	8%~95% 非結露
範囲	32.8フィート(10m)
シリアルCOMインターフェイス規格	RS-232、9ピン、オス
準拠	Bluetooth 1.1認定済み AEO C-TPAT WEEE RoHS EMC : CE F C C 準拠 TAA

T2x Bluetoothシリアルアダプタ	
Bluetoothプロファイル	シリアルポート

旧型T2シリーズBluetoothアダプタ	
アンテナ	Bluetooth Class 2統合モジュール
ボーレート	9600 bps
動作温度	-20°~85° C (-4°~185° F)
湿度	5%~95% 非結露
保管温度	-40°~95° C (-40°~203° F)
範囲	約 10m (32.8フィート)
シリアルCOMインターフェイス規格	RS-232
準拠	Bluetooth 1.1 FCC:Part 15, Class B Industry Canada CD:ETC 300 328, ETC 300 826 C-Tick S.182
Bluetoothプロファイル	シリアルポート

BluetoothのワードマークおよびロゴはBluetooth SIG, Inc.の所有物であり、Honeywellによるこれらのマークの使用はライセンスに基づくものです。その他の商標および商号は各所有者に帰属します。

Bluetoothシリアルアダプタの作業パラメータの詳細については、VoiceConsoleのヘルプを参照してください。

T2シリーズとHoneywell MS9535の接続

1. Honeywell MS9535 VoyagerBTレーザーバーコードスキャナに電源ケーブルを差し込み、コンセントにつながります。
2. 初めて使用する場合は、使用する前にスキャナを数時間充電してください。
3. Vocollect作業のオプションをパリティなし、9600ボー、1ストップビット、CR/LF終端、ワード長8、電源常時オンに設定します。
4. バーコードソフトウェアを使用して、Vocollect T2x Bluetooth Serial AdapterとHoneywellリーダーを動的に組み合わせるバーコードを生成します。このバーコードをスキャンすると、スキャナがこの特定のシリアルアダプタに関連付けられるようにプログラムされます。

 注: バーコードリーダーがTalkman端末との通信範囲外にある場合は、Talkman端末との組み合わせが解除される可能性があります。この場合は高音/低音のビーブ音が聞こえます。バーコードリーダーをTalkman端末にさらに近づけて、それらを再度関連付けてください。組み合わせが完了すると低音/高音のビーブ音が聞こえます。

第 7 章

Talkman T1



図 86 : Talkman T1

Talkman™ T1は、Vocollectが提供する、乾燥、非凍結環境向けの軽作業用音声認識端末です。この端末は、ホルスターに入れて装着し、SL-4 Light Industrial Behind-the-Head Headsetとのみ使用できます。

この端末とヘッドセットのソリューションは、VocollectのSRシリーズのヘッドセットと比較して、SL-4スピーカーとヘッドが離れているので、騒音が少ない作業場に最適です。したがって、ユーザは環境に合わせて、端末の音量を適切に設定する必要があります。もっとも音声認識性能については、Talkman T1は他のTalkman端末と同等の性能を備えています。

T1仕様：Talkman T1

重量	5.3 オンス (150 g) (標準バッテリーを入れた状態)	
長さ	100 mm	
幅	51.5 mm	
奥行き	24 mm	
動作温度	32°~122° F (0°~ 50° C)	
保管温度	-40°~158° F (-40°~ 70° C)	
落下テスト済み	本端末は落下の繰り返しに耐えられるようには設計されていません。端末のテストは次の仕様に基づき行われました： <ul style="list-style-type: none">4フィートの高さから18回の落下	

湿度	5~95% 非結露	
保護等級	IP54	

 注: パッケージは製品の出荷条件により異なります。一般に、梱包材料は総出荷重量の約15%です。

T1の充電

T1電池は、端末にセットしたまま充電することも、端末から取り外してVocollect充電器で充電することもできます。

 注: 空のT1電池を充電するには、4.5~5時間かかります。

T1電池仕様

電氣的仕様

- セル: この電池パックでは、リチウム イオン セルを1つ使用しています。
 - 公称電圧 = 3.7V
 - ワット時 = 7.3Whr
- 保護回路特性: この電池パックには、セルにおける低電圧状態と過電圧状態を回避し、プラス端子とマイナス端子の短絡により生じる損傷から電池パックを守るための、保護回路は備わっています。
- 本電池パックには温度測定に用いる専用の電子回路が含まれています。
- 電池の充電: 本電池パックの充電はVocollect製の充電器でのみ行う必要があります。

機械的仕様と環境仕様

- 落下テスト仕様: この電池は、衝撃およびトランジェント落下基準に適合しています。
- 環境仕様: 本電池パックは、水やホコリから内部を守るために、超音波溶接により結合されています。この電池は次の条件下で適切に動作します:

動作温度: 0°C~50°C (32°F~122°F) 保管温度: -40°C~70°C (-40°F~158°F) 湿度: 95% 非結露 雨/ホコリ: IP54

電池に関する通知

Talkman電池に対する通知は次のレベルで発生します:

- 最初の警告 = 3,550 mV
- 重要警告 = 3,350 mV

端末内のT1電池の充電

- ウェアラブル コンピュータをホルスタから外します。
- ウェアラブル コンピュータからヘッドセットを取り外します。
- ウェアラブル コンピュータを充電器の空きスロットに差し込みます。

4. ウェアラブル コンピュータを充電器にセットしたら、ウェアラブル コンピュータのLEDインジケータが緑色で点灯することを確認します。
 - a) 30秒経ってもLEDが点灯しない場合は、充電スロットからウェアラブル コンピュータを取り外し、セットしなおしてください。
 - b) それでもLEDインジケータが点灯しない場合には、別の充電スロットを試してください。

 **注意:** ヘッドセットを外すことなく、充電器に端末を差し込もうとしてはいけません。

T1 10-ベイ統合充電器によるT1電池の充電

1. Talkmanウェアラブル コンピュータから電池を取り外します。
2. 端子を上向きにし、視線の向こう側になるように電池を持ちます。
3. 電池を充電器正面の空き電池スロットにセットします。

T1単一充電器ケーブルによるT1電池の充電

1. ケーブルのI/Oコネクタ側面をつかんで、ひねります。
2. T1のコネクタにI/Oコネクタを取り付け、I/Oコネクタを放します。I/Oコネクタは、その平らな側が端末の正面と共に正面を向くようにしてください。
3. 充電ケーブルのもう一方をプラグケーブルのバレル ジャックに差し込みます。
4. 充電器を電気コンセントに接続します。

T1 10-ベイ統合充電器からのT1端末の取り外し

 **注:** 端末は、LEDインジケータが緑色に点灯すれば、いつでも利用可能です。LEDが琥珀色に点灯している場合は、利用準備が整っていません。

 **重要:** 端末で赤い点灯が確認される場合には、システム管理者に問い合わせてください。

1. 端末の利用準備が整っていることを確認します。
2. 端末を引き上げ、端末充電器から取り外します。

T1単一充電器ケーブルからのT1端末の取り外し

 **注:** 端末は、LEDインジケータが緑色に点灯すれば、いつでも利用可能です。LEDが琥珀色に点灯している場合は、利用準備が整っていません。

 **重要:** 端末のLEDで赤い点灯が継続して確認される場合には、システム管理者に問い合わせてください。

1. 電気コンセントから充電器を取り外します。
2. ケーブルのI/Oコネクタ側面をひねり、T1端末から取り外します。ケーブルのコードを引っ張ってはいけません。

Talkman T1端末への電池挿入

挿入する電池が完全に充電されていることを確認してください。

1. 電池の挿入区画と向きあう形でTalkmanを持ちます。
2. 端子を下向きにし、視線の向こう側になるように電池を持ちます。
3. 最初に電池の端子と反対側を適切な角度で差し込みます。
4. 電池の下側を押すことで、適切な位置に納めます。
電池が適切な位置に納まると「カチッ」という音が聞こえます。

 **注意:** 電池を無理やりに押し込んではいけません。電池や端末に損傷を与える可能性があります。適切な位置への電池の固定が容易に行えない場合には、電池を配置しなおしたうえで、再度お試しください。

電池が完全にセットされ、取り外しボタンを押さない限り外れない状態にあることを確認してください。

Talkman T1端末からの電池の取り外し

Talkmanウェアラブル コンピュータがオフであることを確認します。

 **注意:** LEDインジケータがオフになるまで、電池を外してはいけません。端末がオンあるいは休止状態にある場合での電池の取り外しは、収集データの破壊につながる可能性があります。

1. 電池挿入区画と向きあうように、片手にウェアラブル コンピュータを持ちます。
2. リリース ボタンを引き上げ、電池を引き抜いてください。

電池のウォームアップ時間

寒冷環境で利用した電池の充電は、十分なウォームアップ時間を経るまで始まりません。

電池の使用環境	ウォームアップに必要なおおよその時間
-4°C (24.8°F)	6分
-10°C (14.0°F)	10分
-20°C (-4°F)	22分
-30°C (-22°F)	30分

LEDインジケータについて

Vocollect Talkman端末とSRX/SRX2ヘッドセットおよびその充電器には、装置の状態を示すLEDがあります。これらのLEDはオン、オフまたは点滅します。一部のケースではLEDは2つの色を交互に点滅する場合があります。

問題があることをLEDが示した場合、トラブルシューティングの手順を参照して問題を解決してください。「LEDで示される問題のトラブルシューティング」も参照してください。

T1端末のLEDインジケータ

LED	状態	T1
緑	点灯	端末がオン さらに、次のいずれかです。 <ul style="list-style-type: none"> • 音量調整 • 雑音のサンプリング • 単語の再トレーニング • アクティブな作業員の変更 • 次の音声入力の後： <ul style="list-style-type: none"> • 「Talkmanヘルプ」 • 「Talkman繰り返し」 • 「Talkman続行」 • 「Talkman戻る」
	速い点滅	端末が充電器内にある
	遅い点滅	次のいずれかです。 <ul style="list-style-type: none"> • 端末が充電器外で休止モードにある • 音声アプリケーションの選択メニューを使用中 • ソフトウェアの特定部分を読み込み中
赤	短く点灯	端末が起動中 端末が終了中
	継続して点灯	エラー。システム管理者に問い合わせてください
	点滅	次のいずれかです。 <ul style="list-style-type: none"> • VoiceConsoleから作業員を取得、読み込み中 • VoiceConsoleから音声アプリケーションを取得、読み取り、読み込み中 • ソフトウェアの特定部分を読み込み中
琥珀/黄色	オフ	充電中でない
	点灯	充電中

アクセサリ

Vocollectでは、Talkman端末やその他のハンドヘルド端末の装着、保護、および操作の支援を目的とした様々なアクセサリを提供しています。

T1ホルスタ



図 87 : T1ホルスタ

T1端末の装着は専用のホルスタを用いて行います。ホルスタは、Vocollectから購入可能な工業グレードベルトあるいは他のベルトにクリップ留めすることが可能です。ホルスタは端末や電池を損傷あるいは他のベルトから保護します。

T1ホルスタ仕様

ホルスタ仕様

ベルト材料	ナイロン
ベルト ファスナー	交換不可

Tシリーズのベルト仕様

Tシリーズのベルト サイズ

サイズ	寸法
XS	18" - 26" (46cm-66cm)
S	24" - 32" (61cm-81cm)
M	28" - 36" (71cm-91cm)
L	34" - 42" (61cm-107cm)
XL	40" - 48" (102cm-122cm)
XXL	46" - 54" (117cm-137cm)
XXXL	52" - 60" (132cm-152cm)

ベルト仕様

ベルト材料	ナイロン
Velcro®	YKK製面ファスナー
ベルト ファスナー	ITW Nexus 127-3200

T1ホルスタの使用

1. ホルスタの入り口が上を向いていることを確認します。
2. クリップを下にスライドしてベルトに付けます。
3. T1端末を挿入します。

第 8 章

Vocollect有線ヘッドセット

作業員は、マイクの付属したヘッドセットを使用して指示を聞いたりそれに応答したりして、端末とやり取りを行います。端末は作業員の応答に応じて、データメッセージをホストコンピュータに送信します。

Vocollectでは、様々な環境や装着方法に対応した様々な有線ヘッドセットを提供しています。SR-20は、多くの場合、最も広く使用される汎用ヘッドセットです。他のモデルとして、ビハインドヘッド型、軽工業型、ヘルメット型の各オプションが提供されています。ヘッドセットは、次の機能を備えています。

- 双方向雑音低減マイクにより、最適な雑音除去を行います。
- ウィンドスクリーンが、端末による音声認識を妨げる呼吸雑音やその他の背景雑音を軽減します。
- コンポーネントが腐食しないように封止されています。
- デュアルストラップ、パッド付き、ステンレススチールのヘッドバンドにより快適さと安定性が増します。
- シングルストラップで軽量なヘッドバンドは、個人に合わせて調整が可能です。
- シングルカップモデルでは、イヤークップが上下左右に回転するように設計されているので、左右いずれの耳にも装着できます。
- デュアルカップモデルは、騒音の多い環境向けに雑音除去機能が強化されています。
- スポンジ状のイヤerpッドは交換が迅速で簡単です。
- イヤーピースの外側の回転レバーを使用すると、マイクロフンブームに無理なくマイクロフンを上下に動かせます。
- マイクの位置は変更してもまた元に戻せます。ブームを回しながら下げて適切な位置に合わせると、溝に引っ掛かります。

Vocollect Voice™ システムで使用されるヘッドセット、マイク、コード、およびコネクタは、繊細な電子機器です。その性能を長く維持するには、適切な注意をはらってください。

詳細については、「[ヘッドセットとマイクロフンの手入れ](#)」を参照してください。

- ❗ **重要:** 衛生上の観点から、複数の作業員が同じヘッドセットを共用することは好ましくありません。SRX2 Wireless Headsetは、ヘッドバンドとウィンドスクリーンから電子モジュールを取り外せるようになっています。電子モジュールはシフトの異なる作業員間で共用できるので、衛生面にある程度配慮しながらコストを削減できます。

SL-4、SL-14 Vocollect Light Industrial Behind-the-Head Headset

SL-4およびSL-14ヘッドセットは軽作業環境で作業を行うユーザー向けに設計されたビハインドヘッド型ヘッドセットです。これらのヘッドセットのデザインは、髪型、かぶりもの、あるいは装着感の理由で一般的な頭にかけるタイプのヘッドセットを使用できないユーザーにとって魅力的なものです。SL-4はTalkman T1端末で動作し、SL-14はTalkman T2およびT5シリーズの端末で動作します。

- 📄 **注:** これらの軽量で修理不能なヘッドセットは、「Proper Use and Care」の指示に従わないと故障につながる可能性があります。詳細はヘッドセットに付属の「Proper Use and Care」ドキュメントを参照してください。



図 88 : SL-14 Light Industrial Behind-the-Head Headset



図 89 : SL-4 Light Industrial Behind-the-Head Headset

- ビハインドヘッド型のSLヘッドセットは音声認識に特化して設計された軽作業用のヘッドセットです。これらのヘッドセットは、付属の調整可能なヘッドバンドにより、すべてのユーザーが快適に装着できます。
- ビハインドヘッド型のSLヘッドセットには右耳用と左耳用があります。これらは注文時に指定が可能です。

加えて、SL-14およびSL-4はあまり目立たないように設計されており、外部から見られたり、外部とのやり取りが想定される作業環境に適しています。

- 本ヘッドセットは結露のない環境での利用を想定して設計されています。
- 本ヘッドセットは、安全な操作と安定性向上のために、付属のクリップを用いて衣服にコードが固定されるように注意しながら、適切に使用してください。

SL-14 Vocollect® Light-Industrial, Behind-the-Head Headset 仕様

重量	2.19 オンス (62 g) ケーブル 1.13 オンス (32 g) ケーブルなし
動作温度	0°C~50°C (32°F~122°F)
保管温度	-40°C~70°C (-40°F~158°F)
湿度	5~95% 非結露
保護等級	IP54準拠

雑音除去率	該当なし
-------	------

📄 注: パッケージは製品の出荷条件により異なります。一般に、梱包材料は総出荷重量の約15%です。

SL-4 Vocollect® Light-Industrial, Behind-the-Head Headset 仕様

重量	2.19 オンス (62 g) ケーブル 1.13 オンス (32 g) ケーブルなし
動作温度	0°C ~ 50°C (32°F ~ 122°F)
保管温度	-40°C ~ 70°C (-40°F ~ 158°F)
湿度	5~95% 非結露
保護等級	IP54準拠
雑音除去率	該当なし

📄 注: パッケージは製品の出荷条件により異なります。一般に、梱包材料は総出荷重量の約15%です。

SL-14/SL-4 Behind-the-Head Headsetの装着

1. ヘッドセットの調整ヘッドバンドを調整し、頭にぴったりと合うようにします。
2. ヘッドセットを頭の後ろに当て、イヤーループを耳の上に乗せます。
3. マイクをできるだけ口の近くに、ただし息が直接かからない位置に調整します。上唇の方を向け、何にも触れないようにします（衣類、皮膚、顔の産毛など）。
4. ヘッドセットのコードが自然に背中に回るよう、シャツやジャケットの襟または上部にクリップ留めします。これにより、コードが胸元や腕から離れ、作業を妨げることがなくなります。
5. コードを身体の後ろに垂らし、端末の近くのベルトに留めます。
6. ヘッドセットと端末を接続します。

Talkman T1 端末および SL-4 / SL-14 Vocollect® Light-Industrial Behind-the-Head Headset の適切な使用および取り扱い

お客様が購入された機器は工場で詳細な検査を受けています。結露、水ぬれ、凍結の起こる条件での使用を含め、不適切な使用は想定しておりません。以下の注意事項は、機器が仕様通りの性能を発揮するためのものです。不適切な使用、または管理により機器の損傷を招くことがあります。Vocollectは以下の項目を含めこれに限らず、不適切な使用、管理、不注意や間違った使い方により発生した損傷については、修理や交換の責任を負いません。そのような場合には、元の機器の使用年数や保証条件にかかわらず、交換用ヘッドセットの購入が必要になります。





SR-10 and SR-15 Vocollect Behind-the-Head Headset

SR-15ヘッドセットはTalkman T2やT5シリーズ端末の利用時に、髪型等の理由で一般的な頭にかけるタイプのヘッドセットを使用できないユーザー向けに設計されています。

SL-10ヘッドセットはTalkman T2およびT5シリーズで使用されていた旧型のヘッドセットであり、現在はサポートのみが行われ、生産と販売は終了しています。



図 90 : SR-15 Behind-the-Head Headset

- ビハインドヘッド型ヘッドセットは、特に工場や倉庫環境における音声認識を目的に開発された堅牢なヘッドセットです。付属の調整可能なヘッドバンドにより、すべてのユーザーが快適に装着できます。
- 本ビハインドヘッド型ヘッドセットは作業員によって右耳用か左耳用に調整が可能です。
- SR-10 ヘッドセットは結露のない環境での利用を想定して設計されています。
- 対称に設計されたイヤーループはどちらの耳にも装着可能です。
- Vocollectでは、安全な操作とヘッドセットの安定性向上のために、付属のクリップを用いた衣服へのコード固定を強く推奨しています。
- コードの固定が困難な場合には、ヘッドバンドの中央近辺でクリップ留めを行い、コードの重みよる負荷が均等に分配されるようにしてください。

SR-15 Vocollect® Behind-the-Head Headset 仕様

重量	3.4 オンス (96 g) ケーブル 2.0 オンス (58 g) ケーブルなし
動作温度	-40°F ~ 122°F (-40° ~ 50°C)

保管温度	-40°F ~ 158°F (-40° ~ 70°C)
落下テスト済み	次の仕様に基づいて試験が実施されました： <ul style="list-style-type: none"> • -30° ~ 50° Cで2.1mの高さから15回落下 • -30° ~ 50° Cで1.8mの高さから50回落下
保護等級	IP67準拠
湿度	5-90% 非結露
雑音除去率	該当なし

 注: パッケージは製品の出荷条件により異なります。一般に、梱包材料は総出荷重量の約15%です。

SR-15 Behind-the-Head Headset の装着

1. ヘッドバンドの後方にあるヘッドバンド コード クリップのケーブルを弛め、イヤーループからスピーカーを離すために十分な緩みを与えます。
2. ヘッドセットのヘッドバンドに対して水平になるように調整ストラップ上のナイロンバンドを調整します。
3. ヘッドセットのイヤーループを持って少し広げます。
4. ヘッドセットを頭の後ろに当て、イヤーループを耳の上に乗せます。
5. ヘッドセットのスピーカが耳にぴったり合うように調整します。
6. マイクをできるだけ口の近くに、ただし息が直接かからない位置に調整します。上唇の方を向け、何にも触れないようにします（衣類、皮膚、顔の産毛など）。
7. ヘッドセットのコードを、シャツやジャケットの適切な個所にクリップ留めします。
8. コードを身体の後ろに垂らし、端末の近くのベルトに留めます。端末カバーを使用している場合は、下部のクリップをカバーに直接留めることをお勧めします。
9. 後頭部に対してきつすぎない程度にしっかり固定されるようにヘッドバンドの後ろ側でナイロンストラップを調整します。ナイロンバンドの調整は、プラスチック製バックルをスライドして行うことが可能です。
10. ヘッドセットと端末を接続します。

SR-15 Behind-the-Head Headset の調整ストラップの取り外し

1. プランジャーのキーイングリブをストラップバレルのスロットと整列します。



図 91 : キーイングリブとスロット

2. キーイングリブ用スロットにキーイングリブがはまり、プランジャーの上部リップがバレルの上部に触れるまで、プランジャーを完全に押し込みます。
3. プランジャーを完全に押し込んだままの状態、調整ストラップのクリップを引き抜き、ヘッドセットから取り外します。



図 92 : 調整ストラップの取り外し

4. もう一方のクリップに対しても、これらのステップを繰り返します。

SR-15 Behind-the-Head Headset に対する調整ストラップの取り付け

1. プランジャーのキーイングリブをストラップバレルのスロットと整列します。
2. キーイングリブ用スロットにキーイングリブがはまり、プランジャーの上部リップがバレルの上部に触れるまで、プランジャーを完全に押し込みます。
3. プランジャーを押し込みながら、ヘッドバンドを調整ストラップバレルのスロットにはめ込みます。
4. もう一方のクリップに対しても、これらのステップを繰り返します。

SR-15ヘッドセットのヘッドバンドコードクリップの交換

1. ヘッドバンドコードクリップのプランジャーを完全に押し込んだままの状態、クリップからコードをゆっくりと引き抜きます。
2. (下記手順3の図から確認できる)2本のネジを取り外します。その際、#1サイズのフィリップス型(+)ドライバが必要です。備考：旧型のヘッドバンド部品の場合には、トルクスやアレン型ドライバが必要になるかもしれません。



図 93 : ヘッドバンドコードクリップに使用されるネジ頭部頂面の種類

3. 交換用部品(2)の溝にヘッドバンドコードを入れて、部品(2)を取りつけます。ヘッドバンドコードを挟んだ状態で、溝が揃うようにしておきます。

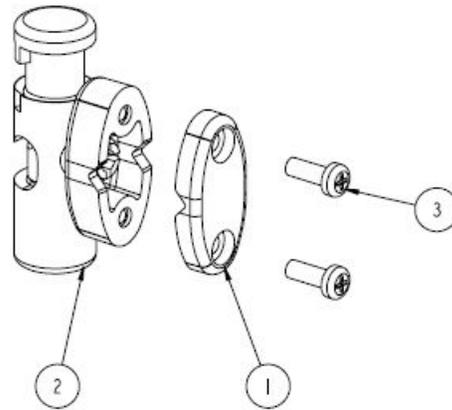


図 94 : 交換用ヘッドセットコードクリップ部品

4. 交換用部品に含まれる(3)のネジを、部品(1)の上から(2)に取り付けます。
5. 締め付けトルク0.34 Nm (3.0 in-lbs) でネジを取りつける事で、部品(1)と(2)が隙間なく組み合わせます。
6. プランジャーを完全に押し込んだままの状態、コードクリップにコードを取りつけます。

SR-15 ヘッドセットのイヤードット交換

1. ヘッドセットを取り外した状態で、ヘッドバンドを回転し、マイクロホン/スピーカー アセンブリから離します。
 - ヘッドセット背面の中央にケーブルが留められている場合には、それを外すか十分に緩ませることにより、マイクロホン/スピーカー アセンブリからヘッドバンドを離せるようにしてください。
2. 傷ついたフォーム カバーをスピーカー アセンブリから取り外します。
3. 新しいフォーム カバーを、3つの取り付けリブの1つに被せます。
4. 残りの2つの取り付けリブ上に、丁寧にフォームを引っ張ります。
5. マイクロホン/スピーカー アセンブリを回転し、ヘッドバンド側に戻します。適切な位置に納まると「カチッ」という音が聞こえます。

SR-20シリーズ Vocollect 軽量ヘッドセット



図 95 : SR-20軽量ヘッドセット

SR-20ヘッドセットは極端な温度差、結露、不慮の落下等、厳しい倉庫環境での苛酷な使用に耐えられるように開発されています。また、作業全体を通して快適さも保たれます。

SR-21ヘッドセットは、ハンドヘルド端末用に設計されたユニバーサルバージョンです。

SR-20 Vocollect® 軽量ヘッドセット仕様

重量	5.4 オンス (153 g) ケーブル 6.5 オンス (184 g) ケーブル (coiled cord) 3.9 オンス (110 g) ケーブルなし
動作温度	-40°~50°C (-40°F~122°F)
保管温度	-40°~70°C (-40°F~158°F)
落下テスト済み	次の仕様に基づいて試験が実施されました： <ul style="list-style-type: none"> • -40°~ 50° Cで2.1mの高さから15回落下 • -40°~ 50° Cで1.8mの高さから50回落下
保護等級	IP67準拠
湿度	5-95% 非結露
雑音除去率	該当なし

注: パッケージは製品の出荷条件により異なります。一般に、梱包材料は総出荷重量の約15%です。

SR-21ユニバーサル ヘッドセット仕様

重量	5.0 オンス (141 g) ケーブル 3.9 オンス (110 g) ケーブルなし
----	--

動作温度	-40°～50°C (-40°F～122°F)
保管温度	-40°～70°C (-40°F～158°F)
保護等級	IP67準拠
湿度	100% 結露
雑音除去率	該当なし

注: パッケージは製品の出荷条件により異なります。一般に、梱包材料は総出荷重量の約15%です。

SR-20シリーズ ヘッドセットのイヤーパード交換

1. ヘッドセットを取り外した状態で、マイクロホンブームを回転し、ヘッドセットヨークと揃えます。
2. ヘッドセットのヨーク側は片手に持ちます。もう一方の手でイヤーパースを反時計回りに10°回転させます。
3. イヤーパース部分をヘッドセットから取り外します。
4. 傷ついたフォームカバーを取り外します。
5. 黒いOリングガスケットが外側を向いた状態で、新しいイヤーパードをイヤーパードの取り付けディスク上に置きます。
イヤーパードの取り付けディスクに黒いOリングガスケットが付いていない場合には、実施内容が変わってきます。この場合は、黒いOリングガスケットを含むイヤーパードの取り付けディスク全体を交換する必要があります。
6. イヤーパースのキーをヘッドセットと整列し、取り付けディスクと接続します。
7. イヤーパースを時計回りに10°回転し、固定します。反対方向に回してもヘッドセットは固定されません。

SR-30 Vocollect ハイノイズ ヘッドセット



図 96 : SR-30ハイノイズヘッドセット

SR-31ヘッドセットは、ハンドヘルド端末用に設計されたユニバーサルバージョンです。

SR-30 Vocollect® ハイノイズ ヘッドセット仕様

重量	7.7オンス (218 g) ケーブル 6.2 オンス (175 g) ケーブルなし
動作温度	-40°~50°C (-40°F~122°F)
保管温度	-40°~70°C (-40°F~158°F)
落下テスト済み	次の仕様に基づいて試験が実施されました： <ul style="list-style-type: none"> • -40°~ 50° Cで2.1mの高さから15回落下 • -40°~ 50° Cで1.8mの高さから50回落下
保護等級	IP67準拠
湿度	5-90% 非結露
雑音除去率	平均6 db

 注: パッケージは製品の出荷条件により異なります。一般に、梱包材料は総出荷重量の約15%です。

SR-31ユニバーサル ヘッドセット仕様

重量	7.3オンス (206 g) ケーブル 6.2 オンス (175 g) ケーブルなし
動作温度	-40°~50°C (-40°F~122°F)
保管温度	-40°~70°C (-40°F~158°F)
保護等級	IP67準拠
湿度	100% 結露
雑音除去率	平均6 db

 注: パッケージは製品の出荷条件により異なります。一般に、梱包材料は総出荷重量の約15%です。

SR-35 Vocollect ヘルメット形ヘッドセット

SR-35ヘッドセットには、大部分の工業用ヘルメットに適用可能なビルトインクリップが付属しています。SR-35ヘッドセットはPeltorクリップに対応したスロットがあるヘルメットとのみ使用できます。このクリップはVocollectが別途販売しており。



図 97 : SR-35ヘルメット形ヘッドセット

SR-35をヘルメットに取り付ける

1. フォーク機構のクリップが、イヤークップのコードが付いている側の反対側に位置するように配置します。
2. フォーク機構のクリップの先端を、イヤークップの両側のペグに力を込めて押し込みます。
3. ヘルメットの側面のスロットにクリップのタブを配置します。クリップのねじ側の面はヘルメットの外側を向くようにします。
4. スロットにしっかりと固定されるまで、クリップのタブを押し込みます。

SR-35 Vocollect® ヘルメット形ヘッドセット仕様

重量	6.2オンス (175 g) ケーブル 4.7 オンス (133 g) ケーブルなし
動作温度	-40°~50°C (-40°F~122°F)
保管温度	-40°~70°C (-40°F~158°F)
落下テスト済み	次の仕様に基づいて試験が実施されました： <ul style="list-style-type: none"> • -40°~ 50° Cで2.1mの高さから15回落下 • -40°~ 50° Cで1.8mの高さから50回落下
保護等級	IP67準拠
湿度	5-90% 非結露
雑音除去率	平均5 db

注: パッケージは製品の出荷条件により異なります。一般に、梱包材料は総出荷重量の約15%です。

SR-40 Vocollect デュアルカップ型ヘッドセット



図 98 : SR-40デュアルカップ型ヘッドセット

SR-40デュアルカップ型ヘッドセットは、騒音の激しい作業環境向けに設計されています。2つのイヤークップは騒音の侵入を防ぎます。

SR-40 Vocollect® デュアルカップ型ヘッドセット仕様

重量	9.6オンス (272 g) ケーブル 8.1 オンス (229 g) ケーブルなし
動作温度	-40°~50°C (-40°F~122°F)
保管温度	-40°~70°C (-40°F~158°F)
保護等級	IP67準拠
湿度	100% 結露
雑音除去率	平均7 db

注: パッケージは製品の出荷条件により異なります。一般に、梱包材料は総出荷重量の約15%です。

SR-30、SR-35、およびSR-40ヘッドセットのイヤークップ交換

1. ヘッドセットを取り外した状態で、ヘッドセットを片手に持ちます。
2. イヤークップがプラスチック製イヤークップに接続されている、イヤークップハウジングの下部にある継ぎ目において、イヤークップとプラスチック製取り付けプレートを、それらが外れるまで外側に引っ張ります。
3. プラスチック製取り付けプレートから傷ついたイヤークップを取り外し、新しいイヤークップを取り付けプレートに取り付けます。この際、3本のピンを覆わないようにしてください。

4. プラスチック製取り付けプレートのピンをイヤークップハウジングに揃え、完全に固定します。

ヘッドセットとマイクロフォンの手入れ

Voccollect Voice システムで使用されるヘッドセットとマイクロホンは、繊細な電子機器です。その性能を長く維持するには、適切な注意をはらってください。

! 重要: 衛生上の観点から、複数の作業員が同じヘッドセットを共用することは好ましくありません。

SRX2 Wireless Headsetは、ヘッドバンドとウィンドスクリーンから電子モジュールを取り外せるようになっています。電子モジュールはシフトの異なる作業員間で共用できるので、衛生面にある程度配慮しながらコストを削減できます。

ヘッドセットの装着：一般的な手順

ここでは、Voccollectヘッドセットの標準的な装着手順について説明します。ヘッドセットの種類によっては、この手順に若干の違いが生じる可能性があります。マイクロフォンにウィンドスクリーンが取り付けられていることを確認してください。ウィンドスクリーンによって性能が向上します。

1. ヘッドセットを装着し、イヤークラッドが耳にぴったりと合うように調整します。
 - ヘルメット形ヘッドセットの場合には、まずヘルメットにある左右のスロットのいずれかにヘッドセットブラケットを挿入した後、そのヘルメットを被ります。
2. イヤークラッドの回転レバーを用い、マイクロホンの位置を調整します。
3. マイクをできるだけ口の近くに、ただし息が直接かからない位置に調整します。上唇の方を向け、何にも触れないようにします（衣類、皮膚、顔の産毛など）。
4. ヘッドセットのコードを襟とベルトにクリップ留めします。コードを身体の後ろに垂らし、端末の近くのベルトに留めてください。

端末カバーを使用している場合は、下部のクリップをカバーに直接留めることをお勧めします。
5. ヘッドセットと端末を接続します。

快適にヘッドセットを使用するための調整

SRシリーズのヘッドセットは、多くの人の頭の形状やサイズに関するデータに基づいて設計されています。ヘッドセットは、音声認識機器の中で最もパーソナルな用具であるとともに、非常に動きの激しい作業中にも安定した装着性が求められます。以下のヘッドセット調整ガイドラインに従うことで、ヘッドセットをより快適に使用することができます。

- 「Tバー」パッドの配置：SR-20、SR-21、SR-30、およびSRXモデルには、ヘッドセットのスピーカー側とは反対側に「Tバー」と呼ばれるパッドが付いています。Tバーは、頭の最も筋肉の少ない部分に当ててください。

作業員が話すと、耳の上の筋肉が動きます。この筋肉にTバーを当てると、筋肉の下の動脈と神経がヘッドセットによって圧迫され、作業員が不快感を覚えることがあります。作業員は、顎を動かしながら耳の上を手で触り、動く部分を確認して場所を特定することができます。作業員の中には、シフトの間にヘッドセットを頭の左右交互に位置を変えながら装着する人もいます。

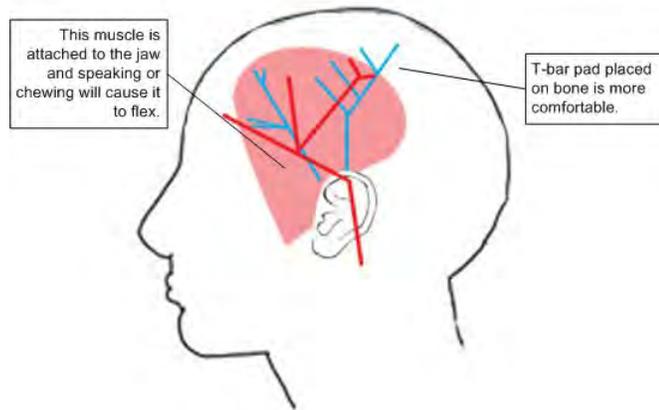


図 99 : 頭の上でのTバーパッドの配置

- ヘッドセットパッドのオプション:Vocollectは、作業員や作業環境に固有のニーズに応じて、さまざまなパッドを提供しています。
標準のフォームパッド：ヘッドセットが作業員に接触するあらゆる箇所に使用でき、クッション性と表面の柔らかな肌触りを与えます。すべてのヘッドセットで使用できます。
レザー イヤーパッド：標準のフォームパッドよりも頑丈で安定感があり、湿気に強い合成皮革張りのパッドです。SR-20からSR-40のすべてのモデルに対応します。
形状記憶フォームパッド：ひととき優れたクッション性のあるサポート感と快適さを提供します。SR-20/21のイヤーパードおよびSR-20/21とSR-30のTバーパッドで利用できます。

ヘッドセットの取り外し

1. 端末からヘッドセットを取り外します。ヘッドセットのコードを引っ張らないでください。
2. シャツやジャケットからクリップ留めされたヘッドセットを取り外します。
3. ヘッドセットを頭から丁寧に外します。
 - ヘルメット形ヘッドセットの場合には、ヘルメットを脱ぎます。取り外しクリップを押すことにより、ヘルメット形ブラケットからヘッドセットユニットを取り外します。

冷凍環境でのヘッドセットの使用

ヘッドセットを冷凍環境で使用する場合は、最適な音声認識性能を実現するため、次のベストプラクティスに従ってください。

- 音声テンプレートを冷凍環境でトレーニングします。作業員がテンプレートを静かな場所でトレーニングした場合、冷凍庫の雑音によって適切に音声認識ができないことがあります。
- マイクをできるだけ口の近くに、ただし息が直接かからない位置に調整します。上唇の方を向け、何にも触れないようにします（衣類、皮膚、顔の産毛など）。
- ウィンドスクリーンを乾燥した状態に保ちます。水に濡れても機器が損傷することはありませんが、ウィンドスクリーンで水の障壁が生じ、音声認識の精度が低下する可能性があります。
- ウィンドスクリーンに氷が付着しても割ろうとしないでください。圧力によって氷がフォームにこすりつけられ、溶けたときに水の障壁が生じることがあります。漸次的な環境変化はVocollectのAdaptive Speech Recognitionによって補正されるので、徐々に氷が張っても性能に影響ありません。

- 必要に応じてウィンドスクリーンを交換してください。そうでなければ、フォームに付いた氷によって重大な音声認識上の問題が発生する可能性があります。

ウィンドスクリーンの掃除

Vocollectでは、90日毎のウィンドスクリーン交換を推奨しています。ウィンドスクリーンはヘッドセットのマイクを保護し、作業員応答の明瞭性を損なう恐れのある埃の蓄積を防止します。

! 重要: 石鹸や洗浄液、あるいは力任せによる洗浄は、ウィンドスクリーンの保護膜除去につながり、その効果を低下させてしまいます。

1. マイクロフォンからウィンドスクリーンを取り外します。
2. 温水を用い、ウィンドスクリーンのすすぎ洗いを行います。
3. 余計な水を絞りとり、自然乾燥を用いて完全に乾かしてください。

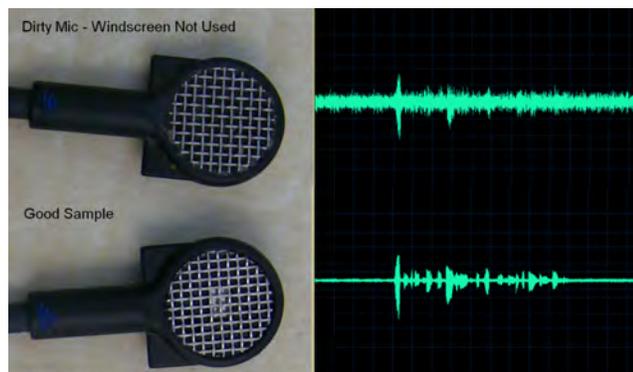


図 100 : 汚れたマイクはパフォーマンスの低下につながります

上の比較図は、保護カバーを付けなかったマイクが音声と無音の区別が明確にできないのに対し、清潔なマイクでは可能であるということを示しています。

ヘッドセットの掃除

Vocollect ヘッドで使用されるフォームパッドは、快適性と衛生面の両方を考慮して設計されています。バクテリアの繁殖を抑える素材を使用し、水ですすいで乾かすことによりクリーニングが可能です。

! 注: 市販の洗剤はお勧めできません。

- ヘッドセットのプラスチック部分の掃除には、水で湿らせた柔らかい布を使用してください。掃除だけでなく消毒も行いたい場合には、アルコールで湿らせた布を使用します。
- Talkman Connectorやプラグが汚れた場合には、アルコールで湿らせた布を使用し、それらを拭き取ってください。
- Talkman Connectorにおける金属接点部の変色を除去するには、柔らかい鉛筆消しゴムを使用してください。
- 黄、青、および赤のTalkman Connector (TCO) や関連するヘッドセット、スキャナー、あるいは端末プラグの掃除には、液体を用いないでください。
- デュアルカップ型ヘッドセット用イヤープッドカバーは冷水または温水で手洗いまたは洗濯機洗いし、自然乾燥します。カバーは100%綿フランネルできており、衣類乾燥機で乾かすと収縮する可能性があります。

ヘッドバンドパッドの掃除

 注: Vocollectでは、ヘッドバンドパッドの掃除は取り外さずに行わうことを強く推奨します。パッド全体を取り外して掃除を行う場合には、ヘッドバンドに再度取り付ける場合に、ヘッドバンドの最上部とヘッドバンドパッドが揃うように気を付けてください。

- ヘッドバンドは取り外さずに、柔らかい布で拭いてください。必要に応じ、アルコールで湿らせた布を用いて、ユニットの掃除および消毒を行うことも可能です。

デュアルカップ型ヘッドセットのイヤープッドカバーの掃除

- カップ型ヘッドセットのイヤープッドカバーは綿フランネル100%でできており、洗濯後に乾燥機による乾燥を行うと、縮んでしまう可能性があります。Vocollectでは、カバーの水または温水を用いた手洗いまたは機械洗浄と、自然乾燥を推奨しています。

第9章

Vocollectワイヤレスヘッドセット

作業員は、マイクの付属したヘッドセットを使用して指示を聞いたりそれに応答したりして、端末とやり取りを行います。端末は作業員の応答に応じて、データメッセージをホストコンピュータに送信します。

Vocollect™ SRXおよびSRX2音声認識ヘッドセットでは、Bluetoothのワイヤレステクノロジーを工業グレードで利用しています。これらのワイヤレスヘッドセットは、音声入出力の品質を管理し、接続ケーブルが不要で、最大10mの範囲まで端末の接続を維持します。

Vocollect SRXおよびSRX2ワイヤレスヘッドセットの特徴は次のとおりです。

- 双方向雑音低減マイクにより、最適な雑音消去を行います。
- ウィンドスクリーンが、端末による音声認識を妨げる呼吸雑音やその他の背景雑音を軽減します。
- コンポーネントが腐食しないように封止されています。
- パッド付きの軽量なヘッドバンドは、快適に装着でき、個人に合わせて調整が可能です。
- イヤーカップは上下左右に回転するように設計されているので、左右いずれの耳にも装着できます。
- スポンジ状のイヤーパッドは交換が迅速で簡単です。
- イヤーピースの外側の回転レバーを使用すると、マイクロフォンブームに無理なくマイクロフォンを上下に動かせます。
- マイクの位置は変更してもまた元に戻せます。ブームを回しながら下げて適切な位置に合わせると、溝に引っ掛かります。

Vocollect Voice™ システムで使用されるヘッドセットとマイクロホン、は、繊細な電子機器です。その性能を長く維持するには、適切な注意をはらってください。

詳細については、「[ヘッドセットとマイクロフンの手入れ](#)」を参照してください。



BluetoothのワードマークおよびロゴはBluetooth SIG, Inc.の所有物であり、Vocollectによるこれらのマークの使用はライセンスに基づくものです。その他の商標および商号は各所有者に帰属します。

Bluetooth ワイヤレス テクノロジーを用いたVocollect SRXワイヤレス ヘッドセット



図 101 : SRXワイヤレス ヘッドセット

Vocollect SRX音声認識ヘッドセットでは、Bluetoothのワイヤレス テクノロジーを工業グレードで利用しています。SRXヘッドセットはそれ自身で高品質な音声の入出力管理を行います。接続にケーブルを必要とせず、10メートル以内の範囲で端末とのワイヤレス接続を維持します。

- ヘッドセットの組み合わせモードには、電源がオフの状態からのみ移行できます。
- 組み合わせは、他のBluetooth端末から少なくとも3フィート離れた領域で実施することが最も適しています。これにより、使用しているヘッドセットと意図しない端末との誤った組み合わせを回避することが可能です。
- SRXは最後に使用に組み合わせた端末が記録され、その端末のみ再接続が可能です。他の端末からの呼び出しや問い合わせに応答するには、再度組み合わせモードにする必要があります。
- 端末との組み合わせが行われていない間、SRXヘッドセットの音量調整は、ヘッドセット上のボタンでのみ行うことが可能です。
- 端末との組み合わせが完了したSRXヘッドセットでは、音量調整がヘッドセットと端末の両方でプラスおよびマイナス ボタンを使用して実施できます。
- SRXヘッドセットでは、電源のオン・オフや電池の取り換えを行っても、最終的な音量設定を記憶しています。ウェアラブルコンピュータと組み合わされている間に使用された最終的な音量設定は、作業員のプロファイルと共に保存されます。SRXヘッドセットに対する音量設定のリストアは、再接続時に行われます。ただし、端末に接続されていない状態で音量の変更が行われたり、あるいは異なる作業員がヘッドセットを使用した場合等は、再接続時のヘッドセット音量が変わってしまう可能性もあります。

パッド付きのVelcro™ モビリティストラップを後頭部側に通せば、ヘッドセットがさらに安定します。

SRXワイヤレス ヘッドセット仕様

重量	7.5 オンス (215 g) 電池 5.3 オンス (155 g) 電池なし
動作温度	0°~40°C (32°F~104°F)
保管温度	-40°~50°C (-40°F~122°F)

落下テスト済み	次の仕様に基づいて試験が実施されました： <ul style="list-style-type: none"> 0°～ 40° Cで1.8mの高さから25回落下
保護等級	IP54準拠
湿度	5-95% 非結露
雑音除去率	該当なし

注: パッケージは製品の出荷条件により異なります。一般に、梱包材料は総出荷重量の約15%です。

SRXヘッドセットの充電



図 102: SRXワイヤレスヘッドセット高性能電池

SRXワイヤレスヘッドセット電池は空の状態から充電完了までを4時間以下で行えます。

完全に充電されたSRXワイヤレスヘッドセット電池は3.7ボルトを出力します。充電による電圧状況が3.3ボルトまで低下すると、「ヘッドセットの電池が少なくなっています。ヘッドセットの電池をすぐに交換してください。」という警告メッセージが聞こえます。警告はデバッグにも表示されます。

SRX電池仕様

Electrical Specifications

- セル：この大容量電池パックでは、2つのリチウム イオン セルを使用しています。
 - 公称電圧 = 3.7V
 - ワット時 = 7WHr
- 保護回路特性：この電池パックには、セルにおける低電圧状態と過電圧状態を回避し、プラス端子とマイナス端子の短絡により生じる損傷から電池パックを守るための、保護回路は備わっています。
- 本電池パックには性能、温度、およびパック識別情報を端末に提供するための専用の電子回路が含まれています。これらの情報は、音声管理ソフトウェアにより利用できます。
- 電池の充電：本電池パックの充電はVocollect製の充電器でのみ行う必要があります。

SRXワイヤレス ヘッドセット電池の充電

! 重要: SRX電池を充電器にセットしたら、最低5分間はそのままにしておく必要があります。これは、充電器による電池の状態解析に要する時間です。5分以内に電池を外すと、充電器のLEDインジケータが不正なバッテリー状態を表示する可能性があります。

! 重要: 電池を無理やりに押し込んではいけません。電池やヘッドセットに損傷を与える可能性があります。適切な位置への電池の固定が容易に行えない場合には、電池を配置しなおしたうえで、再度お試しください。

📄 注:

- 電池に対する充電が完了すると、充電器上の対応するスロットにおいて、左右のLEDインジケータが緑色に点灯します。これにより電池の取り外しが可能です。
- 完全に充電された電池を充電器にセットした場合、充電器は電池の状態を解析した後、充電を終了します。この処理の間、対応するスロットの左にあるLEDインジケータは赤く点灯します。この処理を完了するには数分を要します。処理が完了すると、対応するスロットの両LEDインジケータが緑色に点灯します。

1. 電池充電器の通電を確認してください。電池充電器の端にある緑のLEDインジケータが点灯していません。
2. イヤーピースのプラスおよびマイナス ボタンを3秒間押し続けることによりヘッドセットの電源をオフにし、電池を取り外します。
3. 接点を下側にし、Vocollectのロゴが見える向きに電池を持ち、充電器の空きスロットに差し込みます。
4. 完全に固定されるまで、電池を押し込みます。
5. 電池が完全にセットされ、取り外しボタンを押さない限り外れない状態にあることを確認してください。

SRXワイヤレス ヘッドセットへの電池挿入

! 重要: 電池を無理やりに押し込んではいけません。電池やヘッドセットに損傷を与える可能性があります。適切な位置への電池の固定が容易に行えない場合には、電池を配置しなおしたうえで、再度お試しください。

1. 電池が充電済みであることを確認して下さい。電池に対する充電が完了すると、充電器上の対応するスロットにおいて、左右のLEDインジケータが緑色に点灯します。これにより電池の取り外しが可能です。
2. 電池の挿入区画と向きあう形でヘッドセットを持ちます。
3. 最初に電池の端子側を挿入区画内にある端子と揃えるように差し込みます。
4. 完全に固定されるまで、電池を押し込みます。
5. 電池が完全にセットされ、取り外しボタンを押さない限り外れない状態にあることを確認してください。

SRXワイヤレス ヘッドセットからの電池の取り外し

! 重要: ヘッドセットのLEDインジケータがオフになるまで、電池を外してはいけません。

1. イヤーピースのプラスおよびマイナス ボタンを3秒間押し続けることによりヘッドセットの電源をオフにします。
2. 電池の挿入区画と向きあう形でヘッドセットを持ちます。
3. 電池挿入区画の左側にある取り外しボタンを、電池の片側が挿入区画から持ちあがるまで、電池とは逆方向に引っ張ります。
4. 挿入区画から電池を持ちあげ、取り外します。

電池のウォームアップ時間

寒冷環境で利用した電池の充電は、十分なウォームアップ時間を経るまで始まりません。

電池の使用環境	ウォームアップに必要なおよその時間
-4°C (24.8°F)	6分
-10°C (14.0°F)	10分
-20°C (-4°F)	22分
-30°C (-22°F)	30分

SRXワイヤレス ヘッドセットに対するVelcro®モビリティストラップのインストール

1. SRXワイヤレス ヘッドセットからバッテリーを取り外します。
2. ヘッドセットの電池挿入区画にある穴の1つに、モビリティストラップの端にある引き紐を通します。引き紐は、ドライバの先端で簡単に押し通すことが可能です。次の図のように、引き紐を正しい方向で通せたことを確認してください。



図 103 : 穴を通した引き紐

3. 引き紐を電池挿入区画にあるもう一方の穴を通して戻します。



図 104 : もう1つの穴を通して戻した引き紐

4. モビリティストラップのクリップの付いた端を引き紐の輪の中に通し、しっかりと引っ張ることにより固定します。



図 105 : モビリティ ストラップを通す

5. モビリティ ストラップのもう一方の端を、ヘッドセットのプラスチック成形穴にクリップ留めします



図 106 : ストラップを穴にクリップ留め

SRXワイヤレス ヘッドセットの装着

ヘッドセットにVelcroのモビリティ ストラップが取り付けられていることを確認します。

1. ヘッドセットを装着し、イヤークッションが耳にぴったりと合うように調整します。
2. 電池挿入区画が耳の真上かつできるだけ近くにくるように位置を調整します。
3. モビリティ ストラップを調整し、頭の後ろにぴったりと合うようにします。



図 107 : モビリティ ストラップの適切な装着

4. イヤーピースの回転レバーを用い、マイクロホンの位置を調整します。

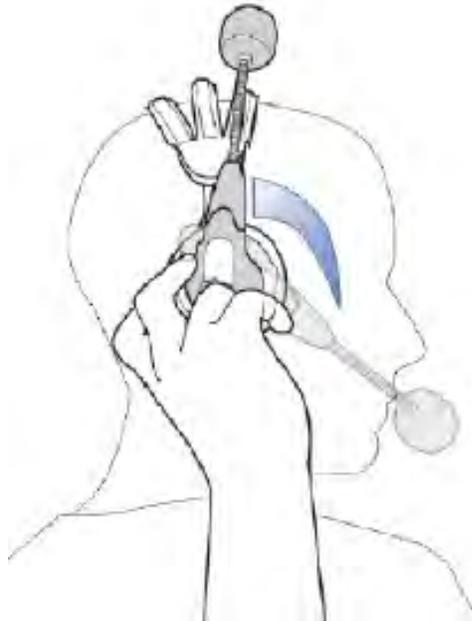


図 108 : マイクロホンの位置調整

5. マイクをできるだけ口の近くに、ただし息が直接かからない位置に調整します。上唇の方を向け、何にも触れないようにします（衣類、皮膚、顔の産毛など）。

SRXのヘッドセットの機能とLEDパターン

ヘッドセットの機能	ユーザ操作	ヘッドセット モード	LEDパターン	トーン
電源をオンにする	プラス(+)ボタンとマイナス (-) ボタンを1秒間押し続けます。	ヘッドセットの電源がオンになり、前回まで接続されていた端末を検索します。新たな組み合わせ処理は行われません。	高速点滅	高ピッチのトーンが2回発生します。
電源をオフにする	ヘッドセットの電源がオンになっている状態で、プラス (+) およびマイナス (-) のボタンを3秒間押し続けます。	ヘッドセットの電源がオフになり、作業に使用できなくなります。	青く点灯した後、消灯。 ! 重要: LED がオフになるまで、電池を外してはいけません。	低ピッチのトーンが2回発生します。
音量を上げる	プラス (+) ボタンを押します。	なし	なし	現在のオーディオの音量が上がります。

ヘッドセットの機能	ユーザ操作	ヘッドセット モード	LEDパターン	トーン
音量を下げる	マイナス (-) ボタンを押します。	なし	なし	現在のオーディオの音量が下がります。
ローパワー モードでの手動組み合わせのために、強制切断する	プラス(+)ボタンとマイナス (-) ボタンを4秒間押し続けます。	ヘッドセットで現在の組み合わせが解除され、ローパワー 組み合わせモードになります。 ヘッドセットが最も近くにあり、組み合わせの確定していないBluetooth端末との組み合わせを試みます。以前の組み合わせ情報はヘッドセットのメモリから消去されます。	1秒あたり4回 (50 msオン、200 msオフ) の高速点滅。	モード移行時のトーンはありません。端末との組み合わせの際に音量がアップしながら3回のトーンが発生します。
ローパワー組み合わせモードが失敗したため、ハイパワー組み合わせモードに切り替える	ヘッドセットを組み合わせモードにして、プラス (+) ボタンとマイナス (-) ボタンを7秒間押し続けます。	ヘッドセットがハイパワー組み合わせモードに移行します。 ヘッドセットが最も近くにあり、組み合わせの確定していないBluetooth端末との組み合わせを試みます。以前の組み合わせ情報はヘッドセットのメモリから消去されます。  注: SRXヘッドセットをハンドヘルド端末と組み合わせる際に推奨されるモードです。  注: Vocollectでは、Talkman端末の組み合わせモードとして、この組み合わせモードは推奨していません。このモードでは、ヘッドセットが誤った端末と組み合わせられる可能性が非常に高くなります。	1秒あたり約2回 (350 msオン、50 msオフ) の点滅。	モード移行時のトーンはありません。端末との組み合わせの際に音量がアップしながら3回のトーンが発生します。
接続の切断： • 電源投入時に、前回まで組み合わせされていた端末がヘッドセット	なし	ヘッドセットが範囲内で組み合わせを持たないBluetooth端末を見つけることができませんでした。 ヘッドセットはこのモードを10分間維持し、以前に組み合	3回の高速点滅と1秒間オフの繰り返し。	マスター端末との接続が切断されると、音量がダウンしていく3回のトーンが発生します。

ヘッドセットの機能	ユーザ操作	ヘッドセット モード	LEDパターン	トーン
<p>により検出されなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 組み合わせられる端末の電源がオフだった。 ローパワーまたはハイパワーの組み合わせモードで、60秒以内の端末との組み合わせに失敗した。 		<p>わせた端末が範囲内に戻るのを待ちます。何も見つからずに10分が経過したところで、ヘッドセットの電源はオフになります。</p>		
電池切れ	なし	<p>電池の充電量が最小しきい値に達すると、ヘッドセットは本モードに自動で移行します。</p>	<p>1秒あたり10回程度の非常に高速な点滅。</p> <p> 注: 電池切れモードによるLEDの点滅中は、ヘッドセット電源を切るために両方のボタンが押されている場合を除き、その他LEDパターンは表示されません。</p>	<p>トーンなし。</p> <p>音声プロンプト：「ヘッドセットの電池が少なくなっています。」または「ヘッドセットの電池が少なくなっています。ヘッドセットの電池をすぐに交換してください。」。</p>

Vocollect SRX2 Wireless Headset



図 109 : SRX2 Wireless Headset

Vocollect SRX2 Wireless Headsetは、Vocollectが音声認識精度の向上、あらゆる環境での動作、ユーザーによるより快適な利用体験を目的に設計した第2世代のワイヤレスヘッドセットです。

Vocollect SoundSense™ Technologyを備えたSRX2ヘッドセットをVocollect VoiceCatalystソフトウェアと組み合わせて使用すると、音声認識機能が飛躍的に改善されます。この技術により、特に雑音の多い環境や作業速度の速い環境で、音声認識の速度と精度が向上します。

この製品の特長は次のとおりです。

- Vocollect SoundSense™ Technology (マルチアレイマイクの採用により、誤入力率が50%減少)をVoiceCatalystソフトウェアとともに使用することで、認識精度が向上
- 冷凍環境での使用認定と再充電なしに1回のシフトを実行できる電池寿命
- ヘッドバンドと電子モジュールの分離により、ヘッドセットの供用が可能
- 長時間の使用に耐える、人間工学に基づいたより快適な使用感

ヘッドセットの電子モジュールをシフトの異なる作業員間で供用できるモジュール設計のヘッドセットにより、ユーザー1人あたりのコストを削減

また、次の機能を備えています。

- Vocollect TouchConnect™ Technology (A700 端末) により、組み合わせが迅速で簡単
- Bluetoothバージョン2.1
- VoiceConsole 4.2によるヘッドセットの追跡および管理
- シンプルで直観的な操作インジケータ
- VoiceConsole 4.2によるヘッドセット電池の管理と寿命予測
- フィールドアップグレード可能なヘッドセットにより、将来の拡張に対応
- 音声品質と応答時間の向上
- 頭の大きさや形に対応してより柔軟に調整可能
- SRXモードの後方互換性により、VoiceClientおよび旧バージョンのVoiceCatalystソフトウェアに対応

 注: これらの新機能の多くは、VoiceCatalyst 1.2およびVoiceConsole 4.2以降とともに使用した場合のみ利用できます。

SRX2ワイヤレス ヘッドセット仕様

重量	6.84 オンス (194 g) スタビリティ ストラップ付き 6.46 オンス (183 g) スタビリティ ストラップなし
動作温度	-30°~50°C (22°F~122°F)
保管温度	-40°~70°C (-40°F~158°F)
落下テスト済み	次の仕様に基づいて試験が実施されました： <ul style="list-style-type: none"> • -30°~ 50° Cで1.83mの高さから24回落下 • -30°~ 50° Cで2.13mの高さから12回落下
保護等級	IP54準拠 - 電池装着済み
湿度	5-95% 非結露
雑音除去率	該当なし

注: パッケージは製品の出荷条件により異なります。一般に、梱包材料は総出荷重量の約15%です。

SRX2モジュール設計

SRX2 Wireless Headsetでは、Vocollectヘッドセット製品ラインで初めてモジュール設計が採用されました。複数のシフト間で電子モジュールを共有できるので、ユーザあたりのコストが削減できます。

ヘッドセットを共有する場合に作業員間で病原菌を媒介しないように、電子モジュールのみを共有することをお勧めします。ヘッドセットバンド、イヤークッション、マイクキャップは、作業員ごとに割り当ててください。



図 110 : SRX2ヘッドセットおよび電子モジュール



図 111 : マイク キャップの取り外しとマイク キャップ ポケットへの収納

SRX2ヘッドセットの共有

SRX2ヘッドセットのモジュール設計により部品を取り外す事で、作業員は複数のシフト間で電子モジュールを共有可能です。

- 電子モジュールはヘッドバンドから簡単に取り外せます。
- マイクキャップを電子モジュールから取り外し、ヘッドバンドのマイクキャップポケットへ収納することができます。
- 電子モジュールはアルコールを用いた拭き取りで消毒が可能です。

作業員データとヘッドセットの共有

Vocollect Voice Software (*VoiceClient*と*VoiceCatalyst*)は作業員や端末管理インタフェース (*VoiceConsole*)を通じて、自動作業員読み込み (**Automatic Operator Load: AOL**)機能を提供しています。この機能は、電子モジュール固有のIDにより、そのヘッドセットを最後に使用した作業員のデータを端末に認識させて読み込ませる事を可能にさせています。

AOL機能によって、同じヘッドセットを使用する作業員はシフト開始の準備作業を短縮できます。電子モジュールを複数の作業員で共有する場合には、AOLは効果的ではないかもしれません。

音声ソフトウェア作業パッケージ設定でのAOL無効化

1. *VoiceConsole*にログインし、使用する作業パッケージを編集します。
2. "AutoOperatorLoadEnable"をゼロ(0)に設定するパラメータを追加します。
3. 変更を保存し、編集した作業パッケージを端末に読み込みます。詳細な手順については、*VoiceConsole Help*をご参照ください。
4. 作業員は端末のプラス(+)**か**マイナス(-)ボタンを使用して、作業員リストから自身の作業員を選択し作業員データを読み込みます。

少数の作業員間でのヘッドセット共有 — 少数の作業員が音声を使用する現場では、作業員は自身の作業員データを素早く読み込むために、作業員リストをボタン操作からスクロールして読み上げられる名前を最後まで聞かずとも、自身の作業員データを読み込む事が可能です。この場合には電子モジュールを共有し、時間や生産性にロス無く、手動で作業員データを読み込む事が可能です。

大勢の作業員間でのヘッドセット共有 — 大勢の作業員が音声を使用する現場では、全作業員リストから自身の作業員名を探し出すまで時間が掛かるかもしれません。ヴォコレクトではこの場合、複数の作業員をグループ毎に管理するための作業員チーム(**Operator Teams**)を*VoiceConsole*内で作成する事を推奨します。一般的に作業員チームは名称、シフト、作業場毎に管理されます。これにより、特定の作業員チームを選択し、その中に存在する作業員リストのみから自身の作業員を探す事が可能です。

ヘッドバンドへのSRX2電子モジュールの取り付け

1. ボタンコントロールがヘッドバンドの向こう側を向くように、SRX2電子モジュールを配置します。
2. 電子モジュールの背面にあるスピーカーをイヤースピークハブのポケットに入れ、スピーカーとハブポケットの溝を合わせます。



図 112 : 電子モジュールの取り付け

3. 電子モジュールをハブポケットに押しつけ、しっかりと固定します。

ヘッドバンドからのSRX2電子モジュールの取り外し

! 重要: ヘッドバンドから電子モジュールを取り外す際、電子モジュールの両側にある電池のラッチを押さないでください。電池が誤って電子モジュールから外れることがあります。

1. SRX2の電子モジュールを片手で持ち、電子モジュールとイヤースピークハブの間を指先で押してください。
2. 別の手でヘッドバンドをイヤースピークハブで持ちます。
3. 電子モジュールを引っ張って、イヤースピークハブから取り外します。

SRX2の互換性

SRX2 Wireless Headsetは、次の端末およびVocollect Voiceソフトウェアの各バージョンで動作確認済みです。SRX2ヘッドセットのサポートおよび互換性はこれらの製品に限定されませんが、未検証の構成を使用する場合は、お客様のリスクで行ってください。

端末	Vocollect Voiceソフトウェア
Vocollect Talkman A500/Talkman A500 VMT	VoiceClient® 3.8以降 VoiceClient® 1.1以降
Vocollect Talkman T5、Talkman T5m	VoiceClient 3.8以降
Windows XP PCやその他のサポートされているディスプレイ端末	VoiceCatalyst MP for Windows XP 1.0以降

端末	Vocollect Voiceソフトウェア
Intermec® CK3	VoiceClient MP 2.0以降
Intermec CV61	VoiceCatalyst MP for Windows XP 1.0以降
Psion WORKABOUT Pro G2 Psion WORKABOUT Pro (WAP3) Psion NEO	VoiceClient MP 2.0以降
Psion Omnii XT15	VoiceClient MP 2.1以降
Motorola® MC9500	VoiceClient MP 2.0以降

SRX2ヘッドセットの充電



図 113 : SRX2 Wireless Headset High-Performance Battery

SRX2ワイヤレスヘッドセットは、再充電可能なリチウムイオン電池パックを電源とします。

SRX2ワイヤレスヘッドセット電池は空の状態から充電完了までを6時間以下で行えます。電池の残量が少なくなると、以下の音声メッセージが流れます。

電池の状況	音声メッセージ
電池の電圧が低下した場合	"ヘッドセットの電池が少なくなっています。"
電池の電圧が極限まで低下し、まもなく電源が切れる場合	"ヘッドセットの電池が少なくなっています。"ヘッドセットの電池をすぐに交換してください。"

SRX2電池仕様

電氣的仕様

- セル：この電池パックでは、リチウムイオンセルを1つ使用しています。
 - 公称電圧 = 3.6V
 - ワット時 = 2.7 WHr
- 保護回路特性：この電池パックには、セルにおける低電圧状態と過電圧状態を回避し、プラス端子とマイナス端子の短絡により生じる損傷から電池パックを守るための、保護回路は備わっています。
- 本電池パックには性能、温度、およびパック識別情報を端末に提供するための専用の電子回路が含まれています。これらの情報は、音声管理ソフトウェアにより利用できます。

- 電池の充電：本電池パックの充電はVocollect製の充電器でのみ行う必要があります。

機械的仕様と環境仕様

- 落下テスト仕様：この標準電池は、トランジット落下基準に適合しています。
 - 6フィート（182.88cm）の高さから24回落下
 - 7フィート（213.36 cm）の高さから12回落下
- 環境仕様：この電池は次の条件下で適切に動作します：

温度：-30.00°C～50.00°C (-22°F～122°F) 湿度：95% 非結露 雨/ホコリ：IP54

電池に関する通知

SRX2電池は、電池残量に応じて次の2つの警告メッセージを發します。

電池の状況	音声メッセージ
電池の電圧が低下した場合	"ヘッドセットの電池が少なくなっています。"
電池の電圧が極限まで低下し、まもなく電源が切れる場合	"ヘッドセットの電池が少なくなっています。"電池をすぐに交換してください。"

SRX2 Wireless Headset電池の充電

! 重要: SRX2電池を充電器のポートにセットしたら、最低5分間はそのままにしておく必要があります。これは、充電器による電池の状態解析に要する時間です。5分以内に電池を外すと、充電器のLEDインジケータが不正なバッテリー状態を表示する可能性があります。

📄 注:

- 電池に対する充電が完了すると、充電器上の対応するポートにおいて、リングLEDインジケータ ライトが緑色に点灯します。これにより電池の取り外しが可能です。
 - 完全に充電された電池を充電器にセットした場合、充電器は電池の状態を解析した後、充電を終了します。このプロセスの間、そのポートのリングLEDインジケータ ライトが黄色になります。完了すると、リングLEDインジケータが緑に変わります。
- 電池充電器の通電を確認してください。充電器をオンにするには、充電器に接続した電源をコンセントに差し込みます。充電器のフェイス パネルの右下にあるLEDインジケータ ライトが緑に点灯していることを確認してください。
 - 電子モジュールの電源ボタンを約1秒間押し続けて、ヘッドセットの電源をオフにします。
 - ヘッドセットの電子モジュールから電池を取り外します。
 - 電池のVocollectロゴが自分の方を向くように持ち、充電器の空のポートに完全に固定されるまで、電池を押し込みます。
 - 📄** 注: LEDパターンの詳細については、「[SRX2充電器のLEDインジケータ](#)」を参照してください。

電池が充電器のポートに正しく取り付けられていることを確認します。電池の端子が充電器のポートの端子と接続すると、リングLEDインジケータライトが黄色または緑に変わります。リングLEDが赤く点滅する場合は、電池が正しくセットされていません。電池を取り外して、再度、ポートにセットしてください。

6. リングLEDインジケータが緑に点灯すれば、電池は完全に充電されています。充電器のポートから電池を引っ張って取り出し、SRX2ヘッドセットの電子モジュールに挿入します。

SRX2ワイヤレスヘッドセットへの電池挿入

1. 電池が充電済みであることを確認して下さい。電池に対する充電が完了すると、電池の充電器ポート上にあるリングLEDインジケータライトが緑色に点灯します。これにより電池の取り外しが可能です。
2. ヘッドセットの電子モジュールを、ボタンを自分の方に向けて配置します。
3. 電池のラベル側を下にし、電池端子がマイクブームの反対側にある電子モジュールの開口部に向くようにします。
4. 完全に固定されるまで、電池を電子モジュールに押し込みます。



5. 電池が完全にセットされ、取り外しラッチを押さない限り外れない状態にあることを確認してください。

SRX2ワイヤレスヘッドセットからの電池の取り外し

- !** 重要: ヘッドセットのLEDインジケータがオフになるまで、SRX2ヘッドセットから電池を外してはいけません。

1. 電子モジュールの電源ボタンを1秒間押し続けて、ヘッドセットの電源をオフにします。
2. 電子モジュールの両側にある黒い電池ラッチに指をかけて電子モジュールをしっかりと持ちます。



図 114 : SRX2電池の取り外しに使用する電池ラッチ

3. もう一方の手で、マイクブームの反対側にある電子モジュールの端を持って電池を支えます。
4. 両方の電池ラッチを同時に押し続けます。電子モジュールの両側から電池ラッチを押すと、電池が電子モジュールから外れます。

SRX2電池のウォームアップ時間

極度に高温または低温の環境で電池を使用した場合、充電が即座に開始しません。

電池を充電器にセットすると、電池のポートLEDが黄色に点灯します。電池が-32° F (0° C)~104° F (40° C)の適正な温度範囲に達してはじめて、充電が開始します。電池が安全な温度に達するまで、最大30分かかることがあります。

約1時間経過しても電池の温度が適正な範囲に達しない場合、充電器の故障を示す赤いLEDが点滅します。

SRXワイヤレス ヘッドセットの装着

1. ヘッドセットを装着し、イヤーパーッドが耳にぴったりと合うように調整します。



図 115 : SRX2ヘッドセットの装着

2. Tバーが耳の真上かつできるだけ近くにくるように位置を調整します。
3. 取り付けられている場合は、スタビリティストラップを調整し、頭の後ろにぴったりと合うようにします。
4. 電子モジュールを上下に回転させて、マイクが口の近くに来るように調整します。



図 116 : マイクロホンの位置調整

5. マイクをできるだけ口の近くに、ただし息が直接かからない位置に調整します。上唇の方を向け、何にも触れないようにします（衣類、皮膚、顔の産毛など）。

SRX2 Wireless Headsetへのスタビリティストラップの装着

1. イヤーパッドが自分の方を向き、電子モジュールが向こう側を向くようにヘッドセットを持ちます。
2. ヘッドバンドの内側の、イヤーパッドに近いところにノブがあるのを確認します。
3. 穴のある方の端をヘッドバンドのノブに合わせるようにストラップを持ち、穴にノブを通してしっかりと押し込みます。



図 117 : ヘッドバンドのイヤーパッド側へのストラップの押し込み

4. ヘッドセットを回転して、Tバーパッドが自分の方を向くように持ちます。
5. ヘッドバンドの端の、Tバーに近いところにスロットがあるのを確認します。
6. ストラップの固定されていない方にあるノブをヘッドバンドのスロットに合わせます。
7. ノブをスロットにスライドさせ、完全に固定します。



図 118 : ヘッドバンド スロットへのストラップの挿入

8. ストラップを頭の後ろに合わせます。ストラップは2つのノブを軸として自由に回転させられるので、ヘッドセットを左右どちらの耳に装着する場合も頭の後ろにストラップを配置できます。

SRX2ヘッドセットのイヤーパッドの交換

1. イヤーパッドが自分の方を向き、電子モジュールが向こう側を向くようにヘッドセットを持ちます。
2. イヤーパッドとイヤーパッドプレートアセンブリをしっかりと持ち、左に回転させてプレートとヘッドバンドのロックを外します。
3. パッドとプレートアセンブリを持ち上げてヘッドバンドから外します。
4. 交換用のパッドを取り付けます。
 - a) イヤーパッドを引っ張ってイヤーパッドプレートから取り外します。
 - b) 新しいパッドの片側をイヤーパッドプレートの端にスライドさせて取り付け、パッドを静かに引っ張ってプレートを覆います。
 - c) 新しいパッドのふちで、イヤーパッドをすべて完全に覆ってください。



図 119 : 新しいイヤーパッドの取り付け

5. 新しいイヤーパッドとイヤーパッドプレートアセンブリをヘッドセットのイヤーピースに合わせます。
6. アセンブリを右に回転させてイヤーピースに静かに押し込み、アセンブリがプレートに固定されたのを確認します。

SRX2のヘッドセットの機能とLEDパターン



図 120 : SRX2のユーザインターフェイス

ヘッドセットの機能	ユーザ操作	ヘッドセット モード	LEDパターン	トーン
電源をオンにする	電源ボタンを0.5秒間押します。	ヘッドセットが、ローパワー組み合わせモードで起動します。	緑の点灯	高ピッチのビープ音が2回発生します。
電源をオフにする	電源ボタンを1秒間押し続ける	ヘッドセットの電源オフ	緑に点灯した後、滅火 ! 重要: LEDがオフになるまで、電池を外してはいけません。	低ピッチのビープ音が2回発生
音量を上げる	プラス (+) ボタンを押します。	なし	なし	音量がアップしながら2回のトーンが発生します。端末に接続されている場合は、「音量アップ」というメッセージが発生します。
音量を下げる	マイナス (-) ボタンを押します。	なし	なし	音量がダウンしながら2回のトーンが発生します。端末に接続されている場合は、「音量ダウン」というメッセージが発生します。
ローパワーモードでの手動組み合わせ	接続中のヘッドセットのプラス	ヘッドセットで現在の組み合わせが解除され、	緑の点灯	モード移行時のトーンはありません。端末との組み合わせの際に音量が

ヘッドセットの機能	ユーザ操作	ヘッドセット モード	LEDパターン	トーン
わせのために、強制切断する	(+) ボタンとマイナス (-) ボタンを押します。	ローパワー組み合わせモードになります。		アップしながら3回のトーンが発生します。
ローパワー組み合わせモードが失敗したため、ハイパワー組み合わせモードに切り替える	ヘッドセットを組み合わせモードにして、プラス (+) ボタンとマイナス (-) ボタンを押します。	ヘッドセットがハイパワー組み合わせモードに移行します。  注: このモードは、ローパワー組み合わせモードが失敗した場合のみ使用してください。  注: Vocollectでは、Talkman端末の組み合わせモードとして、この組み合わせモードは推奨していません。このモードでは、ヘッドセットが誤った端末と組み合わせられる可能性が非常に高くなります。	高速点滅の後、緑の点灯	モード移行時のトーンはありません。端末との組み合わせの際に音量がアップしながら3回のトーンが発生します。
通常の操作、組み合わせおよび接続を行う	なし	ヘッドセットがスレープ端末として接続されます。	青の低速点滅 (オン25%、オフ75%)	マスター端末に接続すると、音量がアップしながら一連のトーンが発生します。
組み合わせは確立されているが接続が切断。通信範囲外の可能性がある	なし	ヘッドセットは接続できるが、ディスカバリできません。 Bluetooth 端末は、ヘッドセットのアドレスが端末に保存されていれば接続できます。	緑の低速点滅 (オン25%、オフ75%)	マスター端末との接続が切断されると、音量がダウンしながら3回のトーンが発生します。
ヘッドセットソフトウェアを更新する	Vocollect Headset Software Update Toolを実行しているコンピュータにヘッドセットを接続します。	端末が更新されます。	プラグの接続時に青の点灯、更新中は滅火、更新が完了すると青の点灯	なし

Vocollect SRX2 ヘルメット ヘッドセット

作業員がヘルメットを着用しなければならない環境では、標準的な頭にかけるヘッドセットは有効なオプションとは言えません。Vocollect® SRX2ヘルメット ヘッドセットは、SRX2イヤープース、電子モジュール、マイクをほとんどの産業用ヘルメットに接続できるクリップが付属しています。ヘルメットヘッドセットは米国、ヨーロッパ、日本で一般に使用されているほとんどのヘルメットモデルをサポートしています。



図 121 : SRX2 ヘルメット ヘッドセット

TouchConnect™ 機能を使ってSRX2 ヘルメット ヘッドセットを Talkman A700 シリーズ端末に接続する場合、端末をヘッドセットのイヤークップの外側にある  シンボルに接触させることで作業員IDを取得できます。

SRX2 ヘルメット ヘッドセット仕様

重量	2.47 オンス (70g)
動作温度	-30°C ~ 50°C (-22°F ~ 122°F)
保管温度	-40°C ~ 70°C (-40°F ~ 158°F)
落下テスト済み	クリップとアタッチメントを除く <ul style="list-style-type: none"> 7 フィート (2.1 m) からの落下12回、最低、最高動作温度下 角度を変化させた6 フィート (1.8 m) からの落下24回、最低、最高動作温度下
保護等級	IP54準拠 - 電池装着済み
湿度	5-95% 結露
雑音除去率	≥10.5 dB

 注: パッケージは製品の出荷条件により異なります。一般に、梱包材料は総出荷重量の約15%です。

SRX2 ヘルメット クリップの取り付け

SRX2 ヘルメット ヘッドセットは、ヘルメットに取り付けたクリップによってヘルメットの横に取り付けるものです。Vocollectでは2つのクリップスタイルを用意しています。1つはヘルメットのスロットに挿入するもの、もう1つはスロットのないヘルメットのツバの上に取り付けるものです。ヘルメットにフィットし、SRX2イヤークップを正しく取り付けることができるものであれば、他のヘルメット用クリップを購入して使用することも可能です。Howard Leight™等のメーカーがそのような製品を提供しています。

 注: ヘルメット クリップは頻繁に取り外すよう設計されていません。ユーザーがヘッドセットのイヤークップを右耳と左耳に頻繁に付け替えて使用したい場合には、追加のクリップを購入する必要があるかもしれません。

- スロット取り付け型クリップをヘルメットに挿入
 - a) クリップのタブがヘルメットの横のスロットに向くように持ちます。
 - b) クリップの角度は、ヘルメットの輪郭に沿ってクリップの裏側のゴムの滑り止めがヘルメット側になるようにします。
 - c) クリップのタブをスロットに合わせます。



図 122 : クリップをヘルメット スロットに挿入

- d) クリップをスロットに差し込み、カチッと固定されるのを確認します。
- ツバ取り付け型クリップをヘルメットに取り付け
 - a) 2つのクリップ ブラケットをクリップにとめているネジを緩めます。
ツバの広いヘルメットの場合、クリップをつけないでツバの上にフィットさせるために完全にブラケットを外す必要があるかもしれません。
 - b) ヘルメットの下側から、ブラケットをツバの上にスライドさせます。ブラケットを外している場合、ブラケットの端をクリップのネジの下に差し込みます。
 - c) クリップをヘルメットの外側、横中央部に配置します。

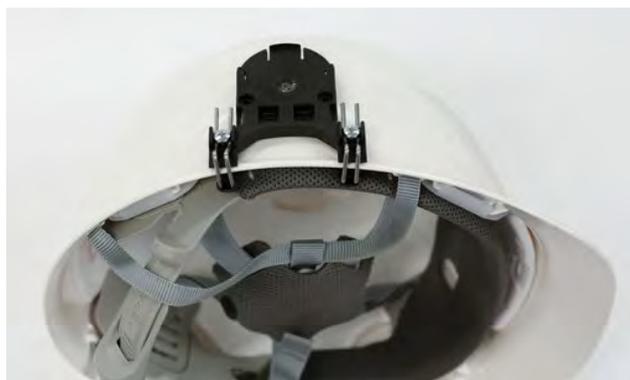


図 123 : ツバ取り付け型クリップをヘルメットに取り付け

- d) 2つのクリップブラケットをクリップにとめているネジを締めます。
- ヘルメットからのクリップの取り外し
 - a) スロット取り付け型のクリップの場合、スプリングアームの端をツバの下からスロットに戻るまで押し込みます。取り付け位置からアームを動かすのに工具が必要な場合もあります。
 - b) ツバ取り付け型クリップの場合、ブラケットのネジを緩め、ブラケットとクリップをヘルメットから外します。

SRX2をヘルメットに取り付ける

ヘルメットの横に取り付けられたSRX2 ヘルメット ヘッドセット クリップにより、ヘッドセットのフォークおよびディスク アセンブリがヘルメットにしっかりとハマります。

1. ディスクをヘルメット クリップに上から挿入します。
2. ディスクをクリップにスライドさせて差し込み、完全に固定します。



図 124 : ヘッドセットをヘルメットに取り付ける

ヘッドセットを取り外すには、ヘルメット クリップの上部にあるタブに力を加えてディスクをクリップから外します。その後ディスクを上からスライドさせクリップから抜きます。タブを押すのにマイナスドライバー等の工具が必要な場合もあります。

SRX2 ヘルメット ヘッドセットの装着

SRX2ヘルメット ヘッドセットのフォーク&ディスク アセンブリには、簡単な着脱とヘッドセットをつけたままのヘルメットの保管を可能にする2つのロック位置があります。内側の位置はイヤークップを耳にぴったりつけた位置に保ち、外側の位置はヘッドセット部品やヘルメットを痛めることなくクリップなしでヘッドセットを回転させることが可能です。

1. ヘルメットをしっかりと持ちます。
2. ヘッドセットイヤークップをヘルメットの頭方向に押し、カチッと内側の位置に固定されたことを確認します。



図 125 : ヘッドセットのロック位置

3. ヘルメットをかぶり、イヤークップを必要に応じて引き出し、イヤークップが耳にしっかりつくようヘルメットの位置を調節します。
4. イヤークップが耳に対して高すぎるあるいは低すぎる場合には、ヘルメットを脱いでフォークのアームを押し込む、あるいは引き出してイヤークップ位置を調整してください。



図 126 : イヤークップの高さの調整

5. スピーカーとイヤークップ ポケットのノッチを揃え、SRX2電子モジュールをイヤークップのポケットに差し込みます。
6. 電子モジュールをイヤークップ ポケットに押しつけ、しっかりと固定します。

SRX2 ヘルメット ヘッドセットの保管

ヘルメットの保管時には損傷のリスクを減らすため、ヘッドセット イヤークップをヘルメットの横に上げた状態で（以下の図を参照）収納されることを推奨します。

1. SRX2ヘッドセットから電子モジュールを外します。電子モジュールは別の作業員が使用することもできますし、別に保管しておくこともできます。

2. 電子モジュールからマイクキャップを外し、ヘッドセットイヤークップの上にあるマイクキャップ用ポケットに収納します。



図 127 : マイクキャップの収納 (SRX2ヘルメットまたはハイノイズヘッドセット)

3. イヤークップとフォークアセンブリを、フォークが外側のロック位置に固定されるまでヘルメットから引き離します。
4. ヘルメットクリップ内でヘッドセットを回転しヘルメットの横にイヤークップを付けます。



図 128 : ヘルメット上の保管用位置にヘッドセットを動かす

SRX2ヘルメットまたはハイノイズヘッドセットのイヤークップを交換する

1. イヤークップからのSRX2電子モジュールの取り外し
2. イヤークップの外側部分と内側部分をつかんで引き離すようにイヤークップをこじ開けます。



図 129 : イヤークップ部品の取り外し

3. 古いフォーム イヤークップを内側プレートから取り外します。
4. 新しいフォーム イヤークップを丁寧にプレートにかぶせます。



図 130 : 新しいイヤーパーダの取り付け

5. 2つに分かれたイヤークップの内側のポスト位置を合わせます。
6. カチッという音がするまで押し合わせてはめ込みます。

Vocollect SRX2 ハイノイズ ヘッドセット

Vocollect® SRX2ハイノイズヘッドセットは、SRX2ヘッドセットに、環境雑音の大きい場所でも音声指示を明瞭に聞き取ることができる、作業員の耳全体を覆うイヤークップが1個付いたものです。SoundSenseを使ったSRX2最適な音声認識機能を持つこのモデルは工業環境での効果的な無線ソリューションを提供します。

シングルカップ設計により、作業者はどちらかの耳にヘッドセット スピーカを装着すればよく長時間の快適性が保たれます。また、倉庫内の冷凍庫など、非常に寒冷な環境下での保護を提供します。



図 131 : Vocollect® SRX2 ハイノイズヘッドセット

注:

- ハイノイズヘッドセットは、ヘッドセットのイヤークップの上にあるヘッドバンドにマイクキャップ入れがついています。
- このモデルではスタビリティストラップが利用できます。

SRX2 ハイノイズ ヘッドセット仕様

重量	3.74 オンス (106g)
動作温度	-30°C ~ 50°C (-22°F ~ 122°F)
保管温度	-40°C ~ 70°C (-40°F ~ 158°F)
落下テスト済み	<ul style="list-style-type: none"> 7 フィート (2.1 m) からの落下12回、最低、最高動作温度下 角度を変化させた6 フィート (1.8 m) からの落下24回、最低、最高動作温度下
保護等級	IP54準拠
湿度	5-95% 結露
雑音除去率	≥ 10.5 dB

注: パッケージは製品の出荷条件により異なります。一般に、梱包材料は総出荷重量の約15%です。

SRX2ヘルメットまたはハイノイズヘッドセットのイヤークップを交換する

1. イヤークップからのSRX2電子モジュールの取り外し
2. イヤークップの外側部分と内側部分をつかんで引き離すようにイヤークップをこじ開けます。



図 132 : イヤークップ部品の取り外し

3. 古いフォーム イヤークップを内側プレートから取り外します。
4. 新しいフォーム イヤークップを丁寧にプレートにかぶせます。



図 133 : 新しいイヤークップの取り付け

5. 2つに分かれたイヤークップの内側のポスト位置を合わせます。

6. カチッという音がするまで押し合わせてはめ込みます。

ワイヤレス ヘッドセットの組み合わせについて

組み合わせとは、Bluetoothワイヤレステクノロジーに対応する2台の端末間に、情報を共有するためのセキュアなリンクを作成するプロセスです。組み合わせのプロセスは、マスター端末が発見可能なBluetoothアドレスの検索問い合わせを開始したときに開始します。

Vocollectワイヤレス ヘッドセットとTalkmanまたはその他の端末との組み合わせは端末側から開始され、ユーザの操作によって解除されるまで維持されます。組み合わせはヘッドセットと端末ハードウェアの間で存在することに注意してください。作業員が別の端末を使用した場合、作業員が元のヘッドセットと端末の組み合わせを自動的に使用できるわけではありません。

 **注:** 自動作業員読み込み機能は、ハードウェアのみによる組み合わせの例外です。サポート対象のプラットフォーム上で作業員がVocollectワイヤレスヘッドセットを接続すると、その接続と作業員情報がVoiceConsoleに登録されます。同じ作業員が次回そのヘッドセットに接続すると、その作業員の情報が自動的に読み込まれます。詳細は、ご使用のVocollect Voiceソフトウェアリリースで、自動作業員読み込みに関するマニュアルを参照してください。

組み合わせと接続の相違点

組み合わせは接続とは異なります。2台のBluetooth端末を組み合わせた後、何度でも接続と切断を実行できます。組み合わせをメモリに保存すると、2台の端末の再接続が容易になり、接続を確立するための試みが繰り返し行われます。このように、ヘッドセットと端末を組み合わせることで、ユーザの機動力が高まります。

たとえば、ユーザがヘッドセットを装着したまま組み合わせ対象の端末の通信範囲外に出るか、ヘッドセットの電源を切断すると、端末は接続が切れたことを感知し、再接続を試みます。このプロセスの間、ヘッドセットと端末の組み合わせが一貫して維持されます。

組み合わせに関する設定パラメータ

PersistSrxPairingAcrossPowerCycle

端末の電源がオフになった場合に組み合わせを削除するには0に設定します。

端末が再度電源オンになっても、関連するヘッドセットとの接続を再確立しません。

このパラメータの規定値は1であり、組み合わせは永続し端末が電源オンになった時に再確立されます。

SrxAutoPairEnableが有効（1に設定）な場合、PersistSrxPairingAcrossPowerCycleの規定値は0となります。

SrxClearPairingInCharger

端末を充電器にセットした時に組み合わせを削除するには1に設定します。

このパラメータの規定値は0であり、組み合わせが維持されます。

SrxAutoPairEnableが有効（1に設定）な場合、SrxClearPairingInChargerの規定値は1となります。

SrxAutoPairEnable

自動組み合わせをオンにするには1に設定します。

クロス組み合わせ

クロス組み合わせは、マスター端末が、目的のスレーブでないヘッドセットやその他の端末との間に組み合わせを行った結果生じます。ユーザが目的の端末とヘッドセットを他の端末やヘッドセットなどから隔離できず、クロス組み合わせが発生する場合、ユーザは既存の組み合わせを解除し、目的の組み合わせができるように再度試みる必要があります。

i ヒント: 不要なクロス組み合わせを回避するには、端末が問い合わせスキャンを実行してヘッドセットを検索するときに、端末とヘッドセットを他のすべてのBluetooth端末から隔離するか、手動で組み合わせを行います。クロス組み合わせはユーザがタッチ組み合わせを使用する場合にはきわめて稀です。

SRX/SRX2ヘッドセットの組み合わせ方法

SRXまたはSRX2ヘッドセットは、ローパワーまたはハイパワーの組み合わせモードになった後、Talkman A700シリーズ、Talkman A500、Talkman T5シリーズ、またはその他のBluetooth対応端末が開始した組み合わせを受け入れられるようになります。このような組み合わせは、様々な方法によって確立されます。

SRXまたはSRX2ヘッドセットをハンドヘルド端末と組み合わせるにはハイパワー組み合わせモードにする必要があります。SRXヘッドセットをハイパワー組み合わせモードに変更するには、プラス (+) ボタンとマイナス (-) ボタンを7秒間押し続けます。SrxHighPowerPairingDelaySeconds構成パラメータを設定すると、ハイパワー組み合わせモードに移行するために作業員がプラスボタンとマイナスボタンを何秒間押す必要があるかを指定することができます。またこのパラメータを使用して、ヘッドセットが直接ハイパワー問い合わせモードに移行するよう設定できます。SRXまたはSRX2ヘッドセットはハイパワー組み合わせモードになった後、Bluetooth対応ハンドヘルド端末が開始した組み合わせを受け入れられるようになります。このような組み合わせは、様々な方法によって確立されます。

TouchConnect

SRX2ヘッドセットとA700端末は端末とヘッドセットをオンにし接触させることによって組み合わせることができます。ボタンを押したりする必要はありません。

 注: この方法を使用するための条件のリストは、[TouchConnect™ を使ってSRX2ヘッドセットとA700端末を組み合わせる](#)を参照してください。

推奨される対象:

A700端末とSRX2ヘッドセットを使用するVoiceCatalystユーザー

理由

この方法により、SRX2ヘッドセットはそれが接触している端末とのみ組み合わせられます。そのほかにボタンを押したりする必要はありません。

自動組み合わせ:

この方法では、端末を起動するか充電器から取り外すと、すぐにワイヤレスヘッドセットが検索されて組み合わせが開始します。この方法では電源をオフにした、または充電器にセットした時に組み合わせが解除されるため、手動で組み合わせを解除する必要がなくなります。

 注: SRXヘッドセットが自動組み合わせを初めて受け入れると、組み合わせ相手の端末は、ヘッドセットが起動のたびに即座に組み合わせモードになるように、ヘッドセットを設定します。

 注: SRX2ヘッドセットは、常に組み合わせモードで起動します。

推奨される対象:

ヘッドセットを共有しているVoiceClientユーザー
SRXヘッドセットを使用しているユーザー

理由

ヘッドセットを共有する場合、自動組み合わせにより簡単に端末およびヘッドセットを探し、互いに近接した（3フィート以内）両者の電源をオンにし、両者を自動的に組み合わせることができます。この方法では電源をオフにした、または充電器にセットした時に組み合わせが解除されるため、手動またはVoiceConsoleを使って組み合わせを解除する必要がなくなります。端末を起動すると、組み合わせが解除されヘッドセットを探し始めます。SRXヘッドセットの場合これが推奨される方法です。最初の接続時にSRXのパラメータが起動時に自動的に組み合わせモードに入るよう設定されるためです。

手動組み合わせ: ユーザーが端末のボタンを押すことにより、端末とヘッドセットを組み合わせるタイミングを決定する方法です。

 重要: これまで一度も端末と組み合わせたことのないSRXヘッドセットは、最初の組み合わせの際、手動で組み合わせる必要があります。次回からは自動的に組み合わせることができます。

 注: SRX2ヘッドセットは、最初の組み合わせを手動と自動のいずれでも実行できます。

推奨される対象:

T5またはA500端末を使用するVoiceCatalystユーザー
ヘッドセットを共有していないVoiceClientユーザー
SRX2ヘッドセットを使用しているユーザー

理由

他のユーザーとヘッドセットを共有していないVoiceClientユーザーは手動組み合わせを使用することをお勧めします。手動組み合わせは他のユーザーから離れて組み合わせ手順を実行できるため、クロス組み合わせを避ける最も安全な方法です。また、手動での組み合わせが行われた後（他の設定パラメータも変更されていると仮定して）、組み合わせは永続し、端末とヘッドセットは明示的に解除されるまで組み合わせを維持します。

VoiceConsoleによる組み合わせ: ユーザーは、VoiceConsoleインターフェースを使用して、特定の端末をヘッドセットに組み合わせることができます。

画面を使用した組み合わせ: ハンドヘルド端末をヘッドセットに組み合わせる方法の詳細は、この章の「画面を使用した組み合わせ」を参照してください。

SRXヘッドセットの組み合わせ

SRXヘッドセットと端末は、いったん組み合わせるとその組み合わせが保存され、電源をオフにしてからオンにしても、端末を充電しても組み合わせが維持されます。SRXヘッドセットは、組み合わせられた端末とのみ接続します。

SRXヘッドセットを新しい端末と組み合わせると、ヘッドセットのメモリから以前の組み合わせの情報が消去されます。

 **注:** SRX2ヘッドセットを使用している場合の詳細は、「[SRX2ヘッドセットの組み合わせ](#)」を参照してください。

Talkman端末との自動組み合わせ

前提条件は次のとおりです。

- ヘッドセットの電源がオフである。電源オフの状態からSRX Wireless Headsetを移行する場合、ローパワーまたはハイパワー組み合わせモードにのみ移行できます。
- Talkman端末に有線ヘッドセットが接続されていない。
- Talkman端末が休止モードであり、作業または音声アプリケーションの実行に使用されていない。緑のLEDインジケータが点滅している。緑のLEDが点灯している場合は、[再生/一時停止] ボタンを押します。
- Talkman端末がBluetooth対応であり、Bluetooth接続機能が有効である。

 **重要:** 組み合わせされていないTalkman端末を自動組み合わせモードにすると、端末がワイヤレスヘッドセットを検索し続けます。検索には電池が消費されるので、自動組み合わせ可能な端末を組み合わせされていない状態で、電源を投入したままにしないでください。

1. Talkman端末を再起動するか、充電器から取り外します。これら2つの動作のいずれを行うと、端末によるヘッドセットのスキャンが開始します。
2. ヘッドセットのLEDインジケータが低速で点滅しない場合、このヘッドセットは組み合わせモードではありません。組み合わせモードに移行するには、ヘッドセットのコントロールパネル上にあるプラス (+) とマイナス (-) のボタンを、4秒間押し続けます。

ヘッドセットのLEDインジケータが高速に点滅し、一旦停止し、高速に3回点滅した後、ゆっくりとした点滅に移行します。既定では、SRXヘッドセットは、約1分間組み合わせモードを維持した後、アイドルモードに戻ります。ヘッドセットが少なくとも一度、VoiceCatalyst version 1.2以降の音声認識ソフトウェアを実行する端末に組み合わせられたことがあれば、ヘッドセットは10分間組み合わせモードを維持した後、電源がオフになります。

3. ヘッドセットとTalkman端末を6インチ以内の距離を保ちながら、接触させないように持ちます。

Talkman端末の青いインジケータがオンになり、何回か点滅した後、点灯したままになります。20から30秒程度経過すると、ヘッドセットからビープ音が3回（音程が上がりながら）聞こえ、そのLEDインジケータの点滅が遅くなります。これらのインジケータは、組み合わせが完了したことを示します。

4. ヘッドセットを装着します。ヘッドセットからは組み合わせ対象となったTalkman端末のシリアル番号が繰り返し聞こえます。
5. 聞こえる番号が、使用するTalkman端末に対するシリアル番号と一致することを確認してください。再度組み合わせを試みる場合は、ヘッドセットを再起動してもう一度組み合わせモードに移行します。
6. 番号を確認するには、Talkman端末の [再生/一時停止] ボタンを押します。

7. もう1度[再生/一時停止]ボタンを押して、作業を開始します。

Talkman端末との手動組み合わせ

前提条件は次のとおりです。

- ヘッドセットの電源がオフである。電源オフの状態からSRX Wireless Headsetを移行する場合、ローパワーまたはハイパワー組み合わせモードにのみ移行できます。
- Talkman端末が充電器に入っておらず、有線ヘッドセットが接続されていない。
- Talkman端末が休止モードであり、作業または音声アプリケーションの実行に使用されていない。緑のLEDインジケータが点滅している。緑のLEDが点灯している場合は、[再生/一時停止] ボタンを押します。
- Talkman端末がBluetooth対応であり、Bluetooth接続機能が有効である。

1. ヘッドセットのコントロールパネルで、プラス(+)ボタンとマイナス (-) ボタンをLEDインジケータの点滅着実に (1 ~ 4 秒) です押し続けます。

ヘッドセットのLEDインジケータが高速に点滅し、一旦停止し、高速に3回点滅した後、ゆっくりとした点滅に移行します。既定では、SRXヘッドセットは、約1分間組み合わせモードを維持した後、アイドルモードに戻ります。ヘッドセットが少なくとも一度、VoiceCatalyst version 1.2以降の音声認識ソフトウェアを実行する端末に組み合わせされたことがあれば、ヘッドセットは10分間組み合わせモードを維持した後、電源がオフになります。

2. ワイヤレス ヘッドセットの検索を手動で開始するには、Talkman端末のプラス (+) ボタンとマイナス (-) ボタンを押したままにします。

3. ヘッドセットとTalkman端末を近づけ、6インチ以内の距離を保ちながら、接触させないように持ちます。

Talkman端末の青いインジケータがオンになり、何回か点滅した後、点灯したままになります。20から30秒程度経過すると、ヘッドセットからビーブ音が3回 (音程が上がりながら) 聞こえ、そのLEDインジケータの点滅が遅くなります。これらのインジケータは、組み合わせが完了したことを示します。

4. ヘッドセットを装着します。ヘッドセットからは組み合わせ対象となったTalkman端末のシリアル番号が繰り返し聞こえます。

5. 聞こえる番号が、使用するTalkman端末に対するシリアル番号と一致することを確認してください。

組み合わせを再度試みる場合は、Talkman端末のプラス (+) とマイナス (-) ボタンをもう一度押して、組み合わせモードに再度移行します。

6. 番号を確認するには、Talkman端末の [再生/一時停止] ボタンを押します。

7. もう1度[再生/一時停止]ボタンを押して、作業を開始します。

ハンドヘルド端末との画面を使用した組み合わせ

画面を使用した組み合わせは、SRXヘッドセットをハンドヘルドワイヤレス端末またはPCに組み合わせるための優れた方法です。この方法を使用すると、ユーザは画面に表示された利用できるヘッドセットのBluetoothアドレスから特定のヘッドセットを選択できるので、好ましくないクロス組み合わせの問題を解消できます。画面を使用した組み合わせでは、自動と手動のいずれの組み合わせプロセスも利用できません。

前提条件は次のとおりです。

- ヘッドセットの電源がオフである。電源オフの状態からSRX Wireless Headsetを移行する場合、ローパワーまたはハイパワー組み合わせモードにのみ移行できます。

- ハンドヘルド端末が充電器に入っておらず、有線ヘッドセットが接続されていない。
 - 端末が休止モードであり、アプリケーションの実行に使用されていない。
 - 端末がBluetooth対応で、Bluetooth接続機能が有効である。
1. SRXヘッドセットを組み合わせモードに移行させるには、ヘッドセットのプラス(+)ボタンとマイナス(-) ボタンを4秒間押し続けます。

 注: ハンドヘルド端末の中には、ヘッドセットがハイパワー組み合わせモードでなければ、端末の組み合わせの問い合わせで検出できないものもあります。SRXヘッドセットをハイパワー組み合わせモードに変更するには、プラス (+) ボタンとマイナス (-) ボタンを7秒間押し続けます。

SrxHighPowerPairingDelaySeconds構成パラメータを設定すると、ハイパワー組み合わせモードに移行するために作業員がプラスボタンとマイナスボタンを何秒間押す必要があるかを指定することができます。またこのパラメータを使用して、ヘッドセットが直接ハイパワー問い合わせモードに移行するよう設定できます。

2. 画面上の適切なボタンを押すかクリックして、マスター端末から組み合わせのための問い合わせを開始します。
3. ヘッドセットとワイヤレス端末を6インチ以内の距離を保ちながら、接触させないように持ちます。
4. 画面の**SRX**ヘッドセットを選択リストから、使用するヘッドセットのID番号を選択します。
5. 画面上で適切なボタンをタップするかクリックして、組み合わせを作成します。

端末では、端末がヘッドセットへの接続を試みていることが簡潔に表示されます。いったんヘッドセットが接続されると、ヘッドセットで3回のトーンが鳴り、[SRXヘッドセット ステータス]が [接続] と表示されます。ユーザによって指定された組み合わせを使用しているので、組み合わせ確認手順は省略されます。

6. [再生/一時停止]ボタンを押して、作業を開始します。

ハンドヘルド端末の組み合わせ状態アイコン

Vocollect Voiceアプリケーションをハンドヘルド ワイヤレス端末で使用する場合、画面右上隅のアイコンが組み合わせ状況を示します。PC上では、Vocollect Voiceによってよく似たブラウザベースの通知が表示されますが、アイコンは異なります。

アイコン	状態
	ワイヤレス ヘッドセットが端末と組み合わされていない
	端末がヘッドセットを検索中
	端末がヘッドセットと組み合わされているが、未接続
	端末がヘッドセットと接続済み

SRX2ヘッドセットの組み合わせ

SRX2 Wireless Headsetでは、組み合わせと接続がさらに簡単です。

- オンにすると、自動的にローパワー組み合わせモードになります。
- 電源がオンの状態で組み合わせを解除し、再設定できます。
- ヘッドセットの再起動は不要です。

- 組み合わせ済みのすべての端末から接続を受け入れます。

TouchConnect™を使ってSRX2ヘッドセットとA700端末を組み合わせる

A700 端末は以下の場合に TouchConnect を使って SRX2 ワイヤレス ヘッドセットに接続することができます

- A700 端末が VoiceCatalyst を実行している
- パラメータ SRXHeadsetEnable が規定値の1（有効）から変更されていない
- Bluetoothが有効である
- 端末が休止状態である（作業実行中でない）
- 有線ヘッドセットが接続されていない、あるいはワイヤレスヘッドセットが端末にアクティブな状態で接続されていない

SRX2 を Talkman A700 端末と使用する場合最高の性能を得るには最新のSRX2ソフトウェアバージョンを使用してください。Vocollectポータルまたは代理店から最新のヘッドセットソフトウェアを入手し、Vocollect Accessory Update Utilityを使ってSRX2ヘッドセットをアップグレードします。

 注: NFCを通じて送信されるデータは暗号化されておらず、特定のセーフティー プロトコルにも従っていません。これは、転送が非常に短い距離で行われるため、データの傍受は極めて起こりにくいからです。

1. SRX2ヘッドセットをオンにします。
2. ヘッドセットのLEDが青色で点滅していれば、現在端末に組み合わせられています。SRX2ヘッドセットの + および - マイナスボタンを押して組み合わせを解除します。

Options	Description
---------	-------------

サイト内でヘッドセットを 共有している場合：

- まずヘッドバンドを読みとり作業員IDを取得します：
1. SRX2 Tバーの  シンボルがある部分を、端末の  シンボルがある側の盛り上がった楕円形の中心に接触させ、端末状態インジケータ（リング）が緑に点滅するのを確認します。
 2. ヘッドバンドを読み取ってから30秒以内に、A700端末の  シンボルのある側とSRX2のキーパッド領域の楕円の部分を接触させます。両方の楕円形部分をしっかりと重ね合わせ、端末状態（リング）インジケータが緑に点滅するのを確認します。

サイト内でヘッドセットを 共有していない場合：

- 端末をSRX2電子モジュールに組み合わせるのみです：
1. A700端末の  シンボルのある側とSRX2のキーパッド領域の楕円の部分を接触させます。両方の楕円形部分をしっかりと重ね合わせ、端末状態（リング）インジケータが緑に点滅するのを確認します。

 注: 端末状態インジケータが赤色で点滅した場合、端末はSRX2と組み合わせられておらず組み合わせを再度試行する必要があります。



図 134 : TouchConnectを使ってヘッドバンドから作業員情報を取得する



図 135 : TouchConnectを使ってSRX2とA700端末を組み合わせる

Talkman端末との自動組み合わせ

前提条件は次のとおりです。

- ヘッドセットの電源がオフである。
- Talkman端末に有線ヘッドセットが接続されていない。
- Talkman端末がBluetooth対応であり、Bluetooth接続機能が有効である。

! 重要: 組み合わされていないTalkman端末を自動組み合わせモードにすると、端末がワイヤレスヘッドセットを検索し続けます。検索には電池が消費されるので、自動組み合わせ可能な端末を組み合わされていない状態で、電源を投入したままにしないでください。

1. Talkman端末を再起動するか、充電器から取り外してヘッドセットのスキャンを開始します。
2. ヘッドセットをオンにします。

ヘッドセットは、10分間組み合わせモードになります。10分以内に組み合わせられない場合、ヘッドセットはオフになります。

3. ヘッドセットとTalkman端末を6インチ以内の距離を保ちながら、接触させないように持ちます。

Talkman端末の青いインジケータがオンになり、何回か点滅した後、点灯したままになります。20から30秒程度経過すると、ヘッドセットからピープ音が3回（音程が上がりながら）聞こえ、LEDインジケータが青く点滅します。これらのインジケータは、組み合わせが完了したことを示します。

4. ヘッドセットを装着します。ヘッドセットからは組み合わせ対象となったTalkman端末のシリアル番号が繰り返し聞こえます。
5. 聞こえる番号が、使用するTalkman端末に対するシリアル番号と一致することを確認してください。

組み合わせを再度試みる場合は、ヘッドセットのコントロールパネルでプラス (+) とマイナス (-) ボタンを押してから離して、組み合わせモードに再度移行します。

6. 番号を確認するには、Talkman端末の [再生/一時停止] ボタンを押します。
7. もう1度[再生/一時停止]ボタンを押して、作業を開始します。

Talkman端末との手動組み合わせ

前提条件は次のとおりです。

- ヘッドセットの電源がオフである。

- Talkman端末が充電器に入っておらず、有線ヘッドセットが接続されていない。
- Talkman端末が休止モードであり、作業または音声アプリケーションの実行に使用されていない。緑のLEDインジケータが点滅している。緑のLEDが点灯している場合は、[再生/一時停止] ボタンを押します。
- Talkman端末がBluetooth対応であり、Bluetooth接続機能が有効である。

1. ヘッドセットをオンにします。

LEDインジケータは、緑に点灯します。ヘッドセットは10分間組み合わせモードを維持し、その後電源がオフになります。

2. ワイヤレス ヘッドセットの検索を手動で開始するには、Talkman端末のプラス (+) ボタンとマイナス (-) ボタンを押したままにします。
3. ヘッドセットとTalkman端末を近づけ、6インチ以内の距離を保ちながら、接触させないように持ちます。

Talkman端末の青いインジケータがオンになり、何回か点滅した後、点灯したままになります。20から30秒程度経過すると、ヘッドセットからピープ音が3回（音程が上がりながら）聞こえ、LEDインジケータが青く点滅します。これらのインジケータは、組み合わせが完了したことを示します。

4. ヘッドセットを装着します。ヘッドセットからは組み合わせ対象となったTalkman端末のシリアル番号が繰り返し聞こえます。
5. 聞こえる番号が、使用するTalkman端末に対するシリアル番号と一致することを確認してください。

組み合わせを再度試みる場合は、Talkman端末のプラス (+) とマイナス (-) ボタンをもう一度押して、組み合わせモードに再度移行します。

6. 番号を確認するには、Talkman端末の [再生/一時停止] ボタンを押します。
7. もう1度[再生/一時停止]ボタンを押して、作業を開始します。

ハンドヘルド端末との画面を使用した組み合わせ

画面を使用した組み合わせは、SRX2ヘッドセットをハンドヘルド ワイヤレス端末またはPCに組み合わせるための優れた方法です。この方法を使用すると、ユーザは画面に表示された利用できるヘッドセットのBluetoothアドレスから特定のヘッドセットを選択できるので、好ましくないクロス組み合わせの問題を解消できます。画面を使用した組み合わせでは、自動と手動のいずれの組み合わせプロセスも利用できません。

前提条件は次のとおりです。

- ヘッドセットの電源がオフである。
- ハンドヘルド端末が充電器に入っておらず、有線ヘッドセットが接続されていない。
- 端末が休止モードであり、アプリケーションの実行に使用されていない。
- 端末がBluetooth対応で、Bluetooth接続機能が有効である。

1. SRX2ヘッドセットをオンにします。SRX2ヘッドセットは、ローパワー組み合わせモードで起動します。

 注: ハンドヘルド端末の中には、ヘッドセットがハイパワー組み合わせモードでなければ、端末の組み合わせの問い合わせで検出できないものもあります。ハイパワー組み合わせモードに変更するには、ローパワー組み合わせモードにあるヘッドセットで、プラス (+) ボタンとマイナス (-) ボタンを押して離します。

2. 画面上の適切なボタンを押すかクリックして、マスター端末から組み合わせのための問い合わせを開始します。
3. ヘッドセットとワイヤレス端末を6インチ以内の距離を保ちながら、接触させないように持ちます。
4. 画面の**SRX**ヘッドセットを選択リストから、使用するヘッドセットのID番号を選択します。
5. 画面上で適切なボタンをタップするかクリックして、組み合わせを作成します。

ヘッドセットへの接続を試みていることが、端末に簡潔に表示されます。いったんヘッドセットが接続されると、ヘッドセットで3回のトーンが鳴り、[SRXヘッドセット ステータス]が [接続] と表示されます。ユーザによって指定された組み合わせを使用しているため、組み合わせ確認手順は省略されます。

6. [再生/一時停止]ボタンを押して、作業を開始します。

ハンドヘルド端末の組み合わせ状態アイコン

Vocollect Voiceアプリケーションをハンドヘルドワイヤレス端末で使用する場合、画面右上隅のアイコンが組み合わせ状況を示します。PC上では、Vocollect Voiceによってよく似たブラウザベースの通知が表示されますが、アイコンは異なります。

アイコン	状態
	ワイヤレスヘッドセットが端末と組み合わせされていない
	端末がヘッドセットを検索中
	端末がヘッドセットと組み合わせされているが、未接続
	端末がヘッドセットと接続済み

VoiceConsoleの組み合わせによるヘッドセットの組み合わせ

VoiceConsoleによる組み合わせ方法は、端末とヘッドセットの組み合わせが一度だけ実行され、絶対に変更しない場合のみ使用してください。この永続的な組み合わせは手動に組み合わせによっても確立できませんが、VoiceConsoleを使用した場合は、端末問い合わせ段階が省略され、Bluetoothアドレスのページングが即座に開始されます。

前提条件は次のとおりです。

- ヘッドセットの電源がオフである。
- 端末が充電器に入っておらず、有線ヘッドセットが接続されていない。
- 端末が休止モードであり、アプリケーションの実行に使用されていない。
- 端末がBluetooth対応であり、Bluetooth接続機能が有効である。

1. VoiceConsoleで端末をクリックし、組み合わせる端末を選択します。
2. 端末アクション (**Device Actions**) で、周辺機器との組み合わせのためのアクションを選択します。詳細については、VoiceConsoleオンラインヘルプを参照してください。

組み合わせが実行できるのは、端末の電源がオフの場合、または端末がアプリケーションを実行中の場合です。端末の電源がオフのとき、または端末が休止モードに移行するときに、ページングプロセスが開始します。

3. ヘッドセットを組み合わせモードにします。

- SRXヘッドセットの場合：プラス(+)ボタンとマイナス (-) ボタンを4秒間押し続けます。
 - SRX2ヘッドセットの場合：電源ボタンを押して電源をオンにします。
4. 端末とヘッドセットが接続されると、ヘッドセットで接続トーン（音量が次第にアップ）が発生します。ユーザによって指定された組み合わせを使用しているため、組み合わせ確認手順は省略されます。
 5. [再生/一時停止]ボタンを押して、作業を開始します。

SRX/SRX2組み合わせモードについての補足

組み合わせモードにあるヘッドセットは、そのBluetoothサービスに関するあらゆる問い合わせに応答します。問い合わせ側の端末は、この応答を使用して、そのヘッドセットと組み合わせを確立するかどうかを決定します。端末がイニシエータであり、ヘッドセットがアクセプタなので、端末からの接続を開始する前にヘッドセットを組み合わせモードにすることで、組み合わせプロセスが容易になります。

SRX/SRX2ヘッドセットは、次の2つの組み合わせモードをサポートします。

- ローパワー組み合わせモード

ローパワー組み合わせモードは、SRX/SRX2ヘッドセットの既定の組み合わせモードです。このモードを使用すると、ヘッドセットは小さな領域内（問い合わせ側端末の受信機能によりませんが、数フィート程度）のみ送信可能なローパワー応答によって、Bluetooth端末問い合わせに応答します。

ワイヤレス送信を限定し、ヘッドセットを端末の近くに置くことで、好ましくないクロス組み合わせ（ターゲット以外のBluetoothアドレスとの組み合わせ）を回避できます。

- ハイパワー組み合わせモード

ハイパワー組み合わせモードでは、問い合わせに対するヘッドセットからの応答が広範囲に送信されるので、ローパワー組み合わせモードよりも、ヘッドセットと端末を離すことができます。

ハイパワー組み合わせは、ローパワー組み合わせに失敗した場合のみ使用することをお勧めします。このモードの使用には注意が必要です。ハイパワー組み合わせモードでは接続に成功する可能性が高くなりますが、同時にクロス組み合わせの危険も高まります。

構成パラメータ `SrxAutoPairEnable` を有効にし、構成パラメータ `SrxHighPowerPairingDelaySeconds` を0に設定すると、ヘッドセットがローパワー組み合わせモードを省略して、ハイパワーモードに移行します。

- TouchConnect

A700端末とSRX2ヘッドセットは接触させることで組み合わせることができます。この方法はクロス組み合わせが発生する可能性を回避することができ、他の方法と比較して迅速かつ簡単です。詳細な情報は、[TouchConnectを使ってSRX2ヘッドセットとA700端末を組み合わせる](#) を参照してください。

詳細については、「[SRX/SRX2ヘッドセットの構成パラメータ](#)」を参照してください。

組み合わせモードでのヘッドセットの配置

ヘッドセットの初期状態	SRXコントロール	SRX2コントロール	組み合わせモードの結果
オフ	プラス (+) ボタンとマイナス (-) ボタンを0~3秒間押し続ける	なし	アイドルモード 最後に組み合わせられた端末とのみ接続できるモード

ヘッドセットの初期状態	SRXコントロール	SRX2コントロール	組み合わせモードの結果
オフ	プラス (+) ボタンとマイナス (-) ボタンを4~6秒間押し続ける	電源ボタンを押して離す	ローパワー組み合わせモード
オフ	プラス (+) ボタンとマイナス (-) ボタンを7秒以上押し続ける	なし	ハイパワー組み合わせモード
オンで組み合わせ済み	なし	プラス (+) ボタンとマイナス (-) ボタンを押して離す	現在の組み合わせが解除され、ヘッドセットがローパワー組み合わせモードに移行
オンでローパワー組み合わせモード	なし	プラス (+) ボタンとマイナス (-) ボタンを押して離す	ハイパワー組み合わせモード

組み合わせの解除

SRX/SRX2ヘッドセットとBluetooth端末の組み合わせを解除するには、いくつかの方法があります。

端末での解除： ワイヤレスヘッドセットとの組み合わせを端末側から解除するには、ヘッドセットの検索を新たに開始します。ユーザは、端末上のプラス (+) ボタンまたはマイナス (-) ボタンを押して端末間い合わせを開始できます。この方法は、端末が誤ったヘッドセットとクロス組み合わせを行った場合に使用できます。解除した後、ユーザは手動で別の端末との組み合わせを開始することができます。

VoiceConsoleでの解除： VoiceConsoleには、SRX/SRX2ヘッドセット、Talkman端末、スキャナ、およびプリンタなど、すべてのBluetoothの組み合わせが表示されます。端末編集ページで、組み合わせを解除できます。この操作は、ヘッドセットでも使用できます。

SRXヘッドセットでの解除 ヘッドセット側から、端末との組み合わせを解除することはできません。ユーザは、別の組み合わせを開始することで、端末側で組み合わせを解除できます。

SRX2ヘッドセットでの解除 SRX2ヘッドセットを使用している場合、プラス (+) ボタンとマイナス (-) ボタンを押して、組み合わせを解除することができます。

これが組み合わせを解消するのに推奨される方法です。

組み合わせられた端末でVocollect VoiceCatalyst 1.2以降が実行されている場合、SRX2ヘッドセットは端末に対し、組み合わせが解除されることを通知します。それより古いバージョンのVocollect Voiceが実行されている場合、組み合わせが解除されるのはタイムアウトした後だけです。

ヘッドセットの組み合わせに関するFAQ

Q： 端末が誤って違うヘッドセットと組み合わせされました。どうすればいいでしょうか。

A： SRX2ヘッドセットを使用している場合、組み合わせを解除するには + ボタンと - ボタンを同時に押してください。

SRX ヘッドセットを使用している場合、手動組み合わせを実行します。これにより、接続が切断され、別の問い合わせが開始します。この手順を実行する前に、ユーザはヘッドセットを組み合わせモードにする必要があります。これによって、端末が検索時にヘッドセットを検出できるようになります。

Q: ユーザに固定のヘッドセットと端末が割り当てられていないサイトでは、シフトのたびに異なるヘッドセットを使用する可能性があります。このような場合、どの組み合わせプロセスが推奨されますか。

A: A700 端末 (VoiceCatalyst のみ) とSRX2ヘッドセットの場合、TouchConnectを使って端末とヘッドセットを組み合わせることができます。

他の端末の場合、おそらく、自動組み合わせが最も簡単です。このプロセスでは、迅速に接続が確立される上、既定では確立した組み合わせが維持されません。

Q: ユーザが固定の**SRX**または**SRX2**ヘッドセットを割り当てられているサイトでは、シフトの開始時に毎回ヘッドセットを組み合わせるのではなく、組み合わせを維持することが望ましい方法です。このような場合、どの組み合わせプロセスが推奨されますか。

A: 手動組み合わせが使用できます。また自動組み合わせで、**SrxPersistAutomaticPairing**パラメータを「1」に、**SrxClearPairingInCharger**パラメータを「0」に設定すると、端末の再起動や再充電後も組み合わせ情報が維持されます。

Q: 組み合わせに非常に時間がかかります。ヘッドセットの組み合わせに要する時間を短縮するには、どのような方法が推奨されますか。

A: 考えられる方法はいくつかあります。

- クロス組み合わせが発生しにくい組み合わせモードを使用する必要があるため、自動組み合わせは避けます。
- 端末による問い合わせ実行の際、ユーザが、必ず他のユーザから離れた場所に隔離された状態になるようにします。
- ユーザのリクエストによってのみ検索が実行されるよう、自動組み合わせではなく、手動組み合わせを使用します。
- ローパワー組み合わせを使用します。
- ヘッドセットと端末をユーザ間で共用しない場合は、端末とヘッドセットの組み合わせが維持されるように手動組み合わせを使用します。
- ヘッドセットと端末をユーザ間で共用する場合は、各シフトでのハードウェアの組み合わせが迅速に完了するように、自動組み合わせを使用します。

SRX/SRX2ヘッドセットのSupervisor Audio機能

Supervisor Audioは、作業員がSRXまたはSRX2ヘッドセットを使用し、Talkman端末がBluetooth接続されている場合に、他のユーザが作業員とTalkman端末の間の会話を聞ける機能です。

作業員は端末と組み合わせたワイヤレスヘッドセットを装着し、管理者はその作業員が使用している端末に有線ヘッドセットを接続して作業員の後ろから付いて歩きます。管理者は、作業員の端末が常に作業員のワイヤレスヘッドセットの通信範囲内にあるように注意してください。

 **注:** この機能は、Vocollect Talkman端末で使用するよう設計されています。ただし端末が持つ処理能力によっては、他の端末でも正常に機能する可能性があります。

Supervisor Audioには、次の2つのリスニングモードがあります。

- **Combined audio** - ユーザがマイクロホンで会話する音声と読み上げ機能 (text-to-speech : TTS) 音声の両方をあわせて有線音声ポートにストリーム出力します。
- **Device audio only** - 他のユーザには、TTS音声のみがストリーム送信されます。

Supervisor Audioの有効化

この機能を有効にするには、**SrxSupervisorAudioEnable**構成パラメータを目的のモードに設定します。詳細については、「[SRX/SRX2ヘッドセットの構成パラメータ](#)」を参照してください。

- この機能は、デバッグの目的で、かつユーザがトレーニングまたは支援を必要とする場合のみ使用してください。最適なパフォーマンスを得るためには、このパラメータをオフにする必要があります。
- 通常の運用では、SRXまたはSRX2ヘッドセットを使用している場合に、有線ヘッドセットを端末に接続することはできません。このパラメータを有効にすると、この要件が無効になり、有線ヘッドセットを端末に接続できるようになります。
- ワイヤレスヘッドセットの接続が切断しないよう、まずTalkman端末をヘッドセットと組み合わせ、接続した後、有線ヘッドセットを接続します。

SRX/SRX2ヘッドセットの構成パラメータ

パラメータ	サポートされている端末	説明	可能な値 & 設定場所
Bluetooth_IsEnabled	A700、A500、T5シリーズ	無線のBluetooth部分に電力が供給されるかどうかを指定します。 この値をFalseに設定すると、無線のBluetooth部分に電源が供給されず、他のBluetoothパラメータがすべて無効になります。	True False VoiceConsole > [端末プロファイル] または [端末編集] で設定します。
SrxAutoPairEnable	A700、A500、T5シリーズ	SRX/SRX2ヘッドセットの自動組み合わせモードを有効にします。 このパラメータは、サードパーティ製のハンドヘルド端末には適用できません。	0 = 無効 1 = 有効 既定の設定は、実装されているVocollect Voiceソフトウェアのバージョンによって異なります。このパラメータが1 (有効) の場合、SrxClearPairingInChargerの設定が無視されます。 作業パッケージ、作業員プロファイル、端末プロファイル、またはVRGファイルで設定します。

パラメータ	サポートされている端末	説明	可能な値 & 設定場所
SrxClearPairingInCharger	A700、A500、T5 シリーズ、Psion、Intermec	<p>端末を充電器にセットしたときに、ユーザが端末のメモリからヘッドセットのBluetooth組み合わせを強制的に消去できるようにします。</p> <p>SrxAutoPairEnableがオンの場合、この規定値も1となり充電器にセットした際に組み合わせが解除されます。</p>	<p>0 = 無効</p> <p>1 = 有効</p> <p>このパラメータを有効にする場合、SrxAutoPairEnableを0（無効）に設定する必要があります。</p> <p>VoiceConsole > [端末プロファイル] で設定します。</p>
SrxHeadsetEnable	A700、A500、T5 シリーズ	<p>SRXまたはSRX2ワイヤレスヘッドセットと承認されたBluetooth端末の併用を有効または無効にします。</p> <p>他のBluetooth周辺機器を使用している場合、ヘッドセットを無効にしたいことがあります。</p>	<p>0 = 無効</p> <p>1 = 有効</p> <p>VoiceConsole > [端末プロファイル] で設定します。</p>
SrxHighPowerPairingDelaySeconds	A700、A500、T5 シリーズ、Psion、Intermec、Motorola	<p>SRXヘッドセット:ローパワー組み合わせモードからハイパワー組み合わせモードに移行するために、作業員がSRXヘッドセットのプラスとマイナスのボタンを押す必要がある時間（秒数）を指定します。</p> <p>SRX2ヘッドセット:このパラメータはローパワー組み合わせモードからハイパワー組み合わせモードに移行するために、作業員がSRX2ヘッドセットのプラスとマイナスのボタンを押す必要があるかどうかを指定します。</p>	<p>SRXヘッドセット:1~10秒（既定は6）</p> <p>ヘッドセットでAutoPairが有効に設定されている場合、値に0を設定できます。</p> <p>VoiceConsole > [端末プロファイル] で設定します。</p> <p>SRX2ヘッドセット:0 = SRX2ヘッドセットをオンにするとヘッドセットはハイパワー組み合わせモードに入ります。</p> <p>その他の設定 = ハイパワー組み合わせモードに入るためには、作業員がSRX2ヘッドセットのプラスとマイナスのボタンを押す必要があります。</p> <p>VoiceConsole > [端末プロファイル] で設定します。</p>
SrxPersistAutomaticPairing	A500、T5 シリーズ、	<p>端末の電源を切断した後も、最後に自動組み合わせが行われたヘッドセットの情報を端末に保</p>	<p>0 = 無効</p> <p>1 = 有効</p>

パラメータ	サポートされている端末	説明	可能な値 & 設定場所
	Psion、 Intermec	<p>存できるようにします。電源投入時に、端末は組み合わせモードに移行せず、保存された情報のヘッドセットに接続を試みます。</p> <p>このパラメータはVoiceCatalyst 2.0ではPersistSrxPairing-AcrossPowerCycleに置き換えられています。</p> <p>ただし端末を充電器にセットすると、通常どおり組み合わせが解除されます。</p> <p>SrxAutoPairEnable設定可能パラメータを無効にした場合、このパラメータは無視されます。</p>	VoiceConsole > [端末プロフィール] で設定します。
PersistSrxPairingAcrossPowerCycle	A700、 A500	<p>端末の電源をオフにした場合もあらゆるタイプの組み合わせを継続します。</p> <p>このパラメータはVoiceCatalyst 2.0で SrxPersistAutomaticPairing を置き換えています。</p>	<p>0 = 有効</p> <p>1 = 有効、手動による組み合わせまたはVoiceConsoleを通じた組み合わせの場合</p>
SrxSupervisorAudioEnable	A700、 A500、T5 シリーズ、 Motorola	<p>リモートリスニングキットを使用するか、端末に有線ヘッドセットを接続して、SRX Wireless Headsetの両側の会話を聞けるようにするかどうかを設定します。</p> <p>Supervisor Audioモードでは、より大きな帯域幅が必要になるので、Supervisor Audioを有効にすると、ヘッドセットオーディオのパフォーマンスが低下したように感じられることがあります。最適なパフォーマンスを得るために、SRXワイヤレスヘッドセットの通常の使用では、必ずこのパラメータを「0」（無効）に設定してください。</p>	<p>0 = 無効（既定）</p> <p>1 = TTSとマイクデータの両方を配信</p> <p>2 = TTSオーディオのみを配信</p> <p>VoiceConsole > [端末プロフィール] で設定します。</p>

これらの設定がサポートされているかどうかは、使用しているリリースのVocollect Voiceに関するマニュアルを参照してください。

ヘッドセットとマイクロフォンの手入れ

Vocollect Voice システムで使用されるヘッドセットとマイクロホンは、繊細な電子機器です。その性能を長く維持するには、適切な注意をはらってください。

! 重要: 衛生上の観点から、複数の作業員が同じヘッドセットを共用することは好ましくありません。

SRX2 Wireless Headsetは、ヘッドバンドとウィンドスクリーンから電子モジュールを取り外せるようになっています。電子モジュールはシフトの異なる作業員間で共用できるので、衛生面にある程度配慮しながらコストを削減できます。

ヘッドセットの装着：一般的な手順

ここでは、Vocollectヘッドセットの標準的な装着手順について説明します。ヘッドセットの種類によっては、この手順に若干の違いが生じる可能性があります。マイクロフォンにウィンドスクリーンが取り付けられていることを確認してください。ウィンドスクリーンによって性能が向上します。

1. ヘッドセットを装着し、イヤークッションが耳にぴったりと合うように調整します。
 - ヘルメット形ヘッドセットの場合には、まずヘルメットにある左右のスロットのいずれかにヘッドセットブラケットを挿入した後、そのヘルメットを被ります。
2. イヤークッションの回転レバーを用い、マイクロホンの位置を調整します。
3. マイクをできるだけ口の近くに、ただし息が直接かからない位置に調整します。上唇の方を向け、何にも触れないようにします（衣類、皮膚、顔の産毛など）。
4. ヘッドセットのコードを襟とベルトにクリップ留めします。コードを身体の後ろに垂らし、端末の近くのベルトに留めてください。

端末カバーを使用している場合は、下部のクリップをカバーに直接留めることをお勧めします。
5. ヘッドセットと端末を接続します。

快適にヘッドセットを使用するための調整

SRシリーズのヘッドセットは、多くの人の頭の形状やサイズに関するデータに基づいて設計されています。ヘッドセットは、音声認識機器の中で最もパーソナルな用具であるとともに、非常に動きの激しい作業中にも安定した装着性が求められます。以下のヘッドセット調整ガイドラインに従うことで、ヘッドセットをより快適に使用することができます。

- 「Tバー」パッドの配置：SR-20、SR-21、SR-30、およびSRXモデルには、ヘッドセットのスピーカー側とは反対側に「Tバー」と呼ばれるパッドが付いています。Tバーは、頭の最も筋肉の少ない部分に当ててください。

作業員が話すと、耳の上の筋肉が動きます。この筋肉にTバーを当てると、筋肉の下の動脈と神経がヘッドセットによって圧迫され、作業員が不快感を覚えることがあります。作業員は、顎を動かしながら耳の上を手で触り、動く部分を確認して場所を特定することができます。作業員の中には、シフトの間にヘッドセットを頭の左右交互に位置を変えながら装着する人もいます。

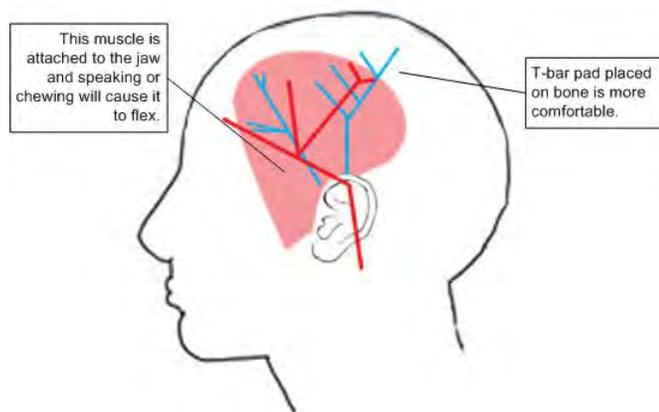


図 136 : 頭の上でのTバーパッドの配置

- ヘッドセットパッドのオプション:Vocollectは、作業員や作業環境に固有のニーズに応じて、さまざまなパッドを提供しています。
標準のフォームパッド：ヘッドセットが作業員に接触するあらゆる箇所に使用でき、クッション性と表面の柔らかな肌触りを与えます。すべてのヘッドセットで使用できます。
レザー イヤーパッド：標準のフォームパッドよりも頑丈で安定感があり、湿気に強い合成皮革張りのパッドです。SR-20からSR-40のすべてのモデルに対応します。
形状記憶フォームパッド：ひときわ優れたクッション性のあるサポート感と快適さを提供します。SR-20/21のイヤーパッドおよびSR-20/21とSR-30のTバーパッドで利用できます。

ヘッドセットの取り外し

1. 端末からヘッドセットを取り外します。ヘッドセットのコードを引っ張らないでください。
2. シャツやジャケットからクリップ留めされたヘッドセットを取り外します。
3. ヘッドセットを頭から丁寧に外します。
 - ヘルメット形ヘッドセットの場合には、ヘルメットを脱ぎます。取り外しクリップを押すことにより、ヘルメット形ブラケットからヘッドセットユニットを取り外します。

冷凍環境でのヘッドセットの使用

ヘッドセットを冷凍環境で使用する場合は、最適な音声認識性能を実現するため、次のベストプラクティスに従ってください。

- 音声テンプレートを冷凍環境でトレーニングします。作業員がテンプレートを静かな場所でトレーニングした場合、冷凍庫の雑音によって適切に音声認識ができないことがあります。
- マイクをできるだけ口の近くに、ただし息が直接かからない位置に調整します。上唇の方を向け、何にも触れないようにします（衣類、皮膚、顔の産毛など）。
- ウィンドスクリーンを乾燥した状態に保ちます。水に濡れても機器が損傷することはありませんが、ウィンドスクリーンで水の障壁が生じ、音声認識の精度が低下する可能性があります。
- ウィンドスクリーンに氷が付着しても割ろうとしないでください。圧力によって氷がフォームにこすりつけられ、溶けたときに水の障壁が生じることがあります。漸次的な環境変化はVocollectのAdaptive Speech Recognitionによって補正されるので、徐々に氷が張っても性能に影響ありません。

- 必要に応じてウィンドスクリーンを交換してください。そうでなければ、フォームに付いた氷によって重大な音声認識上の問題が発生する可能性があります。

ウィンドスクリーンの掃除

Vocollectでは、90日毎のウィンドスクリーン交換を推奨しています。ウィンドスクリーンはヘッドセットのマイクを保護し、作業員応答の明瞭性を損なう恐れのある埃の蓄積を防止します。

! 重要: 石鹸や洗浄液、あるいは力任せによる洗浄は、ウィンドスクリーンの保護膜除去につながり、その効果を低下させてしまいます。

1. マイクロフォンからウィンドスクリーンを取り外します。
2. 温水を用い、ウィンドスクリーンのすすぎ洗いを行います。
3. 余計な水を絞りとり、自然乾燥を用いて完全に乾かしてください。

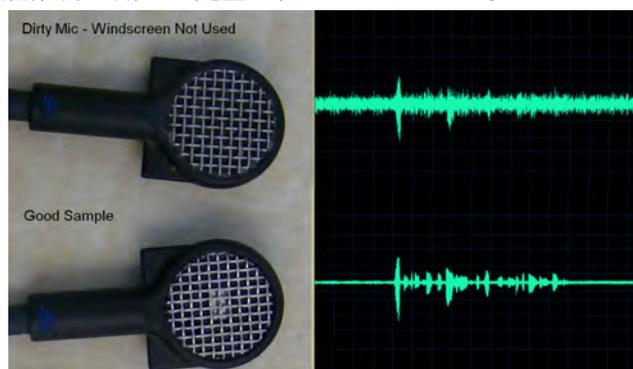


図 137 : 汚れたマイクはパフォーマンスの低下につながります

上の比較図は、保護カバーを付けなかったマイクが音声と無音の区別が明確にできないのに対し、清潔なマイクでは可能であるということを示しています。

ヘッドセットの掃除

Vocollect ヘッドで使用されるフォームパッドは、快適性と衛生面の両方を考慮して設計されています。バクテリアの繁殖を抑える素材を使用し、水ですすいで乾かすことによりクリーニングが可能です。

! 注: 市販の洗剤はお勧めできません。

- ヘッドセットのプラスチック部分の掃除には、水で湿らせた柔らかい布を使用してください。掃除だけでなく消毒も行いたい場合には、アルコールで湿らせた布を使用します。
- Talkman Connectorやプラグが汚れた場合には、アルコールで湿らせた布を使用し、それらを拭き取ってください。
- Talkman Connectorにおける金属接点部の変色を除去するには、柔らかい鉛筆消しゴムを使用してください。
- 黄、青、および赤のTalkman Connector (TCO) や関連するヘッドセット、スキャナー、あるいは端末プラグの掃除には、液体を用いしないでください。
- デュアルカップ型ヘッドセット用イヤープッドカバーは冷水または温水で手洗いまたは洗濯機洗いし、自然乾燥します。カバーは100%綿フランネルできており、衣類乾燥機で乾かすと収縮する可能性があります。

ヘッドバンドパッドの掃除

 注: Vocollectでは、ヘッドバンドパッドの掃除は取り外さずに行わうことを強く推奨します。パッド全体を取り外して掃除を行う場合には、ヘッドバンドに再度取り付ける場合に、ヘッドバンドの最上部とヘッドバンドパッドが揃うように気を付けてください。

- ヘッドバンドは取り外さずに、柔らかい布で拭いてください。必要に応じ、アルコールで湿らせた布を用いて、ユニットの掃除および消毒を行うことも可能です。

第 10 章

充電器

Vocollectでは、1つ以上の端末や電池の充電が可能な、電池およびウェアラブル コンピュータ用充電器を提供しています。

使用していないTalkman端末は充電器にセットしてください。充電器はホスト コンピュータへのリンクを提供し、新しい音声アプリケーションのダウンロード、端末の再設定、端末ソフトウェアの更新等が可能となります。この充電器では、端末に接続されている電池の充電も行います。

 注意:

- 充電器は、常に水や湿気から遠ざけてください。A500、T5シリーズ、あるいはT2シリーズの電池に結露等が確認された場合（たとえば冷凍庫のような低温環境で使用した後等）には、それらの電池を充電器にセットする前に、乾かすことを忘れないでください。
- 充電器では、Vocollectが承認する電池のみを充電してください。他の種類の電池の充電を試みてはいけません。

 注:

- 電池の付いていない端末を充電器にセットしてはいけません。また、充電器に端末がセットされている間に、端末から電池を外してはいけません。
- 充電器にセットされている端末は常にオンになります。電源がオフ状態にある端末を充電器にセットすると、端末が自動でオンになります。
- A700シリーズ、A500/T5、T1充電器は、挿入した状態でも端末から外した状態でも充電することができます。
- 充電器に対しては、サージ保護とアレスタ機能を備えた無停電電源等の保護デバイスと組み合わせて使用することを強く推奨します。

A700 6-ベイ電池充電器



図 138 : A700 6-ベイ電池充電器

 注: 電池の付いていない端末を充電器にセットしてはいけません。

端末をオンにし8時間以上使用すると、電源は自動的にオフになり、充電器に5分間セットした後に再びオンになります。また、端末が充電器に8時間以上置かれていた場合、端末は自動的に電源がオフになり、再度オンになります。

A700 6-ベイ端末充電器仕様

長さ	21.8" (55.5 cm)
奥行き	7.48" (19 cm)
高さ	6.14" (15.6 cm)
電源	入力電圧: 100-240 Vac 入力電流: 最大 2.0 A ライン周波数: 50-60 Hz
コード:	IEC 60320標準プラグを使用
動作温度	32°~104° F (0°~ 40° C)*
保管温度	-40°~158° F (-40°~ 70° C)
充電温度	41°~95° F (5°~ 35° C)*
湿度	5% ~ 95%の非結露まで機能

* 電池充電器の部品は 32°~ 104° F (0°~ 40° C) の周囲温度内で問題なく動作します。電池の充電は電池の内部温度を制限し充電性能を維持するため周囲温度 41°~ 95° F (5°~ 35° C) に制限されています。

 注: パッケージは製品の出荷条件により異なります。一般に、梱包材料は総出荷重量の約15%です。

A700 端末充電器および電池充電器壁面マウント

A700充電器およびA700電池充電器は、標準のDINレールにそのまま取り付けることができます。お客様が手を加える必要はありません。DINレールは、適切な場所の壁面に取り付ける必要があります。Vocollectからは1個の充電器を取り付けられるDINレールが提供されていますが、お客様はVocollectの仕様に適合した他社のレールを購入することもできます。充電器を壁面に取り付ける前に、次の事項を検討してください。

- レールを使用した壁面マウントには、お客様による組み立てが必要です。
- 充電器ユニットの導入は、お客様の責任において行ってください。
- お客様は、取り付け方法が現地のすべての建築基準に従っていることを確認してください。
- 壁面内に電気配線、水道管等が存在する場合には、壁面に穴をあける際、それらに損傷を与えないように注意してください。
- レールや充電器を取り付ける際は、電気コンセントやその他のコンセントの邪魔にならないように注意してください。
- 一般に、壁スタッドに壁面マウントをアンカー固定すると、より安定的に取り付けることができます。壁スタッドにドリル穴をあける場合、その穴にネジアンカーを使用しないでください。
- 2台の充電器を横に並べて取り付けの場合、ロックアームのための間隔として、2台の充電器の間を少なくとも1インチ (2.54cm) 空ける必要があります。

- 充電器の適切な取り付け、保持、取り外しのため、レールは床から12インチ（30.5cm）以上の位置にアンカー固定してください。
- 2台の充電器を縦に並べて取り付ける場合、DINレールの間隔を10インチ（25.4cm）以上空けることをお勧めします。

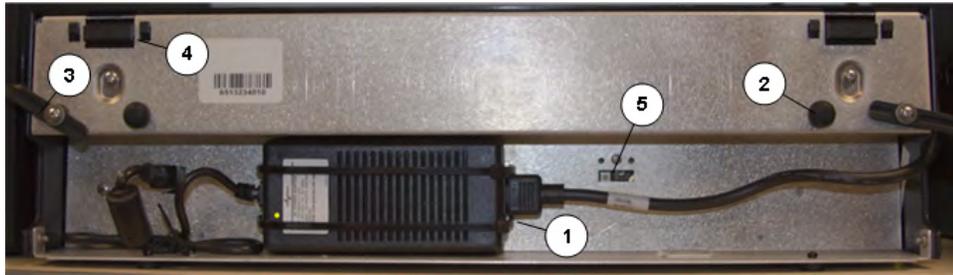


図 139 : A700充電器 - 背面

番号	説明
1	電源
2	充電器を壁に水平に取り付けるためのラバーストッパー
3	充電器をDINレールに固定するロック アーム
4	充電器をDINレールに掛けるマウント フック
5	充電器のソフトウェアのアップグレードのためのUSBポート（電池充電器のみ）

A700 端末または電池充電器の取り付け

次が必要となります：

- DINレール、スロットスチール 35 mm X 15 mm、Vocollect部品番号CM-1000-20-1または次の仕様に適合した顧客提供のDINレール

レール上の充電器数	レールの最小カット長	DINレールの仕様	標準DINレール
1	550 mm	単一ユニット長 550mm、重量331.5 g (11.6933 oz) 	
2	1,101 mm		
3	1,652 mm		

- ドリル
- 固定具
- ドライバ

1. DINレールを目的の位置に取り付けます。固定方法、支持面、および取り付けハードウェアが、充電器にフルに電池をセットした場合の重量を、DINレールの1リニアフット当たり25lbs (37.2 kg/m) で安全に支持できることを確認してください。またアンカー穴が床から12インチ (30.5cm) 以上の位置にあることを確認します。取り付け方法が現地のすべての建築基準に従っていることを確認してください。
2. **重要:** 充電器の電源は、あらかじめ充電器のシャーシの背面にファスナーで固定しておく必要があります。まだ固定していない場合は、電源を充電器に接続して固定します。取り付け作業が完了するまでは、コンセントにプラグを差し込まないでください。

レールに充電器を取り付ける前に、充電器の両側にある2つのレバーを回転させて、ユニット背面のロックアームを開きます。ロック解除した状態では、アームが床と並行になります。

3. ユニット背面の2つのフックをレールの上端に掛けて、充電器をDINレールに取り付けます。
4. レール上で充電器を横方向にスライドさせて適切な位置に配置し、ロックアームをロック位置(ユニットの両側にぴたりと沿った位置)まで回転させます。
5. 充電器がレール上で安定していない場合は、ユニット背面のラバーストップを回して壁方向に引き出し、調整してください。
6. 電源のプラグをコンセントに差し込み、充電器表面の右下にあるLEDインジケータを確認します。インジケータライトが緑に点灯していれば、充電器の電源がオンになっています。

A700 電池充電器



図 140 : A700 12-ベイ電池充電器

A700 12-ベイ電池充電器仕様

長さ	22.1" (56.1cm)
奥行き	5.83" (14.8cm)
高さ	6.14" (15.6cm)
電源	入力電圧：100-240 Vac 入力電流：最大 2.0 A ライン周波数：50-60 Hz
コード：	IEC 60320標準プラグを使用
動作温度	32°~104° F (0°~ 40° C)
保管温度	-40°~158° F (-40°~ 70° C)

充電温度	41°～95° F (5°～ 35° C)*
湿度	5% ～ 90%の非結露まで機能

* 電池充電器の部品は 32°～ 104° F (0°～ 40° C) の周囲温度内で問題なく動作します。電池の充電は電池の内部温度を制限し充電性能を維持するため周囲温度 41°～ 95° F (5°～ 35° C) に制限されています。

📄 注: パッケージは製品の出荷条件により異なります。一般に、梱包材料は総出荷重量の約15%です。

SRX2充電器のLEDインジケータ

SRX2電池充電器の表面右下には、充電器の状態を示すLEDインジケータ ライトがあります。

- LEDが緑に点灯：充電器の電源がオン
- 滅火：充電器の電源がオフ
- LEDが赤に点灯：充電器の電源が故障中

📄 注: 充電器のLEDインジケータが赤の場合、充電器の電源プラグを元の電源から切断し、すべての電池を取り外します。電源プラグを元の電源に再度差し込みます。LEDがなお赤の場合、充電器の修理または交換が必要です。

充電器のポートのインジケータ

充電器のLEDに加え、各充電ポートにはセットされた電池の状態を示す次の2つのLEDインジケータ ライトがあります。

- 丸いライトは、電池の充電状況を示すリングLEDです。
- 感嘆符の形のアラートLEDは、電池に対応を必要とする問題が発生しているかどうかを示します。このインジケータが点灯した場合、その充電ポートの電池は、電池残量がシフトの最後までに切れる可能性があります。具体的なアラート メッセージについては、VoiceConsoleを確認してください。



図 141 : 充電ポート インジケータ

次の図では、電池のポートLEDインジケータ ライトのパターンについて説明します。

リングLED (充電状況)	アラートLED (電池の状態)	SRX2電池の状況
緑の点灯	オフ	電池は完全に充電済み
黄色の点灯	オフ	電池は充電中
赤の点滅	オフ	充電障害を検出
緑の点灯	赤の点灯	電池のアラート状態、完全充電済み
黄色の点灯	赤の点灯	電池のアラート状態、充電中

リングLED (充電状況)	アラートLED (電池の状態)	SRX2電池の状況
赤の点滅	赤の点灯	電池のアラート状態、障害を検出
赤の点滅	赤の点灯	未知の電池

T5/A500 統合充電器



図 142 : T5/A500 10-ベイ統合充電器

- T5/A500 10-ベイ統合充電器は電池スロットが5個、端末スロットが5個のモデルです。本充電器では一度に5つの端末までを格納できます。
- また、一度に10個までの電池（充電器上部の電池スロットに電池を5つ、下部の端末スロットに電池付きの端末を5つ）を格納、充電できます。
- T5/A500統合充電器は充電を行うだけでなく、同時に充電中の端末間でその設定を共有することが可能です。
- T5/A500充電器用壁面マウントも用意されています。この製品には、充電器を取り付けることのできる壁面ブラケットが含まれています。
-  注: 8時間以上連続して端末を使用し、電源を切らずに充電器に入れると、端末の電源は自動的にオフになり、5分後に再びオンになります。また、端末が充電器に8時間以上置かれていた場合、端末は自動的に電源がオフになり、再度オンになります。

T5/A500 Single-Bay Combination Charger

- T5/A500 単一ベイ統合充電器は電池スロットが1個、端末スロットが1個のモデルです。この充電器には端末を1つずつ収納できます。また、一度に2個までの電池（充電器上部の電池スロットに電池を1つ、下部の端末スロットに電池付きの端末を1つ）を格納、充電できます。

T5/A500 10-ベイ統合充電器仕様

長さ	21.21" (53.9 cm)
奥行き	6.64" (16.9 cm)

壁面ブラケット付きの奥行	6.89" (17.5 cm)
高さ	6.12" (15.5 cm)
電源	入力電圧：100-250 Vac 入力電流：最大 2.4 A ライン周波数：50-60 Hz
コード：	IEC 60320標準プラグを使用
動作温度	50°～113° F (10°～ 45° C)
保管温度	-22°～158° F (-30°～ 70° C)
湿度	90%の非結露まで機能

 注：パッケージは製品の出荷条件により異なります。一般に、梱包材料は総出荷重量の約15%です。

簡単設定

簡単設定では、T5/A500充電器内にあるベイ間のシリアル接続を利用し、一つのT5/A500から充電器内の全端末に対して設定ファイルを分配します。この機能により、新規導入時におけるT5.A500の初期設定が迅速に行えるだけでなく、新しいT5/A500端末の追加や修理を行った端末をサービスに復帰させる作業が簡単になります。

サポートされているすべての端末モデル(T5、T5m、A500)は、この機能を使用して設定できます。充電器を使用して、異なるモデルの複数の端末を同時に設定できます。ただし、一部、端末の無線カードに固有の設定パラメータもあるので注意してください。このため1台の端末から、異なる無線機に接続された別の端末にパラメータを読み込むと、一部のパラメータが無効になることがあります。また端末が配信されたパラメータを受信しても、その特定の無線機が必要なパラメータの一部が取得できないことがあります。

 注：簡単設定はDHCPサーバーとのみ使用できます。

統合充電器: 最初にサイト設定を行う

次に示すのは、最初にサイト設定を行う際（VoiceConsoleに端末がまったく接続されていない状態から）の手順です。

1. VoiceConsoleで端末プロファイルを作成します。
2. 端末詳細設定テキストボックスに、パラメータ"distributable"="1"を入力します。
値に"1"を設定することにより、この端末プロファイルは、T5/A500充電器内にあるベイ間でシリアル接続を用いて他のデバイスと共有可能なものとなります。このパラメータが存在しないか、あるいはその値にゼロが設定されている場合には、端末プロファイルは共有されません。
3. VoiceConsoleのオンラインヘルプ内にある手順にしたがって、端末プロファイルを完成させてください。

 注：充電器の右下にあるAC電源インジケータは、簡単設定処理が行われている間、緑色と黄色の光を交互に点灯します。端末に対する個々のインジケータが緑色で点滅するか、あるいは充電器の電源インジケータが緑色の点灯に固定されるまでは、端末を取り外さないでください。

4. シリアルケーブルを用い、このプロファイルをT5/A500に読み込みます。

-  注: 読み込み中の端末プロファイルが静的なIPアドレスを使用するように設定されている場合は、すべてのT5/A500端末に同じIPアドレスが割り当てられます。

簡単設定:T5/A500のさらなるオンライン設定

前提条件: 最初の1台の端末は、すでに簡単設定の初期セットアップおよびVoiceConsoleオンラインヘルプを使用して設定されています。以下は、追加の端末の設定に関する説明です。

1. 設定済みのT5/A500を充電器の送信ベイにセットします。充電器のベイを正面から見た場合、送信ベイは右側にある最初ベイとなります。送信ベイはオフホワイトのラッチにより特定できます。他のベイのラッチは濃い灰色です。
2. 新しいT5/A500や修理が行われたT5/A500を充電器の残りのベイにセットします。
 - 充電器の残りのベイに未設定のT5をセットします。未設定のT5に対するLEDインジケータは、端末がVoiceConsoleに到達できないことを判定するまで緑色で光り、判定したところでオレンジ色に変わります。端末はVoiceConsoleに接続できないことを判定すると、ファイルブロードキャストのリスニングを開始します。
 - 未設定のT5/A500に対するLEDインジケータは、ネットワークへの接続を試みている間、オレンジ色に光ります。
 - 端末が設定済みのT5/A500からプロファイルを受信し、その設定を検証すると、LEDインジケータが緑色で短く点灯します。
 - そのLEDインジケータは赤に変わり、端末のリポートが行われます。
 - 端末に設定ファイルが適用され、VoiceConsoleへのアクセスに成功すると、その端末に対するLEDインジケータは緑色の点滅に変わります。これで端末の使用準備が整いました。この端末を別の充電器で使用し、他の端末のオンライン設定を行うことも可能です。

-  注: 充電器の右下にあるAC電源インジケータは、簡単設定処理が行われている間、緑色と黄色の光を交互に点灯します。端末に対する個々のインジケータが緑色で点滅するか、あるいは充電器の電源インジケータが緑色の点灯に固定されるまでは、端末を取り外さないでください。

T5/A500統合充電器電源仕様

10-ベイ統合充電器電源	
入力:	入力電圧: 100-250 Vac 入力電流: 最大 2.4 A ライン周波数: 50-60 Hz
出力:	出力: 97.5 W (15 V x 6.5 A)
コード (米国、メキシコ、カナダ):	ULおよびCSA認証済み 導線3本 (18 AWG) 定格125V、15Aの成形プラグ キャップにより終端 最小長6フィート
コード (他の国々):	国際整合化と<HAR>マークの付加

10-ベイ統合充電器電源	
	最小0.75mmの導線3本 定格300V、PVC絶縁ジャケット 定格250V 10Aのプラグ キャップに装着 最小長6フィート
単一ベイ統合充電器電源	
入力：	入力電圧：100-240 Vac 入力電流：最大 0.6 A ライン周波数：50-60 Hz

T5/A500統合充電器に対する電源接続

- 10-ベイ統合充電器内に取り付けられた電源アダプタの左端に同梱のACコードを接続します。
- ルートプラスチッククリップを介して接続します。



図 143：プラスチック クリップを通し誘導されたケーブル

- クリップを押し込み、コードをロックします。

T5/A500統合充電器用壁面マウント

T5/A500 10-ベイ統合充電器とその電源の壁面取り付けを容易にするためのユニットが提供されています。

- 組み立てが必要です。
- 壁面内に電線、水道等が存在する場合には、パイロット穴を開ける際、それらに損傷を与えないように注意してください。
- 本ユニットの導入は、お客様の責任において行ってください。
- 端末充電器同士を直接重ねることはできません。付属のホワイトボード部品をそれぞれの端末充電器上に配置することにより区切ってください。
- パイロット穴を壁のスタッドにドリルする際には、アンカーを使用しないで下さい。
- 各レール部品の一番下に位置するアンカーは、床から12インチ以上離してください。

- レール部品を取り付ける際は、電源コンセント等の位置に注意してください。完成したユニットでは、充電器の背面にあたる領域にアクセスすることはできません。

T5/A500充電器用壁面マウントのインストール

部品 #	個数	説明
1	1	取り付けブラケット
2	4	セルフドリリング ネジアンカー #10
3	4	平座金、#10、B並形
4	4	ネジ、#10、フィリップス型、なべ頭

次の機器が必要です：

- ドリル (1/8" ビット)
 - ドライバ、#2 フィリップス (+)
 - 穴開け用テンプレート シート (付属)
1. 穴開け用テンプレートシートを用いて、アンカー用の4つの穴をマークします。2種類のパイロットマーカー (12"間隔の壁スタッド用、16"間隔の壁スタッド用) があることに注意してください。
テンプレート上にある下部のアンカー穴が12インチ以上床から離れていることを確認します。また、水準器を用いて、テンプレートの側面が垂直であることを確認します。
 2. アンカー用のパイロット穴を開けます。パイロット穴にアンカーをしっかりとネジ留めします。
 3. ブラケットを壁面に置き、その穴の位置をステップ2で固定したアンカーに合わせます。ブラケットの配置は、平坦な面が壁面に向き合い、取り付けピンが壁面から離れるように行います。
 4. ネジの1つに座金を取り付け、そのネジをブラケットの穴を介してアンカーに通します。
ブラケットを保持できる程度に、ネジを途中まで締めます。完全に締めてはいけません。この手順を他のネジと座金についても行います。
 5. 完全なネジ留めにより、ブラケットを固定します。
 6. 統合充電器を傾け、ブラケット最上部のタブと充電器の背面にあるノッチを揃えながら、壁面上をスライドさせます。
 7. ブラケット下部のサポートが充電器の下になるように、充電器を平らに戻します。

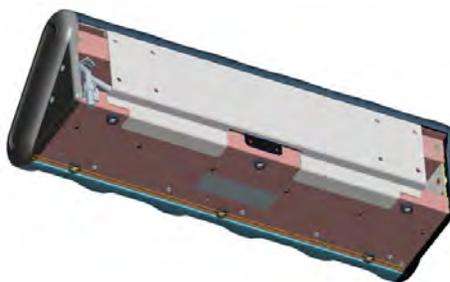


図 144 : 充電器の下のサポート

LEDインジケータについて

Vocollect Talkman端末とSRX/SRX2ヘッドセットおよびその充電器には、装置の状態を示すLEDがあります。これらのLEDはオン、オフまたは点滅します。一部のケースではLEDは2つの色を交互に点滅する場合もあります。

問題があることをLEDが示した場合、トラブルシューティングの手順を参照して問題を解決してください。「LEDで示される問題のトラブルシューティング」も参照してください。

A500、T5およびT5m端末充電器のLEDインジケータ

インジケータの上部のペアは充電器の電池スロットに対応します。下部のペアは端末スロットに対応します。ここで説明されるLED状態は下部のペアに関するものです。

 注: 充電器に端末が存在しなかったり、充電器の端末に電池が装着されていないにも関わらず、これらの状態の1つが発生する場合には、充電器の電源接続を5秒間程度取り外し、再度接続してください。状態が変わらない場合には、充電器をサービス担当まで返却してください。

左側インジケータの色	右側インジケータの色	電池付きのデバイスが充電器にセットされている場合には...
オフ	オフ	トラブルシューティングが必要です。
緑	緑	電池の充電は完了し、いつでも利用可能です。
赤	オフ	電池は充電中です。
赤の点滅	オフ	充電器に電池が正しくセットされていない可能性があります。 充電器に電池を正しくセットした後も、LEDが赤の点滅を継続する場合には、充電器のトラブルシューティングが必要です。
オフ	黄	充電器に電池が正しくセットされていない可能性があります。 電池が熱すぎるか、あるいは冷たすぎる可能性があります。電池の温度が正常化するまで待ってください。

T2シリーズ電池充電器

T2シリーズの電池は端末充電器を用いた充電が可能です。電池用の充電器も利用できるため、完全に充電された電池を常に準備しておくことも可能です。



図 145 : T2シリーズ電池充電器

- T2シリーズの電池充電器には5つの電池スロットを持つモデルがあり、この充電器では同時に5つまでの電池をセットし、充電できます。
- 単一充電器用壁面マウントユニットおよび複数充電器用壁面マウントユニットが利用可能です。これらの製品には、端末充電器や電池充電器を取り付け可能な壁面ブラケットが含まれています。

T2シリーズ電池充電器仕様

長さ	約 24" (61 cm)
卓上充電器固定脚を含めた長さ	約 24" (61 cm)
幅	約 2.5" (6.5 cm)
卓上充電器固定脚を含めた幅	約 5" (12.7 cm)
高さ	約 5.25" (13.3 cm)
卓上充電器固定脚を含めた高さ	約 5.375" (13.65 cm)
電源	90-264 Vac 50/60 Hz 72 W IEC 630標準コードを使用
動作温度	50°~113° F (10°~ 45° C)
保管温度	-22°~158° F (-30°~ 70° C)
湿度	90%の非結露まで機能

 注: パッケージは製品の出荷条件により異なります。一般に、梱包材料は総出荷重量の約15%です。

T2の充電器用スタンドの組み立て

#2サイズのフィリップス型 (+) ドライバが必要です。

部品リスト：

- 充電器用スタンド
- ゴム製の足 (2)
- フィリップス型 (+) ネジ (2)

1. フィリップス型ネジを用いてゴム製の足をスタンドに固定します。
2. スタンドの上部リップを充電器背面の中央にある溝に差し込みます。

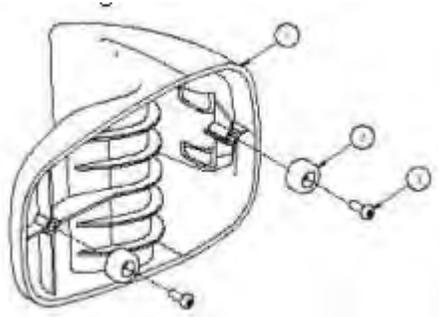


図 146：足の取り付け

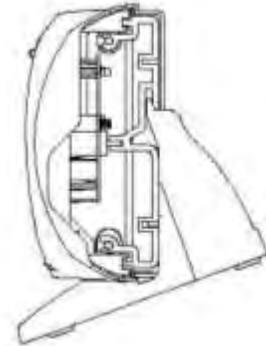


図 147：充電器の背面にスタンドを差し込み

3. フィリップス型 (+) ネジをスタンドの穴に通し、充電器底面にあるスロットにネジ留めすることにより、それぞれのスタンドを充電器に固定します。

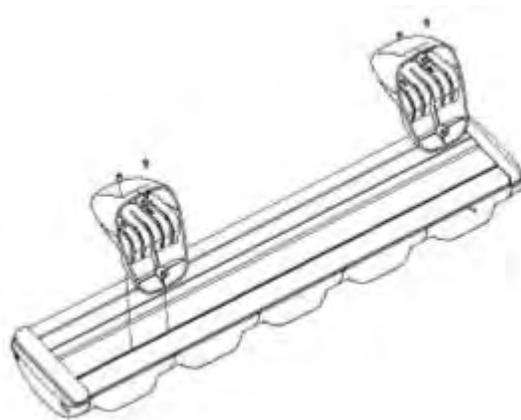


図 148：充電器にスタンドをネジ留め

充電器の壁面マウント、複数充電器：T2シリーズ

5つの充電器ユニットとその電源の壁面取り付けを容易にするためのユニットが提供されています。

- 組み立てが必要です。
- 壁面内に電線、水道等が存在する場合には、パイロット穴を開ける際、それらに損傷を与えないように注意してください。
- 本ユニットの導入は、お客様の責任において行ってください。
- 端末充電器同士を直接重ねることはできません。付属のホワイトボード部品をそれぞれの端末充電器上に配置することにより区切ってください。

- パイロット穴を壁のスタッドにドリルする際には、アンカーを使用しないで下さい。
- 各レール部品の一番下に位置するアンカーは、床から12インチ以上離してください。
- レール部品を取り付ける際は、電源コンセント等の位置に注意してください。完成したユニットでは、充電器の背面にあたる領域にアクセスすることはできません。

充電器の壁面マウント、複数充電器：レール部品の取り付け

部品リスト：

部品 #	個数	説明
1	2	レール部品
2	8	セルフドリリング ネジアンカー #8
3	8	平座金、#8、B並形
4	8	ネジ、#8x1.5、フィリップス型、なべ頭
5	2	ネジ、#10-24x.312、六角、穴付き頭
6	1	穴開け用テンプレートシート

次が必要となります：

- ドリル (1/8" ビット)
- ドライバ、#2 フィリップス (+)
- アレンキー、六角、1/8"

1. 穴開け用テンプレートシートを用いて、アンカー用の8つの穴をマークします。

 注：テープや画鋲を用いて、穴開け用テンプレートシートを壁面に貼り付けます。テンプレート上にある下部のアンカー穴が12インチ以上床から離れていることを確認します。また、水準器を用いて、テンプレートの側面が垂直であることを確認します。

2. アンカー用のパイロット穴を開けます。パイロット穴にアンカーをしっかりとネジ留めします。

3. レール部品の1つを壁面に置き、その穴の位置を固定したアンカーに合わせます。このレール部品では内側エッジと外側エッジが決まっているため、間違わずに配置してください。内側エッジには、充電器を取り付けるためのT形の溝があります。図 149：レール部品の取り付け(217 ページ)を参照してください。

4. ネジの1つに座金を取り付け、そのネジをレール部品の穴を介してアンカーに通します。レール部品を保持できる程度に、ネジを少しだけ締めます。完全に締めてはいけません。この手順を他のネジと座金についても行います。

5. 前述の2つのステップをもう1つのレール部品に対しても行います。

6. それぞれのレール部品が垂直であることを確認したうえで、完全なネジ留めによりそれらを固定します。

7. それぞれのレール部品において、内側エッジにあるT形溝の下部に、小さい穴があることを確認します。穴付き頭ネジ (部品 #5) を両方の穴にしっかりとネジ留めします。

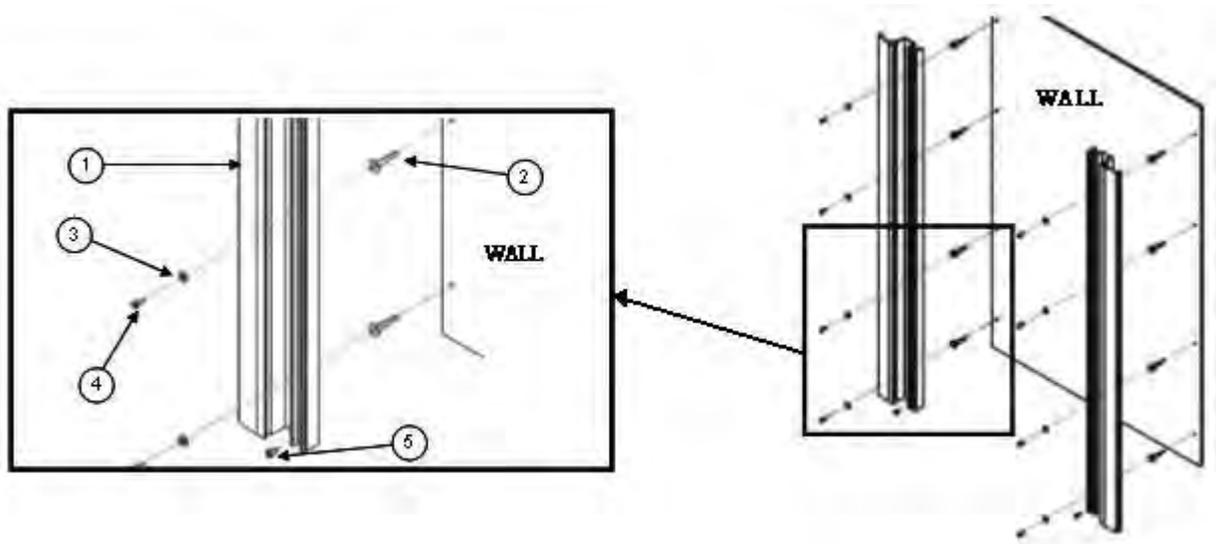


図 149 : レール部品の取り付け

充電器の壁面マウント、複数充電器：電源ブラケットの取り付け

部品リスト：

部品 #	個数	説明
6	4	電源ブラケット
7	1	電源取り付けパネル
8	2	ナット付きカラー
9	2	平座金、#4、B並形
10	2	ネジ、#4-40x.625、フィリップス型、なべ頭
11	8	平座金、#8、B並形
12	8	ネジ、#8-32x.5、フィリップス型、なべ頭
13	8	六角ナット、#8-32

次が必要となります：

- ドライバ、#2 フィリップス (+)
- ドライバ、六角 1/8"
- レンチ、11/32"

1. 取り付けパネル上部にある2つの穴は、レール部品におけるパネルのスライドを可能にするカラーのためのものです。カラーの組み立ては、その小さい側を取り付けパネルの背面に向かい合わせて行います。
2. ネジの1つに座金を取り付け、そのネジをパネルの穴を介してカラーに通します。ネジをしっかりと締めます。もう一方のカラーも同様に組み立ててください。
3. 取り付けパネルの中央にある8つの穴は、電源ブラケット用のものです。電源ブラケットをパネルに向けて取り付けます。ブラケットの適切な位置については、[図 150 : 電源ブラケットの取り付け](#)(218 ページ)を参照してください。ブラケットの穴をパネルの穴と揃えます。

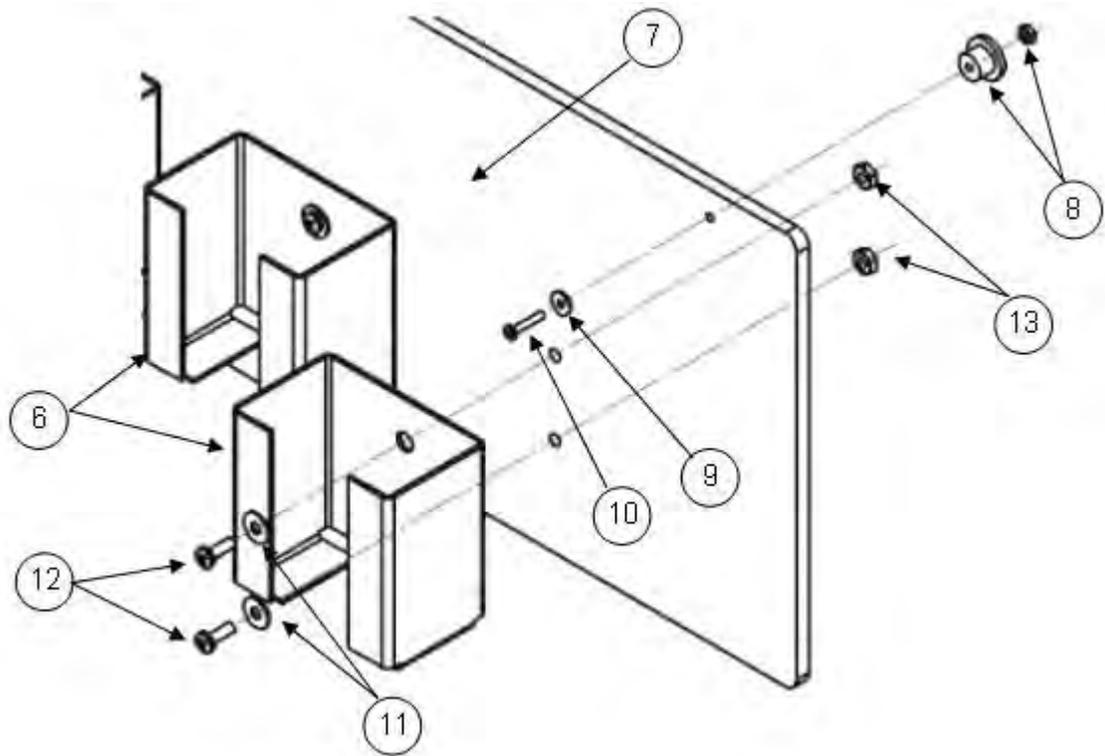


図 150 : 電源ブラケットの取り付け

4. ネジの1つに座金を取り付け、そのネジをブラケットの穴を介してパネルに通します。このネジに対してナットをしっかりと取り付けます。
5. ブラケットのもう一方の穴にも同じ作業を実施します。
6. 直前の3つのステップを残りのブラケットにも繰り返します。

充電器の壁面マウント、複数充電器：充電器に対するカラーの固定

部品リスト：

部品 #	個数	説明
14	16	カラー (611065)
15	4	バネ、メトリック、6.00x0.60x9.50ロング (681006)
16	4	ネジ、M3x0.5x16、フィリップス型、なべ頭 (680128)
17	1	カラー配置ツール

次が必要となります：

- ドライバ、#2 フィリップス (+)
1. カラー配置ツールを充電器の背面に、そのエンド キャップに向き合うように、位置付けます。
 2. カラーの1つをカラー配置ツールに対して配置します。充電器の溝の1つの上に、カラーが直接的に配置されるようにしてください。

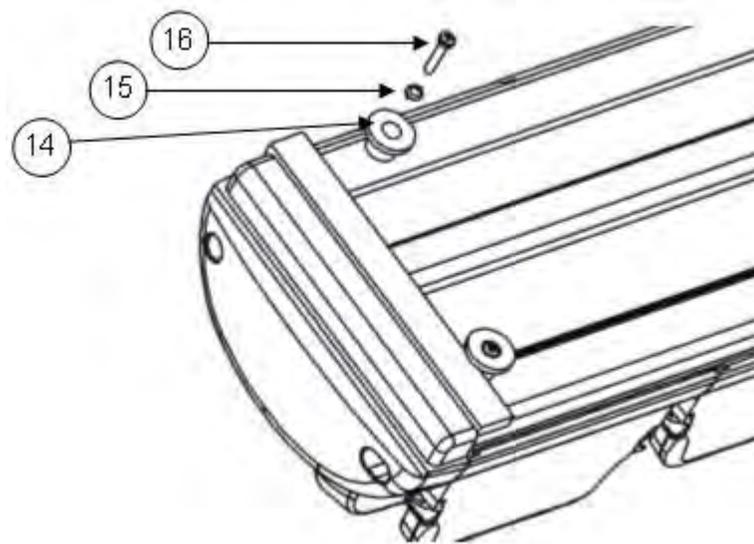


図 151 : カラーの固定

3. カラーにバネの1つを組み合わせます。
4. カラーにネジを挿入し、締めてください（締めすぎではいけません。）。ネジの先はスロットの下まで出ます。
5. これらのステップを残りのカラーに対しても繰り返します。

充電器の壁面マウント、複数充電器：組み立ての完了

ここまでで、電源取り付けパネル、充電器、およびホワイトボード部品をレール部品に組み込む準備が整いました。レール部品の上部に各部品を差し込み、下方にスライドします。

1. レール部品の上部に各部品を差し込み、下方にスライドします。取り付けパネルの下部（カラーの存在しない側）をレール部品の外側エッジにあるスロットに配置します。

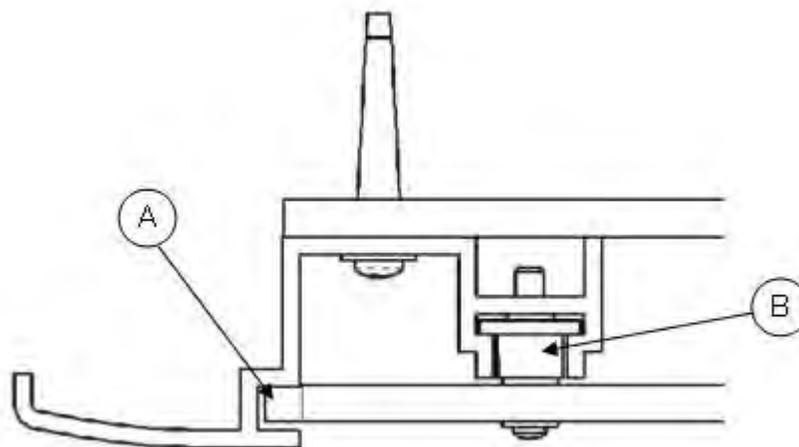


図 152 : スロットに取り付けパネルの下部を配置

2. レール部品の下側にパネルをスライドします。パネルをスライドさせる際は、パネル上部のカラーがレール部品のT形溝にはまるようにしてください。パネルをレール部品の下部まで、完全にスライドします。パネルは、T形溝の下部に取り付けられたネジに触れると停止します。
3. 最初の充電器をレール部品に挿入できます。レール部品の上に充電器の1つを持ち上げます。電池の取り外しボタンを上に向けた状態で、電池充電器をレール部品に組み合わせます。充電器背面の下部にある2つのカラーをレール部品のT形溝に合わせてください。

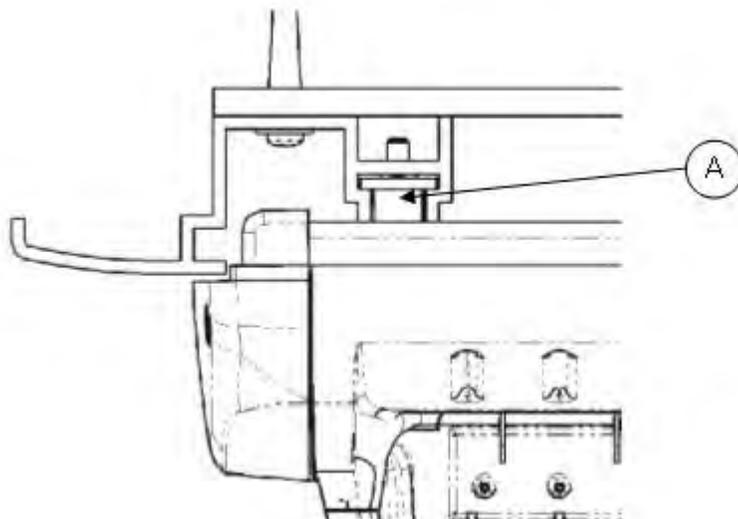


図 153 : T形溝に下部のカラーを合わせる

4. レール部品の下側に充電器をスライドします。充電器をスライドさせる際は、充電器背面の上部にある2つのカラーがT形溝にはまるようにしてください。充電器を、電源取り付けパネルの上部に触れて停止するまで、下方にスライドします。
5. 最初の充電器を組み込んだら、レール部品にホワイトボードを差し込みます。ホワイトボード部品は、それぞれの端末充電器の上に配置します。組み込み済みの充電電池の上に別の充電電池を直接重ねることはできません。ホワイトボード部品をレール部品の上部まで持ち上げます。
6. ホワイトボードの下部エッジをレール部品の外部エッジにあるスロットに差し込みます。
7. レール部品の下側にホワイトボードをスライドします。充電器の上部に触れて停止するまで、下方にスライドしてください。
8. 最後の6つのステップを、残りの充電器とホワイトボード部品に対し繰り返します。

LEDインジケータについて

Vocollect Talkman端末とSRX/SRX2ヘッドセットおよびその充電器には、装置の状態を示すLEDがあります。これらのLEDはオン、オフまたは点滅します。一部のケースではLEDは2つの色を交互に点滅する場合があります。

問題があることをLEDが示した場合、トラブルシューティングの手順を参照して問題を解決してください。「LEDで示される問題のトラブルシューティング」も参照してください。

T2およびT2x端末充電器のLEDインジケータ

 注: ここで説明されるインジケータは電池のステータスのみを表示するものです。端末の状態を反映するものではありません。

このインジケータが電池の状態を正確にレポートするためには、5秒から10秒を要します。LEDインジケータに基づいた決断を行う際には、その表示が安定するまで待つ必要があります。

 注: 充電器に端末が存在しなかったり、充電器の端末に電池が装着されていないにも関わらず、これらの状態の1つが発生する場合には、充電器の電源接続を5秒間程度取り外し、再度接続してください。状態が変わらない場合には、充電器をサービス担当まで返却してください。

左側インジケータの色	右側インジケータの色	電池付きのデバイスが充電器にセットされている場合には...
オフ	オフ	トラブルシューティングが必要です。
オフ	緑	電池の充電は完了し、いつでも利用可能です。
赤	オフ	電池は充電中です。
赤の点滅	オフ	充電器に電池が正しくセットされていない可能性があります。 充電器に電池を正しくセットした後も、LEDが赤の点滅を継続する場合には、充電器のトラブルシューティングが必要です。
赤の点滅後にオフ	緑の点滅後にオフ	電池に問題があります。充電器から電池を取り外し、システム管理者に渡してください。
黄の点滅	オフ	トラブルシューティングが必要です。
黄	緑	電池を充電器から取り外す際に、短時間発生します。このLED表示が継続する場合には、トラブルシューティングが必要です。
黄	オフ	充電器に電池が正しくセットされていない可能性があります。 電池が熱すぎるか、あるいは冷たすぎる可能性があります。電池の温度が正常化するまで待ってください。 LEDの黄色い点灯が2時間以上続く場合には、トラブルシューティングが必要です。

T1 10-ベイ統合充電器



図 154 : T1 10-ベイ統合充電器

- T1 10-ベイ統合充電器は、電池スロットと端末スロットを5つずつ装備したモデルです。本充電器では一度に5つの端末までを格納できます。
- また、一度に10個までの電池（充電器下部の電池スロットに電池を5つ、上部の端末スロットに電池付きの端末を5つ）を格納、充電できます。
- 電池の付いていないT1端末を端末充電器にセットしてはいけません。
- コンセントは装置の近く、かつアクセスが容易な場所に配してください。

T1 10-ベイ統合充電器仕様

長さ	21.9" (55.6 cm)
奥行き	3.7" (9.4 cm)
高さ	5.9" (15 cm)
電源	入力電圧：12 V DC 入力電流：最大 5 A
重量	70.5オンス (2,000 g)
コード：	IEC 60320標準プラグを使用
動作温度	0°~50° C (32°~122° F)
保管温度	-40°~70° C (-40°~158° F)
湿度	95% 非結露

 注: パッケージは製品の出荷条件により異なります。一般に、梱包材料は総出荷重量の約15%です。

T1 10-ベイ統合充電器電源仕様

10-ベイ充電器電源	
入力：	入力電圧：100-240 Vac 入力電流：2.4 A ライン周波数：50-60 Hz
出力：	出力：80 W (12 V DCx 6.67 A)

T1 10-ベイ統合充電器用壁面マウント

5つの充電器ユニットとその電源の壁面取り付けを容易にするためのユニットが提供されています。組み立てが必要です。

- 壁面内に電線、水道等が存在する場合には、パイロット穴を開ける際、それらに損傷を与えないように注意してください。
- 本ユニットの導入は、お客様の責任において行ってください。
- 端末充電器同士を直接重ねることはできません。
- パイロット穴を壁のスタッドにドリルする際には、アンカーを使用しないで下さい。
- 各レール部品の一番下に位置するアンカーは、床から12インチ以上離してください。
- レール部品を取り付ける際は、電源コンセント等の位置に注意してください。完成したユニットでは、充電器の背面にあたる領域にアクセスすることはできません。

T1 10-ベイ統合充電器用壁面マウントのインストール

T1 10-ベイ統合充電器用壁面マウントでは次の部品が提供されます：

部品 #	個数	説明
1	1	充電器用スタンド
2	2	フィリップス型 (+) ネジ
3	2	ゴム製の足
4	2	レール部品
5	8	セルフドリリング ネジアンカー #8
6	8	平座金、#8、B並形
7	8	ネジ、#8x1.5、フィリップス型、なべ頭
8	2	ネジ、#10-24x.312、六角、穴付き頭
9	1	穴開け用テンプレート シート

次の機器が必要です：

- ドリル (1/8" ビット)
 - ドライバ、#2 フィリップス (+)
 - アレンキー、六角、1/8"
1. フィリップス型ネジを用いてゴム製の足をスタンドに固定します。
 2. スタンドの上部リップを充電器背面の中央にある溝に差し込みます。
 3. フィリップス型 (+) ネジをスタンドの穴に通し、充電器底面にあるスロットにネジ止めすることにより、それぞれのスタンドを充電器に固定します。
 4. 穴開け用テンプレート シートを用いて、アンカー用の8つの穴をマークします。テンプレート上にある下部のアンカー穴が12インチ以上床から離れていることを確認します。また、水準器を用いて、テンプレートの側面が垂直であることを確認します。
 5. アンカー用のパイロット穴を開けます。パイロット穴にアンカーをしっかりとネジ留めします。

6. レール部品の1つを壁面に置き、その穴の位置を固定したアンカーに合わせます。このレール部品では内側エッジと外側エッジが決まっているため、間違わずに配置してください。内側エッジには、充電器を取り付けるためのT形の溝があります。
7. ネジの1つに座金を取り付け、そのネジをレール部品の穴を介してアンカーに通します。レール部品を保持できる程度に、ネジを少しだけ締めます。完全に締めてはいけません。この手順を他のネジと座金についても行います。
8. 前述の2つのステップをもう1つのレール部品に対しても行います。
9. それぞれのレール部品が垂直であることを確認したうえで、完全なネジ留めによりそれらを固定します。
10. それぞれのレール部品において、内側エッジにあるT形溝の下部に、小さい穴があることを確認します。穴付き頭ネジ（部品 #5）を両方の穴にしっかりとネジ留めします。

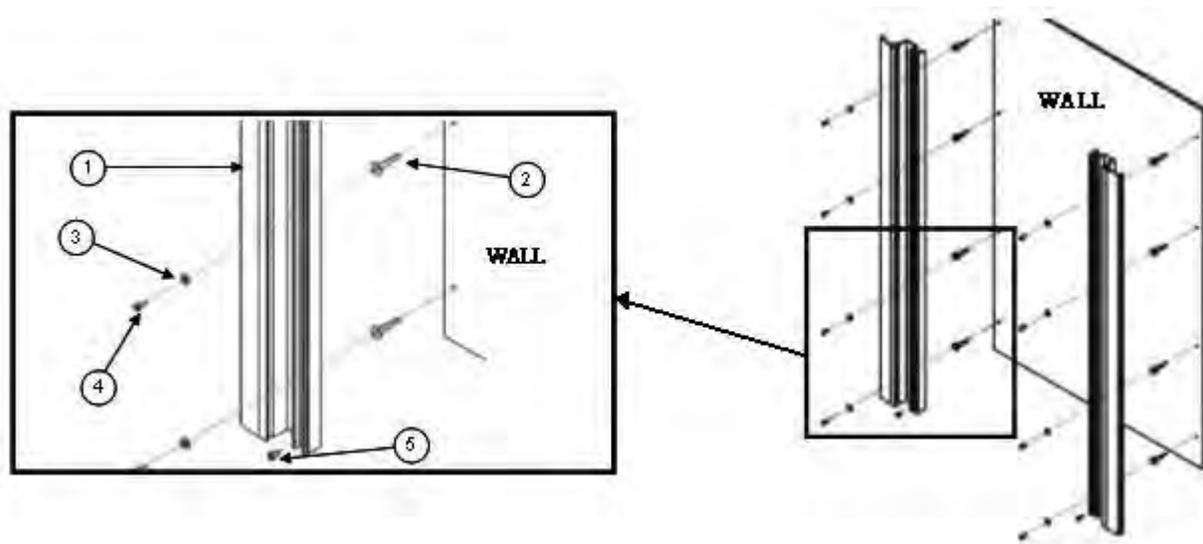


図 155 : レール部品の取り付け

T1 10-ベイ充電器に対する電源接続

1. 10-ベイ統合充電器内に取り付けられた電源アダプタの左端に同梱のACコードを接続します。
2. ルートプラスチッククリップを介して接続します。



図 156 : プラスチック クリップを通し誘導されたケーブル

3. クリップを押し込み、コードをロックします。

T1単一充電器ケーブル



図 157 : T1単一充電器ケーブル

- T1単一充電器ケーブルを用いれば、T1端末内にあるT1電池の単独充電を、市販の5V充電器により行うことが可能です。
- 充電器ケーブルを端末に接続している状態で、端末から電池を取り外してはいけません。

T1単一充電器ケーブル仕様

長さ	21.21" (53.9 cm)
奥行き	6.64" (16.9 cm)
壁面ブラケット付きの奥行	6.89" (17.5 cm)
高さ	6.12" (15.5 cm)
電源	入力電圧：100-250 Vac 入力電流：最大 2.4 A ライン周波数：50-60 Hz
コード：	IEC 60320標準プラグを使用
動作温度	50°~113° F (10°~ 45° C)
保管温度	-22°~158° F (-30°~ 70° C)
湿度	90%の非結露まで機能

注: パッケージは製品の出荷条件により異なります。一般に、梱包材料は総出荷重量の約15%です。

T1単一充電器ケーブル電源仕様

入力	入力電圧：100-240 Vac 入力電流：0.5 A ライン周波数：50-60 Hz
出力	10 W (5 V DC x 2.0 A (最大))

SRXヘッドセット電池充電器



図 158 : SRXヘッドセット電池充電器

- SRX電池充電器には、電池スロットを5つ持つ5-ベイモデルと、1つだけ持つ単一電池充電器の2種類があります。
- 充電器をオンにするには、充電器に接続した電源をコンセントに差し込みます。電源が入ると充電器左隅のLEDインジケータが緑色に点灯します。
- SRXヘッドセット電池充電器は卓上設置と壁面マウントキットを用いた壁面への固定が可能です。

SRXヘッドセット電池充電器仕様

5-ベイ充電器仕様

幅	約 31 cm (12")
奥行き	約 10 cm (4")
高さ	約 10 cm (4")
入力	入力電圧：09-264 VAC 入力電流：最大 0.25 Arms (120 VAC) ライン周波数：47-63 Hz
出力	25 W
コード：米国、メキシコ、カナダ	ULおよびCSA認証済み 導線3本 (18 AWG) 最小定格125V、10Aの成形プラグキャップにより終端

	最小長6フィート
コード：その他の国	CENELEC HD-21規格に基づいた<HAR>マーク付きのH05VVF3G1.00 コード 導線3本 (1 mm ²) 最小定格125V、10Aの成形プラグ キャップにより終端 最小長6フィート
動作温度	50°~140° F (10°~ 40° C)
保管温度	-22°~158° F (-30°~ 70° C)
湿度	90%の非結露まで機能

単一ベイ充電器仕様

幅	約 8 cm (3")
奥行き	約 11 cm (5")
高さ	約 6 cm (2.5")
入力	入力電圧：100-240 VAC 入力電流：最大 0.9 A ライン周波数：50-60 Hz
出力	5 W
コード：米国、メキシコ、カナダ	ULおよびCSA認証済み 導線3本 (18 AWG) 最小定格125V、10Aの成形プラグ キャップにより終端 最小長6フィート
コード：その他の国	CENELEC HD-21規格に基づいた<HAR>マーク付きのH05VVF3G1.00 コード 導線3本 (1 mm ²) 最小定格125V、10Aの成形プラグ キャップにより終端 最小長6フィート
動作温度	50°~113° F (10°~ 45° C)
保管温度	-22°~158° F (-30°~ 70° C)
湿度	90%の非結露まで機能

 注: パッケージは製品の出荷条件により異なります。一般に、梱包材料は総出荷重量の約15%です。

SRX電池充電器用壁面マウント

SRX電池充電器とその電源の壁面取り付けを容易にするためのユニットが提供されています。

- 組み立てが必要です。
- 壁面内に電線、水道等が存在する場合には、パイロット穴を開ける際、それらに損傷を与えないように注意してください。
- 本ユニットの導入は、お客様の責任において行ってください。
- 端末充電器同士を直接重ねることはできません。付属のホワイトボード部品をそれぞれの端末充電器上に配置することにより区切ってください。
- パイロット穴を壁のスタッドにドリルする際には、アンカーを使用しないで下さい。
- 各レール部品の一番下に位置するアンカーは、床から12インチ以上離してください。
- レール部品を取り付ける際は、電源コンセント等の位置に注意してください。完成したユニットでは、充電器の背面にあたる領域にアクセスすることはできません。

SRX電池充電器用壁面マウント：SRX単一ベイ電池充電器の取り付け

Vocollectでは、単一ベイ充電器を机上で使用することを推奨していますが、壁面に取り付けることも可能です。単一ベイ充電器を壁面に取り付けるには、充電器下部のスタンドを裏返す必要があります。

! 重要: 最初にスタンドを裏返すことなく、単一ベイ充電器を壁面に取り付けようとしてはいけません。

1. 充電器をひっくり返し、スタンド下部にあるネジを弛めます。
2. スタンドを裏返し、ネジを締めなおします。
3. 壁面アンカー（別途準備が必要）用に2つのパイロット穴を開けます。アンカーには垂直方向に2.75"の間隔を持たせます。
4. アンカーおよびネジ（別途準備が必要）を取り付けます。
5. 壁面にぶら下げる際は、鍵穴型スロットとネジスロットの両方を確実に使用してください。

SRX電池充電器用壁面マウント：SRX 5-ベイ電池充電器の取り付け

部品リスト：

個数	説明
4	セルフドリリング ネジアンカー #8
4	ネジ、#8x1.5、フィリップス型、なべ頭

次が必要となります：

- ドリル（1/8" ビット）
 - ドライバ、#2 フィリップス (+)
1. 鉛筆と水準器を用い、壁面にアンカー穴の位置をマークします。アンカーには、水平方向に9"、垂直方向に2"の間隔を持たせます。下部のアンカー穴は、少なくとも12インチ床から離れており、水平である必要があります。
 2. アンカー用のパイロット穴を開けます。パイロット穴にアンカーをしっかりとネジ留めします。アンカーにネジを挿入します。ただし、これらのネジを完全に締めたいけません。

3. 図のように、充電器の背面に電源を差し込みます。ただし、取り付けが完了するまで、通電は行わないでください。



図 159 : 充電器への電源差し込み

4. 壁面のネジに充電器背面の鍵穴型スロットを揃え、そこにぶら下げ固定します。

LEDインジケータについて

Vocollect Talkman端末とSRX/SRX2ヘッドセットおよびその充電器には、装置の状態を示すLEDがあります。これらのLEDはオン、オフまたは点滅します。一部のケースではLEDは2つの色を交互に点滅する場合があります。

問題があることをLEDが示した場合、トラブルシューティングの手順を参照して問題を解決してください。「LEDで示される問題のトラブルシューティング」も参照してください。

SRX2電池充電器のLEDインジケータ

SRX電池充電器には電源LEDインジケータがあり、各充電器スロットに2個のLEDインジケータがあります。充電器をオンにするには、充電器に接続した電源をコンセントに差し込みます。電源が入ると充電器左隅のLEDインジケータが緑色に点灯します、

! 重要: SRX電池を充電器にセットしたら、最低5分間はそのままにしておく必要があります。これは、充電器による電池の状態解析に要する時間です。5分以内に電池を外すと、充電器のLEDインジケータが不正なバッテリー状態を表示する可能性があります。

左側インジケータの色	右側インジケータの色	SRX電池状態
オフ	オフ	充電器スロット内で電池が検出されていない。電池がスロットにある場合。
赤	オフ	そのスロットの電池は充電中である。
緑	緑	そのスロットの電池は完全に充電され使える状態にある。
オフ	黄	そのスロットの電池が熱すぎるか、あるいは冷たすぎる可能性がある。電池は0°C (32°F) と 40° C (104°F) の間の温度になくはなりません。電池が温まる、または冷えるまで充電器は充電を開始しません (充電が始まると左のLEDインジケータが赤に点灯します)。
赤の点滅	オフ	通常の状態: 充電器に電池が正しくセットされていない可能性があります。電池を充電器に差しなおし

左側インジケータの色	右側インジケータの色	SRX電池状態
		ます。異常な状態：電池が正しく充電器にセットされていることを確認した後もこの状態が続く場合。

SRX2ヘッドセット電池充電器



図 160 : SRX2 20ベイヘッドセット電池充電器

- SRX2電池充電器には、20のポートがあり、最大20個の電池を同時に充電できます。
- 充電器の前面パネルにあるLEDインジケータは、充電器の電源がオンかどうかを示します。
- それぞれの電池ポートには、電池の充電状況や電池の状態を示すLEDライトがあります。
- SRX2ヘッドセット電池充電器は卓上設置と壁面マウント キットを用いた壁面への固定が可能です。複数の充電器を壁面に固定する場合は、充電器と充電器の間に所定の間隔を空けてください。卓上設置の場合、複数の充電器を積み上げないでください。

SRX2ヘッドセット電池充電器仕様

20ベイ充電器仕様

重量	電池20個搭載時：8 lbs. (3.63 kg) 電池未搭載時：6.38 lbs (2.89 kg.)
幅	約 55 cm (21.65")
奥行き	約 15.8 cm (6.22")
高さ	約 15.7 cm (6.18")
入力	電源入力電圧：90VAC～264VAC、50/60Hz 電源入力電流：最大2A

出力	電源出力電圧：12V 電源出力電力：最大80W 20個の空の電池を完全に充電するために必要な電力は40W未満です。
コード：	IEC 60320標準プラグを使用
動作温度	32°～104° F (0°～ 40° C)
保管温度	-40°～158°F (-40°～70°C)
湿度	相対湿度 5～95% 非結露

注：パッケージは製品の出荷条件により異なります。一般に、梱包材料は総出荷重量の約15%です。

SRX2 電池充電器用壁面マウント

SRX2電池充電器は、標準のDINレールにそのまま取り付けることができます。お客様が手を加える必要はありません。DINレールは、適切な場所の壁面に取り付ける必要があります。Vocollectからは1個の充電電池を取り付けられるDINレールが提供されていますが、お客様はVocollectの仕様に適合した他社のレールを購入することもできます。充電器を壁面に取り付ける前に、次の事項を検討してください。

- レールを使用した壁面マウントには、お客様による組み立てが必要です。
- 充電器ユニットの導入は、お客様の責任において行ってください。
- お客様は、取り付け方法が現地のすべての建築基準に従っていることを確認してください。
- 壁面内に電気配線、水道管等が存在する場合には、壁面に穴をあける際、それらに損傷を与えないように注意してください。
- レールや充電器を取り付ける際は、電気コンセントやその他のコンセントの邪魔にならないように注意してください。
- 一般に、壁スタッドに壁面マウントをアンカー固定すると、より安定的に取り付けることができます。壁スタッドにドリル穴をあける場合、その穴にネジアンカーを使用しないでください。
- 2台の充電器を横に並べて取り付ける場合、ロックアームのための間隔として、2台の充電器の間を少なくとも1インチ（2.54cm）空ける必要があります。
- 充電器の適切な取り付け、保持、取り外しのため、レールは床から12インチ（30.5cm）以上の位置にアンカー固定してください。
- 2台の充電器を縦に並べて取り付ける場合、DINレールの間隔を10インチ（25.4cm）以上空けることをお勧めします。



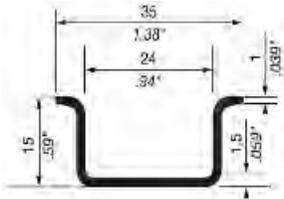
図 161 : SRX2充電器 - 背面

番号	説明
1	電源
2	充電器を壁に水平に取り付けるためのラバーストッパー
3	充電器をDINレールに固定するロックアーム
4	充電器をDINレールに掛けるマウントフック
5	充電器のソフトウェアのアップグレードのためのUSBポート

SRX2 20ベイ電池充電器の取り付け

次が必要となります：

- DINレール、スロットスチール 35 mm X 15 mm、Vocollect部品番号CM-1000-20-1または次の仕様に適合した顧客提供のDINレール

レール上の充電器数	レールの最小カット長	DINレールの仕様	標準DINレール
1	550 mm	単一ユニット長 550mm、重量331.5 g (11.6933 oz) 	
2	1,101 mm		
3	1,652 mm		

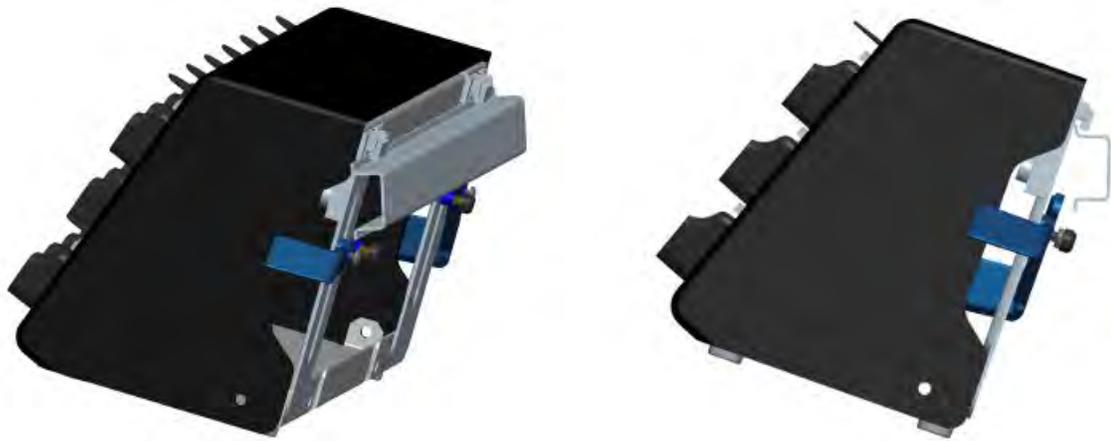
- ドリル
- 固定具
- ドライバ

1. DINレールを目的の位置に取り付けます。固定方法、支持面、および取り付けハードウェアが、充電器にフルに電池をセットした場合の重量を、DINレールの1リニアフット当たり25lbs (37.2 kg/m) で安全に支持できることを確認してください。またアンカー穴が床から12インチ (30.5cm) 以上の位置にあることを確認します。取り付け方法が現地のすべての建築基準に従っていることを確認してください。
2.  **重要:** 充電器の電源は、あらかじめ充電器のシャーシの背面にファスナーで固定しておく必要があります。まだ固定していない場合は、電源を充電器に接続して固定します。取り付け作業が完了するまでは、コンセントにプラグを差し込まないでください。

レールに充電器を取り付ける前に、充電器の両側にある2つのレバーを回転させて、ユニット背面のロックアームを開きます。ロック解除した状態では、アームが床と並行になります。

3. ユニット背面の2つのフックをレールの上端に掛けて、充電器をDINレールに取り付けます。

DINレールへのSRX2充電器の取り付け



4. レール上で充電器を横方向にスライドさせて適切な位置に配置し、ロックアームをロック位置(ユニットの両側にぴたりと沿った位置)まで回転させます。
5. 充電器がレール上で安定していない場合は、ユニット背面のラバーストップを回して壁方向に引き出し、調整してください。
6. 電源のプラグをコンセントに差し込み、充電器表面の右下にあるLEDインジケータを確認します。インジケータライトが緑に点灯していれば、充電器の電源がオンになっています。

LEDインジケータについて

Vocollect Talkman端末とSRX/SRX2ヘッドセットおよびその充電器には、装置の状態を示すLEDがあります。これらのLEDはオン、オフまたは点滅します。一部のケースではLEDは2つの色を交互に点滅する場合があります。

問題があることをLEDが示した場合、トラブルシューティングの手順を参照して問題を解決してください。「LEDで示される問題のトラブルシューティング」も参照してください。

SRX2充電器のLEDインジケータ

SRX2電池充電器の表面右下には、充電器の状態を示すLEDインジケータライトがあります。

- LEDが緑に点灯：充電器の電源がオン
- 滅火：充電器の電源がオフ
- LEDが赤に点灯：充電器の電源が故障中

 注：充電器のLEDインジケータが赤の場合、充電器の電源プラグを元の電源から切断し、すべての電池を取り外します。電源プラグを元の電源に再度差し込みます。LEDがなお赤の場合、充電器の修理または交換が必要です。

充電器のポートのインジケータ

充電器のLEDに加え、各充電ポートにはセットされた電池の状態を示す次の2つのLEDインジケータライトがあります。

- 丸いライトは、電池の充電状況を示すリングLEDです。
- 感嘆符の形のアラートLEDは、電池に対応を必要とする問題が発生しているかどうかを示します。このインジケータが点灯した場合、その充電ポートの電池は、電池残量がシフトの最後までに切れる可能性があります。具体的なアラートメッセージについては、VoiceConsoleを確認してください。



図 162 : 充電ポート インジケータ

次の図では、電池のポートLEDインジケータ ライトのパターンについて説明します。

リングLED (充電状況)	アラートLED (電池の状態)	SRX2電池の状況
緑の点灯	オフ	電池は完全に充電済み
黄色の点灯	オフ	電池は充電中
赤の点滅	オフ	充電障害を検出
緑の点灯	赤の点灯	電池のアラート状態、完全充電済み
黄色の点灯	赤の点灯	電池のアラート状態、充電中
赤の点滅	赤の点灯	電池のアラート状態、障害を検出
赤の点滅	赤の点灯	未知の電池

第 11 章

アダプタ ケーブルとリスニング キット

ほとんどのインラインアダプタケーブルは特定のハンドヘルド端末専用で製造されているため、ご使用の端末に合わせて正しいアダプタを使用する必要があります。

さらに、インライン アダプタ トレーニング ケーブルは、Vocollectが承認したリスニング システムでのみ使用できます。

新しい作業員をトレーニングする際は、彼らによる音声システムを用いた作業状況を聞く必要が生じるかもしれません。Vocollectではこの目的のために専用のリスニング キットを推奨しています。

有線リスニング キット

- ⚠ **注意:** Vocollectでは、Vocollectが販売する認定リスニング システムのみを使用することを強くお勧めします。Vocollectが認定していないリスニング システムを使用する場合は、独自の電源（電池など）から電力を単独で供給でき、かつ入力インピーダンスが2Kオーム以上のものを選択してください。Vocollectが販売するリスニング システム以外が原因で生じた装置の損傷については、Vocollectは責任を負いません。



図 163 : Radio Shack有線リスニングキット



図 164 : Marshall Demonstration有線リスニングキット

- 有線リスニングキットは、Talkmanのウェアラブルコンピュータまたはハンドヘルド端末に接続します。このキットを使用すると、複数の人(トレーナーや管理者など)が、作業員とTalkmanのウェアラブルコンピュータまたはハンドヘルド端末との会話を聞くことができます。
- 赤いコネクタがあるVocollectオーディオアダプタケーブルは、Talkmanウェアラブルコンピュータで使用できます。
- 端末固有のアダプタトレーニングケーブル ("Y"またはスプリッタケーブルとも呼ばれる) は、サードパーティ製のハンドヘルド端末で使用する必要があります。
- 詳細については、リスニングキットに付属のユーザマニュアルを参照してください。

Talkman 端末での音声確認

1. インラインアダプタトレーニングケーブルの3.5 mmジャックをリスニングシステムの入力ジャックに接続します。
2. トレーニングケーブルの反対側をTalkman端末の対応するポートに接続します。

! 重要: 有線リスニング構成の場合、端末に合った正しいケーブルおよびポートを使用しているかどうか確認してください。

Talkman端末	ケーブル	ポート
Talkman A500 または Talkman T-シリーズ	オーディオ スプリッタ ケーブル (TR-603-xxx)	赤色ポート
赤色ポートにビジュアル トレーニング端末を接続 したTalkman A500 または T-シリーズ	ヘッドセット トレーニング ケーブル (AD-300-1)	黄色ポート
Talkman A720	ヘッドセット トレーニング ケーブル 電源の供給されていないスピーカー (たと えばVocollectヘッドセット) に接続	黄色ポート
Talkman A710 または A730	Micro USB → 3.5 mm ケーブル (TR-900-1) 電源の供給されているスピーカーに接続し ます。 ! 重要: リスニングキットがTalkmanと正 しく動作するためには USB ケーブルを Vocollectから購入 (部品番号 TR-900-1) する必要があります。	メンテナンス ポート 電源の供給されていないス ピーカーをメンテナンス ポートに接続しないでく ださい。

3. 有線リスニングキットの電源を入れ、作業を開始します。

ハンドヘルド端末での音声確認

1. インラインアダプタトレーニングケーブルの3.5 mmジャックをリスニングシステムの入力ジャックに接続します。使用している端末に適したアダプタケーブルを必ず使用してください。
2. インラインアダプタトレーニングケーブルをVocollect SR-Seriesヘッドセットに接続します。

3. インライン アダプタ トレーニング ケーブルの反対側をハンドヘルド端末に接続します。
4. 有線リスニングキットの電源を入れ、作業を開始します。

Samsonワイヤレス リスニング システム (TR-605-x)

廃止となったTR-604-x無線リスニングキットの後継としてSamson TR-605-xを使用。



図 165 : TR-605-x

- ワイヤレス リスニング システムを用いると、トレーナー、管理者、あるいは他の作業員が、作業員とTalkmanウェアラブルコンピュータまたはハンドヘルド端末間の会話を離れた場所で聞けるようになります。
- ワイヤレス リスニング システムは、特定の無線チャンネルを用いて互いに通信を行う、送信無線機と受信無線機で構成されます。本システムでは、それぞれの送信無線機に異なるチャンネルを割り当て、受信無線機で聞きたいチャンネルに切り替えることにより、複数の作業員を監視することが可能です。

Samsonワイヤレス リスニング システムの使用

最高の性能を得るには、リスニング デバイスをTalkmanウェアラブル コンピュータの赤いポートに接続してください。赤いポートが利用できない場合やハンドヘルド端末を利用している場合には、黄色のポートに接続されたインラインアダプタトレーニングケーブル ("Y"ケーブル) を利用することも可能です。"Y"ケーブルを使用する場合には、ヘッドセット性能がゲインやヘッドホンレベル調整の影響を受けるため、Vocollectのヘッドセットとリスニング システム送信機の両方を必ず接続してください。

次のアイテムが必要です：

- 両方の無線に同じチャンネル設定が行われたSamsonリスニングキット (TR-605-x) 。それぞれのリスニング システムには次のアイテムが含まれます。
 - 受信機
 - 送信機
 - プラスチック製ドライバ
 - ヘッドフォン - 3.5 mm ジャック
 - 電池付き (TR-605-x は 9V 2本)
 - Vocollect音声アダプタ ケーブル受信機

- Talkman A500/T5と有線バーコードリーダーを使用する場合は、TR-603-102「Y」アダプタケーブルで、スキャナおよびリスニングキット送信機をA500/T5端末の赤いポートに接続する必要があります。
- ハンドヘルド端末を使用する場合は、AD-300-1インライン「Y」アダプタトレーニングケーブルで、有線Vocollectヘッドセットを接続するとともに、リスニングキット送信機への音声出力を接続する必要があります。
- Talkmanウェアラブルコンピュータまたはハンドヘルド端末
- Vocollect SR-シリーズヘッドセット

送信無線機の設定



図 166 : TR-605-x送信無線機

送信無線機は、作業員のTalkmanウェアラブルコンピュータやハンドヘルド端末に接続される、専用の送信機として設定されます。

1. 送信無線機に電池を挿入します。（TR-605-x送信機は下部正面にUHF BELTPACK TRANSMITTERとラベル付けされています。）
2. Vocollectの音声アダプタケーブルを作業員のTalkman端末またはハンドヘルド端末の適切なポートに接続します。
 - Talkman A710 または A730 の場合、Micro USB ケーブルを Talkman 端末のメンテナンス ポートに接続します。
 - Talkman A720、A500またはT5 シリーズを使用している場合、音声アダプタ ケーブルをTalkman端末の赤いポートに接続してください。
 - ハンドヘルド端末の場合、その端末に対応した適切な音声アダプタ トレーニング ケーブルを使用してください。
3. 3.5mmオスのジャックをSamson送信機の入力コネクタに挿入します。
4. 送信無線機の電源をオンにします。
5. Mute/Audioスイッチが接続位置に設定し、出力を有効にします。
 - TR-605-xユニットでは、AudioスイッチをON側にスライドします。

受信無線機の設定

受信無線機は、トレーナー専用受信機として設定されます。



図 167 : TR-605-x受信無線機

1. 灰色の受信無線機に電池を挿入します。
2. ヘッドセットまたはパワード スピーカーを受信機のヘッドホン ジャックに接続します。
3. 受信無線機の電源をオンにします。
4. 必要に応じて出力レベルを調整します。

リスニング システムを最適なパフォーマンスに調整

1. Talkmanウェアラブル コンピュータまたはハンドヘルド端末のプラス ボタンを、その音量が最大設定になるまで押してください。
「これ以上音量を上げることはできません。」というメッセージが聞こえるはずです。
2. 送信無線機内の送信ユニットで#1と記されたコントロールを探します。小さいドライバを用い、制御用のネジを反時計回りの方向にゆっくりと最後まで回転させます。これにより、ゲイン設定が最小になります。（TR-604-xユニットに付属するプラスチック製ドライバが見つからない場合には、同等のものを使用してください。）金属製のドライバを使用する場合には、ゲイン制御用のネジにダメージを与えないように特に注意をしてください。
システムに付属するプラスチック製ドライバが見つからない場合には、同等のものを使用してください。金属製のドライバを使用する場合には、ゲイン制御用のネジにダメージを与えないように特に注意をしてください。
3. 受信無線機で#1と記されたコントロールを探します。ドライバ（TR-604-x）または指（TR-605-x）を用いて、制御用のネジを反時計回りにゆっくりと回転することにより、ヘッドホンの音量を最小に設定します。
4. 灰色の受信無線機で、ヘッドフォン音量設定を時計回りに約20度回転させます。
5. リスニング システムの無線機電源を両方ともオンにします。
6. 灰色の受信無線機にヘッドホンまたはパワード スピーカーを接続します。
7. Talkmanウェアラブル コンピュータまたはハンドヘルド端末のプラス ボタンまたはマイナス ボタンを用いて、受信無線機のヘッドセット音量を最も適切なレベルに調整してください。
8. その他の調整：
 - 音声が歪んで聞こえる場合には、端末のプラス ボタンを押しながら、灰色の受信無線機のヘッドフォン音量設定を反時計回りにわずかに回転させ再調整します。

- ヘッドフォン設定が最大であるにも関わらず音量が低すぎる場合には、端末のプラス ボタンを押しながら、黒い送信無線機にあるゲイン制御用のネジを時計方向にわずかに回転させることで、ゲインを調整します。

ハンドヘルド端末にインラインアダプタトレーニングケーブルを接続して使用している場合には、ゲインの再調整が必要となるかもしれません。

9. ワイヤレスリスニングシステムの音量が歪みをとまわず最大に設定できたら、ヘッドホンやパワードスピーカーのボリュームコントロール、あるいはプラス/マイナス ボタンを用いて端末のボリュームを下げてください。

Sonyワイヤレスリスニングシステム(UTX-B2/URX-P2)



図 168 : Sony® UTX-B2/URX-P2

- ワイヤレスリスニングシステムを用いると、トレーナー、管理者、あるいは他の作業員が、作業員とTalkmanウェアラブルコンピュータまたはハンドヘルド端末間の会話を離れた場所で聞けるようになります。
- ワイヤレスリスニングシステムは、特定の無線チャンネルを用いて互いに通信を行う、送信無線機と受信無線機で構成されます。本システムでは、それぞれの送信無線機に異なるチャンネルを割り当て、受信無線機で聞きたいチャンネルに切り替えることにより、複数の作業員を監視することが可能です。

! 重要: このリスニングシステムを使用する前に、次の手順を実行してください。

- 送信機の**Line/Mic**スイッチを**Line**に設定します。
- モニタリングヘッドフォンを受信機の**Monitor**ポートに接続します。
- ヘッドセットを装着する前に、音量を下げてください。

受信無線機の設定

! 注: この送信機は、*UHF Synthesized Diversity Tuner*とラベル付けされています。

1. 受信機に電池を挿入します。
2. 受信機を起動します。
3. **Set** (設定) ボタンを押し続け、ディスプレイが点滅するのを待ちます。
4. **Set** (設定) ボタンを数回押して設定をスクロールします。**Scan** (スキャン) が表示されたらスクロールを停止します。
5. **+** ボタンを押して、クリア チャンネルをスキャンします。
チャンネル バンクが表示されます。
6. クリアチャンネルが見つかった後、他のボタンを押さなければ、ディスプレイが15秒間点滅した後停止します。これで、チャンネル選択が受け入れられました。
7. チャンネルバンクの前に2桁の数字が付加されています。送信機の設定には、チャンネルバンクの桁を使用します。
例えば、04.3101と表示されている場合は、3101を使用して送信機を設定します。
8. 手順に従って、送信機を設定します。

送信無線機の設定

1. 送信機に電池を挿入します。詳細はメーカーのマニュアルを参照してください。
2. 送信機の上部の入力スイッチを**Line** (ライン) に設定します。
3. **Set** (設定) ボタンを押し続け、送信機を起動します。
4. チャンネルバンク番号が受信機上に表示されるまで、[**Set** (設定)] ボタンを何度か押します。
5. 送信機の電源をオフにし、変更内容をメモリにコミットします。
6. 送信機を起動します。
選択した周波数が使用されます。
7. 送信機の設定が、受信機で選択した周波数やチャンネルバンクに一致していることを確認します。

Sonyワイヤレス リスニング キットのTalkman端末への接続

1. Talkman端末をVocollectケーブルを介して送信機に接続します。
2. ヘッドセットを受信機のモニタ ポートに接続します。

インライン アダプタ ケーブル：Talkman端末およびHandheld端末

端末固有のインライン アダプタ トレーニング ケーブル("Y"や"スプリッタ ケーブル"とも呼ばれる)は、Vocollectヘッドセットとリスニング システムを端末に接続するために、サードパーティ製のハンドヘルド端末で使用する必要があります。

インライン アダプタ トレーニング ケーブルは、Vocollectが承認したリスニング システムでのみ使用できます。



図 169: ハンドヘルド端末、ヘッドセット、およびリスニングキット用のトレーニングケーブル (AD-300-1)



図 170: Talkman用のトレーニングケーブル (TR-603-102)、有線スキャナ、およびリスニングキット



図 171: Honeywell LXE MX7ヘッドセット ケーブル



図 172: Honeywell LXE HX2トレーニング ケーブル



図 173: Honeywell LXE HX2ヘッドセット ケーブル



図 174: Motorola WT4090ヘッドセット ケーブル

インライン アダプタ ケーブルとハンドヘルド端末の接続

1. Vocollect SRシリーズ ヘッドセットのコネクタを対応するアダプタ ケーブル端に接続します。

- アダプタ ケーブルのもう一方の端をハンドヘルド端末の該当するポートに接続します。

インライン アダプタ トレーニング ケーブルの接続

- Vocollect SRシリーズ ヘッドセットのコネクタを対応するトレーニング アダプタ ケーブル端に接続します。
- トレーニング ケーブルの3.5 mmジャックをリスニング デバイスの入力ジャックに接続します。
- トレーニング ケーブルのもう一方の端をハンドヘルド端末の該当するポートに接続します。



図 175: 一般的なトレーニング ケーブル設定

部品番号：リスニングキット

部品の詳細	Vocollect部品番号
Samsonワイヤレス リスニング キット、送信機および受信機、CH. x、V2 (x=1-6)	TR-605-x
Sonyワイヤレス リスニング キット、送信機 (UTX-B2) および受信機 (URX-P2)、566-590 MHz	TR-606-1
オーディオ アダプタ ケーブル、ワイヤレス リスニング キット、3.5mmオス (Sonyワイヤレス リスニング システム用)	TR-603-101
オーディオ アダプタ ケーブル、ワイヤレス リスニング キット、3.5mmオス	TR-603-102
オーディオ アダプタ ケーブル、ワイヤレス リスニング キット、2.5mmオス (Worldwide)	TR-604-101
オーディオ ケーブル、A700、Micro USB → 3.5 mm オス A700 メンテナンス ポート	TR-900-1
アダプタ、Vocollectヘッドセットへのトレーニング用オーディオ スプリッタ ケーブル	AD-300-1

トレーニング構成用ケーブルの選択

端末	ヘッドセット	スキャナ	ケーブル構成
Talkman A700 端末	<ul style="list-style-type: none"> 有線 (A500/T5の黄色のポートに接続)、または ワイヤレス 	<ul style="list-style-type: none"> 有線 ワイヤレス、または スキャナなし 	<p>TR-900-1は以下に接続します。 connects:</p> <ul style="list-style-type: none"> 有線リスニングキットまたはワイヤレスキット用送信機 <p>→ A700 メンテナンス ポート</p>
Talkman A500/T5	<ul style="list-style-type: none"> 有線 (A500/T5の黄色のポートに接続)、または ワイヤレス 	<ul style="list-style-type: none"> 有線 	<p>TR-603-102は以下に接続します。 connects:</p> <ul style="list-style-type: none"> スキャナ 有線リスニングキットまたはワイヤレスキット用送信機 <p>A500/T5の赤のポートに接続</p>
Talkman A500/T5	<ul style="list-style-type: none"> 有線 (A500/T5の黄色のポートに接続) 	<ul style="list-style-type: none"> ワイヤレス、または スキャナなし 	<p>TR-603-101またはTR-604-101は以下に接続します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 有線リスニングキットまたはワイヤレスキット用送信機 <p>A500/T5の赤のポートに接続</p>
Talkman T2x	<ul style="list-style-type: none"> 有線 (T2xの黄色のポートに接続) 	<ul style="list-style-type: none"> 有線 (T2xの黄色のポートに接続) ワイヤレス (T2x Bluetoothシリアルアダプタは青のポートに接続)、または スキャナなし 	<p>TR-603-101またはTR-604-101は以下に接続します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 有線リスニングキットまたはワイヤレスキット用送信機 <p>T2xの赤のポートに接続</p>
サードパーティ製端末	<ul style="list-style-type: none"> 有線、または ワイヤレス 	<ul style="list-style-type: none"> 内蔵、 ワイヤレス、または スキャナなし 	<p>AD-300-1は以下に接続します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ヘッドセット (SR20または同等品) 有線リスニングキットまたはワイヤレスキット用送信機 <p>端末の黄色のポートまたはヘッドセットポートに接続</p>

第 12 章

機器における各種問題のトラブルシューティング

LEDインジケータの変化やエラーメッセージ等が確認できない場合にも、トラブルのサインは見つけられるかもしれません。以降の説明の中から、確認できる現象を最も正確に表しているものを探してください。問題が解決するまで手順に従ってください。最初のオプションから始めて、次の手順に移る前に問題が解決されているかを確認します。一連の手順でも問題が解決できなかった場合には、Vocollectまで問い合わせを行い、修理に向けた返却の手続きやサポート担当者との話し合いを進めてください。

ヘッドセットから何も聞こえません

1. 端末の電池が完全に充電されていることを確認してください。
2. ヘッドセットと端末の接続が適切であることを確認してください。
3. 正常に動作している別端末を用い、そのヘッドセットを試してください。
4. 問題の確認された端末で別のヘッドセットを試してください。
5. 端末の電源を一旦オフにし、再度オンにしてください。
6. 端末をリブートしてください。
7. SRXヘッドセットを使用している場合には、ヘッドセットと端末の組み合わせを確認してください。
8. ヘッドセットの故障である場合には、修理のためにVocollectまで返却してください。

バーコードリーダーがスキャンを行いません

1. バーコードリーダーと端末の接続が適切であることを確認してください。
2. 別のバーコードリーダーを試してください。
3. バーコードリーダー異なる端末に接続して試してください。
4. バーコードリーダーの故障である場合には、修理のためにVocollectまで返却してください。
5. 作業パッケージに適切なバーコード設定が含まれていることを検証してください。

ヘッドセットが外れてしまいます

1. ヘッドセットのコードと衣服とが適切にクリップ留めされていることを確認してください。
2. ヘッドセットの装着手順に誤りがないことを確認してください。
3. SRXヘッドセットを使用している場合には、ヘッドバンドストラップが後頭部に適切に掛っていることを確認してください。

端末から数秒毎にビーブ音が発生します

1. 数分の間お待ちください。音声エンジンがホストと通信を行っているだけかもしれません。
2. 数分経ってもビーブ音が止まらない場合は、管理者に問い合わせてください。
3. 管理者は、VoiceConsoleの端末ログを確認して、問題の診断を試みることができます。

端末が音声アプリケーションを読み込みません

1. 音声アプリケーションの読み込みを再度試みてください。手順については、VoiceConsoleのオンラインヘルプを参照してください。
2. 端末が充電器に適切にセットされていることを確認してください。
3. VoiceConsoleでメッセージを確認してください。
4. アクセスポイントの無線範囲内にいることを確認してください。
5. 端末のChangeTaskEnabledパラメータが1に設定されていることを確認してください。
6. 端末をリポートしてください。
7. 端末をデバッグモードにして、問題解決の手掛かりを探してください。

端末が作業員テンプレートを読み込まない

1. 作業員を正しく読み込んでいることを確認してください。
2. 作業員が音声テンプレートを作成しているか確認してください。
3. 無線の範囲内にいることを確認してください。
4. 端末をリポートしてください。

端末がボタン操作に反応しません

1. 端末の電池が完全に充電されていることを確認してください。
2. デバイスをリポートします。
3. 端末を修理のためにVocollectまで返却してください

端末がオンになりません

1. 電池が端末に適切にセットされていることを確認してください。
2. 端末の電池が完全に充電されていることを確認してください。
3. 端末を修理のためにVocollectまで返却してください

端末がオフになったままです

1. 電池を交換してください。
2. 電池が適切にセットされていることを確認してください。
3. 端末の電池挿入区画に損傷等が無いか確認してください。損傷が確認される場合には、修理のために Vocollectまで返却してください。
4. VoiceConsoleで端末特有のシリアル番号の付いたクラッシュ ダンプ ファイルを確認してください。

Talkman A500/T5電池充電器 - トラブルシューティング ガイド

このトピックではTalkman A500/T5電池充電器で発生する問題の一部と、それらの原因、および原因の確認方法について説明します。

発生しうる問題	試すべき手順	手順が機能しない場合
特定の充電器スロットでは、電池の装着されていない端末をセットしても電源が入らない。ただし、同じ充電器の他のスロットや別の充電器にセットすると電源が入る。	端末および充電器の端子が汚れていないことを確認します。汚れている場合には、クリーニング手順を実施した後、再度試してください。	充電器の交換または修理を行ってください。この問題はお客様自身で解決することはできません。
	充電器スロットを確認し、機械的な整合上の問題がないかを確認します。正面にある2つのプラスチック製ペグとポケットのエッジ間には余計な隙間があってははいけません。クレジットカード等が入ってしまうような隙間がある場合には、整合上の問題があるかもしれません。	充電器の交換または修理を行ってください。この問題はお客様自身で解決することはできません。
	端末が問題のスロットに適切にセットされていることを確認します。端末が別の充電器スロットで充電されることを確認します。	充電器の交換または修理を行ってください。この問題はお客様自身で解決することはできません。
電池を電池用の充電ポケットにセットしても、充電器正面にあるLEDで充電の進行（オフから赤、最終的には緑に変わる）が表示されない。	充電器のACケーブルの両端がしっかりと接続されていることを確認してください。	充電器の交換または修理を行ってください。この問題はお客様自身で解決することはできません。
	ACコンセントに電力が来ていることを確かめてください。	充電器の交換または修理を行ってください。この問題はお客様自身で解決することはできません。
	充電器の電源アダプタからのDC電源コードがしっかりと接続されていることを確認してください。	充電器の交換または修理を行ってください。この問題はお客様自身で解決することはできません。

発生しうる問題	試すべき手順	手順が機能しない場合
電池を電池用の充電ポケットにセットしても、充電器正面にあるLEDで充電の進行が表示されない。電池を装着していない端末をスロットにセットすると、電源がオンになる。これは全スロットで発生する。	充電器の内部に問題があります。	充電器の交換または修理を行ってください。この問題はお客様自身で解決することはできません。
電池や電池を装着した端末を対応するスロットにセットすると、それらのスロットのLEDが直ちに赤く点滅する。	充電器スロットを確認し、機械的な整合上の問題がないかを確認します。正面にある2つのプラスチック製ペグとポケットのエッジ間には余計な隙間があってははいけません。クレジットカード等が入ってしまうような隙間がある場合には、整合上の問題があるかもしれません。	充電器の交換または修理を行ってください。この問題はお客様自身で解決することはできません。
	本現象が極端に古くない特定の電池でのみ発生し、同等の古さの他の電池では発生しないことを確認してください。	該当する電池は検査のために Vocollect Authorized Repair Center まで送ってください。
	端末および充電器の端子が汚れていないことを確認します。汚れている場合には、クリーニング手順を実施した後、再度試してください。	充電器の交換または修理を行ってください。この問題はお客様自身で解決することはできません。
電池や端末をスロットにセットすると、電池充電器スロットのLEDが1.5秒から3秒の間、赤で点滅します。	端末および充電器の端子が汚れていないことを確認します。汚れている場合には、クリーニング手順を実施した後、再度試してください。	充電器の交換または修理を行ってください。この問題はお客様自身で解決することはできません。
	電池が保証期間中である場合には、交換のために返却してください。	
	本現象が極端に古い特定の電池でのみ発生していることを確認してください。	電池を廃棄します。
電池や端末をスロットにセットすると、電池充電器スロットのLEDが3秒以上、赤で点滅します。	電池が保証期間中である場合には、交換のために返却してください。	

発生しうる問題	試すべき手順	手順が機能しない場合
	本現象が極端に古い特定の電池でのみ発生していることを確認してください。	電池を廃棄します。
電池充電器スロットのすべての赤いLEDが点滅し、充電器の電源を入れなおした場合のみ点滅が停止する。	端末および充電器の端子が汚れていないことを確認します。汚れている場合には、クリーニング手順を実施した後、再度試してください。	充電器の交換または修理を行ってください。この問題はお客様自身で解決することはできません。
	充電器内のすべての端末を異なる端末セットと交換し、充電器の電源を入れなおしても、同じ現象が発生するかを確認します。 問題が発生しなくなるまで、充電器から端末を1つずつ取り外しながら、テストします。最後に取り外した端末に問題があると予想されます。再度の端末を除くすべての端末を充電器に戻し、再度テストしてください。	端末に問題がある場合、その端末は修理のために返却してください。 保証期間中の電池に問題がある場合、その電池は交換してください。 保証期間を過ぎた電池に問題がある場合、その電池は廃棄してください。
電池充電器の琥珀色のLEDすべてが循環パターンで点滅する。	充電器の交換または修理を行ってください。この問題はお客様自身で解決することはできません。	充電器の交換または修理を行ってください。この問題はお客様自身で解決することはできません。
電池を特定スロットにセットすると、該当するスロットのLEDが赤く点滅する。ただし、他の電池スロットで同じ問題は発生しない。	電池充電器の該当スロット端子が正常なスロットの端子と変わらない状態にあることを確認します。電池はスロットにぴったりと合う必要があります。	充電器の交換または修理を行ってください。この問題はお客様自身で解決することはできません。
	端末および充電器の端子が汚れていないことを確認します。汚れている場合には、クリーニング手順を実施した後、再度試してください。	充電器の交換または修理を行ってください。この問題はお客様自身で解決することはできません。
5-ベイ充電器の電源LEDが常に緑にならず、琥珀色に点滅する。	マスター（灰色のタブの）スロット端末に対して、"DISTRIBUTABLE"パラメータに"1"が設定されていることを示す通常の動作です。 マスタースロットにある端末のシリアルポートでデータ通信が発生しています。これにより端末設定が他の端末に分配され、新しい端末へのVoiceConsoleを介したアク	

発生しうる問題	試すべき手順	手順が機能しない場合
	セスが、シリアル設定なしで簡単に行えるようになります。	

修理のための機器返却について

重要:

- Vocollectへの修理を目的とした機器の返却は、Vocollectから直接購入した機器のみが対象となります。
- Vocollectの代理店から購入したVocollect機器（SRシリーズのヘッドセット等）については、代理店まで問い合わせてください。
- ハンドヘルド端末でVocollect VoiceClientを使用している場合の、端末に関する問題や質問については、代理店または端末メーカーまで問い合わせてください。

注意: 発送時にはイヤードット、取り付けディスク、およびコードクリップを取り外してください。これらの消耗部品は修理の妨げとなります。また、修理後の返却ユニットには、これらの消耗部品は含まれません。

Vocollectでは、返却理由に関わらず、すべての返却に対してRMAを発行します。これにより機器の適切な追跡と取り扱いが保証され、迅速な返却が実現できます。

一般的な顧客サービス部門ではRMAの発行を、修理のために製品を返却する顧客に対して実施します。しかしながら、Vocollectでは次のような他の理由に対しても、RMAを発行します：

- Vocollectに帰属する製品。Vocollectは、顧客に対して製品を貸し出したり、サンプルとして提供する場合があります。
- Vocollectによる、テスト等を目的とした、顧客への製品返却要求。
- 顧客サイトにて、Vocollectの従業員が何らかの理由により決定した、Vocollectへの製品返却。
- 交換（誤った製品が出荷された場合や異なるサイズのベルトが注文された場合等）。

Vocollect製品の修理について、修理業者とのサービス契約を結んでいるユーザーもいます。このようなサービス契約を結んでいる場合には、該当する修理業者に問い合わせ、機器を返却してください。RMAの発行手順を順守することで、不必要な修理コストが削減されると共に、迅速な製品の受け入れが保証されます。RMAプロセスのに関する質問は、顧客サービスまで問い合わせてください。

Vocollectに返却する部品の梱包

注: RMA部品の適切な梱包は、Vocollect製品の容易かつ迅速な修理や返却につながります。これを実現するために、次の様な指針へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

1. 梱包は、部品同士が直接触れ合ったり、部品が輸送容器の側面、底面、あるいは上面等に直に接触することがないように行ってください。
2. 輸送容器には下敷き（できれば静電防止用バブルパック）を最低1枚は敷いてください。

3. それぞれの部品は、できれば静電防止用のバブルバッグや包装材を用いて、個別のバッグ詰めや包装を行ってください。
 - 個別包装が不可能な場合には、輸送容器の底に静電防止用バブルパック等の梱包材を適量敷き、それらの層の間に部品を詰めてください。
 - 梱包材にピーナッツ型緩衝材のみを使用することは避けてください。ピーナッツ型緩衝材だけでは、部品同士の接触や輸送容器の壁面との接触から部品を守ることができません。ピーナッツ型緩衝材は、輸送容器内や静電防止用バブルバッグ等で個別に包装された部品上の空き空間を埋める際に有効です。

修理のための機器返却：RMA（Return Material Authorization）手順

1. 次の情報を含む電子メールをvocollect-rma@vocollect.comまで送信してください：
 - 担当者名
 - 会社名
 - 会社住所
 - 電話番号
 - FAX番号
2. 同様に、返却される部品に関し、次の情報を提供してください：
 - 個数
 - 製品名
 - シリアル番号
 - 使用中のサイトにインストールされているソフトウェアのバージョン番号
 - 問題の説明または返却理由
 - 該当製品が保証、ESP（Extended Service Plan）、またはDepot Expressの対称であるか否か
 - ESPまたはDepot Expressの対象となっていない部品の場合には、購入注文番号
3. Vocollect宛てに品物を送付する場合は、RMA番号を明記してください。
4. 機器は、梱包方法の説明に従って梱包してください。
5. 送付先の住所は次のとおりです。Vocollect, Inc. 4250 Old William Penn Highway Monroeville, PA 15146-1622 RMA

VMT構成のトラブルシューティング

ここでは、車両の電源システムから電源を供給されているVMT（車載型Talkman）で、問題の原因を特定する手順を示します。次の手順は、最小限のVocollectテクニカルサポートだけで、VMTが稼働しない原因を特定する方法です。

- 車載バッテリーが充電され、動作していることを確認します。車両を始動させ、車両の動作が開始することを確認します。車両が始動しない場合は、資格のある技術者による車両の修理が必要です。

- 車両のキー スイッチをオンにした後にVMTを設置した場合は、車両の始動時にVMTに電源が投入されることを確認します。VMTは、可能な限り車両のキー スイッチをオンにする前にインストールしてください。これにより、車載バッテリーが搭載されていれば、VMTに常に電源が供給されます。
- 別のTalkman端末が利用できる場合は、稼働しないTalkmanと交換します。交換したTalkmanも稼働しない場合、おそらくVMTの電源システムに問題があります。逆に、交換したTalkmanが稼働する場合、元の端末を修理する必要があると考えられます。
- 稼働しないVMTの電池アダプタを、稼働が確認されている電池アダプタと交換します。VMTが新しい電池アダプタで稼働する場合、元の電池アダプタを交換する必要があると考えられます。

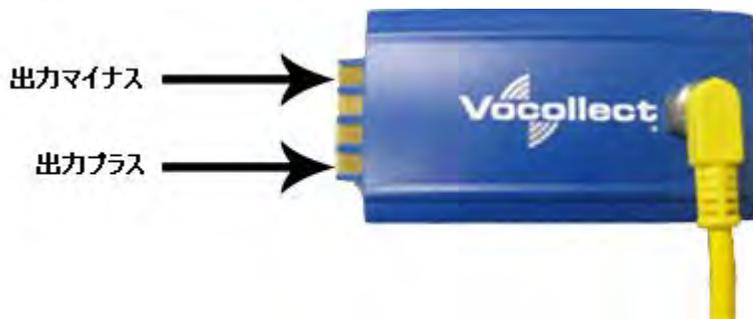
次の手順では、資格を持つVocollectテクニカルサポート担当者によって、VMTが稼働しない原因を特定する必要があります。

VMTが使用する電源装置にアクセスします（多くの場合、車両内部に設置されています）。電源のふたを留めている4本のネジを外し、入出力配線を露出させます（下図参照）。



- 入力端子をテストして、電圧が供給されていること、またその電圧が車両電源システムの電圧と一致していることを確認します。
 - 供給されている電圧が車両電源システムの電圧に一致しない場合、車両電源システムから正しい電圧が提供されていない理由を専門家が解明する必要があります。
 - 電圧が供給されていない場合、入力ケーブルのヒューズを確認し、ヒューズが飛んでいれば交換します。ヒューズを交換してもすぐに飛んでしまう場合は、VMTの電源への入力ケーブルがショートしていないかを確認します。ショートしていない場合、VMTの電源に問題があると考えられます。
 - 電源が供給されず、ヒューズが飛んでいない場合は、入力ケーブルが切れていないかを確認します。切れている場合は、ケーブルを交換します。切れていない場合、車両の電源システムに問題があると考えられ、専門家の対応が必要になります。
- 入力電圧が電源に供給されている場合、出力電圧を確認します。
 - 入力電圧は存在するが出力電圧が存在しない場合、または出力電圧が13.2V DCでない場合、電源の交換が必要だと考えられます。
 - 出力電圧が13.2V DCレンジにある場合、電池アダプタへのケーブルまたは電池アダプタそのものに問題があると考えられます。稼働確認済みの電池アダプタと交換して動作を確認してください。交換しても動作しない場合は、電源と電池アダプタ間のケーブルを交換する必要があると考えられます。
- 電池アダプタをテストするには、アダプタの出力を確認します。問題の原因が、電源にあるのか電池アダプタのケーブルにあるのかを特定するには、故障が疑われる電池アダプタをテストする前に、稼働確

認済みの電池アダプタをまずテストします。稼働する電池アダプタの2つの最外点は、約3.9~4.2V DCである必要があります（下図参照）。



LEDで示される問題のトラブルシューティング

Vocollect Talkman端末と充電器およびSRXヘッドセットとその充電器には、装置の状態を示すLEDがあります。これらのLEDはオン、オフまたは点滅します。一部のケースではLEDは2つの色を交互に点滅する場合もあります。

問題があることをLEDが示した場合、トラブルシューティングの手順に従って問題を解決してください。

1. 電池および充電器の端子について、適切な接触を妨げるような汚れ等が存在しないか確認してください。
2. 必要に応じて、端子のクリーニングを行います。
 - a) 金属接点のクリーニングには、イソプロピルアルコール(イソプロパノール)を含ませた綿棒や柔らかい布を使用します。
 - b) アルコールで湿らせた綿棒や布で汚れや付着物を除去できない場合は、表面を傷つけない柔らかい消しゴムを使用します。また、豚毛を用いた3列歯ブラシ形の汎用クリーニングブラシを用いて、端子上の汚れを丁寧に除去する方法もあります。
 - c) イソプロピルアルコールを用い再度拭き取りを行います。
3. 電池と充電器のいくつかの組み合わせを試し、その問題が電池や充電器特有のものでないかを判定します。
 - 問題がその電池特有のものである場合は、システム管理者に該当する電池を預けてください。
 - 問題が充電器特有のものである場合は、該当する充電器の電源を5秒程度引き抜き、再度接続します。電池を用い充電器のテストを再度行い、同じ問題が発生するようであれば、充電器をサービス担当まで返却してください。

エラーメッセージについて

エラーメッセージは次の2つのタイプのいずれかです：

番号付きメッセージはVoiceConsoleにエラーの数値として表示され、テキストメッセージが表示されます。番号付きエラーメッセージがVoiceConsoleに表示された際には、番号付きエラーメッセージのトピックを参照してください：

音声メッセージはヘッドセットから聞こえます。エラーメッセージがヘッドセットから聞こえた際には、音声メッセージのトピックを参照してください。

 注: VoiceConsoleに表示される番号付きエラーメッセージのすべてに、対応する音声メッセージがあるとは限りません。

番号付きエラー メッセージ

番号	テキスト	解決法
0x020a	イベント コントロールの初期化ができませんでした。	<ol style="list-style-type: none"> 1. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。 2. デバイスをリブートします。 3. リロードVoiceClient。
0x0203	イベント コントロールが共有データ モジュールを作成できませんでした。	<ol style="list-style-type: none"> 1. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。 2. デバイスをリブートします。 3. リロードVoiceClient。
0x0206	電池が少なくなっています。	バッテリーを変更してください。
0x0207	電池が少なくなっています。電池をすぐに交換してください。	バッテリーを変更してください。
0x0208	電池がほとんど残っていません。パワーオフ。電池を切ってから必ず電池を交換してください。	バッテリーを変更してください。
0x020a	イベント検出の初期化が失敗しました。	<ol style="list-style-type: none"> 1. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。 2. デバイスをリブートします。 3. リロードVoiceClient。
0x0602	雑音のサンプル処理が失敗しました。	
0x0603	雑音のサンプル処理がタイムアウトしました。	
0x0605	作業員ファイル名が間違っています。	
0x060c	トレーニング処理がUpdTrainに対して無効なステータスを返しました。	<ol style="list-style-type: none"> 1. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。 2. デバイスをリブートします。 3. リロードVoiceClient。
0x060e	単語のトレーニングができません。フラッシュメモリが不十分です。	
0x0802	発話の問題で初期化に失敗しました。	<ol style="list-style-type: none"> 1. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。

番号	テキスト	解決法
		<ol style="list-style-type: none"> 2. デバイスをリブートします。 3. リロードVoiceClient。
0x0804	スピーチアウトが失敗しました。オーディオシステムの失敗です。	<ol style="list-style-type: none"> 1. crashdumpファイルをチェックしてください。詳細は、VoiceConsoleオンラインヘルプを参照してください。 2. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。 3. デバイスをリブートします。 4. リロードVoiceClient。
0x1201	電源を切るダイアログに失敗しました。	<ol style="list-style-type: none"> 1. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。 2. デバイスをリブートします。 3. リロードVoiceClient。
0x1202	作業が読み込まれていません。作業名がありません。	
0x1203	OperLoad処理の失敗です--TmplSendがビジー状態です。	
0x1204	作業員の読み込みに失敗しました。	
0x1205	作業員データが壊れています。	
0x1206	雑音のサンプル処理に失敗しました。	
0x1207	チーム内に作業員が存在しません。	
0x1208	作業員ファイルが取得できません。	
0x1209	作業員の読み込み中に内部エラーが発生しました。	
0x120a	作業の読み込みに失敗しました。	
0x120b	セルフテストモードが設定されていますが、スクリプトファイルが見つかりません。	
0x120c	作業リストファイルが見つかりません。作業は変更されませんでした。	
0x120d	作業の変更処理中にソフトウェアエラーが発生しました。作業は変更されませんでした。	
0x120e	検索テーブルの読み込みに失敗しました。作業の読み込みに失敗しました。	
0x1210	端末エミュレーション設定ファイルの読み込みに失敗しました作業の読み込みに失敗しました。	

番号	テキスト	解決法
0x1211	端末エミュレーション設定ファイルが壊れています。作業の読み込みに失敗しました。	
0x1212	作業ファイルが壊れています。作業の読み込みに失敗しました。	
0x1213	作業VCFファイルの読み込みに失敗しました。作業の読み込みに失敗しました。	
0x1214	ODR NTI登録ファイルの書き込みに失敗しました。作業の読み込みに失敗しました。	
0x1215	作業または作業員の読み込み後に、端末充電器内のダイアログ端末オフファイルの書き込みに失敗しました。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業員の読み込みを再度行ってください。 2. リロードタスクを実行します。 3. リロードVoiceClient。
0x1216	発音の再トレーニングは失敗しました。もう一度処理を行ってください。	
0x1217	作業員の初期化に失敗しました。作業員の読み込みを再度行ってください。	
0x1218	発音定義ファイルの読み込みに失敗しました。作業の読み込みに失敗しました。	
0x1219	作業オーディオファイルの読み込みに失敗しました。作業の読み込みに失敗しました。	
0x1402	コミュニケーションエラー。PMS受信でエラーが発生しました。	<ol style="list-style-type: none"> 1. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。 2. デバイスをリブートします。 3. リロードVoiceClient。
0x1403	コミュニケーションエラー。PMS送信でエラーが発生しました。	<ol style="list-style-type: none"> 1. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。 2. デバイスをリブートします。 3. リロードVoiceClient。
0x1406	コミュニケーションエラー。PMSのGetIdFromName処理でエラーが発生しました。	<ol style="list-style-type: none"> 1. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。 2. デバイスをリブートします。 3. リロードVoiceClient。
0x140a	コミュニケーションエラー。Vocollect設定ファイルを閉じることができません。	<ol style="list-style-type: none"> 1. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。 2. デバイスをリブートします。 3. リロードVoiceClient。

番号	テキスト	解決法
0x140f	コミュニケーションエラー。Vocollect設定ファイルを削除することができません。	<ol style="list-style-type: none"> 1. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。 2. デバイスをリブートします。 3. リロードVoiceClient。
0x1410	コミュニケーションエラー。Vocollectネットワーク転送情報登録に失敗しました。	<ol style="list-style-type: none"> 1. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。 2. デバイスをリブートします。 3. リロードVoiceClient。
0x1411	コミュニケーションエラー。認識できないPMSメッセージです。	<ol style="list-style-type: none"> 1. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。 2. デバイスをリブートします。 3. リロードVoiceClient。
0x1414	通信エラー。バーコード処理ができませんでした。	<ol style="list-style-type: none"> 1. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。 2. デバイスをリブートします。 3. リロードVoiceClient。
0x1415	コミュニケーションエラー：シリアル処理ができませんでした。	<ol style="list-style-type: none"> 1. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。 2. デバイスをリブートします。 3. リロードVoiceClient。
0x1417	コミュニケーションエラー：認識できないFTPコマンドです。	<ol style="list-style-type: none"> 1. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。 2. デバイスをリブートします。 3. リロードVoiceClient。
0x141b	コミュニケーションエラー：認識できないソケットコマンドです。	<ol style="list-style-type: none"> 1. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。 2. デバイスをリブートします。 3. リロードVoiceClient。
0x1420	エラー：バーコードポートが初期化できませんでした。	<ol style="list-style-type: none"> 1. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。 2. デバイスをリブートします。 3. リロードVoiceClient。

番号	テキスト	解決法
0x1421	認識できない表示モード基幹システム名あるいはIPアドレス	<ol style="list-style-type: none"> 1. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。 2. デバイスをリブートします。 3. リロードVoiceClient。
0x1422	認識できない表示モード サービス名あるいはポート	<ol style="list-style-type: none"> 1. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。 2. デバイスをリブートします。 3. リロードVoiceClient。
0x1423	エラー：デバッグ/トレーニングCOMポートが初期化できませんでした	<ol style="list-style-type: none"> 1. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。 2. デバイスをリブートします。 3. リロードVoiceClient。
0x1425	認識できないソケット基幹システム名あるいはIPアドレス	<ol style="list-style-type: none"> 1. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。 2. デバイスをリブートします。 3. リロードVoiceClient。 4. リロードタスクを実行します。 5. 作業の出力データレコード (ODR) およびルックアップテーブル (LUT) が正しいこと、ソケット基幹システムおよびサービス情報が有効であることを確認してください。サポートが必要な場合、Vocollectにお問い合わせください。
0x1426	認識できないソケット サービス名あるいはポート	<ol style="list-style-type: none"> 1. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。 2. デバイスをリブートします。 3. リロードVoiceClient。 4. リロードタスクを実行します。 5. 作業の出力データレコード (ODR) およびルックアップテーブル (LUT) が正しいこと、ソケット基幹システムおよびサービス情報が有効であることを確認してください。サポートが必要な場合、Vocollectにお問い合わせください。
0x1427	ソケット経由でのファイル送信エラーか、ファイルを開くことができません	<ol style="list-style-type: none"> 1. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。 2. デバイスをリブートします。 3. リロードVoiceClient。

番号	テキスト	解決法
0x142a	無効な端末マネージャサービス名またはポートです。	
0x142c	Telnet セッション マネージャを開始することができません。	
0x142d	Telnet クライアント処理を開始することができません。	
0x142e	Telnet VT220 エミュレーション処理を開始することができません。	
0x142f	Telnetでのデータ ファイル送信・オープン処理ができませんでした。	<ol style="list-style-type: none"> 1. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。 2. デバイスをリブートします。 3. リロードVoiceClient。
0x142f	Telnetでのデータ ファイル送信・オープン処理ができませんでした。	<ol style="list-style-type: none"> 1. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。 2. デバイスをリブートします。 3. リロードVoiceClient。
0x1430	エラー：プリンタ ポートが初期化できませんでした。	<ol style="list-style-type: none"> 1. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。 2. デバイスをリブートします。 3. リロードVoiceClient。
0x1431	ラベルの印刷エラーか、ファイルを開くことができません	<ol style="list-style-type: none"> 1. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。 2. デバイスをリブートします。 3. リロードVoiceClient。
0x1432	プリンタ エラー：PMS発信でエラーが発生しました。	<ol style="list-style-type: none"> 1. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。 2. デバイスをリブートします。 3. リロードVoiceClient。
0x1433	コミュニケーションエラー：印刷処理ができませんでした。	<ol style="list-style-type: none"> 1. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。 2. デバイスをリブートします。 3. リロードVoiceClient。
0x1600	FM初期化失敗。	<ol style="list-style-type: none"> 1. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。 2. デバイスをリブートします。

番号	テキスト	解決法
		3. リロードVoiceClient。
0x1601	FM PMS受信失敗。	<ol style="list-style-type: none"> 1. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。 2. デバイスをリブートします。 3. リロードVoiceClient。
0x1602	警告です。フラッシュメモリの残量が少なくなっています。	
0x1603	警告です。フラッシュメモリの残量が少なくなっています。収集したデータをすぐにアップロードしてください。	
0x1a01	プロセス履歴データの初期化に失敗しました。	<ol style="list-style-type: none"> 1. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。 2. デバイスをリブートします。 3. リロードVoiceClient。
0x1a02	プロセス履歴データ処理メッセージサービス受信に失敗しました。	<ol style="list-style-type: none"> 1. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。 2. デバイスをリブートします。 3. リロードVoiceClient。
0x1a03	プロセス履歴データ処理メッセージサービス再試行に失敗しました。	<ol style="list-style-type: none"> 1. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。 2. デバイスをリブートします。 3. リロードVoiceClient。
0x1a04	プロセス履歴データファイル記述子構成エラーです。	<ol style="list-style-type: none"> 1. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。 2. リロードタスクを実行します。 3. デバイスをリブートします。 4. リロードVoiceClient。
0x1a05	プロセス履歴データタルックアップテーブル構成エラーです。	<ol style="list-style-type: none"> 1. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。 2. リロードタスクを実行します。 3. デバイスをリブートします。 4. リロードVoiceClient。
0x1a06	プロセス履歴データのビンからレコードへの書き込みエラーです。	<ol style="list-style-type: none"> 1. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。

番号	テキスト	解決法
		<ol style="list-style-type: none"> 2. デバイスをリブートします。 3. リロードVoiceClient。
0x1a09	プロセス履歴データ電源オフエラーです。	<ol style="list-style-type: none"> 1. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。 2. リロードタスクを実行します。 3. デバイスをリブートします。 4. リロードVoiceClient。
0x1a0b	プロセス履歴データ処理メッセージサービス初期化データファイル記述子が失敗しました。	<ol style="list-style-type: none"> 1. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。 2. デバイスをリブートします。 3. リロードVoiceClient。
0x1e01	ビデオ端末エミュレーション初期化に失敗しました。	<ol style="list-style-type: none"> 1. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。 2. デバイスをリブートします。 3. リロードVoiceClient。
0x1e02	ビデオ端末エミュレーション処理メッセージサービス受信に失敗しました。	<ol style="list-style-type: none"> 1. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。 2. デバイスをリブートします。 3. リロードVoiceClient。
0x2100	FLASH処理で、フラッシュ端末の仮想割り当てに失敗しました。	
0x2101	FLASH処理で、ファイルシステムの端末初期化に失敗しました。	
0x2102	FLASH処理で、フラッシュ端末の仮想コピーに失敗しました。	
0x2104	ブロック取り消しの引数が不正なためFLASH処理が失敗しました。	
0x2105	FLASHライブラリが取り消し処理中に失敗しました。	
0x2106	フラッシュ書き込みポインタの引数が不正なためFLASH処理が失敗しました。	
0x2107	FLASHライブラリが取り消し処理中に失敗しました。	
0x2108	フラッシュ読み込みポインタの引数が不正なためFLASH処理が失敗しました。	

番号	テキスト	解決法
0x2109	FLASHライブラリが読み込み処理中に失敗しました。	
0x210a	ファイル削除中にFLASHライブラリが失敗しました。	
0x210b	ファイル検索中にFLASHライブラリが失敗しました。	
0x210c	FLASH処理で、指定したファイルをRAM上で開くことができませんでした。	
0x210d	FLASH処理で、指定したファイルをRAMから読み込むことができませんでした。	
0x210e	FLASH処理で、指定したファイルをRAM上に書き込むことができませんでした。	
0x210f	ファイルを開いている際にFLASHライブラリが失敗しました。	
0x2110	ファイルを閉じている際にFLASHライブラリが失敗しました。	
0x2111	FLASHに不正なリンク リストがあります。	
0x2112	FLASHの残量がありません。 Talkmanの電源が切れるまで待ってください。	
0x2115	FLASHライブラリの失敗。 スペースが足りません。	
0x2116	FLASHライブラリが再呼び出し処理中に失敗しました。	

音声エラー メッセージ

エラー メッセージ	解決法
"電池がほとんど残っていません。電源を切っています。完全に電源が切れてから電池を交換してください。"	バッテリーを変更してください。
"電池が少なくなっています。"	
"電池が少なくなっています。電池をすぐに交換してください。"	
"テンプレートの送信中に作業員を読み込むことができませんでした。"	すべてのテンプレートが読み込まれるのを待ってから、作業員を読み込みます。
"作業を読み込むことができませんでした。データを処理しています。"	1. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。

エラー メッセージ	解決法
"作業ファイルが壊れています。作業の読み込みに失敗しました。"	<ol style="list-style-type: none"> 2. リロードタスクを実行します。 3. デバイスをリブートします。 4. リロードVoiceClient。
"端末エミュレーション設定ファイルが壊れています。作業の読み込みに失敗しました。"	
"作業員データが壊れています。"	リロード演算子です。
"検索テーブルの読み込みに失敗しました。作業の読み込みに失敗しました。"	<ol style="list-style-type: none"> 1. 既知の良好なカバレッジの領域に移動します。 2. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。 3. リロードタスクを実行します。 4. デバイスをリブートします。 5. リロードVoiceClient。
"作業オーディオファイルの読み込みに失敗しました。作業の読み込みに失敗しました。"	
"作業発音ファイルの読み込みに失敗しました。作業の読み込みに失敗しました。"	
"作業VCFファイルの読み込みに失敗しました。作業の読み込みに失敗しました。"	
"端末エミュレーション設定ファイルの読み込みに失敗しました 作業の読み込みに失敗しました。"	
"ODR NTI登録ファイルの書き込みに失敗しました。作業の読み込みに失敗しました。"	
"作業の変更処理中にファームウェアエラーが発生しました。作業は変更されませんでした。"	<ol style="list-style-type: none"> 1. リロードタスクを実行します。 2. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。 3. デバイスをリブートします。 4. リロードVoiceClient。
"フラッシュメモリーエラー"	<ol style="list-style-type: none"> 1. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。 2. デバイスをリブートします。 3. リロードVoiceClient。
"フラッシュメモリが満杯です。Talkmanの電源が切れるまで待ってください。"	<ol style="list-style-type: none"> 1. 既知の良好なカバレッジの領域に移動します。 2. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。 3. デバイスをリブートします。 4. リロードVoiceClient。
"ヘッドセットの電池が少なくなっています。"	バッテリーを変更してください。
"ヘッドセットの電池が少なくなっています。ヘッドセットの電池をすぐに交換してください。"	
"作業員の初期化に失敗しました。作業員の読み込みを再度行ってください。"	<ol style="list-style-type: none"> 1. リロード演算子です。

エラー メッセージ	解決法
	<ol style="list-style-type: none"> 2. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。 3. デバイスをリブートします。 4. リロードVoiceClient。
"内部エラー：作業員の読み込み。"	<ol style="list-style-type: none"> 1. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。 2. デバイスをリブートします。 3. リロードVoiceClient。
"作業員ファイル名が間違っています。"	作業員を再度選択するか、別の作業員を読み込みます。
"無効な端末マネージャ基幹システム名またはアドレスです。"	
"無効な端末マネージャサービス名またはポートです。"	
"作業リストファイルが見つかりません。作業は変更されませんでした。"	<ol style="list-style-type: none"> 1. リロードタスクを実行します。 2. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。 3. デバイスをリブートします。 4. リロードVoiceClient。
"雑音のサンプル処理が失敗しました。"	<ol style="list-style-type: none"> 1. 雑音のサンプリングを再度行ってください。 2. 静かな場所に移動して、雑音サンプルを再度入力します。 3. 別のヘッドセットを使用して、雑音のサンプリングを行います。 <p> 注: これで問題が解決されるようであれば、最初に使ったヘッドセットは壊れています。</p>
"雑音のサンプル処理がタイムアウトしました。"	<ol style="list-style-type: none"> 1. 雑音のサンプリングを再度行ってください。 2. デバイスをリブートします。
"作業員の読み込みに失敗しました。"	<ol style="list-style-type: none"> 1. 既知の良好なカバレッジの領域に移動します。 2. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。 3. デバイスをリブートします。 4. リロードVoiceClient。
"電源切断エラー"	<ol style="list-style-type: none"> 1. 電源をオンにしてください。

エラー メッセージ	解決法
	2. デバイスをリブートします。
"セルフテストモードが設定されていますが、スクリプトファイルが見つかりません。"	作業設定ファイル、(作業名) .vcf を編集し、selftest=1 の行を selftest=0 に変更します。
"作業の変更処理中にソフトウェアエラーが発生しました。作業は変更されませんでした。"	1. 既知の良好なカバレッジの領域に移動します。 2. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。
"作業の読み込みに失敗しました。"	3. リロードタスクを実行します。 4. デバイスをリブートします。 5. リロードVoiceClient。
"作業は読み込まれませんでした。作業名がありません。"	1. リロードタスクを実行します。 2. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。 3. デバイスをリブートします。 4. リロードVoiceClient。
"Telnetクライアント処理を開始することができませんでした。"	1. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。
"Telnetセッションマネージャーを開始することができません。"	2. デバイスをリブートします。 3. リロードVoiceClient。
"Telnet VT220 エミュレーション処理を開始することができませんでした。"	
"入力データを受信することができませんでした。"	
"作業員ファイルが取得できません。"	
"出力データを送信することができませんでした。"	
"単語のトレーニングができません。フラッシュメモリが不十分です。"	1. 端末が休止状態になるまで待ちます。 2. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。 3. デバイスをリブートします。 4. リロードVoiceClient。
"警告です。フラッシュメモリの残量が少なくなっています。"	1. 既知の良好なカバレッジの領域に移動します。 2. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。 3. デバイスをリブートします。 4. リロードVoiceClient。 5. 端末をできるだけ早く充電器にセットしてください。

エラー メッセージ	解決法
"警告です。フラッシュメモリの残量が少なくなっています。収集したデータをすぐにアップロードしてください。"	<ol style="list-style-type: none"><li data-bbox="857 237 1433 268">1. 既知の良好なカバレッジの領域に移動します。<li data-bbox="857 279 1468 342">2. オフにデバイスをオンにして、もう一度電源を入れ直します。<li data-bbox="857 352 1222 384">3. デバイスをリブートします。<li data-bbox="857 394 1141 426">4. リロードVoiceClient。<li data-bbox="857 436 1468 499">5. 端末をできるだけ早く充電器にセットしてください。

第 13 章

テクニカル サポートへのコンタクト

このセクションではテクニカル サポートに問い合わせを行う際に必要となる各種の情報と、関連するファイルのまとめ方について説明します。

ほとんどのサポートリクエストで必要となる一般的情報

端末タイプ	Vocollect Talkmanモデル
	Talkman以外の端末メーカー/モデル
	Vocollectヘッドセット モデル
	他のヘッドセット
	バーコードリーダーのタイプ
Vocollect Voiceソフトウェア	VoiceConsoleに表示されるVoiceClientのバージョン
	VoiceConsoleに表示されるVoiceCatalystのバージョン
Vocollect VoiceConsole	VoiceConsoleのバージョン
端末ログ	端末ログの記録は行いましたか？ 技術サポートセンターにこれらのファイルを送付できるよう準備をしておいてください。

サポートに問い合わせを行う際に答えを用意しておくべき項目

- 同じ問題／質問について以前サービスリクエストを送ったことがある場合、未解決に終わりましたか？
- 影響されるユーザー数は？
- この問題の発生する頻度は？
- 現在の回避策は？
- この問題が最初に発生したのはいつですか？
- この問題は御社の業務にどのように影響していますか？
- 環境に関して何かが変わったということはありませんか？

VoiceConsoleにおける端末ログの有効化

1. **VoiceConsole** > 端末管理 > 端末を選択します。
2. ログを有効にしたい端末の名前をクリックします。
端末に対するプロパティ ウィンドウが表示されます。
3. 端末のログ処理を有効にします。使用しているVoiceConsoleバージョンによって次を行います：

VoiceConsole 2.x	ログ記録セクションの有効チェックボックスを選択します。
VoiceConsole 3.x以降	選択した端末の編集リンクをクリックします。 [端末編集] ページの [ログ記録] セクションで、ログを記録するドロップ ダウン リストから有効を選択します。

4. ログ ファイルの内容は、端末設定ウィンドウからエクスポートすることが可能です。
5. ファイルを保存し、他の関連情報と共に、テクニカルサポートまで送付してください。

付録 A

テンプレートのトレーニング オプション

すべての新しい作業員は、Vocollectの音声システムで作業を実施するにあたり、対応する音声テンプレートのトレーニングを行う必要があります。管理者は作業員に対して、Talkman端末を使用する際におけるテンプレートのトレーニング方法について4つのオプションを提供できます。

 注: テンプレートのトレーニングを行う際は、自然な発声を心がけてください。

Talkman端末のみによるトレーニング

ハンドヘルド端末でテンプレートを作成するには、管理者により、システムが音声のみオプションを使用するように設定されている必要があります。

1. [再生/一時停止]ボタンを押すことにより、端末をオンにします。
LEDインジケータがわずかな時間赤く点灯した後、緑に変わります。端末が「数秒間声を出さずに静かにして下さい。」というメッセージを發します。端末はわずかな間をおいて「ゼロと言ってください」というメッセージを發します。
2. 「ゼロ」と言ってください。
端末から「いち」という声が聞こえます。
3. 「いち」と言ってください。
端末から「に」という声が聞こえます。
4. 「に」と言ってください。
端末が「次の言葉を言ってください。」というメッセージを發します。
5. 端末がそれぞれの単語を發する度に、同じ単語を端末に対して話し返してください。端末が同じ単語の發声を少なくとも4回要求します。端末の指示に従い、繰り返してください。フレーズの發声が要求された場合には、単語間に不自然な間を空けることなく、そのフレーズを自然に發音してください。端末は、作業内の全単語について必要な回数の要求を完了すると、「音声テンプレートを作成しています。お待ち下さい。」というメッセージを發します。その後、残りの音声テンプレートすべてが作成し終えるまで、定期的にビープ音を發します。

ビープ音と共に、端末は「お待ち下さい。」というメッセージも繰り返しながら、ビジー状態にあることをユーザーに警告します。残りの音声テンプレートを作成し終えると、端末は「音声テンプレートが作成されました。」というメッセージを發します。これにより端末は休止モードに移行します。[再生/一時停止]ボタンを押すことにより、作業を開始できます。

端末によるビープ音は、すべての単語の入力後、約2分間にわたり繰り返されます。この間に何らかの端末ボタンが作業員により押されても、端末は「音声テンプレートを作成しています。お待ち下さい。」というメッセージを發します。

このプロセスは、後述の「単語の一覧を用いたトレーニング」セクションを参考にすることで、より容易に行えます。

QTERMビジュアルトレーニング端末、ケーブル付き



図 176 : Pidion BM-170 と QTERM-G55

- ビジュアルトレーニング端末は、作業員が言うべき言葉を表示し、作業員はそれを読んでトレーニングすることができます。
- Vocollectは Pidion BM 170 Talkman A500 または A700 のデバイスで使用するをおを推奨しています。Vocollectは QTERM-G55 Talkman T5 または T2xのデバイスで使用するをおを推奨しています。
- これらの端末は、作業員が言うべき単語を表示する液晶画面を備えています。作業員は、端末の音声を聞くよりも表示される言葉を読んだ方が、自然な会話のトーンでトレーニングを行うことができます。
- Vocollectはビジュアルトレーニング端末を赤色のポートに接続できるコネクタ付きケーブルを提供しています。
- QTERMビジュアルトレーニング端末の付属ドキュメントとソフトウェアはメーカーのWebサイトから無料でダウンロードできます。ユーザーマニュアル、データシート、チュートリアル、付属ソフトウェアを含むサポート情報に関してはこのサイトを参照してください。

QTERMビジュアルトレーニング端末を設定します

1. トレーニング端末が正しく設定されていることを確認します。詳細については、QSIまたは販売店から提供されている、トレーニング端末の手順書を参照してください。
2. 付属のケーブルを使用して端末にトレーニング端末を接続します。
3. <作業名>.vcfファイルで、設定可能パラメータ**TrainDevicePort = Red**を設定して、トレーニング端末ポートを有効にします。
4. 端末に作業を再読み込みします。
作業を読み込んでもトレーニング端末が動作しない場合は、端末の電源をオフにしてから、もう一度オンにします。

QTERMビジュアルトレーニング端末構成します

 注: 1.x または 3.x のバージョン VoiceClient のための9600 既定の設定を変更できません。

1. 端末に作業が読み込まれていることを確認します。
2. 端末が休止状態であることを確認します。
3. トレーニング端末が端末に接続されていることを確認します。
4. トレーニング端末で1キーを押したままにします。
5. 1キーを押したまま、端末の黄色の再生/一時停止ボタンを押します。
6. トレーニング端末の画面にコントラストが表示されます。

7. トレーニング端末で、コントラストを上げるには1を、コントラストを下げるには2を、現在の設定を受け入れるには3を押します。
3を押すと、トレーニング端末の画面にボーレートが表示されます。
8. ボーレートが9600であると画面に表示されるまで、トレーニング端末で1を押します。次に、3を押してそのレートを受け入れます。
3を押すと、トレーニングの画面にビット数が表示されます。
9. トレーニング端末で3を押して、ビット設定として8を受け入れます。
トレーニング端末の画面にパリティが表示されます。
10. トレーニング端末で、3を押して、パリティ設定として"n" (なし)を受け入れます。
トレーニング端末の画面にストップビットが表示されます。
11. トレーニング端末で3を押して、ストップビット設定として1を受け入れます。
12. 端末で黄色の再生/一時停止ボタンを押して、端末の電源をオンにします。
端末で雑音のサンプルが採取され、トレーニングが開始されます。

ビジュアル トレーニング端末を用いたトレーニング

Vocollectは Pidion BM 170 Talkman A500 または A700 のデバイスでを使用することをおを推奨しています。
Vocollectは QTERM-G55 Talkman T5 または T2xのデバイスでを使用することをおを推奨しています。

 注: この機能はTalkman T1ではサポートされていません。

1. トレーニング端末が設定済みであることを確認してください。
2. トレーニング端末をTalkman 端末に接続します。
3. [再生/一時停止]ボタンを押すことにより、Talkman端末をオンにします。

LEDインジケータがわずかな時間赤く点灯した後、緑に変わります。トレーニング端末が「数秒間声を出さずに静かにして下さい。」というメッセージを發します。

 注:

- ウェアラブル コンピュータがこのメッセージを發しない場合には、[作業員]ボタンを押し、背景雑音のサンプリングを行ってください。
- トレーニング端末画面で単語の表示が確認できない場合には、端末のコントラストに問題があるかもしれません。メーカーのドキュメントを参照してください。

Talkman端末から「ゼロと言ってください」という声が聞こえ、トレーニング端末に表示されます。

4. 「ゼロ」と言ってください。
Talkman 端末から「いち」という声が聞こえ、トレーニング端末に表示されます。
5. 「いち」と言ってください。
Talkman端末から「に」という声が聞こえ、トレーニング端末に表示されます。
6. 「に」と言ってください。
Talkman端末から「画面に表示されている通りに言葉を言ってください。」という声が聞こえます。

Talkman端末は単語音声の再生を停止し、それらを画面にのみ表示します。端末表示のとおり、単語を言ってください。単語はランダムな順序で表示され、ユーザーの發生内容を正確に記録するために、最低4回にわたり繰り返されます。フレーズの発音が要求された場合には、単語間に不自然な間を空けることなく、そのフレーズを自然に言ってください。

端末は、作業内の全単語について必要な回数の要求を完了すると、「音声テンプレートを作成しています。お待ち下さい。」という声が聞こえます。その後、残りの音声テンプレートすべてが作成し終わるまで、定期的にビーブ音を発します。

ビーブ音の発声と共に、端末は「お待ち下さい。」というメッセージも繰り返しながら、ビジー状態にあることをユーザーに警告します。残りの音声テンプレートを作成し終わると、端末から「音声テンプレートが作成されました。」という声が聞こえます。これにより端末は休止モードに移行します。[再生/一時停止]ボタンを押すことにより、作業を開始できます。

端末によるビーブ音は、すべての単語の入力後、約2分間にわたり繰り返されます。この間に何らかの端末ボタンが作業員により押されても、端末は「音声テンプレートを作成しています。お待ち下さい。」というメッセージを発します。

トレーニング端末の接続を解除し、[再生/一時停止]ボタンを押すことにより、作業を開始できます。

VoiceConsole画面を介したトレーニング

 注: この機能はVoiceConsole 3.0以降およびVoiceClient 3.5以降を使用している場合のみサポートされます。

VoiceConsole 3.0以降およびVoiceClient 3.5以降を使用している場合には、端末がトレーニングを要求する単語を、ユーザー インターフェイスを介しコンピュータ画面上に表示したり、トレーニングプロセスの進行と共にポケットPC端末の画面で確認することが可能です。詳細は、VoiceConsoleオンライン ヘルプの「端末と作業員との間の音声指示の表示」を参照してください。

単語の一覧を用いたトレーニング

トレーニング中の作業員による端末音声認識が困難であると予想される場合には、作業で使用され、作業員に対して端末がトレーニングを要求する単語の一覧を印刷することが可能です。

 注: 本機能はVoiceConsole 3.1以降のバージョンでサポートされています。

 注: このトレーニング手法はTalkman T1向けに推奨されるものです。

1. 新しい作業員が使用する予定の作業を現在の作業員が既に実施している場合には、VoiceConsoleに移動し、現在の作業員を用いた音声テンプレートの表示ステップを実施します。詳細はVoiceConsoleオンライン ヘルプの「作業員番号の管理」を参照してください。
2. VoiceConsoleの[<作業員名>のテンプレート管理]ページで、トレーニング済みの単語を印刷します。VoiceConsoleオンライン ヘルプの「リスト データの印刷用バージョンの表示」を参照してください。
3. 必要に応じ、印刷された一覧で、一般的に聞き間違いを発生しやすい単語や聞き取りづらい単語に丸を付けます。

Vocabulary Word	Size (Bytes)	Version	Last Trained
all	2053	T-Series v.2	4/9/10 3:14:43 PM EDT
backup	2203	T-Series v.1	6/18/10 11:26:51 AM EDT
black	1818	T-Series v.1	6/18/10 11:26:43 AM EDT
cancel	2124	T-Series v.2	4/9/10 3:14:42 PM EDT
continue	2205	T-Series v.1	6/18/10 11:26:31 AM EDT
current	2261	T-Series v.2	4/9/10 3:14:42 PM EDT
description	2809	T-Series v.2	4/9/10 3:14:42 PM EDT
down	1817	T-Series v.1	6/18/10 11:26:49 AM EDT
down	2122	T-Series v.2	6/17/10 3:15:37 PM EDT
erase	2074	T-Series v.1	6/18/10 11:26:55 AM EDT
exit	2190	T-Series v.2	6/7/10 9:25:48 AM EDT
help	1881	T-Series v.1	6/18/10 11:26:48 AM EDT
item	2054	T-Series v.2	4/9/10 3:14:42 PM EDT
license	2397	T-Series v.2	4/9/10 3:14:42 PM EDT
none	1817	T-Series v.1	6/18/10 11:26:50 AM EDT
partial	2057	T-Series v.2	4/9/10 3:14:43 PM EDT
repeat	2042	T-Series v.2	6/18/10 10:18:34 AM EDT
sleep	2123	T-Series v.2	4/9/10 3:14:42 PM EDT
yes	2257	T-Series v.2	4/9/10 3:14:43 PM EDT

図 177 : 一般的に聞き間違いを発生しやすい単語や聞き取りづらい単語に丸を付けた一覧

- 新しい作業員は、トレーニングに先だって一覧を確認し、使用される単語に慣れておくことをお勧めします。

新しい作業員が使用する予定の作業が、過去にテンプレートのトレーニングが実施されていないものである場合には、管理者や現在の作業員が該当する作業に対するテンプレートのトレーニングを実施したうえで、前述のステップを実施する必要があります。実際のトレーニングの進め方については、前述の「Talkman 端末のみによるトレーニング」セクションにある指示に従ってください。

ハンドヘルド端末画面を用いたトレーニング

 注: この機能はTalkman端末ではサポートされていません。

- 端末画面で[スタート]をタップします。
- Vocollect Voiceのシンボルをタップします。 

Vocollect Voiceの画面が表示されます。ステータスインジケータがわずかな時間赤く点灯した後、緑に変わります。端末が次のようなメッセージを發します: 「現在の作業員は、<作業員名>。<単語数> words not trained.スリープモードに入ります。」端末が自分のユーザー名を發することを確認してください。異なる場合は、管理者やトレーナーに問い合わせてください。
- 端末画面の[再生/一時停止]ボタン  をタップします。端末が「数秒間声を出さずに静かにしててください。」というメッセージを發します。

端末がこのメッセージを發しない場合には、[作業員]ボタン  をタップし、背景雑音のサンプリングを行ってください。

端末から「ゼロとってください」という声が聞こえます。
- 「ゼロ」とってください。

端末から「いち」という声が聞こえます。
- 「いち」とってください。

端末から「に」という声が聞こえます。
- 「に」とってください。

端末から「画面に表示されている通りに言葉を言ってください。」という声が聞こえます。

音声トレーニング テキストボックスが表示されます。



図 178 : 音声トレーニング テキストボックス

トレーニング端末画面で単語の表示が確認できない場合には、端末のコントラストに問題があるかもしれません。メーカーのドキュメントを参照してください。

それぞれの単語が表示される度に、端末に向かってそれを発音します。端末が同じ単語を少なくとも4回表示します。表示に従い、単語を繰り返してください。フレーズが表示された場合には、単語間に不自然な間を空けることなく、そのフレーズを自然に言ってください。

端末は、作業内の全単語について必要な回数の要求を完了すると、「音声テンプレートを作成しています。お待ち下さい。」という声が聞こえます。その後、残りの音声テンプレートすべてが作成し終わるまで、定期的にビープ音を発します。

ビープ音の発声と共に、端末は「お待ち下さい。」というメッセージも繰り返しながら、ビジー状態にあることをユーザーに警告します。残りの音声テンプレートを作成し終わると、端末から「音声テンプレートが作成されました。」という声が聞こえます。これにより端末は休止モードに移行します。[再生/一時停止]ボタンを押すことにより、作業を開始できます。

端末によるビープ音は、すべての単語の入力後、約2分間にわたり繰り返されます。この間に何らかの端末ボタンが作業員により押されても、端末は「音声テンプレートを作成しています。お待ち下さい。」というメッセージを発します。

付録 B

準拠

この付録には、Vocollect製品の規制準拠情報が含まれています。

Vocollect™ 規制の準拠

機関準拠宣言

Vocollectの端末やワイヤレス ヘッドセットは、販売地域の規則および法律に準拠するように設計されており、必要に応じてラベルが貼られています。Vocollectの端末はタイプが承認されているので、使用前にライセンスまたは認証を受ける必要はありません。Vocollect, Inc.によって明示的に承認されない変更または修正を行うと、装置を操作する権利が無効になる可能性があります。

Federal Communications Commissionの準拠

FCC Class B準拠宣言

FCC規則Part 15 (B)

本デバイスは、FCC規則Part 15に準拠しています。本端末は、(1)有害な干渉を引き起こさず、(2)好ましくない動作が発生する可能性がある干渉を含む、すべての受信される干渉に対応する必要があるという2つの条件に従って操作する必要があります。

メモ：本装置は、FCC規則Part 15に従って試験が実施され、Class Bデジタル デバイスの制限事項に準拠することが確認されています。これらの制限事項は、住宅に設置した場合に、有害な干渉から適切に保護することを目的としています。本装置は、電波周波エネルギーを発生、使用、および放出する可能性があります。指示に従ってインストールおよび使用を行わないと、無線通信に有害な干渉が生じる可能性があります。ただし、特定の設置において干渉が発生しないことを保証するものではありません。本装置が電源のオン/オフによりラジオまたはテレビの受信に有害な干渉を引き起こしている場合は、次の1つ以上の方法によって干渉を修正することをお勧めします。

- 受信アンテナの方向を設定し直すか、位置を変える。
- 装置と受信機の間をさらに離して配置する。
- 受信機を接続している配線とは別の配線のコンセントに装置を接続する。
- ディーラーまたはラジオ/テレビの技術者に問い合わせる。

RF暴露に関する説明

警告： Vocollect の無線製品は、International Commission on Non-Ionizing Radiation Protection (ICNIRP)、IEEE C95.1、Federal Communications Commission Office of Engineering and Technology (OET) Bulletin 65、Canada RSS-102、European Committee for Electrotechnical Standardization (CENELEC) の定めるRF (Radio Frequency) 暴露制限に準拠しています。

 注意：高周波への暴露。

- 次の端末には、低出力ラジオが内蔵されています。Talkman™ 端末および SRX Wireless Headset。
- Vocollect端末およびヘッドセットからの放射出力は、FCCの無線周波数の暴露限界値をはるかに下回るものです。

- しかし、Vocollect端末は、通常操作時の無線アンテナとの接触の可能性を最小限に抑えるように使用する必要があります。ケースが開いている場合や、内部アンテナが露出している場合は、端末を使用しないでください。未使用時は、Vocollect端末の電源をオフにしておく必要があります。また、この端末の指示に従って、端末を装着する必要があります。

 **Avertissement:**

Exposition aux radiations de fréquences radio.

- Les appareils suivants contiennent chacun une radio de faible puissance interne: Talkman dispositifs et casque sans fil SRX/SRX2.
- La puissance de rayonnement des appareils de Vocollect et casques est bien inférieure aux limites d'exposition aux fréquences radio de la FCC/IC/EU.
- Néanmoins, les dispositifs Vocollect doivent être utilisés de telle sorte que le potentiel pour le contact humain avec l'antenne de la radio pendant le fonctionnement normal est réduit au minimum. L'appareil ne doit pas être utilisé si le boîtier est ouvert ou si l'antenne interne est exposée. Lorsqu'il n'est pas utilisé, les dispositifs de Vocollect doivent être éteints. En outre, l'appareil doit être porté en conformité avec les instructions pour cet appareil.

Vocollect製品には、次のいずれかの無線通信端末が内蔵されています。端末のラベルをご覧ください。

Vocollect 端末	カード製造業者および製品番号	Vocollect FCCID 番号	Vocollect カナダ用 ID 番号	最大 SAR 値	
				La valeur maximale	
				(1グラム平均)	(10グラム平均)
T2x モデル: TT-600	Vocollect Wi-Fi 600-2400-032	MQOTT600-50300	2570A-TT60-50300	0.390W/kg	データなし
T2x モデル: TT-601_R WF (RoHS 準拠)	Summit SDC-CF10G	MQOTT601-30000	2570A-TT601300	0.531W/kg	データなし
T5 モデル: TT-700-100	USI WM-BB-AG-01 Murata LBMA46LBA3	MQOTT700-10000	MQOTT700-10000	0.471W/kg	データなし
T5 モデル: TT-700-100_R (RoHS 準拠)	Summit SDC-MCF10G Murata LBMA46LBA3	MQOTT700-20000	2570A-TT700200	0.689W/Kg	データなし
T5 モデル: TAP700-01	Summit SDC-MCF10G Murata MURATA-LBMA46LCS3-TEMP	MQO-TAP700-01	2570A-TAP70001	0.038W/Kg	0.016W/Kg

Vocollect 端末	カード製造業者および製品番号	Vocollect FCCID 番号	Vocollect カナダ用 ID 番号	最大 SAR 値	
Appareil de Vocollect	Fabricant de la carte et P/N			La valeur maximale	
				(1 グラム平均)	(10 グラム平均)
SRX モデル: HD-800-1	CSR BlueCore 3-Multimedia BC358239A	MQOSRX-10000	2570A-SRX10000	0.056W/Kg	データなし
SRX2 モデル: HBT1000-01	CSR BlueCore 5-Multimedia Plug-n-Go	MQO-HBT1000-01	2570A-HBT100001	0.254W/kg	0.186W/kg
T1 モデル: TT-100-1-1	Summit SDC-MCF10G	MQO-TT-100-1-1	2570A-TT10011	0.382W/Kg	0.190W/Kg
A500 モデル: TT-800-1-1	USI WM-BA-MR-01 CSR BlueCore6	MQO-TT-800-1-1	2570A-TT80011	0.148 W/Kg	0.062 W/Kg
A500 モデル: TAP801-01	Lesswire WiBear-SF CSR BlueCore6	MQO-TAP801-01	2570A-TAP80101	0.027 W/Kg	0.016 W/Kg
A710 モデル: TAP910-01	LSR TiWi5 CSR BlueCore6 NXP PN544 C3	MQO-TAP900-01	2570A-TAP90001	0.47	0.75
A720 モデル: TAP920-01				0.54	1.00
A730 モデル: TAP930-01				0.47	0.66

カナダの適合性宣言

本端末は Industry Canada license-exempt RSS 規格に準拠しています。本端末は、(1) 干渉を引き起こさず、(2) 好ましくない動作が発生する可能性がある干渉を含む、すべての干渉に対応する必要があるという2つの条件に従って操作する必要があります。

Le présent appareil est conforme aux CNR d'Industrie Canada applicables aux appareils radio exempts de licence. L'exploitation est autorisée aux deux conditions suivantes : (1) l'appareil ne doit pas produire de brouillage, et (2) l'utilisateur de l'appareil doit accepter tout brouillage radioélectrique subi, même si le brouillage est susceptible d'en compromettre le fonctionnement.

Cumplimiento de normas mexicana

La operación de este equipo está sujeta a las siguientes dos condiciones: (1) es posible que este equipo o dispositivo no cause interferencia perjudicial y (2) este equipo o dispositivo debe aceptar cualquier interferencia, incluyendo la que pueda causar su operación no deseada.

日本の準拠 (Japanese Compliance)

TT-910/TAP910-01	TT-920/TAP920-01	TT-930/TAP930-01
<p>A710 Part: TT-910 Model: TAP910-01</p> <p> 003-140090</p> <p>5GHz (W52/W53) band: Indoor use only</p> <p>MIC/KS 総務省指定 第AC-14053号</p>	<p>A720 Part: TT-920 Model: TAP920-01</p> <p> 003-140101</p> <p>5GHz (W52/W53) band: Indoor use only</p> <p>MIC/KS 総務省指定 第AC-14054号</p>	<p>A730 Part: TT-930 Model: TAP930-01</p> <p> 003-140102</p> <p>5GHz (W52/W53) band: Indoor use only</p> <p>MIC/KS 総務省指定 第AC-14055号</p>

Conformidade brasileiro



Este equipamento opera em caráter secundário, isto é, não tem direito à proteção contra interferência prejudicial, mesmo de estações do mesmo tipo e não pode causar interferência a sistemas operando em caráter primário.

O mesmo atende aos limites da Taxa de Absorção Específica referente à exposição a campos elétricos, magnéticos e eletromagnéticos de radiofrequências adotados pela ANATEL.

الإمارا العربية المتحدة الامتثال

(Compliance with United Arab Emirates)

SRX2	A710	A720	A730
القطعة (Part): HD-1000-101 موديل (Model): HBT1000-1	القطعة (Part): TT-910 موديل (Model): TAP910-01	القطعة (Part): TT-920 موديل (Model): TAP920-01	القطعة (Part): TT-930 موديل (Model): TAP930-01
هيئة تنظيم الاتصالات تسجيل رقم: (TRA REGISTERED NO.) ER0130663/14 موزع رقم: (DEALER NO.) DA013420/14	هيئة تنظيم الاتصالات تسجيل رقم: (TRA REGISTERED NO.) ER0132548/14 موزع رقم: (DEALER NO.) DA0127420/14	هيئة تنظيم الاتصالات تسجيل رقم: (TRA REGISTERED NO.) ER0132554/14 موزع رقم: (DEALER NO.) DA0127420/14	هيئة تنظيم الاتصالات تسجيل رقم: (TRA REGISTERED NO.) ER0132542/14 موزع رقم: (DEALER NO.) DA0127420/14

Маркировка ЕАС и соблюдение Российские нормативов (Russian Compliance)

Предназначенная для продажи в России, Казахстана и Беларуси продукция маркирована специальным образом (знак ЕАС), что указывает на соответствие Таможенный союза требованиям и нормам. Поправки и дополнения к этим требованиям и нормам также учтены.

(Products intended for sale in Russia, Kazakhstan, and Belarus are labeled with the EAC mark, which indicates compliance with the Customs Union requirements and standards. Amendments to these requirements and standards are included.)

Модель (Model)	Инвентарного номера (Part Number)	Номер модели (Model Number)
Комбинированное зарядное устройство на 10 ячеек T5/A500 (T5/A500 Combination Charger)	CM-700-1	CM-700-1-1
EAC	Made in USA, страна производства США Ratings (voltage), Напряжение: 220V-50Hz	
Соответствие агента: Л.Н. Голубова, генеральный директор, ООО "Дофин", 140573, РФ, Московская обл., Озерский район, с. Бояркино, Compliance agent: L.N. Golubova, CEO, Dofin, Ltd., Boiarkino, Ozersky area, Moscow region, 140573 Russia		

Модель (Model)	Инвентарного номера (Part Number)	Номер модели (Model Number)
Голос устройство Vocollect A700 Series	TT-910	TAP910-01
Зарядное устройства для A700 в устройстве (A700 Device Charger)	CM-901	TCH901-01
Зарядное устройства для A700 в батарей (A700 Battery Charger)	CM-902	TCH902-01
EAC	Made in USA, страна производства США Ratings (voltage), Напряжение : 100-240V ~ 2A, 50/60Hz	
Представитель в РФ: ЗАО «Хоневелл», 121059, г. Москва, ул. Киевская, 7 Compliance agent: ZAO Honeywell, 121059, Moscow, Kievskaya str. 7		

Модель (Model)	Инвентарного номера (Part Number)	Номер модели (Model Number)
Голос устройство Vocollect A700 Series	TT-920	TAP920-01
Зарядное устройства для A700 в устройстве (A700 Device Charger)	CM-901	TCH901-01
Зарядное устройства для A700 в батарей (A700 Battery Charger)	CM-902	TCH902-01
EAC	Made in USA, страна производства США	

Model (Model)	Part Number (Part Number)	Model Number (Model Number)
	Ratings (voltage), Напряжение : 100-240V ~ 2A, 50/60Hz	
Представитель в РФ: ЗАО «Хоневелл», 121059, г. Москва, ул. Киевская, 7 Compliance agent: ZAO Honeywell, 121059, Moscow, Kievskaya str. 7		

Model (Model)	Part Number (Part Number)	Model Number (Model Number)
Голос устройство Vocollect A700 Series	TT-930	TAP930-01
Зарядное устройства для A700 в устройстве (A700 Device Charger)	CM-901	TCH901-01
Зарядное устройства для A700 в батарее (A700 Battery Charger)	CM-902	TCH902-01
	Made in USA, страна производства США Ratings (voltage), Напряжение : 100-240V ~ 2A, 50/60Hz	
Представитель в РФ: ЗАО «Хоневелл», 121059, г. Москва, ул. Киевская, 7 Compliance agent: ZAO Honeywell, 121059, Moscow, Kievskaya str. 7		

CEマーキングとヨーロッパの準拠

欧州連合内での販売を目的とした製品にはCE Markが付けられ、次のような適用すべき指示とEuropean Normes (EN)に準拠していることが示されます。これらの指示またはENの改訂を含みます。

Model	Part Number	Model Number
T5 T5m	TT-700-100 TT-700-100-M	TT-700-100 TT-700-100-M TT-700-100_R TT-700-100_RG
T2x	TT-601	TT-601_RG
SRX	HD-800-1	HD-800-1
	重要事項：本端末は、2.4 ~ 2.48 GHz RF端末であり、EUとEFTA加盟国(制限のあるフランスおよびイタリア以外)のオフィスおよび軽工業での使用を対象としています。	
イタリアの規制：施設外で使用する場合は、一般的な承認が必要です。		
フランスの規制：屋外で使用する際は、2454~2483.5 MHzの帯域内で10mW e.i.r.p.までの出力とします。		

モデル	部品番号	モデル 番号
A710	TT-910	TAP910-01
A720	TT-920	TAP920-01
A730	TT-930	TAP930-01
	この無線端末は、2.4 GHz、5 GHz、13.56 MHzの周波数帯域で動作し、あらゆるEUおよびEFTA加盟国における軽作業での使用を想定しています。制限については以下をご覧ください。	
イタリアの規制：施設外で使用する場合は、一般的な承認が必要です。		
フランスの規制：屋外で使用する際は、2454～2483.5 MHzの帯域内で10mW e.i.r.p.までの出力とします。		
この端末は、欧州共同体の定める5GHz帯での動作規格の要件として、レーダー探知機能を備えたアクセスポイントを使用し、レーダー探知機能を有効にする必要があります。この端末はアクセスポイントによって制御することで、同じ領域にある別のレーダーシステムが使用するチャンネルを避けて動作します。近くでレーダーを使用していると、この端末の通信が一時的に途切れることがあります。アクセスポイントのレーダー探知機能は、レーダーの空きチャンネルで自動的に動作を再起動します。お使いのアクセスポイントが欧州共同体の規定に従って正しく設定されているかを確認するには、最寄りのテクニカルサポートスタッフにご相談ください。		
In order to ensure compliance with the latest European standards, VoiceCatalyst 2.1.1 or newer or VoiceClient 3.9.1 or newer voice software must be loaded on A700 devices.		

モデル	部品番号	モデル 番号
A500	TT-800	TT-800-1-1
	重要事項：この端末は、2.4GHzと5GHzの2つのISM周波数帯域で動作し、あらゆるEUおよびEFTA加盟国における軽作業での使用を想定しています。以下の制限事項をご覧ください。	
イタリアの規制：施設外で使用する場合は、一般的な承認が必要です。		
フランスの規制：屋外で使用する際は、2454～2483.5 MHzの帯域内で10mW e.i.r.p.までの出力とします。		
この端末は、欧州共同体の定める5GHz帯での動作規格の要件として、レーダー探知機能を備えたアクセスポイントを使用し、レーダー探知機能を有効にする必要があります。この端末はアクセスポイントによって制御することで、同じ領域にある別のレーダーシステムが使用するチャンネルを避けて動作します。近くでレーダーを使用していると、この端末の通信が一時的に途切れることがあります。アクセスポイントのレーダー探知機能は、レーダーの空きチャンネルで自動的に動作を再起動します。お使いのアクセスポイントが欧州共同体の規定に従って正しく設定されているかを確認するには、最寄りのテクニカルサポートスタッフにご相談ください。		
In order to ensure compliance with the latest European standards, VoiceCatalyst 2.1.1 or newer or VoiceClient 3.9.1 or newer voice software must be loaded on A500 devices.		

モデル	部品番号	モデル 番号
A500	TT-801	TT-800-1-1 TAP801-01

モデル	部品番号	モデル 番号
In order to ensure compliance with the latest European standards, VoiceCatalyst 2.1.1 or newer or VoiceClient 3.9.1 or newer voice software must be loaded on A500 devices.		
T5	TT-700-100 TT-700-100-M	TAP700-01
T1	TT-100	TT-100-1-1
SRX2	HD-1000-101	HBT1000-01
	本端末は2.4 GHz無線端末でありあらゆるEUおよびEFTA加盟国における軽作業での使用を想定しています。	

Bluetooth®無線端末の規制認定

Vocollect端末は、組み込み型Bluetooth®モジュールを内蔵しており、米国電気電子技術者学会(IEEE)、全米規格協会(ANSI)、連邦通信委員会(FCC)で策定された無線エネルギーの安全レベルに関する最新の適用規格に準拠するように設計されています。

Bluetoothのワード マークおよびロゴはBluetooth SIG, Inc.の所有物であり、Vocollectによるこれらのマークの使用はライセンスに基づくものです。その他の商標および商号は各所有者に帰属します。



Made in the U.S.A.

Vocollect
Pittsburgh, PA



For Users in the U.S.A. and Canada

Laser Compliance and Precaution

The A730 is registered with the CDRH as a Class 2 Laser Product (21 CFR Subchapter J, Part 1040). This product has a maximum output of 1 mW at 630-680 nm.

 **注意:** There are no user serviceable parts inside the A700. Use of controls or adjustments, or performance of procedures other than those specified herein, may result in hazardous laser light exposure of up to 1 mW at 630-680 nm.

 **注:** There are no controls or adjustments provided for routine operation or maintenance of the A730.



Imager Compliance and Precaution

LED Safety - The scan engine in the A730 complies with IEC 62471:2006-07.

The scan engine in A730 is classified as Risk Group 1.

- Exempt (No photobiological hazards based on the limits defined in the standard)
- Risk Group 1 (Low-Risk – does not pose a hazard based on normal behavioral limitations on exposure)
- Risk Group 2 (Moderate-Risk – does not pose a serious risk due to the aversion response to very bright light sources or due to thermal discomfort)

ヨーロッパのユーザー向け注記

イメージャの規格準拠と事前警告

レーザーの安全性 - A730 のスキャン エンジン は IEC 60825-1:2007 / EN 60825-1:2008-05: Class 2 (1 mW, 630-680 nm) に準拠しています。

LEDの安全性 - A730 のスキャン エンジン は IEC 62471:2006-07 / EN 62471:2008 に準拠しています。

A730 のスキャン エンジン は、Risk Group 1に分類されています。

- Exempt (規格に定義される制約に基づき光生物学的危険が発生しない)
- Risk Group 1 (低リスク - 暴露に対する通常の行動上制約により危険とならない)
- Risk Group 2 (中程度のリスク - 非常に明るい光源または熱の不快による回避行動により深刻な危険とはならない)

適合宣言書：RoHS

2011年6月8日の欧州議会および理事会の指令2011/65/EC

有害物質の使用制限(RoHS)

Vocollectが製造した製品

2011年6月8日の欧州議会および理事会の指令2011/65/EC(RoHS 2)が適用される仕向地に2012年1月1日以降Vocollectが出荷するすべてのVocollect製造製品は、電気電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する同指令に準拠しています。

部品は、以下の物質について同一物質内の最大重量濃度を超えません。

- 鉛(Pb) 0.1%
- 六価クロム(Cr6+) 0.1%
- 多臭素化ビフェニル(PBB) 0.1%
- ポリ臭素化ジフェニル エーテル(PBDE) 0.1%
- カドミウム(Cd) 0.01%

または、RoHS指令の付属文書に定義された上記の制限の適用除外が認められています。

Vocollectが販売するサードパーティ製品

Vocollectは、2011年6月8日の欧州議会および理事会の指令2011/65/EC(RoH 2S)が適用される仕向地に2012年1月1日以降Vocollectが出荷するサードパーティ製品のバージョンは、電気電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する同指令に準拠していることの確認をすべてのサードパーティ製品の提供者から得ています。

部品は、以下の物質について同一物質内の最大重量濃度を超えません。

- 鉛(Pb) 0.1%
- 六価クロム(Cr6+) 0.1%
- 多臭素化ジフェニル(PBB) 0.1%
- ポリ臭素化ジフェニル エーテル(PBDE) 0.1%
- カドミウム(Cd) 0.01%

または、RoHS指令の付属文書に定義された上記の制限の適用除外が認められています。

索引

A

- A500
 - 67, 74, 88, 99, 120
 - ディスプレイの組み合わせ 67, 88
 - 充電 74, 99, 120
- A500 10-ベイ統合充電器 208
- A500 10-ベイ統合充電器電源 210
- A500 VMT 77
- A500 仕様 71
- A500アジャスタブル ショルダー ハーネス 90, 112
- A500カバー 93, 115
- A500ショルダー ハーネス 90, 112
- A500充電器
 - 213
 - LED 213
- A500端末
 - 71-72, 74-76, 97, 99-100, 121
 - LEDインジケータ 76
 - 充電 72, 97
 - 電池 72, 97
 - 電池の取り外し 75, 100, 121
 - 電池挿入 74, 99, 121
- A500端末カバー
 - 93, 115
 - 取り付け 93, 115
- A500電池仕様 72, 97
- A500統合充電器用壁面マウント 211-212
- A700 端末
 - 59, 61, 203
 - 充電 59
 - 充電器 203
 - 電池 59
 - 電池の取り外し 61
 - 電池挿入 61
- A700 電池
 - 206
 - 充電器 206
- A700端末
 - 61, 70, 204, 206
 - LEDインジケータ 61
 - ホルスタ仕様 70
 - 充電器, 仕様 204, 206
- A700電池充電器用壁面マウント 204-205
- A710端末
 - 35-36
 - 仕様 36
- A720 端末
 - 35-36
 - 仕様 36

- A730端末
 - 35, 37
 - 仕様 37

B

- Bluetooth
 - 61, 67, 88, 124, 127-128, 183, 186-192, 194
 - SRX/SRX2とTalkman端末の組み合わせ 194
 - SRX2の組み合わせ 189-190
 - SRX2ヘッドセットとハンドヘルド端末との組み合わせ 187, 191
 - SRX2ヘッドセットの組み合わせ 186, 188
 - VoiceConsoleによる組み合わせ 192
 - ワイヤレス ヘッドセットの組み合わせ 183
 - 組み合わせ 124, 128

C

- configure
 - 270
 - QTERM 270

L

- LED
 - 76, 100, 122, 132, 207, 213, 220-221, 229, 233
 - A500充電器 213
 - srx2充電器 207, 233
 - srx充電器 229
 - T2x充電器 221
 - T2充電器 221
 - T5m充電器 213
 - T5充電器 213
- LEDインジケータ
 - 61, 76, 101, 123, 133, 161, 174
 - A500 76
 - A700 61
 - SRX2ヘッドセット 174
 - SRXヘッドセット 161
 - T1端末 133
 - T2x端末 123
 - T5m端末 101
 - T5端末 101

P

- Pideon BM-170
 - 67, 88
 - 端末の組み合わせ 67, 88
- Pideon BM-170 ディスプレイ 66, 88

Q

QTERMビジュアル トレーニング端末 270
 QTERMビジュアルトレーニング端末
 270
 configure 270

R

RAMマウント 77-78, 102-103

S

Samsonワイヤレス リスニング システム 237
 SL-14 Behind-the-Head Headset 137
 SL-14 Light-Industrial, Behind-the-Head Headset 138-139
 SL-4 Behind-the-Head Headset 137
 SL-4 Light-Industrial, Behind-the-Head Headset 139
 Sonyワイヤレス リスニング システム 240
 SR-10 Behind-the-Head Headset 141
 SR-15 Behind-the-Head Headset 141
 SR-15に対する調整ストラップの取り外し 142
 SR-15に対する調整ストラップの取り付け 143
 SR-15ヘッドセット
 142-143
 ストラップの取り外し 142
 ストラップの取り付け 143
 SR-20ヘッドセット
 146
 イヤーパッドの交換 146
 SR-20軽量ヘッドセット 145
 SR-21軽量ヘッドセット 145
 SR-30ハイノイズ ヘッドセット 146-147
 SR-31ハイノイズ ヘッドセット
 146-147
 仕様 147
 SR-35 Vocollectヘルメット形ヘッドセット 148
 SR-35ヘルメット形ヘッドセット 148
 SR-40 Vocollectデュアルカップ型ヘッドセット 149
 SR-40デュアルカップ型ヘッドセット 149
 SRX ヘッドセット
 157
 電池仕様 157
 SRX/SRX2ヘッドセット
 192-196
 Supervisor Audio 195
 VoiceConsoleによる組み合わせ 192
 構成パラメータ 196
 組み合わせのFAQ 194
 組み合わせの解除 194
 組み合わせモード 193
 SRX2 headset
 166
 共有 166
 SRX2 Wireless Headset 164
 SRX2 ハイノイズ ヘッドセット 181
 SRX2 ヘルメット ヘッドセット
 176-180, 182

SRX2 ヘルメット ヘッドセット (続く)

イヤーパッドの交換 180, 182
 クリップの取り付け 177
 ヘルメットへの取り付け 178
 装着 178
 保管 179

SRX2ヘッドセット

164-165, 167-168, 170-174, 183, 187-191

LEDインジケータ 174
 TouchConnect 189
 イヤーパッド 173
 スタビリティストラップ、インストール 172
 モジュール設計 165
 画面を使用した組み合わせ 191
 互換性 167
 自動組み合わせ 190
 手動組み合わせ 187, 190
 充電 168
 組み合わせ 174, 188
 組み合わせについて 183
 装着 171
 電子モジュール、取り外し 167
 電子モジュール、取り付け 167
 電池 168
 電池の取り外し 170
 電池仕様 168
 電池挿入 170

SRX2ヘッドセット電池充電器

230

仕様 230

SRX2充電器

207, 233

LED 207, 233

SRX2電池

169-170

充電 169

挿入 170

SRX2電池充電器用壁面マウント 231-232

SRXヘッドセット

157, 161, 183, 186-187

LEDインジケータ 161

画面を使用した組み合わせ 187

自動組み合わせ 186

充電 157

組み合わせ 161, 186

組み合わせについて 183

電池 157

SRXヘッドセット電池充電器

226

仕様 226

SRXワイヤレス ヘッドセット 156

SRX充電器

229

LED 229

SRX電池

157

充電 157

SRX電池充電器用壁面マウント 228
 Supervisor Audio 195

T

T1
 131, 134
 充電 131
 T1 10-ベイ充電器
 222, 224
 電源接続 224
 T1 10-ベイ統合充電器 222
 T1 10-ベイ統合充電器電源 222
 T1 10-ベイ用壁面マウント 223
 T1単一充電器 225
 T1単一充電器電源 226
 T1端末
 129-130, 133
 LEDインジケータ 133
 充電中 130
 電池 130
 T1電池仕様 130
 T1電池充電器用壁面マウント 223
 T1電池単一充電器ケーブル 225
 T2x
 74, 99, 120
 充電 74, 99, 120
 T2x Bluetoothシリアル アダプタ 127
 T2x充電器
 221
 LED 221
 T2x端末
 74-75, 99-100, 117-118, 121, 123-124, 128
 LEDインジケータ 123
 バーコード スキャナの接続 124, 128
 充電中 118
 電池 118
 電池の取り外し 75, 100, 121
 電池挿入 74, 99, 121
 T2x端末カバー
 92, 114, 125-127
 取り付け 127
 T2x端末へのカバー取り付け 127
 T2x電池 118
 T2x電池充電器 213-214
 T2x電池充電器用壁面マウント 215
 T2シリーズBluetoothアダプタ 127
 T2充電器
 221
 LED 221
 T2端末
 117-118
 充電中 118
 電池 118
 T2端末カバー 126
 T2電池
 214

T2電池 (続く)
 仕様 214
 T2電池充電器 213
 T2電池充電器用壁面マウント 215
 T5
 74, 99, 120
 充電 74, 99, 120
 T5 10-ベイ統合充電器 208
 T5 10-ベイ統合充電器電源 210
 T5 VMT 102
 T5/A500 10-Bay 統合充電器
 211
 電源接続 211
 T5m端末
 95, 101
 LEDインジケータ 101
 T5アジャスタブル ショルダー ハーネス 90, 112
 T5ショルダー ハーネス
 90, 112
 仕様 90, 112
 T5シリーズ仕様 96
 T5充電器
 213
 LED 213
 T5端末
 72, 74-75, 95, 97, 99-101, 121
 LEDインジケータ 101
 充電 72, 97
 電池 72, 97
 電池の取り外し 75, 100, 121
 電池挿入 74, 99, 121
 T5端末カバー
 92-93, 114-115, 125
 仕様 93, 115
 取り付け 93, 115
 T5電池仕様 72, 97
 T5統合充電器用壁面マウント 211-212
 Talkman
 25
 コマンド 25
 Talkman A500
 67, 71, 88
 ディスプレイの組み合わせ 67, 88
 Talkman A710 35
 Talkman A720 35
 Talkman A730 35
 Talkman T1 129
 Talkman T1ウェアラブル コンピュータ 129
 Talkman T2 117
 Talkman T2x 117
 Talkman T2xウェアラブル コンピュータ 117
 Talkman T2シリーズ 117
 Talkman T5 95
 Talkman T5m 95
 Talkman T5シリーズ 95
 Talkman アクセサリ
 26
 部品番号 26

Talkmanウェアラブル コンピュータ
26
部品番号 26
Talkman車載ターミナル 79, 103
Talkman端末
19, 61, 75, 100, 121
概要 19
電池の取り外し 61, 75, 100, 121
TouchConfig 64

V

vmt
79, 103
Talkman VMT 79, 103
VMT
77, 85, 102, 109, 251
取り付けのベストプラクティス 85, 109
正しい取り付け 85, 109
VoiceConsole
192
ワイヤレス ヘッドセットと端末 192

あ

アクセサリ
66, 87, 112, 124, 133, 241
Talkman 66, 87, 112, 124, 133
ケーブル 241
アダプタ ケーブル 241-243

い

イヤールパッドの交換 146
イヤールパッド
173
交換、SRX2 173
インストール
77, 79-80, 83, 102, 104-105, 107
フォークリフト内のA500 77
フォークリフト内のT5 102
車載端末 80, 83, 105, 107
取り付けブラケット 79, 104
インライン アダプタ ケーブル 241-243

う

ウィンドスクリーン
152, 201
掃除 152, 201
ウェアラブル コンピュータ
26, 117, 129
Talkman T1 129
Talkman T2x 117
部品番号 26

え

エラーメッセージ
253-254, 262
音声 262
番号付き 254

お

オレンジ 76, 100, 122, 132, 213, 220, 229, 233

か

カバー
126
T2 126
T2x 126

く

クリアビュー 79, 104
クリーニング手順 15
クロス組み合わせ 183

け

ケーブル 241
ケーブル充電器 225

こ

コマンド 25

し

シャットダウン 247
シンボロジー 38

す

スキャナの設定 38
スキャニング 38
スキャンを行わない 245
スタビリティ ストラップ
172
SRX2ヘッドセット 172
ストラップの取り外し
142
SR-15ヘッドセット 142
ストラップの取り付け
143
SR-15ヘッドセット 143

た

タッチ組み合わせ 183

て

ディスプレイ 66, 88

デュアルカップ型ヘッドセット 149

デュアルカップ型ヘッドセットのイヤークラッドカバー
153

掃除 153

テンプレート

246

読み込み 246

と

トラブルシューティング

245-247

バーコードリーダーがスキャンを行いません 245

ヘッドセットがオンが外れてしまう 245

ヘッドセットから何も聞こえない 245

音声アプリケーションを読み込まない 246

機器における各種問題 245

端末がオフのまま 247

端末がオンにならない 246

端末がボタン操作に反応しない 246

端末が作業員テンプレートを読み込まない 246

端末のビープ音 246

トレーニング

235, 237, 240, 269-273

テンプレート 269, 271-273

ビジュアルトレーニング 270

ビジュアル端末 270

リスニングキット、ワイヤレス 240

トレーニング ケーブル 241, 243

トレーニング ケーブルの接続 243

トレーニング テンプレート 269, 271-273

ね

ネットワーク 61

の

の部品番号

28-29

ヘッドセット用品 29

有線ヘッドセット 28

は

バーコードリーダーがスキャンを行いません 245

ハードウェアマニュアル、概要 3

ハイノイズヘッドセット 146-147, 181

ハンドヘルド端末

187-188, 191-192

SRX2ヘッドセットの組み合わせ 191

SRXヘッドセットとの組み合わせ 187

組み合わせステータス アイコン 188, 192

ひ

ビープ音発生 246

ピッチ

23

変更 23

ピッチ調整 23

ふ

フォークリフト

77, 79, 102, 104

A500をインストール 77

T5をインストール 102

端末の配置 79, 104

フォークリフト内の端末マウント 77-78, 102-103

へ

ヘッドセット

19, 27, 137-139, 141, 145-152, 156, 164, 170, 176-

178, 181, 199-201

SL-14 Behind-the-Head 137

SL-14 Light-Industrial Behind-the-Head 138-139

SL-4 Behind-the-Head 137

SL-4 Light-Industrial Behind-the-Head 139

SR-10 Behind-the-Head 141

SR-15 Behind-the-Head 141

SR-20シリーズ 146

SR-20軽量ヘッドセット 145

SR-21軽量ヘッドセット 145

SR-30ハイノイズヘッドセット 146-147

SR-31ハイノイズヘッドセット 146-147

SR-35ヘルメット形ヘッドセット 148

SR-40デュアルカップ型ヘッドセット 149

SRX2 ハイノイズ 181

SRX2 ヘルメット 176

SRX2のヘルメットへの取り付け 178

SRX2ワイヤレス 164

SRXワイヤレスヘッドセット 156

ヘッドセットの特徴 27

ヘルメット クリップ、SRX2 177

概要 19

選択 27

掃除 152, 201

調整 150, 199

電池の取り外し、SRX2 170

電池挿入、SRX2 170

冷凍 151, 200

ヘッドセット、ワイヤレス
155
概要 155
ヘッドセット、有線
137
概要 137
ヘッドセットから何も聞こえません 245
ヘッドセットが外れてしまいます 245
ヘッドセットとハンドヘルド端末の接続 242
ヘッドセットのスタイル 27
ヘッドセット用品、部品番号インデックス 29
ヘッドセット用品、部品番号 31
ヘッドバンドパッド
153, 202
掃除 153, 202
ベルト
68, 70, 91–92, 113–114, 124–125, 134
サイズ 70, 92, 114, 125, 134
仕様 70, 92, 114, 125, 134
ベルトクリップ 91, 113, 124
ヘルメット
178
SRX2の取り付け 178
ヘルメットクリップ
177
SRX2 177
ヘルメットヘッドセット 176
ヘルメット形ヘッドセット 148

ほ

ポジション
79, 104
フォークリフト内の端末 79, 104
ボタン 66, 88, 246
ホルスタ
70, 134
仕様 70

り

リスニングキット
240
ワイヤレス 240
リスニングシステム
237, 240
Samsonワイヤレス 237
Sonyワイヤレス 240

わ

ワイヤレスヘッドセット
155–156, 164, 183, 193–194
SRX2ヘッドセット 164
概要 155
組み合わせ 183
組み合わせのFAQ 194
組み合わせモード 193
ワイヤレスヘッドセット、部品番号 31